

IBM® DB2 Universal Database™



## 用語集

バージョン 8.2



IBM® DB2 Universal Database™



## 用語集

バージョン 8.2

**ご注意！**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：	IBM® DB2 Universal Database™ Glossary Version 8.2
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

# 目次

<b>DB2 用語集</b> . . . . .	<b>1</b>	チュートリアル情報 . . . . .	137
<b>DB2 Universal Database の技術情報</b> <b>119</b>		オプション・コンポーネント情報 . . . . .	137
DB2 資料とヘルプ . . . . .	119	リリース・ノート . . . . .	138
7 DB2 資料の更新 . . . . .	119	PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法 . . . . .	139
DB2 インフォメーション・センター . . . . .	120	DB2 の印刷資料の注文方法 . . . . .	140
7 DB2 インフォメーション・センターのインストー		DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す . . . . .	141
7 ル・シナリオ . . . . .	122	7 コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを	
7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 イ		7 呼び出す . . . . .	142
7 ンフォメーション・センターのインストール		7 コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼	
7 (UNIX) . . . . .	124	7 び出す . . . . .	142
7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 イ		7 コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼	
7 ンフォメーション・センターのインストール		7 び出す . . . . .	143
7 (Windows) . . . . .	127	DB2 チュートリアル . . . . .	143
DB2 インフォメーション・センターの呼び出し	130	DB2 トラブルシューティング情報 . . . . .	144
コンピューターまたはイントラネット・サーバーへ		アクセス支援 . . . . .	145
の DB2 インフォメーション・センターの更新イン		キーボードによる入力およびナビゲーション . . . . .	145
ストール . . . . .	131	アクセスしやすい表示 . . . . .	146
7 DB2 インフォメーション・センターにおける特定		支援テクノロジーとの互換性 . . . . .	146
7 の言語でのトピックの表示 . . . . .	132	アクセスしやすい資料 . . . . .	146
DB2 PDF 資料および印刷された資料 . . . . .	133	7 ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム . . . . .	147
7 DB2 の基本情報 . . . . .	133	7 DB2 Universal Database 製品の共通基準認証 . . . . .	149
管理情報 . . . . .	134	<b>特記事項</b> . . . . .	<b>151</b>
アプリケーション開発情報 . . . . .	135	商標 . . . . .	153
ビジネス・インテリジェンス情報 . . . . .	136	<b>IBM と連絡をとる</b> . . . . .	<b>155</b>
DB2 Connect 情報 . . . . .	136	製品情報 . . . . .	155
入門情報 . . . . .	136		



---

## DB2 用語集

### [ア行]

アーカイブ・ログ (archive log). (1) クローズされ、通常の処理には必要なくなったログ・ファイルの集まり。これらのファイルは、ロールフォワード・リカバリーで使うために保存される。(2) アクティブ・ログからコピーされたログ・レコードが入っている DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ログの部分。アーカイブ・ログには、アクティブ・ログには適さなくなったレコードが保持される。

アイデンティティ (identify). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 とは別のアドレス・スペースの接続サービス・プログラムが、MVS サブシステム・インターフェース経由で出し、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 にその存在を知らせ、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に接続するプロセスを開始する要求。

アイドル・エージェント (idle agent). 現時点でデータベース接続またはアプリケーション接続がないデータベース・エージェント。

アカウントリング・ストリング (accounting string). DB2 Connect から DRDA<sup>®</sup> サーバーに送られるユーザー定義のアカウントリング情報。この情報は、SQLESACT API または DB2ACCOUNT 環境変数を使用しているクライアント・ワークステーションか、または DFT\_ACCOUNT\_STR データベース・マネージャー構成パラメーターを使用している DB2 Connect ワークステーションから指定することができる。

アクセス関数 (access function). 列に保管されるテキストのデータ・タイプを、DB2 Net Search Extender で処理可能なタイプに変換する、ユーザー提供の関数。

アクセス方式サービス (access method services). VSAM キー・シーケンス・データ・セットを定義し、複製する機能。

アクセス・トークン (access token). (1) DB2 Data Links Manager では、データベース・マネージャーによって割り当てられる暗号鍵。Data Links Manager のコントロール下にあるファイルにアクセスできるように生成される必要がある。(2) プロセスまたはスレッドに関するセキュリティ情報 (たとえば、プロセスやスレッドに関連したユーザー・アカウントの身元と特権) を格納するオブジェクト。

アクセス・パス (access path). 特定の表からデータを取り出すためにデータベース・マネージャーで選択される形式。たとえば、索引、順次スキャン、またはこの 2 つの組み合わせがアクセス・パスとして使用されることがある。

アクセス・プラン (access plan). 特定の SQL ステートメントを評価するためにオプティマイザーによって選択されたアクセス・パスの集まり。アクセス・プランは、実行プランを解決するための操作の順序、実施メソッド (JOIN など)、およびステートメント内で参照される各表のアクセス・パスを指定する。

アクティビティ・モニター (Activity Monitor). DB2 Universal Database 管理ツールの 1 つで、データベースまたはデータベース・パーティションのアプリケーション・パフォーマンスと並行性、リソース使用量、および SQL ステートメント使用量をデータベース管理者がモニターするうえで役立つ事前定義のレポートを提供する。さらに、このツールが提供する推奨値を利用することで、データベース管理者はデータベース・パフォーマンスの問題の原因を診断し、データベース・リソースを最適に使用するよう照会を調整することができる。

アクティブ・ログ (active log). (1) リカバリーおよびロールバックのために必要とされる 1 次および 2 次ログ・ファイル。(2) ログ・レコードの生成時に書き込まれる DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ログの部分。アクティブ・ログには常に最新のログ・レコードが入っている。『アーカイブ・ログ (archive log)』も参照。

アセンブリー (assembly). .NET Framework において、中間言語バイトコードを含んでいるファイル (ライブラリーまたは実行可能ファイル)。51 ページの『中間言語 (intermediate language)』も参照。

## 用語集

- 1 **値 (value).** (1) フィールドまたは変数の英字または数字。 (2) SQL で操作される最小データ単位。 (3) 列と行の交点での特定のデータ項目。
- 1 **アタッチ (attach).** インスタンス・レベルで、オブジェクトにリモートでアクセスすること。

**アタッチ機能 (attachment facility).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 と TSO、IMS™、CICS、またはバッチ・アドレス・スペースの間のインターフェース。アタッチ機能により、アプリケーション・プログラムは DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 にアクセスすることができる。
- 1 **アタッチメント・リレーションシップ・タイプ (attachment relationship type).** インフォメーション・カタログ・センターで、他のオブジェクトにコメントをアタッチするために使用されるリレーションシップ・タイプ。コメントには、アタッチ先のオブジェクトに関する追加情報が含まれる。 90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。
- 1 **圧縮 (compose).** XML Extender では、XML コレクションのリレーショナル・データから XML 文書を生成することを指す。

**アップストリーム (upstream).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、同期点ツリーにあるノードで、他のリカバリーまたはリソース管理プログラムに加えて、2 フェーズ・コミットの実行の開始を行う。
- 1 **アドレス・スペース (address space).** (1) アクティブ・プログラムによって使用される実際のメモリー。 67 ページの『バッファ・プール (buffer pool)』も参照。 (2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、数 (ASID) で識別される仮想記憶域ページの範囲と、仮想ページをコンピューターのメモリーの実際のページにマップするセグメントおよびページ表の集合。
- 7 **アプライ (apply).** レプリケーションにおいて、レプリケーション・ターゲット表を最新表示または更新すること。
- 7 **アプライ修飾子 (Apply qualifier).** SQL レプリケーションにおいて、アプライ・プログラムの各インスタンスごとにユニークなレプリケーション・サブスクリプション・セットを識別する文字ストリング (大文字小文字を区別)。
- 7 **アプライ待ち時間 (Apply latency).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーションの 1 つのサイクルを完了するために必要なおおよその時間。 18 ページの『キャプチャー待ち時間 (Capture latency)』も参照。
- 7 **アプライ・コントロール・サーバー (Apply control server).** SQL レプリケーションにおいて、アプライ・コントロール表が含まれるデータベースまたはサブシステム。この表は、登録済みレプリケーション・ソース表およびサブスクリプション・セットに関する情報を保管する。『アプライ・サーバー (Apply server)』と対比。
- 7 **アプライ・サーバー (Apply server).** SQL レプリケーションにおいて、アプライ・プログラムが実行されているシステム。『アプライ・コントロール・サーバー (Apply control server)』と対比。
- 7 **アプライ・サイクル (Apply cycle).** SQL レプリケーションにおいて、データがソース表からターゲット表へ複製される際の時間間隔。
- 7 **アプライ・プログラム (Apply program).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ターゲット表を最新表示または更新するために使用されるプログラム。 18 ページの『キャプチャー・プログラム (Capture program)』および 18 ページの『キャプチャー・トリガー (Capture trigger)』と対比。
- 1 **アプリケーション (application).** あるタスクを実行する 1 つのプログラムまたはプログラムの集まり。たとえば、給与計算、在庫管理、ワード・プロセッシング・アプリケーション。
- 7 **アプリケーション ID (application ID).** アプリケーションがデータベースに接続すると生成されるユニーク・ストリング。または、DB2 Connect が分散リレーショナル・データベース体系 (Distributed Relational Database Architecture) データベースへの接続要求を受け取ると生成されるユニーク・ストリング。クライアントとサーバーで認識され、アプリケーションの 2 つの部分を相関させるのに使うことができる。
- 1 **アプリケーション指定接続 (application-directed connections).** アプリケーションが SQL CONNECT ステートメントを使用して管理する接続。 35 ページの『システム指定接続 (system-directed connection)』も参照。



**アプリケーション名 (application name).** クライアントで 実行中のアプリケーション名。データベース・マネージャーまたは DB2 Connect によって識別される。これは、データベース接続を確立するために、クライアントからサーバーに渡される。

7 **アプリケーション・サーバー (application server).** リモート・アプリケーションからの要求のターゲット。DB2 環  
7 境では、アプリケーション・サーバー機能は分散データ機能によって提供され、リモート・アプリケーションから  
7 DB2 データにアクセスするために使用される。『アプリケーション・リクエスター (application requester)』も参照。

**アプリケーション・プラン (application plan).** バインド処理中に作成される制御構造。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 は、ステートメント実行中に検出した SQL ステートメントを処理するためにこれを使用する。

7 **アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) (application programming interface (API)).** 高水準  
7 言語で作成されたアプリケーション・プログラムが、オペレーティング・システムその他のプログラム (データベース  
7 管理システムなど) の特定データまたは機能を使用することを可能にする機能インターフェース。DB2 UDB では、  
7 API によってほとんどの管理関数をアプリケーション・プログラム内から使用できる。

7 **アプリケーション・プログラム (application program).** ネットワーク内のステーションとの接続および通信に使われ  
7 るプログラム。これにより、ユーザーはアプリケーション指向のアクティビティーを実行できる。

7 **アプリケーション・プロセス (application process).** データベース・マネージャーが、リソースおよびロックを割り  
7 振る単位。プロセスには、1 つまたは複数のプログラムの実行が含まれる。SQL ステートメントの実行は、常にプ  
7 ロセスに関係する。

1 **アプリケーション・リクエスター (application requester).** アプリケーションの代わりに、データに対する DRDA  
1 要求を生成するリモート・システム上のコンポーネント。アプリケーション・リクエスターは、DRDA アプリケーシ  
1 ョン指定プロトコルを使用して DB2 データベース・サーバーにアクセスする。『アプリケーション・サーバー  
1 (application server)』も参照。

7 **アプリケーション・ロック・チェーン (application lock chain).** アクティビティー・モニターにおいて、選択され  
7 たアプリケーションと他のアプリケーションの間のロック待機リレーションシップをグラフィカルに表現したもの。

**アボート延期 UR (postponed abort UR).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、未了またはアボ  
ート中状態であったときにシステム障害または取り消しによって割り込まれ、その後、再始動時にバックアウトを完了  
しなかったりリカバリー単位のこと。

7 **アボート中 (in-abort).** リカバリー単位のロールバックが開始した後、プロセスが完了する前に DB2 Universal  
7 Database for z/OS and OS/390 に障害が起きた場合の、リカバリー単位の状況。プロセスの再始動時に、DB2 Universal  
7 Database for z/OS and OS/390 は変更内容のバックアウトを継続する。

1 **アラート (alert).** (1) オブジェクト (データベース、表スペース、インスタンスなど) の状態を示すシグナル。79 ペ  
1 ージの『ヘルス・モニター・アラート (health monitor alert)』を参照。

1 アラートのタイプは重大度の順にリストされ、次のものがある。

1 • **アテンション**

1 オブジェクトが異常な状態であることを示す通知アラート。

1 • **警告**

1 即時アテンションは不要であるが、non-optimal システムを示す可能性のある non-critical 状態。

1 • **アラーム**

1 即時アクションが必要な重大な状態。

7 (2) レプリケーションでは、レプリケーション中のイベントや条件を示す通知。レプリケーション・アラート・モニタ  
7 ーは、アラートを E メール・アドレスまたはページャーに送信する。

## 用語集

7 **アラート条件 (alert condition).** レプリケーションにおいて、レプリケーション・アラート・モニターがアラートを  
7 送信する原因となるレプリケーション環境の条件。アラート条件は、状況、イベント、またはしきい値によってトリガ  
7 ーされる。

7 **暗号化 (encryption).** データを暗号に変換すること。データを暗号化および暗号化解除するには、鍵が必要である。  
7 暗号化を使用すれば、鍵を所有せずにデータにアクセスしようとするユーザーまたはソフトウェアからデータを保護で  
7 きる。

1 **アンチ結合 (anti-join).** 返された行が結合述部の条件に合致していない場合の応答セット。 23 ページの『結合  
(join)』も参照。

**アンバインド・セッション (UNBIND) (unbind session (UNBIND)).** 2 つの論理装置 (LU) 間のセッションを非活動  
化する要求。

7 **暗黙接続 (implicit connect).** ユーザー ID とパスワードを使用しないデータベース接続。

7 **暗黙特権 (implicit privilege).** (1) オブジェクトの所有権に付随する特権 (たとえば、そのオブジェクトをドロップす  
7 る特権)。さらに、さまざまな権限レベルやデータベース権限もまた、1 つまたは複数のオブジェクトに対する暗黙特  
7 権を提供することがある。(2) パッケージによって参照される 1 つまたは複数のデータ・オブジェクトに対する特  
7 権。パッケージがどのようにデータベースにバインドされているかに応じて、パッケージ実行時に、パッケージによ  
7 て参照されるデータ・オブジェクトに対する暗黙特権がユーザーに付与される。60 ページの『特権 (privilege)』およ  
7 び 83 ページの『明示特権 (explicit privilege)』も参照。

1 **異機種のレプリケーション (heterogeneous replication).** DB2 と非 DB2 リレーショナル・データベース間のレプ  
1 リケーション。72 ページの『フェデレーテッド・システム (federated system)』も参照。

**移行 (migration).** (1) データの変換をせずに、1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム  
にデータを移動する処理。(2) あるプログラムの新しいバージョンまたはリリースをインストールし、以前のバージ  
ョンまたはリリースと置き換えること。

7 **意思決定支援システム (decision support system).** インフォメーション・カタログ・センターにおいて、ユーザー  
7 の意思決定を支援するアプリケーションからなるシステム。ユーザーは、スプレッドシート、図表、レポートなどの分  
7 かりやすい方法で示されるビジネス・データを分析することができる。

**異常終了 (abend).** 49 ページの『タスク異常終了 (abnormal end of task)』を参照。

7 **異常終了 (abnormal termination).** (1) システム障害またはオペレーターの処置によって、ジョブが完了せずに終了  
7 すること。(2) トラップ や セグメント化違反などの、プログラム制御を受けない終了のこと。

**異常終了理由コード (abend reason code).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に起こった問題を一意的  
に示す 4 バイトの 16 進コード。

1 **移植 (populate).** インフォメーション・カタログ・センターにオブジェクト・タイプ、オブジェクト、またはメタデ  
1 ータを追加すること。

1 **一時表 (temporary table).** 一時データを保持する表。一時表は、たとえば、非常に多数の行が含まれる照会からの  
1 中間結果を保持またはソートするのに役立つ。一時表には、作成済みの一時表と宣言済み一時表の 2 種類あり、それ  
1 ぞれ別の SQL ステートメントによって作成される。23 ページの『結果表 (result table)』、32 ページの『作成済み  
1 の一時表 (created temporary table)』、および 45 ページの『宣言済み一時表 (declared temporary table)』も参照。

1 **一括削除 (mass delete).** 表のすべての行を削除すること。

1 **一括表示 (outline).** DB2 OLAP Server で、データベースのすべてのエレメントを DB2 OLAP Server 内で定義する  
構造。たとえば、一括表示はディメンション、メンバー、および公式の定義を含んでいる。

**偽グローバル・ロック競合 (false global lock contention).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、複数のロック名が同じ標識にハッシュされる場合、および実競合がない場合のカップリング・ファシリティからの競合指示。

7 **イベント発行 (event publishing).** DB2 Universal Database リカバリー・ログのトランザクション・データをキャプチャーして、それを XML メッセージとして発行するデータ発行ソリューション。XML メッセージの発行先である WebSphere MQ キューでは、1 つまたは複数のユーザー・アプリケーションがこれらのメッセージを検索して使用することができる。

1 **イベント・アナライザー (event analyzer).** 発生したデータベース・イベントに関する情報を提供するデータベース・オブジェクト。パフォーマンス情報を評価し、記録するため、イベント・モニター・ファイルを使用する。

7 **イベント・タイミング (event timing).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・サブスクリプション・サイクルを開始するタイミングを制御する最も精密な方式。6 ページの『インターバル・タイミング (interval timing)』と対比。

1 **イベント・モニター (event monitor).** ある期間のデータベース活動についてのデータをモニターしたり収集したりするためのデータベース・オブジェクト。たとえば、データベースを開始すると、このデータベースを使用している許可 ID について、1 時間ごとにスナップショットを取ってシステムのユーザー数をトラックする。

1 **イメージ内容による照会 (QBIC) (Query by Image Content (QBIC)).** イメージ・エクステンダーが提供する機能。この機能を使用して、ユーザーは平均色、テクスチャーなどの可視特性によって画像を検索できる。

**イメージ・コピー (image copy).** 表スペースの全部または一部の精密な複製。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 は、全体イメージ・コピー (表スペース全体のコピー) または増分イメージ・コピー (最後のイメージ・コピー以降に変更されたページ分のコピー) を作成するユーティリティ・プログラムを提供する。

**インスタンス (instance).** (1) 55 ページの『データベース・マネージャー・インスタンス (database manager instance)』も参照。(2) 論理的な DB2 エクステンダーのサーバー環境。同一のシステム上に DB2 エクステンダー・サーバーのインスタンスを複数持つことができる (ただし、各 DB2 インスタンスごとに 1 つのインスタンスのみ)。

1 **インスタンス化可能構造型 (instantiable structured type).** データベース・オブジェクトの作成に使用される構造型。インスタンス化ができない構造型は、データベース・オブジェクトの作成に使用できない。ただし、このようなタイプはインスタンス化可能なサブタイプの定義には使用できる。

1 **インスタンス所有パーティション (instance-owning partition).** パーティション・データベース環境にインストールされる最初のデータベース・パーティション・サーバー。

1 **インストール検査シナリオ (installation verification scenario).** 主要な DB2 Universal Database 機能を実行し、DB2 Universal Database が正しくインストールされたかどうかをテストする一連の操作。この操作には、DB2 Universal Database サーバーのインストール、DB2 Universal Database クライアントのインストール、クライアント/サーバー接続の構成、クライアントからサーバーへの接続ステートメントの発行が含まれる。

1 **インストール・プログラム (installation program).** コンピューターで実行するソフトウェア・パッケージを準備するプログラム。インストール中に、通常はセットアップ・プログラムのコンポーネントがディスク・ドライブにコピーされ、ユーザーはプログラムのデフォルト設定をカスタマイズすることができる。

7 **インセンシティブ・カーソル (insensitive cursor).** 結果表がマテリアライズされた後、結果表の基礎行に対して行われる挿入、更新、または削除を識別できないカーソル。46 ページの『センシティブ・カーソル (sensitive cursor)』も参照。

7 **インターネット・スイート・プロトコル (Internet suite of protocols).** インターネットで使用するために開発され、Internet Engineering Task Force (IETF) によって発行されている一連のプロトコル。

## 用語集

**インターネット・プロトコル (IP) (Internet Protocol (IP)).** インターネット環境でソースから宛先へデータを経路指定するのに使われるプロトコル。 58 ページの『伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)』も参照。

7 **インターバル・タイミング (interval timing).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・サブスクリプション・サイクルの実行頻度を制御する処理。 5 ページの『イベント・タイミング (event timing)』と対比。

1 **インバリエント文字セット (invariant character set).** (1) 構文文字セットのように、別のコード・ページに移ってもそのコード・ポイント割り当てが変わらない文字セット。 (2) すべての文字セットの一部として使用可能な最小限の文字のセット。 26 ページの『構文文字セット (syntactic character set)』も参照。

1 **インフォメーション・カタログ (information catalog).** インフォメーション・カタログ・センターで管理されるメタデータのコレクション。組織内で使用できるデータや情報をユーザーが識別および探索するのに役立つ記述データ (ビジネス・メタデータ (business metadata)) が含まれる。インフォメーション・カタログにはいくつかのテクニカル・メタデータ (technical metadata) も含まれる。

1 **インフォメーション・カタログ・センター (Information Catalog Center).** ビジネス情報の編成、保守、検索、および使用のための DB2 グラフィカル・インターフェース。インフォメーション・カタログ・センターは、インフォメーション・カタログ・マネージャーの一部である。

1 **インフォメーション・カタログ・マネージャー (Information Catalog Manager).** ビジネス情報の編成、保守、検索、および使用に役立つように設計されたツールの集合。インフォメーション・カタログ・マネージャーは、インフォメーション・カタログ・センター、インフォメーション・カタログの管理ウィザード、およびインフォメーション・カタログ・マネージャーのサンプル・カタログから構成される。インフォメーション・カタログ・センターの Web バージョンも使用可能である。

1 **インフォメーション・カタログ・マネージャー・アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) (Information Catalog Manager application program interface (API)).** プログラムの作成のために使用される Java クラスの集合で、インフォメーション・カタログに保管されるメタデータの読み取り、作成、および更新を行う。

**インポート (import).** (1) PC/IXF、DEL、WSF、または ASC などの形式を使って、外部ファイルからデータベース表にデータをコピーすること。 7 ページの『エクスポート (export)』も参照。 (2) インフォメーション・カタログ・センターでは、インフォメーション・カタログを最初に移植するタグ言語ファイルの内容の読み取り、インフォメーション・カタログの内容の変更、または別のインフォメーション・カタログの内容のコピーを指す。

**インポート・メタデータ (import metadata).** (ユーザー・インターフェースから) 動的に、またはバッチによって、メタデータをデータウェアハウス・センターに取り入れる処理。

**引用符付き名前 (quoted name).** 20 ページの『区切り ID (delimited identifier)』を参照。

7 **インライン SQL PL (inline SQL PL).** SQL 関数、トリガー、および動的コンパウンド・ステートメント内で使用できる SQL プロシージャ型言語のサブセット。

**ウェアハウス (warehouse).** 52 ページの『データウェアハウス (data warehouse)』を参照。

1 **ウェアハウス・エージェント (warehouse agent).** データウェアハウス・センターのランタイム処理を指す。さまざまなオペレーティング・システムで実行可能で、データ抽出、トランスフォーメーション、移動、およびロード (ETML) を実行し、ユーザー・プログラムの開始も可能である。『ウェアハウス・サーバー (warehouse server)』も参照。

**ウェアハウス・コントロール・データベース (warehouse control database).** データウェアハウス・センター・メタデータの保管に必要なコントロール表が入っている、データウェアハウス・センター・データベース。

1 **ウェアハウス・サーバー (warehouse server).** データウェアハウス・センターでは、ウェアハウス・エージェントで実行されるデータ抽出、トランスフォーメーション、移動、ロード (ETML) タスクの管理とスケジュールを行う Windows または AIX コンポーネントを指す。『ウェアハウス・エージェント (warehouse agent)』も参照。

**ウェアハウス・ソース (warehouse source).** 単一のデータベースからの表とビューから成るサブセット、または複数のファイルから成るセットで、データウェアハウス・センターにすでに定義されているもの。

**ウェアハウス・ターゲット (warehouse target).** 単一のデータベースからの表、索引、および別名から成るサブセットで、データウェアハウス・センターによって管理される。

**ウェアハウス・プログラム・グループ (warehouse program group).** データウェアハウス・センターで、プログラム・オブジェクトを保持するコンテナ (フォルダー)。

7 **ウォーム・スタート (warm start).** レプリケーションにおいて、読み取りを中止した位置からトランザクションを読み取るようキャプチャー・プログラムを開始する処理。 24 ページの『コールド・スタート (cold start)』と対比。

2 **う回 (bypass).** Query Patroller の管理を受けずに照会を実行できるようにすること。

1 **エージェント (agent).** (1) 特定のクライアント・アプリケーションから出されたすべての DB2 要求を実行する別個のプロセスまたはスレッド。 6 ページの『ウェアハウス・エージェント (warehouse agent)』も参照。 (2) z/OS および OS/390 環境では、作業単位にかかわるすべての処理に関連する構造体。 36 ページの『システム・エージェント (system agent)』、24 ページの『コーディネーター・エージェント (coordinating agent)』、および 16 ページの『関連エージェント (allied agent)』も参照。

1 **エージェント・サイト (agent site).** データウェアハウス・センターでは、単一のネットワーク・ホスト名によって定義されるロケーション。ここにエージェント・アプリケーションがインストールされる。

7 **エージェント・スレッド (agent thread).** Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムのスレッドの 1 つ。ブラウザー・スレッドからトランザクションを受け取り、同じサーバー上のターゲット表にこのデータをアプライする。各ブラウザー・スレッドごとに、1 つまたは複数のエージェント・スレッドが存在することがある。

**エクステント (extent).** 表スペースのコンテナ内での、スペースの単一データベース・オブジェクトへの割り振り。この割り振りは複数のページで構成される。

**エクステント・マップ (extent map).** 表スペース内に保管されるメタデータ構造体。表スペース内の各オブジェクトに対するエクステントの割り振りを記録する。

**エクスポート (export).** (1) PC/IXF、DEL、WSF、または ASC などの形式を使って、データベース表からファイルにデータをコピーすること。 6 ページの『インポート (import)』も参照。 (2) インフォメーション・カタログ・センターでは、別のプログラムで使用するインフォメーション・カタログの内容にタグ言語ファイルを移植することを指す。

1 **エスケープ文字 (escape character).** 113 ページの『SQL 拡張文字 (SQL escape character)』を参照。

1 **エディション (edition).** 42 ページの『ステップ・エディション (step edition)』を参照。

**エラー・ページ範囲 (error page range).** 物理的に損傷していると考えられるページ範囲。 DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ユーザーがこの範囲内にあるページにアクセスすることを認めない。

1 **エレメント (element).** 117 ページの『XML エレメント (XML element)』を参照。

**エンクレーブ (enclave).** 言語処理環境 (DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 によって使用される) では、ルーチンの独立コレクションを指す。この 1 つがメインルーチンとして指定される。エンクレーブは、プログラムまたは実行単位と似ている。

7 **エンジン・ディスパッチ可能単位 (EDU) (engine dispatchable unit (EDU)).** アプリケーション要求を DB2 データベースに調整する。 UNIX オペレーティング・システムではプロセス、および Windows オペレーティング・システムではスレッドと見なされる。

## 用語集

7 **エンティティ (entity).** (1) 情報を保管する対象の人、オブジェクト、または概念。リレーショナル・データベースでは、表として表される。データベースには、組織または企業のさまざまなエンティティに関する情報と、それら相互のリレーションシップが含まれる。(2) データベース内の他のエンティティへのリレーションシップを記述している、分類可能なデータ単位。

7 **エンドツーエンド待ち時間 (end-to-end latency).** レプリケーションにおいて、ソース・データベースの変更内容をキャプチャーして、それをターゲット・データベースにアプライするのに必要なおおよその時間。2 ページの『Apply latency アプライ待ち時間 (Apply latency)』、18 ページの『キャプチャー待ち時間 (Capture latency)』、110 ページの『Q アプライ待ち時間 (Q Apply latency)』、および 111 ページの『Q キャプチャー待ち時間 (Q Capture latency)』も参照。

**エンド・ノード (end node).** APPN では、ローカル・コントロール・ポイントと隣接ネットワーク・ノードのコントロール・ポイントとの間のセッションをサポートするノード。

**オートコミット (autocommit).** 各 SQL ステートメント実行後、現在の作業単位を自動的にコミットすること。

7 **オートノミック (autonomic).** 問題、セキュリティ上の脅威、およびシステム障害に対して自動的に応答するオンデマンド操作環境。

7 **オートノミック・コンピューティング (autonomic computing).** ビジネス・ポリシーや目標に従って自らを管理し、変化に動的に対応する機能を持つコンピューティング環境。このような自己管理環境は、IT 環境で自ら観察または感知した状況に応じてそのようなアクティビティを実行できるので、IT 専門の担当者がタスクを開始する必要はない。オートノミック・コンピューティング・システムの主な特徴には、自己構成、自己修復、自己最適化、自己防御の 4 つがある。

**オーバーフロー・レコード (overflow record).** (1) 現在保管されているページには大きすぎて入りきらない更新済みレコード。レコードは別のページにコピーされ、元の位置は新しい位置のポインターと置き換えられる。(2) 間接的にアドレッシングされたファイルでは、全トラックのアドレスまたはホーム・レコードのアドレスにランダム化されたキーを持つレコード。(3) イベント・モニターでは、イベント・モニター・データ・ストリームに挿入されたレコード。このレコードは、名前付きパイプがいっぱいで時間内にレコードが処理されなかったためレコードが廃棄されたことを示す。オーバーフロー・レコードはまた、廃棄されたレコード数も示す。

**オーバーロード関数名 (overloaded function name).** 関数パスまたはスキーマ内に複数の関数が含まれる関数名。同じスキーマ内の関数は、互いに異なるシグニチャーを持っていなければならない。

1 **応答ファイル (response file).** インストールを自動化するセットアップおよび構成データを使ってカスタマイズされる ASCII ファイル。対話式インストールではセットアップおよび構成データを入力する必要があるが、応答ファイルを使用すると、ユーザーによる介入なしでインストールを進めることができる。

1 **応答ファイル生成プログラム (response file generator).** 既存のインストール済みまたは構成済み DB2 Universal Database 製品から応答ファイルを作成するユーティリティ。生成された応答ファイルを使用して、他のコンピュータに同じセットアップを再作成することができる。

1 **大文字小文字を区別しない検索 (case-insensitive search).** 検索対象ストリングの大文字小文字を考慮しない検索結果。

1 **オブジェクト (object).** (1) SQL で作成または操作できるもの。たとえば、表、ビュー、索引、パッケージなど。(2) オブジェクト指向設計またはオブジェクト指向プログラミングでは、データとそのデータに関連付けられた操作からなる抽象的なもの。(3) インフォメーション・カタログ・センターでは、単位または特殊な情報のグループを示す項目。インフォメーション・カタログ・センターの各オブジェクトは情報を識別して記述するが、実際の情報は含まれない。たとえば、オブジェクトはレポートの名前を提供し、その作成日をリストし、さらにその目的を記述する。

1 **オブジェクト・タイプ (object type).** (1) 似たような性質および特性を共有するオブジェクト・インスタンスのカテゴリ化またはグループ化。(2) インフォメーション・カタログ・センターでは、オブジェクトの種別を指す。表、レポート、またはイメージなどのビジネス情報のタイプを反映するために使用される。

1 **オプション (option).** インフォメーション・カタログ・センターのタグ言語では、タグ言語ファイルがインポートさ  
1 れた時に、インフォメーション・カタログのオブジェクトまたはオブジェクト・タイプで実行されるアクションを定義  
1 する ACTION タグのパラメーター。

7 **オフライン保守 (offline maintenance).** データベースへのユーザー・アクセスが中断している間のみ実行可能な保  
7 守アクティビティ。 10 ページの『オンライン保守 (online maintenance)』も参照。

7 **オフライン・バックアップ (offline backup).** データベースまたは表スペースがアプリケーションによってアクセス  
7 されていないときに作成される、データベースまたは表スペースのバックアップ。 オフライン・バックアップ中は、  
1 バックアップが完了するまで、データベース・バックアップ・ユーティリティーがデータベースの排他的使用権限を獲  
1 得する。 10 ページの『オンライン・バックアップ (online backup)』も参照。

7 **オフライン・リストア (offline restoration).** バックアップ・コピーからデータベースまたは表スペースをリストアす  
ること。データベース・リストア・ユーティリティーは、リストアが完了するまでデータベースを排他的に使用する権  
限を持つ。 10 ページの『オンライン・リストア (online restoration)』も参照。

**オペランド (operand).** 操作が実行されるエンティティ。

1 **オペレーショナル・データ (operational data).** 組織の日常業務を実行するために使用されるデータ。

1 **オペレーター (operator).** (1) SQL ステートメントのアクセス・プランが実行するとき、データに対して実行する必  
2 要があるアクション、または表や索引からの出力。 (2) Query Patroller において、オペレーター・プロファイルによ  
2 て定義された管理者権限のサブセットを持つ担当者。

**オペレーター向け書き込み (WTO) (write to operator (WTO)).** オプションのユーザーがコードを提供するサービ  
スで、エラーおよび (修正の必要のある) システム異常を伝えるメッセージをシステム・コンソール・オペレーターに向  
けて発信することができる。

**親キー (parent key).** 参照制約で使用される主キーまたはユニーク・キー。 親キーの値は、制約内の外部キーの有効  
値を判別する。

**親行 (parent row).** 少なくとも 1 つの従属行を持つ行。

**親タスク (originating task).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、並列グループにおいて、照会の一  
部を並列で実行している他の実行単位 (並列タスク と呼ばれる) からデータを受信する 1 次エージェント。

**親表 (parent table).** 少なくとも 1 つの参照制約で親である表。

1 **親表スペース (parent table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、親表が入っている表スペ  
1 ス。 37 ページの『従属表スペース (dependent table space)』も参照。

7 **親ロック (parent lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 の明示的階層ロックの場合、リソースに  
7 対して保持されるロック。階層の下位の子ロックを含む場合がある。親ロックは、通常、表スペースやパーティション  
7 の意図ロックである 27 ページの『子ロック (child lock)』も参照。

1 **オンライン索引再編成 (online index reorganization).** 基本表および既存の任意の索引を並行トランザクションで読  
1 み取りおよび更新しながら、表の索引を再編成すること。

7 **オンライン索引作成 (online index creation).** 基礎表および既存の任意の索引を並行トランザクションで読み取りお  
7 よび更新しながら、新規索引を作成できるプロセス。

1 **オンライン分析処理 (OLAP) (online analytical processing (OLAP)).** DB2 OLAP Server において、マルチディメ  
ンションの、複数ユーザーからなるクライアント・サーバー・コンピューティング環境。企業の統合データをリアルタ  
1 イムで分析する必要のあるユーザー向け。 OLAP システムの機能は、ズームング、データ・ピボット化、複雑な計  
1 算、傾向分析プログラム、およびモデリング。

## 用語集

**オンライン保守 (online maintenance).** ユーザーがデータベースに接続している間に実行できる保守アクティビティ。 9 ページの『オフライン保守 (offline maintenance)』も参照。

**オンライン・バックアップ (online backup).** データベースまたは表スペースが他のアプリケーションによってアクセスされているときに作成されるデータベースまたは表スペースのバックアップ。 9 ページの『オフライン・バックアップ (offline backup)』も参照。

7 **オンライン・リストア (online restoration).** アプリケーションが他の表スペースの表にアクセスできる状態で、表スペース・コピーからリストアすること。 9 ページの『オフライン・リストア (offline restoration)』も参照。

7 **オンライン・リソース定義 (resource definition online).** CICS を使用する z/OS または OS/390 環境において、表をアセンブルせずにオンラインで CICS リソースを定義する機能。

## [カ行]

**カーソル (cursor).** 複数の行からなる順序セット内の特定の 1 行を指し示すためにアプリケーション・プログラムが使用する名前付き制御構造。カーソルは、セットから行を検索するために使用される。

**カーソル固定 (CS) (cursor stability (CS)).** カーソルが任意の行上に置かれているときに、アプリケーションのトランザクションがアクセスするその行をロックする分離レベル。次の行が取り出されるか、またはトランザクションが終了するまで、そのロックは有効のままになる。行内のいずれかのデータが変更された場合、データベースに対してその変更内容がコミットされるまでロックは保持される。 87 ページの『読み取り固定 (RS) (read stability)』、68 ページの『反復可能読み取り (repeatable read)』、および 69 ページの『非コミット読み取り (UR) (uncommitted read (UR))』も参照。

1 **カーソル・センシティブィティ (cursor sensitivity).** カーソル内での後続の FETCH ステートメントでデータベース更新が見える度合いを指す。カーソルの名前を指定する位置付けられた UPDATE および DELETE ステートメントによる変更を、カーソルが識別できるように設定できる。また、このカーソル以外のカーソルによる変更、または検索された UPDATE または DELETE ステートメントによる変更をカーソルが識別できるように設定することもできる。これらの変更は、このアプリケーション・プロセスまたは別のアプリケーション・プロセスによって行われる。

1 **カーソル・ブロッキング (cursor blocking).** 行のブロックを単一操作で検索することにより、オーバーヘッドを削減する技法。これらの行は処理中にキャッシュに入れられる。

**カーディナリティー (cardinality).** データベース表内の行数。

1 **階層リレーションシップ・カテゴリー (hierarchical relationship category).** インフォメーション・カタログ・センターでは、階層リレーションシップのあるオブジェクトに接続するために使用されるリレーションシップ・タイプのカテゴリーを指す。

**外部 CCD 表 (external CCD table).** SQL レプリケーションにおいて、登録されたレプリケーション・ソースであるために、直接サブスクリプションできる CCD 表。その独自の行がレジスター表の中に存在し、レジスター表では SOURCE\_OWNER および SOURCE\_TABLE 列として識別される。 43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』を参照。 62 ページの『内部 CCD 表 (internal CCD table)』も参照。

1 **外部関数 (external function).** その本体が、それぞれの呼び出しごとにスカラー引き数値を使用してスカラー結果を出すプログラム言語で書かれた関数。 46 ページの『ソース派生関数 (sourced function)』、21 ページの『組み込み関数 (built-in function)』、および 113 ページの『SQL 関数 (SQL function)』も参照。

**外部キー (foreign key).** (1) 親キーを参照する列または列セット。リレーショナル・データベースでは、別の表の主キーを参照する 1 つの表のキー。(2) フェデレーテッド・システムにおいて、他のニックネーム内の主キーを参照する、ニックネーム内のキー。オプティマイザーは照会のパフォーマンスを改善するためにこれを使用する。挿入や更新などの操作が実行されるとき、このキーは妥当性検査されない。



外部結合 (**outer join**). (1) 結合対象のすべての表に共通していない列が結果表の一部として含まれる結合方式。(2) 結合操作の結果、結合対象の両方の表の一致した行が含まれ、結合対象の表の不一致行のうち、一部または全部が保持されること。23 ページの『結合 (join)』を参照。62 ページの『内部結合 (inner join)』、45 ページの『全外部結合 (full outer join)』、69 ページの『左外部結合 (left outer join)』、および 83 ページの『右外部結合 (right outer join)』も参照。

**外部更新 (foreign update)**. ターゲット表に対して適用され、ローカル表に複製される更新。

外部サーバー (**foreign server**). フェデレーテッド・システムでは、SQL/MED 標準のコンテキストで最もよく使用されるデータ・ソースに対する別の用語。55 ページの『データ・ソース (data source)』も参照。

外部サブシステム・モジュール表 (**ESMT**) (**external subsystem module table (ESMT)**). z/OS または OS/390 環境において、IMS がどのアタッチメント・モジュールをロードする必要があるかを指定する外部サブシステム・モジュール表の名前を指定する表。

外部プロシージャ (**external procedure**). 外部ホスト・プログラム言語アプリケーションにプロシージャ論理がインプリメントされたプロシージャ。CREATE PROCEDURE ステートメントで EXTERNAL 文節を指定することにより、プロシージャが外部コード・アプリケーションに関連付けられる。76 ページの『プロシージャ (procedure)』、10 ページの『外部関数 (external function)』、および 114 ページの『SQL プロシージャ (SQL procedure)』も参照。

外部名 (**external name**). ホスト・プログラム言語で記述されたストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数に対する実行可能ファイル名。

外部メソッド (**external method**). 外部ホスト・プログラム言語アプリケーションに関数論理がインプリメントされたメソッド。CREATE METHOD ステートメントで EXTERNAL 文節を指定することにより、メソッドが外部コード・アプリケーションに関連付けられる。84 ページの『メソッド (method)』、114 ページの『SQL メソッド (SQL method)』、10 ページの『外部関数 (external function)』、『外部プロシージャ (external procedure)』、および『外部ルーチン (external routine)』も参照。

外部ルーチン (**external routine**). 外部ホスト・プログラム言語アプリケーションにルーチン論理がインプリメントされた関数、メソッド、またはプロシージャ。ルーチンの CREATE ステートメントで EXTERNAL 文節を指定することにより、ルーチンが外部コード・アプリケーションに関連付けられる。91 ページの『ルーチン (routine)』、114 ページの『SQL ルーチン (SQL routine)』、10 ページの『外部関数 (external function)』、および『外部プロシージャ (external procedure)』も参照。

会話 (**conversation**). APPC で、論理装置間 (LU 対 LU) セッションを介した 2 つのトランザクション・プログラムの接続。その接続によって、トランザクションの処理時に互いに通信することができる。

会話型セキュリティ (**conversation security**). APPC では、接続の確立の前にユーザー ID またはグループ ID とパスワードを検証する処理。

会話型トランザクション (**conversational transaction**). APPC で、論理装置 (LU) のサービスを使って通信する複数のプログラム。

会話セキュリティ・プロファイル (**conversation security profile**). 会話セキュリティのために APPC で使われるユーザー ID またはグループ ID とパスワードのセット。

カウンター (**counter**). サンプルが取られるまで累積される情報の表記。デッドロック数のような、増加する値を数える。インスタンスまたはデータベースを停止して再開始した場合、リセットされる。22 ページの『ゲージ (gauge)』も参照。

書き込みトークン (**write token**). WRITE PERMISSION ADMIN DATALINK 列で参照されるファイルの更新に必要な許可キー。

## 用語集

- 1 拡張 バイナリー化 10 進コード (EBCDIC) (Extended binary-coded decimal interchange code (EBCDIC)).  
104 ページの『EBCDIC』を参照。
- 1 拡張 UNIX コード (EUC) コード化スキーム (Extended UNIX Code (EUC) encoding scheme). 4 文字セットま  
1 でサポート可能なエンコード規則の設定を定義するコード化スキーム。エンコード規則は、7 ビットおよび 8 文字の  
1 エンコードに対する ISO2022 定義に基づいている。EUC コード化スキームは文字セットのいくつかを識別するため  
1 に制御文字を使用する。
- 7 拡張競合検出 (enhanced conflict detection). SQL レプリケーションにおいて、すべてのレプリカとソース表の間  
7 のデータ保全性を確保するための競合検出。アプライ・プログラムは、将来のトランザクションに対して設定された  
サブスクリプション・セット内のすべてのレプリカまたはユーザー表をロックする。その後、ロックが捕そくされる  
前に加えられたすべての変更の後の検出を開始する。19 ページの『競合検出 (conflict detection)』を参照。
- 1 拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN) (Advanced Peer-to-Peer Networking (APPN)). 分散ネットワーク制  
1 御、ネットワーク・リソースの動的定義、およびリソースの自動登録およびディレクトリ検索を特長とする SNA 拡  
1 張機能。36 ページの『システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture)』も参照。
- 7 拡張プログラム間通信機能 (APPC) (Advanced program-to-program communication (APPC)). 内部接続されたシ  
7 ステムがプログラム処理と通信し、これを共有できるようにする、SNA LU 6.2 プロトコルのインプリメンテーショ  
7 ン。19 ページの『共通プログラミング・インターフェース・コミュニケーション (Common Programming Interface  
7 Communications)』も参照。
- 1 拡張変換 (expanding conversion). 変換されたストリングがソース・ストリングより長い場合に発生する処理。37  
1 ページの『収縮変換 (contracting conversion)』も参照。
- 7 拡張リカバリー機能 (XRF) (extended recovery facility (XRF)). z/OS または OS/390 環境で、高可用性アプリケー  
7 ションと指定した端末との間のセッション中に、MVS、VTAM、ホスト・プロセッサ、または高可用性アプリケーション  
7 ンにおける障害の影響を最小限に抑える機能。この機能は、障害のあったセッションからセッションを引き継ぐ代  
替サブシステムを提供する。
- 1 確定カーソル (unambiguous cursor). 応答セットでブロッキングを使用できるかどうかを DBMS が判別できるよ  
1 うにするカーソル。FOR FETCH ONLY または FOR READ ONLY で定義されているカーソルはブロック化で使用で  
1 きるが、FOR UPDATE で定義されているカーソルは使用できない。83 ページの『未確定カーソル (ambiguous  
1 cursor)』も参照。
- 1 カスケード (cascade). データウェアハウス・センターで、一連のイベントを実行すること。ステップ (step) が別の  
1 ステップにカスケードすると、2 つのステップは連続して、または同時に実行される。あるステップをプログラムに  
1 カスケードすることもできる。この場合、ステップの実行完了後にプログラムが実行される。
- 1 カスケード削除 (cascade delete). 削除された親行 (parent row)の下層行を DB2 Universal Database がすべて削除す  
1 るときに実施する参照制約。
- 7 カスケード・リジェクト (cascade rejection). SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・トランザクシ  
7 ョンと関連している別のトランザクションで競合が検出されてリジェクトされたために、レプリケーション・トランザ  
7 クションをリジェクトする処理。
- 下層 (descendent). あるオブジェクトの従属であるオブジェクト、またはあるオブジェクトの下層の従属であるオブ  
ジェクト。
- 仮想記憶アクセス方式 (VSAM) (Virtual Storage Access Method (VSAM)). 直接アクセス装置上の固定長または可  
変長レコードに対する、直接処理または順次処理のためのアクセス方式。VSAM データ・セットまたはファイル内の  
レコードは、キー・フィールドによる論理順序 (キー・シーケンス)、データ・セットまたはファイル内に書き込まれる  
物理的順序 (入力シーケンス)、または相対レコード番号を使用して編成することができる。
- 下層行 (descendent row). 別の行に従属するか、または従属行の下層にある行に従属する行。

**仮想通信アクセス方式 (VTAM) (Virtual Telecommunications Access Method (VTAM)).** OS/390 環境における IBM ライセンス・プログラムの 1 つで、通信を制御し、SNA ネットワーク内のデータの流れを制御する。

7 **下層表 (descendent table).** 親表との間、または他の下層表との間で従属関係にある表。 37 ページの『従属表 (dependent table)』を参照。

1 **下層マテリアライズ照会表 (descendent materialized query table).** マテリアライズ照会表定義で、下層マテリアライズ照会表を直接または間接に参照する。

**型付きパラメーター・マーカー (typed parameter marker).** ターゲットのデータ・タイプと一緒に指定するパラメーター・マーカー。一般的な形式は次のとおり。 *CAST (? AS data-type)*

1 **型付きビュー (typed view).** 各列のデータ・タイプが結果表から派生するビュー。または、列のタイプがユーザー定義構造型の属性に基づいているビュー。

1 **型付き表 (typed table).** 列ごとのデータ・タイプが別々に定義されているか、または列のタイプがユーザー定義構造型の属性に基づいている表。

**型無しパラメーター・マーカー (untyped parameter marker).** ターゲットのデータ・タイプを指定しないで指定するパラメーター・マーカー。その書式は単一の疑問符 (?) である。

1 **カタログ (catalog).** データベース・マネージャーが保守する表およびビューの集合。それらの表とビューには、表、ビュー、および索引の記述などのデータベースの情報が入っている。 6 ページの『インフォメーション・カタログ (information catalog)』、 54 ページの『データベース・カタログ (database catalog)』、または 111 ページの『RDBMS カタログ (RDBMS catalog)』を参照。

7 **カタログ表 (catalog table).** データベースが作成される時、自動的に DB2 Universal Database カタログに作成される表。この表には、データベースおよびそのオブジェクトに関する情報が含まれる (データベース・オブジェクトの定義、これらのオブジェクトに対するユーザー権限に関するセキュリティ情報など)。

**カタログ・ノード (catalog node).** 『カタログ・パーティション (catalog partition)』を参照。

7 **カタログ・パーティション (catalog partition).** パーティション・データベース環境では、データベースに対するカタログ表が保管されているデータベース・パーティションを指す。パーティション・データベース環境の各データベースは、それぞれ別のデータベース・パーティション・サーバーにカタログ・パーティションを持つことができる。データベースのカタログ・パーティションは、CREATE DATABASE コマンドが実行されると、データベース・パーティション・サーバーに自動的に作成される。

1 **カタログ・ビュー (catalog view).** (1) カタログ表に関する SYSCAT または SYSSTAT ビュー。 (2) DB2 Net Search Extender がデータベースで使用可能になっている場合に作成されるいくつかの表の 1 つ。カタログ・ビューには、テキスト検索構成に関する情報、およびデータベース内の索引に関する情報が含まれる。

7 **カップリング・ファシリティ (coupling facility).** z/OS または OS/390 環境において、指定された PR/SM™ LPAR 論理パーティションで、結合機構制御プログラムを実行し、高速キャッシュ、リスト処理、およびロックなどの機能を シスプレックスに提供する。

7 **カップリング・ファシリティ・リソース管理 (Coupling Facility Resource Management).** z/OS または OS/390 環境において、シスプレックス内のすべてのカップリング・ファシリティを管理する機能。

7 **可変関数 (variant function).** 結果が入力パラメーター値だけでなく他の要素に依存するユーザー定義関数。同じパラメーター値で続けて呼び出しを行うと、異なる結果が生成される場合がある。 68 ページの『非 deterministic 関数 (not deterministic function)』も参照。

1 **可変長ストリング (variable-length string).** 文字ストリング、GRAPHIC ストリング、またはバイナリー・ストリングで、長さが固定されないが、設定された限界の範囲内でなければならない。「可変長ストリング (varying length string)」ともいう。

## 用語集

**環境ハンドル (environment handle).** データベース・アクセス用のグローバル文脈を識別するハンドル。環境内のすべてのオブジェクトに適したすべてのデータは、このハンドルに関連付けられている。

7 **環境プロファイル (environment profile).** DB2 Net Search Extender が提供するスクリプト。環境変数の設定を含む。

**関係 (relationship).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、1 つの表の複数の行、または 2 つの表の行の間の定義済み接続。関係は、参照制約の内部表記である。

7 **監査 (audit).** アプリケーションまたは個人によるモニター対象データ・アクセスの検出後に情報を記録すること。

1 **監査機能 (audit facility).** 事前定義またはモニター済みの一連のデータベース・イベントに対する監査レコードの証跡を生成するユーティリティ。

1 **監査証跡 (audit trail).** イベントのシーケンスをリンクする論理パス形式のデータ。監査証跡は、レコードの内容に影響を与えるトランザクションをトレースする。

1 **監査ログ・ファイル (audit log file).** 監査機能から生成された監査レコードが置かれる場所。

7 **関数 (function).** SQL を拡張およびカスタマイズするために使用される、一連の入力データ値と一連の結果値との関係。関数は、SQL ステートメントのエレメント (選択リストや FROM 文節など) から呼び出される。91 ページの『ルーチン (routine)』、92 ページの『列関数 (column function)』、41 ページの『スカラー関数 (scalar function)』、70 ページの『表関数 (table function)』、および 18 ページの『行関数 (row function)』も参照。

1 **関数解決 (function resolution).** データベース・マネージャーの内部の処理。そのために、呼び出す特定の関数インスタンスが選択される。選択には、関数名、引き数のデータ・タイプ、および関数パスが使われる。『関数選択 (function selection)』の同義語。

**関数シグニチャー (function signature).** 完全修飾関数名と、そのすべてのパラメーターのデータ・タイプとの論理連結。スキーマ内のすべての関数にユニーク・シグニチャーがなければならない。

1 **関数 SHIPPING (function shipping).** 適用可能データの入った特定のデータベース・パーティションに対する、要求のサブセクションの送信処理。

**関数選択 (function selection).** 『関数解決 (function resolution)』を参照。

7 **関数ディレクトリー (function directory).** ユーザーの外部ルーチン (プロシージャー、関数、メソッド) に関連した実行可能ファイルとライブラリーを保管するための DB2 UDB ディレクトリー。

7 **関数テンプレート (function template).** フェデレーテッド・サーバーにデータ・ソース関数を開始させる DB2 UDB 機能。関数テンプレートには、実行されるコードは含まれない。

1 **関数の定義者 (function definer).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、CREATE FUNCTION ステートメントで指定されている関数のスキーマの所有者の許可 ID。

1 **関数の実現者 (function implementer).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、関数プログラムおよび関数パッケージの所有者の許可 ID。

**関数パス (function path).** 非修飾関数の呼び出しの検索範囲を制限し、関数選択プロセスの最終決定者を提供するスキーマ名を並べたリスト。

**関数パス・ファミリー (function path family).** ユーザーの関数パス内で識別される (またはデフォルトとして使われる) すべてのスキーマ内のある特定の名称のすべての関数。

**関数パッケージ (function package).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、関数プログラム用の DBRM をバインドすると結果的に作成されるパッケージ。

1 **関数パッケージ所有者 (function package owner).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、関数プログラムの DBRM を関数パッケージにバインドしたユーザーの許可 ID。

**関数ファミリー (function family).** 同一の関数名の付いた一連の関数。文脈によって、使用法は特定のスキーマ内の一連の関数に関するものか、または現行関数パス内の同一名のすべての関連関数に関するものかが判別される。

**関数本体 (function body).** 関数をインプリメントするコード。

1 **関数マッピング (function mapping).** フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソース関数と既存の DB2  
1 Universal Database 関数の間のマッピングを指す。DB2 Universal Database は、既存の組み込みデータ・ソース関数と  
1 組み込み DB2 Universal Database 関数との間にデフォルトのマッピングを提供する。デフォルトのマッピングはラッ  
1 パーにある。対応する DB2 Universal Database 関数は、完全な関数または関数テンプレートのいずれか。14 ページ  
1 の『関数テンプレート (function template)』を参照。

1 **関数マッピング・オプション (function mapping options).** フェデレーテッド・システムにおいて、作成されるマッ  
1 ping またはマッピング内のデータ・ソース関数に関して値を割り当てることのできる CREATE FUNCTION  
1 MAPPING ステートメントのパラメーター。たとえば、このような値には、データ・ソース関数が呼び出される時に  
1 消費されるオーバーヘッドの見積もり統計が含まれる。照会オプティマイザーは、これらの見積もりを使用して、デ  
1 ータがデータ・ソースから戻される時にデータ・ソースによって呼び出されるか、それとも DB2 Universal Database  
1 によって呼び出されるかを決定する。『関数マッピング (function mapping)』を参照。

**関数呼び出し (function invocation).** 関数本体に渡されるすべての任意の引き数値で関数を使うこと。関数は、その名前前で呼び出される。

7 **完全拡張マッピング (fully escaped mapping).** SQL ID が列名である場合の SQL ID から XML 名へのマッピング  
7 グ。

**完全修飾 LU 名 (fully qualified LU name).** 63 ページの『ネットワーク修飾名 (network-qualified name)』を参照。

7 **感度 (sensitivity).** アラートが生成される前に経過すべき、しきい値ベースのヘルス・インディケーターがしきい値  
7 を超過する時間の長さ、または状態に基づくヘルス・インディケーターが正常ではない状態となる時間の長さ。

7 **管理キュー (administration queue).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、Q キャプチャー・プログラ  
7 ムと Q アプライ・プログラムまたはユーザー・アプリケーションの間の通信に使用される WebSphere MQ キュ  
7 ー。それぞれの Q キャプチャー・プログラムの管理キューは、ローカルの永続キューでなければならない。

7 **管理権限 (administrative authority).** インスタンス・リソースとデータベース・リソースへの全アクセス権限を持つ  
7 SYSADM 権限レベル。または、データベース・リソースへの全アクセス権限を持つ DBADM データベース権限。

**管理サポート表 (administrative support table).** DB2 エクステンダーがイメージ、オーディオ、ビデオ・オブジェクトでユーザー要求を処理する際に使用する表。いくつかの管理サポート表は、エクステンダーで使用可能になっているユーザー表と列を識別する。他の管理サポート表には、使用可能な列のオブジェクトに関する属性情報が含まれている。「メタデータ表 (metadata table)」とも呼ばれる。

1 **管理者 (administrator).** アクセス許可やコンテンツ・マネージメントのような管理用タスクに対して責任を負う人  
1 間。管理者は、ユーザーに権限レベルを付与することもできる。85 ページの『ユーザー (user)』も参照。

2 **管理対象照会 (managed query).** 照会の処理方法を制御する Query Patroller のしきい値およびパラメーターに従う  
2 照会。たとえば、照会の実行が許可されるかどうか、キューに入れられるかどうか、リジェクトされるかどうか  
2 される。48 ページの『代行受信照会 (intercepted query)』および 82 ページの『保留照会 (held query)』も参照。

7 **管理通知ログ (administration notification log).** マイナーな問題を管理者が解決するのを支援する、各国語によるメ  
7 ッセージのリスト。DB2 通知ログともいう。

**管理プログラム (governor).** 89 ページの『リソース限定機能 (resource limit facility)』を参照。

## 用語集

- 7 管理用通知メッセージ (**administration notification message**). データベース・マネージャー、レプリケーション・プログラム、ユーザー・アプリケーション、またはヘルス・モニターによって通知ファイルまたはイベント・ログに書き込まれるアラーム、エラー・メッセージ、警告、アテンション・メッセージ、または通知メッセージ。

完了必須 (**must-complete**). データ保全性を維持するため操作全体を完了しなければならない、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 処理の状態。

- 1 関連アドレス・スペース (**allied address space**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 の外部にあるが、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に接続されているストレージ。関連アドレス・スペースは DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サービスを要求できる。
- 1 関連エージェント (**allied agent**). 『関連スレッド (allied thread)』の同義語。
- 1 関連したビュー (**related view**). 他のオブジェクトを使用するビュー、つまり他のオブジェクトに従属するビュー (たとえば親ビュー、親表)。
- 1 関連スレッド (**allied thread**). ローカル DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステム側にあつて、リモート DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステム側にあるデータをアクセスできるスレッド。43 ページの『スレッド (thread)』も参照。
- 1 キー (**key**). 表、索引、または参照制約の記述内で識別される列または順番に並べた列の集合。同じ列が複数のキーの一部となることができる。

キー値ベースのパーティション法 (**key-value based partitioning strategy**). 表内の行をデータベース・パーティションに割り当てる方法。パーティション・キー列の値に基づいて行が割り当てられる。65 ページの『パーティション・キー (partitioning key)』も参照。

- 7 キー順データ・セット (**KSDS**) (**key-sequenced data set (KSDS)**). z/OS または OS/390 環境において、レコードがキー・シーケンスにロードされ、索引によって制御される VSAM ファイルまたはデータ・セット。
- 7 キーワード (**keyword**). (1) プログラム言語、人工言語、アプリケーション、またはコマンドで事前定義された語句。(2) SQL ステートメントで使用されるオプションを識別する名前。

期間 (**duration**). SQL では、時間間隔を表す数値。69 ページの『日付期間 (date duration)』、87 ページの『ラベル付き期間 (labeled duration)』、または 35 ページの『時刻期間 (time duration)』を参照。

- 1 疑似空白 (**pseudo empty**). ページのすべてのキーが疑似削除としてマークされている場合、索引ページは疑似空白である。『疑似削除 (pseudo deleted)』も参照。
- 1 疑似削除 (**pseudo deleted**). 削除マークを付けられているが索引ページからまだ物理的に除去されていないキー。
- 1 疑似削除索引 (**pseudo delete index**). 削除がコミットされてからしばらくの間、キーの削除が完了しない索引。48 ページの『タイプ 2 索引 (type 2 indexes)』も参照。
- 1 記述データ (**descriptive data**). 84 ページの『メタデータ (metadata)』を参照。

7 基礎集約表 (**base aggregate table**). SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソース表から集約されたデータを含むレプリケーション・ターゲット表のタイプ。80 ページの『変更集約表 (change aggregate table)』と対比。

7 起点アプリケーション・スケジュール番号 (**OASN**) (**origin application schedule number (OASN)**). IMS を使用する z/OS または OS/390 環境において、IMS の最後のコールド・スタート以降、各 IMS スケジュールに順次割り当てられる 4 バイトの番号。OASN は作業単位の ID として使用される。8 バイト形式では、先頭の 4 バイトにはスケジュール番号が入り、後の 4 バイトには現行スケジュール時の IMS 同期点 (コミット・ポイント (commit points)) の数が入る。OASN は、IMS 接続用のネットワーク ID (NID) の一部である。

7 揮発性表 (**volatile table**). SQL 操作で、可能な場合に索引アクセスが選択される対象の表。

**基本述部 (basic predicate).** 2 つの値を比較する述部。

**基本順次アクセス方式 (BSAM) (basic sequential access method (BSAM)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が順次アクセス装置または直接アクセス装置のいずれかを使って、データ・ブロックを連続して格納または検索するアクセス方式。48 ページの『待機順次アクセス方式 (queued sequential access method)』も参照。

1 **基本的会話 (basic conversation).** APPC 基本的会話 API を使用する 2 つのトランザクション・プログラム間の  
1 SNA LU 6.2 会話。82 ページの『マップ式会話 (mapped conversation)』も参照。

**基本ビュー (underlying view).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、別のビューが直接または間接に定義されているビュー。

7 **基本表 (base table).** (1) CREATE TABLE ステートメントを使って作成され、永続ユーザー・データを保持するた  
7 めに使用される表。この表には、データベースに保管された記述とデータが入っている。(2) DB2 Universal Database  
7 for z/OS and OS/390 では、LOB 列定義が入った表もまた基本表という。実際の LOB 列データは、この基本表と一  
7 緒に保管されない。基本表は、各行ごとに行 ID、および LOB 列ごとに標識表を含んでいる。45 ページの『宣言済  
7 み一時表 (declared temporary table)』、81 ページの『補助表 (auxiliary table)』、70 ページの『ビュー (view)』、23  
7 ページの『結果表 (result table)』、および 4 ページの『一時表 (temporary table)』も参照。

1 **基本表スペース (base table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、基本表を含む表スペー  
1 ス。

**逆方向ログ・リカバリー (backward log recovery).** 再始動処理の第 4 フェーズ (最終フェーズ)。このフェーズ  
で、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 はログを逆方向にスキャンして、打ち切られたすべての変更の  
UNDO ログ・レコードを適用する。

**キャッシュ (cache).** 頻繁にアクセスされる命令とデータの入ったバッファ。アクセス時間を短縮するために使われ  
る。

1 **キャッシュ構造 (cache structure).** 並列シスプレックス®のすべてのメンバーで使用できるデータを保管する結合機  
能構造。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データ共有グループは、キャッシュ構造を グループ・バッフ  
1 ー・プール (group buffer pool)として使用する。

7 **キャッシュ表 (cache table).** フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソース表のデータをキャッシュに入れ  
7 るために使用する論理表オブジェクト。キャッシュ表は、データ・ソース表を識別するニックネーム、1 つまたは複数  
7 のマテリアライズ照会表、およびそれぞれのマテリアライズ照会表でデータを複製するためのスケジュールからなる。

1 **キャッシング (caching).** 要求から得られる結果のうち、頻繁に使用されるものを即時に検索するためにメモリーに保  
1 管する処理。結果は情報を更新する時点まで保管される。DB2 Universal Database は、ディレクトリー・キャッシン  
1 グ、パッケージ・キャッシング、ファイル・システム・キャッシング、および LDAP キャッシングなどの多くのキャ  
1 ッシング・フォームを提供する。

7 **キャッチアップ状態 (catchup state).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、1 次データベースで発生して  
7 ログに記録されたすべての操作を、スタンバイ・データベースが必ずしも適用できていない可能性がある状態。この状  
7 態では、スタンバイ・データベースが 1 次データベースと同期するために、生成済みのログ・データを検索して適用  
7 する。キャッチアップ状態には、ローカルとリモートの 2 種類がある。93 ページの『ローカル・キャッチアップ状  
7 態 (local catchup state)』および 89 ページの『リモート・キャッチアップ状態 (remote catchup state)』も参照。

7 **ギャップ (gap).** SQL レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラムが読み取ることのできないログ・レコ  
7 ードまたはジャーナル・レコードの範囲。ギャップ内の変更データは失われる可能性がある。

7 **キャプチャー (capture).** (1) SQL レプリケーションにおいて、ソース・データベースの変更内容を収集して、ターゲ  
7 ット・データベースへの複製用にそれを保管すること。このような変更は DB2 ログやジャーナルによって発生する場  
7 合もあれば、DB2 以外のリレーショナル・データベースのソース・トランザクションが原因となることもある。(2)  
7 Q レプリケーションにおいて、ソース・データベースの変更内容を収集して、ターゲット・データベースへの複製用に

## 用語集

- 7 それをキューに保管すること。 (3) イベント発行において、ソース・データベースの変更内容を収集して、それを  
7 XML 形式でキューを介してユーザー・アプリケーションに送ること。
- 7 **キャプチャー待ち時間 (Capture latency).** SQL レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラムがどのくら  
7 い前に CD 表にデータをコミットしたかを示すおおよその測定。 2 ページの『Apply latencアプライ待ち時間 (Apply  
7 latency)』も参照。
- 7 **キャプチャー・コントロール・サーバー (Capture control server).** (1) SQL レプリケーションにおいて、キャプチ  
7 ャー・コントロール表が含まれるデータベースまたはサブシステム。この表は、登録済みレプリケーション・ソース表  
7 に関する情報を保管する。 (2) キャプチャー・プログラムが実行中されているシステム。
- 7 **キャプチャー・スキーマ (Capture schema).** SQL レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラムの特定の  
7 インスタンスによって使われるコントロール表を識別する名前。
- 7 **キャプチャー・トリガー (Capture trigger).** SQL レプリケーションにおいて、SQL 以外のソース表に対して実行さ  
7 れる削除、更新、または挿入操作をキャプチャーするためのメカニズム。『キャプチャー・プログラム (Capture  
7 program)』および2 ページの『アプライ・プログラム (Apply program)』と対比。
- 7 **キャプチャー・プログラム (Capture program).** SQL レプリケーションにおいて、DB2 Universal Database ソース  
7 表に加えられた変更をキャプチャーするためにデータベース・ログまたはジャーナルの記録を読み取って、それをステ  
7 ージング表に保管するプログラム。 2 ページの『アプライ・プログラム (Apply program)』、『キャプチャー・トリガ  
7 ー (Capture trigger)』、および111 ページの『Q キャプチャー・プログラム (Q Capture program)』と対比。
- 7 **キュー (queue).** メッセージ・キューイング・アプリケーション用のメッセージを保持する WebSphere MQ オブジェ  
7 クト。キューは、キュー・マネージャーによって所有および管理される。
- 2 **キュー時間 (queued time).** 23 ページの『経過キュー時間 (elapsed queued time)』を参照。
- 7 **キュー待ち時間 (queue latency).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、Q キャプチャー・プログラム  
7 がトランザクションを送信キューに書き込んだ後、Q アプライ・プログラムが受信キューからトランザクションを取  
7 得するまでの時間。
- 2 **キュー優先順位 (queue priority).** Query Patroller において、照会のサブミット時に割り当てられる優先順位を表す数  
2 値。
- 7 **キュー・マップ (queue map).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、キューを互いにリンクするオブジ  
7 ェクト。キューを使用するメッセージを Q キャプチャー・プログラムおよび Q アプライ・プログラムがどのように  
7 処理するかを定義する。 67 ページの『発行キュー・マップ (publishing queue map)』および92 ページの『レプリケー  
7 ション・キュー・マップ (replication queue map)』も参照。
- 旧構造体 (old structure). 97 ページの『1 次グループ・バッファー・プール (primary group buffer pool)』を参照。
- 1 **行 ID (ROWID) (row identifier (ROWID)).** 固有に行を識別する値。この値は当該の行と一緒に保管され、変更され  
1 ない。
- 行 (row). 表の各列の値のシーケンスからなる、表の水平コンポーネント。
- 7 **行位置指定アクセス (row-positioned access).** 単一の FETCH ステートメントから単一行を検索できる機能。
- 7 **行関数 (row function).** オプションの引き数を受け入れ、複数の値からなる単一行を戻す SQL 関数。行関数を  
SQL の中にインプリメントしてトランスフォーム関数として使用することで、行に含まれる組み込みデータ・タイプ  
の値を構造化型の属性にマップすることができる。 14 ページの『関数 (function)』、38 ページの『集約関数  
(aggregate function)』、41 ページの『スカラー関数 (scalar function)』、および70 ページの『表関数 (table function)』  
7 も参照。



1 **行キャプチャー規則 (row-capture rules).** SQL レプリケーションにおいて、登録済み列の変更内容に関する規則。  
 1 キャプチャー・プログラムが行を CD 表に書き込むかどうか、いつ書き込むか、またはキャプチャー・トリガーが行  
 1 を CCD 表に書き込むかどうか、いつ書き込むかを定義する。

**競合 (contention).** すでにロックされている行または表をトランザクションがロックしようとしている状態。

7 **競合検出 (conflict detection).** (1) 同じ表に同時にアクセスしようとする複数の読み取りまたは書き込み操作をラン  
 7 タイムに検出するための方式。この方式を使用すると、セマンティクスが不整合または不適切になる可能性がある。  
 7 (2) 双方向の対等 Update-anywhere レプリケーションでは、制約エラー (キー制約や参照制約) を検出する処理。また  
 7 は、同じレプリケーション・サイクルの中で、ソース表とターゲット表の両方の同じ行がユーザーまたはアプリケーション  
 7 によって更新されたかどうかを検出する処理。

7 **行セット (rowset).** カーソル位置が設定された複数の行からなるセット。

7 **行セット位置指定アクセス (rowset-positioned access).** 単一の FETCH ステートメントから複数の行を検索する機  
 7 能。

7 **行セット・カーソル (rowset cursor).** 1 つの FETCH ステートメントによって 1 つまたは複数の行を行セットとし  
 7 て戻すために定義されるカーソル。カーソルはフェッチ対象の行セットに配置される。

**共通権限 (public authority).** すべてのユーザーに与えられているオブジェクト権限。

7 **共通言語ランタイム (CLR) (common language runtime (CLR)).** コンパイル済みのアセンブリーを解釈する、すべ  
 7 ての .NET Framework アプリケーション用のランタイム・インタープリター。1 ページの『アセンブリー  
 7 (assembly)』および 51 ページの『中間言語 (intermediate language)』も参照。

**共通サービス域 (CSA) (common service area (CSA)).** OS/390 では、すべてのアドレス・スペースによってアドレ  
 ス可能なデータ域が入っている共通域の一部。

**共通索引表 (common-index table).** テキスト列が共通のテキスト索引を共有する DB2 表。

1 **共通表式 (common table expression).** 名前 (修飾 SQL ID) の付いた結果表を定義する式。式は、WITH 文節の  
 1 後に続く全選択内の任意の FROM 文節内の表名に指定できる。71 ページの『表式 (table expression)』も参照。

**共通プログラミング・インターフェース・コミュニケーション (CPI-C) (Common Programming Interface  
 7 Communications (CPI-C)).** プログラム間通信を使用するアプリケーションのために整合性のあるアプリケーション  
 7 ン・プログラミング・インターフェースを提供するコール・レベル・インターフェース。LU 6.2 アーキテクチャーを  
 7 使用してこのインターフェースによって作成される一連のプログラム間サービスは、会話を確立および終了しデータを  
 7 送受信し、制御情報を交換し、パートナー・プログラムにエラーを通知することができる。

7 **協定世界時 (Universal Time Coordinated).** 国際的な標準時刻。00:00 UTC は、英国グリニッジでの深夜 12 時。

7 **行トリガー (row trigger).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、FOR EACH ROW 文節を使っ  
 7 て細分性を定義できるトリガー。

**共有連絡域 (SCA) (shared communications area (SCA)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データ共  
 有グループが DB2 間の通信に使用する、結合機能のリスト構造。

1 **共有ロック (shared lock).** 並行して実行されているアプリケーション・プロセスをデータベースのデータの読み取り  
 1 専用操作に限定するロック。66 ページの『排他ロック (exclusive lock)』も参照。

1 **共用体 (union).** 2 つの SELECT ステートメントの結果を結合する SQL 操作。いくつかの表から取得した値のリス  
 1 トをマージするために使用されることが多い。

1 **行ロック (row lock).** データの単一行のロック。95 ページの『ロック (lock)』および 71 ページの『表ロック  
 1 (table lock)』も参照。

## 用語集

1 許可 (**authorization**). DB2 Universal Database の処理で、データベース・カタログ内のデータを使用して、認証済み  
7 ユーザーに関する情報 (たとえば、ユーザーがどのデータベース操作を実行できるか、どのデータ・オブジェクトにア  
7 クセスできるか) を取得すること。60 ページの『特権 (**privilege**)』、53 ページの『データベース権限 (**database**  
7 **authority**)』、および 23 ページの『権限レベル (**authority level**)』も参照。

7 許可 ID (**authorization ID**). DB2 Universal Database との接続時に検証されるステートメント内の文字ストリング  
7 で、一連の特権が適用される。許可 ID は個別のユーザー、組織グループ、または機能を表す。データベース・マネー  
7 ジャーによって許可検査に使われるほか、表、ビュー、索引などのオブジェクト名の暗黙修飾子としても使われる。

1 許可トークン (**authorization token**). (1) トランザクションに関連したトークン。(2) DB2 Universal Database for  
1 z/OS and OS/390 では相関 ID を指す。(3) DB2 Universal Database for iSeries では、トランザクションの原因となっ  
1 たジョブの名前を指す。

許可プログラム機能 (**APF**) (**authorized program facility (APF)**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で  
は、制限された機能の使用を許可されるプログラムを識別して許可する機能。

切り捨て (**truncation**). メモリー容量または記憶容量を超える処理が行われた結果の一部を破棄する処理。

記録 (**recording**). 後に表示可能なパフォーマンス・スナップショットからの情報。

1 記録アクティビティ・モニター (**recording activity monitor**). データベース・アクティビティのモニター・デー  
1 タを記録するアクティビティ・モニターによって作成されるオブジェクト。記録されたデータはあとで表示され  
1 る。

7 近似同期モード (**near synchronous mode**). 高可用性災害時リカバリー (HADR) の同期モードの 1 つ。ログ・デ  
7 ータがスタンバイ・システムに受信されてメイン・メモリーに書き込まれたことを示す確認メッセージがスタンバイ・  
7 データベースから 1 次データベースに送られたとき、1 次データベースはそのトランザクションがコミットされた  
7 と見なす。48 ページの『対等状態 (**peer state**)』を参照。

7 空間参照系 (**spatial reference system**). DB2 Spatial Extender および DB2 Geodetic Extender におけるパラメータ  
7 ーの集合。特定の範囲の座標で参照されるスペースの最大範囲を定義する座標、座標の元である座標システムの ID、  
7 および座標の処理時のパフォーマンスを改善するために座標を正の整数に変換する数値が含まれる。

空間列 (**spatial column**). 特殊データ・タイプを持つ表列またはビュー。このデータ・タイプによって、列には地球  
の特殊な領域内のロケーションを定義する座標が含まれる。

7 クエリー・コントローラー (**query controller**). Query Patroller システムにおけるサーバー・コンポーネントで、  
7 DB2 Universal Database サーバーと連動して照会を管理する。

2 クエリー・パトローラー・センター (**Query Patroller Center**). Query Patroller を管理するためのグラフィカル・イ  
2 ンターフェース。クエリー・パトローラー・センターを使用すれば、照会の流れをモニターおよび制御したり、ユーザ  
2 ーの管理や照会に関する情報の表示を行うことができる。

7 区切り ID (**delimited identifier**). 引用符 (") で囲まれた文字シーケンス。シーケンスは、1 つまたは複数の SQL 文  
7 字で構成されなければならない。シーケンス内の先行ブランクは意味を持つ。シーケンス内の末尾ブランクは意味を持  
7 たない。区切り ID の長さには、2 つの引用符が含まれない。51 ページの『通常 ID (**ordinary identifier**)』も参照。

区切りトークン (**delimiter token**). 構文図に示されているストリング定数、区切り ID、演算子、または特殊文字。

区切りなし ASCII 形式 (**nondelimited ASCII format**). データをインポートするために使用するファイル形式。区  
切りなし ASCII とは、ASCII 製品間でデータ交換を行うときに使用する行区切り文字がある順次 ASCII ファイルのこ  
と。

区切り文字 (**delimiter**). データ項目をグループ化したり分離したりするための文字またはフラグ。

7 国/地域コード (**country/region code**). 58 ページの『テリトリー・コード (**territory code**)』を参照。

7 **組み込み SQL (embedded SQL).** アプリケーション・プログラム内にコード化された SQL ステートメント。 44 ページの『静的 SQL (static SQL)』を参照。

7 **組み込み関数 (built-in function).** DB2 Universal Database に不可欠な、強く型付けされた高性能な関数。 SQL ステートメント内の任意の有効な式から組み込み関数を参照することができる。 14 ページの『関数 (function)』、46 ページの『ソース派生関数 (sourced function)』、113 ページの『SQL 関数 (SQL function)』、10 ページの『外部関数 (external function)』、および 85 ページの『ユーザー定義関数 (user-defined function)』も参照。

**クライアント (client).** データ、サービス、プログラム、またはリソースを利用するために別のシステムまたはプロセス (通常、これをサーバーという) に依存するシステムまたは処理。

7 **クライアント転送 (client reroute).** クライアント・アプリケーションがデータベース・サーバーとの通信を失った場合、代替サーバーが事前定義されていれば、作業の中断を最小限に抑えて元のデータベース・サーバーまたは代替サーバーとの間で作業を続けるようにする方式。

1 **クライアント・プロファイル (client profile).** 「クライアント構成アシスタント」の「インポート」機能を使用して、クライアントを構成するために使用されるプロファイル。 ローカル APPC または NetBIOS 通信サブシステムのデータベース接続情報、クライアント設定、CLI または ODBC 共通パラメーター、構成データが含まれる。 29 ページの『サーバー・プロファイル (server profile)』も参照。

7 **クラスター化ブロック索引 (clustering block index).** 57 ページの『ディメンション・ブロック索引 (dimension block index)』を参照。

7 **クラスター索引 (clustered index).** 表に保管されている行の順序に厳密に対応するキー値の順序をもった索引。その対応の程度は、オプティマイザーが使用する統計によって測定される。

7 **クラスタリング索引 (clustering index).** 1 つの表スペースに行が物理的にどのように配列 (クラスター化) されるかを決定する索引。パーティション表のクラスタリング索引がパーティション化索引でない場合、行は複数のパーティションにまたがるのではなく、それぞれのデータ・パーティションでクラスター順に配列される。 DB2 Universal Database for z/OS バージョン 8 より前は、クラスタリング索引のためにパーティション索引 (partitioning index) が必要とされた。

1 **クラス・ワード (class word).** データ属性の本質を示す単一ワード。

1 **クラッシュ・リカバリー (crash recovery).** 障害後に、データベースを使用可能な状態に戻す処理。 64 ページの『バージョン・リカバリー (version recovery)』および 94 ページの『ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery)』も参照。

1 **クリーン・ブロック索引 (clean block index).** 索引で表されるブロックのすべてのレコードがその索引のキー値と同じキー値を持つような索引。 ディメンション・ブロック索引はクリーン・ブロック索引である。

**グループ (group).** (1) アクティビティーまたはリソース・アクセス権限に応じて ID をもつユーザーの論理編成。

7 (2) サテライト環境では、データベース構成や、サテライト上で実行されるアプリケーションなどの特性を共有するサテライトの集合。

1 **グループ化タスク (grouping task).** 他のタスクが含まれるタスク・センターのタスク。 グループ化タスクに含まれるタスクの結果に依存するタスク・アクションを定義するために、タスクを使用する。

7 **グループ再始動 (group restart).** z/OS または OS/390 環境において、ロックまたは共用通信域が失われた後、データ共用グループの少なくとも 1 つのメンバーを再始動すること。

7 **グループ名 (group name).** z/OS または OS/390 環境において、データ共有グループの XCF ID。

7 **グループ有効範囲 (group scope).** データ共用環境において、データ共用グループのすべてのメンバーに影響を与えるコマンド有効範囲。 84 ページの『メンバー有効範囲 (member scope)』も参照。

## 用語集

1 **グループ・バッファ・プール (GBP) (group buffer pool (GBP)).** データをキャッシュに入れ、このデータがすべ  
1 てのメンバーで整合していることを確認するために、データ共有グループで使用されるカップリング・ファシリティ  
1 ー・キャッシュ構造。 17 ページの『キャッシュ構造 (cache structure)』も参照。

7 **グループ・バッファ・プール二重化 (group buffer pool duplexing).** z/OS または OS/390 環境において、グルー  
7 プ・バッファ・プール構造の 2 つのインスタンス (1 次グループ・バッファ・プールと 2 次グループ・バッファ  
7 ー・プール) にデータを書き込む機能のこと。

**クレーム (claim).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、あるオブジェクトがアクセスされていること  
をデータベース・マネージャーに通知すること。クレームが解放されるまでドレーンが発生しないようにする。それ  
は通常コミット・ポイントである。 62 ページの『ドレーン (drain)』も参照。

**クレーム・カウント (claim count).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、1 つのオブジェクトをアクセ  
スしているエージェント数のカウント。

1 **クレーム・クラス (claim class).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、特定タイプのオブジェクト・  
1 アクセスで、以下のいずれかの可能性がある。カーソル固定 (cursor stability)、反復可能読み取り (repeatable read)、書  
1 き込み。

1 **クレンジング (する) (cleanse).** (1) データ・セットのすべての値が整合しており、正しく記録されているか確認する  
1 こと。(2) 運用システムから抽出されたデータをトランスフォームして、データウェアハウスで使用できるようにする  
1 こと。

1 **グローバル表ロック (global table lock).** 表のデータベース・パーティション・グループのすべてのパーティション  
1 で獲得される表ロック。

1 **グローバル・オプティマイザー (global optimizer).** フェデレーテッド・システムでは、分散照会を分析し、照会を  
1 実行するための最も効率のよい方法を決定する DB2 SQL コンパイラーの機能を指す。グローバル・オプティマイザー  
1 は、リソース・コストに基づいた照会を評価する。 73 ページの『プッシュダウン処理 (push-down processing)』を参  
1 照。

1 **グローバル・カタログ (global catalog).** フェデレーテッド・システムにおいて、データベース・システム・カタロ  
1 グを指す。カタログにはフェデレーテッド・データベースのオブジェクトに関する情報とデータ・ソースのオブジェク  
1 トに関する情報が含まれる。また、カタログには、フェデレーテッド・システム全体に関する情報も含まれる。SQL  
1 ステートメントを処理する最適の方法を計画するために、グローバル・カタログの情報は DB2 照会オプティマイザー  
1 によって使用される。

**グローバル・トランザクション (global transaction).** 複数のリソース管理プログラムを必要とする分散トランザクシ  
ョン処理環境内の作業単位。

7 **グローバル・レコード (global record).** SQL レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラムの特別なイン  
7 スタンスに関するグローバル・レプリケーション特性を定義する登録表の行。

**グローバル・ロック (global lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、複数の DB2 サブシステム内  
での同時制御を提供するロック。ロックの有効範囲は、データ共有グループのすべての DB2 サブシステムに渡る。

**グローバル・ロック競合 (global lock contention).** 共有リソースをシリアライズしようとする試みに関して、デー  
タ共有グループの異なる DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 メンバー間のロッキング要求の競合。

7 **クロスメモリー・リンケージ (cross-memory linkage).** z/OS または OS/390 環境において、異なるアドレス・スペ  
7 ースでプログラムを呼び出すための方式。この呼び出しは、呼び出し側に関して同期。

**グロス・ロック (gross lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、表、パーティションまたは表スペ  
ースに対する、共有、更新、または排他モードのロック。

1 **ゲージ (gauge).** アイテムの現行値に対するインディケーター。 11 ページの『カウンター (counter)』も参照。

2 経過キュー時間 (**elapsed queued time**). Query Patroller において、照会が作成されてから実行され始めるまでの経過時間。 25 ページの『合計経過時間 (elapsed total time)』も参照。

**継承 (inheritance)**. 親クラスから、クラス階層を下って子クラスにクラス・リソースや属性を渡すこと。

**計測機能インターフェース (IFI) (instrumentation facility interface (IFI))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に関するオンライン・トレース・データの入手、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 コマンドのサブミット、および DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 へのデータ送信を可能にするプログラミング・インターフェース。

**計測機能コンポーネント ID (IFCID) (instrumentation facility component identifier (IFCID))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、トレース可能なイベントのトレース・レコードに名前を付けて識別する値。START TRACE および MODIFY TRACE コマンドのパラメーターの場合、対応するイベントのトレースを指定する。

2 **結果宛先 (result destination)**. Query Patroller において、照会の結果が戻される場所。照会をサブミットしたアプリケーション、または結果表が結果宛先となる。『結果表 (result table)』も参照。

**結果セット (result set)**. ストアード・プロシージャが戻す行のセット。

**結果セット・ロケーター (result set locator)**. ストアード・プロシージャが戻す照会結果セットを固有に識別するために DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が使用する 4 バイトの値。

**結果表 (result table)**. (1) SELECT ステートメントの評価によって生成される行のセット。 4 ページの『一時表 (temporary table)』も参照。 (2) Query Patroller において、照会の結果セットを保管するために作成される表。

7 **結合 (join)**. 列値を突き合わせて複数の表からデータを取り出すための SQL 関係操作。 76 ページの『ブロードキャスト結合 (broadcast join)』、 27 ページの『コロケートッド結合 (collocated join)』、 45 ページの『全外部結合 (full outer join)』、 62 ページの『内部結合 (inner join)』、 69 ページの『左外部結合 (left outer join)』、 11 ページの『外部結合 (outer join)』、 および 83 ページの『右外部結合 (right outer join)』も参照。

1 **権限 (authority)**. 『権限レベル (authority level)』を参照。

7 **権限レベル (authority level)**. メインテナンスやユーティリティー操作など、高水準のデータベース管理操作を実行するユーザーのアクセス権および能力。ユーザーの権限レベルには、保守およびユーティリティー操作のほか、データベース・オブジェクトに対する特権が暗黙的に含まれることがある。 94 ページの『ロード権限 (load authority)』、 35 ページの『システム権限 (system authority)』、 60 ページの『特権 (privilege)』、 4 ページの『暗黙特権 (implicit privilege)』、 および 53 ページの『データベース権限 (database authority)』も参照。

1 **現行 SQL ID (current SQL ID)**. 単一ポイント・イン・タイムで、特定の動的 SQL ステートメントが稼働する時に行使される特権を保留する ID。基本許可 ID または 2 次許可 ID のいずれかである。

**現行作業ディレクトリー (current working directory)**. すべての相対パス名を決定する基準となる、デフォルト・ディレクトリー。

**現行状況再作成 (current status rebuild)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ログ上の情報からサブシステムの状況の再構成が行われる、再始動処理の第 2 フェーズ。

**現行データ (current data)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ホスト構造内のデータであり、基本表内のデータと同じもの。

1 **現行パス (current path)**. 関数およびデータ・タイプに対する非修飾の参照の解決で使われるスキーマ名の番号付きリスト。動的 SQL では、現行関数パスは CURRENT PATH 特殊レジスターの中に入っている。静的 SQL では、PREP コマンドと BIND コマンドの FUNCPATH オプションに定義される。

7 **検索 (search)**. ユーザー指定の基準に一致するオブジェクトの表示を要求すること。

## 用語集

検索基準 (**search criteria**). インフォメーション・カタログ・センターでは、検索の実行方法を指定するために使用されるオプションおよび文字ストリングを指す。オブジェクト・タイプ名、プロパティ値、検索が完全一致かどうか、および大文字小文字の区別をする検索かどうかが含まれる。

検索条件 (**search condition**). 表から行を選択するための基準。1つの検索条件は、1つまたは複数の述部から構成される。

検査済み (**already verified**). 会話を割り当てる際、ユーザーの検査済み許可 ID を DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 によって提供されるようにする SNA LU 6.2 セキュリティー・オプション。パートナー・サブシステムはユーザーの妥当性検査をしない。

原子性 (**atomicity**). コンピューター・プログラミング技法の1つで、複数ステートメントからなるグループを1つの操作のように実行するか、またはどのステートメントも実行しないこと。

幻像読み取り行 (**phantom row**). 反復可能読み取り以外の分離レベルで実行しているアプリケーション・プロセスで読み取ることができる表の行。アプリケーション・プロセスが同じ作業単位内で同じ照会を複数回発行すると、同時に実行している他のアプリケーション・プロセスによってデータが挿入されコミットされるために、照会と次の照会の間に他の行が追加されて表示されるようになる。

ゴースト索引 (**ghost index**). 既存の索引オブジェクト内の不可視オブジェクト。索引の作成中に作成される。完全に作成されるまで、ユーザーはこれを見ることができない。37ページの『シャドウ索引 (shadow index)』も参照。

コーディネーター (**coordinator**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、他の1つまたは複数のシステム上で行われる処理を組み込んだ作業単位のコミットまたはロールバックを開始する、システム・コンポーネント。

コーディネーター・エージェント (**coordinating agent**). データベース・マネージャーがアプリケーションからの要求を受け取った時に始動するエージェント。このエージェントは、そのアプリケーションが存続する限り、そのアプリケーションと関連し続ける。このエージェントは、そのアプリケーションのために動作するサブエージェントを開始する。7ページの『エージェント (agent)』および32ページの『サブエージェント (subagent)』も参照。

コーディネーター・サブセクション (**coordinator subsection**). 他のサブセクション (ある場合) を始動するアプリケーションのサブセクションであり、そのアプリケーションに結果を戻す。

コーディネーター・ノード (**coordinator node**). 『コーディネーター・パーティション (coordinator partition)』を参照。

コーディネーター・パーティション (**coordinator partition**). アプリケーションの元の接続先であり、コーディネーター・エージェントが常駐するデータベース・パーティション。

コード化スキーム (**encoding scheme**). 文字データを表す一連の規則。

コード化文字セット (**coded character set**). 文字セットを確立し、かつその文字セットの文字とコード化表現との間で1対1対応の関係を確立する明確な規則の集まり。

コード・セット (**code set**). コード・ページの国際標準化機構 (ISO) 用語。『コード・ページ (code page)』を参照。

コード・ページ (**code page**). コード・ポイントに割り当てた文字の集合。

コード・ポイント (**code point**). コード・ページで1つの文字を表すユニークなビット・パターン。

コールド・スタート (**cold start**). (1) 初期プログラム・ロード・プロシージャーを使用して、システムまたはプログラムを始動する処理。(2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 がどのログ・レコードも処理しないで再始動するときの処理。7ページの『ウォーム・スタート (warm start)』も参照。(3) レプリケーションにおいて、プログラムの以前の操作に基づく再始動情報を使用せずにキャプチャー・プログラムまたは Q キャプチャー・プログラムを開始する処理。コールド・スタートの際、キャプチャー・プログラムまたは Q キャプチャー・プログラムはターゲット表のフル・リフレッシュを開始する。7ページの『ウォーム・スタート (warm start)』と対比。

**コール・アタッチメント機能 (CAF) (call attachment facility (CAF)).** TSO または MVS バッチで実行されるアプリケーション・プログラムのための DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 アタッチメント機能。CAF は DSN コマンド処理プログラムに代わるもので、実行環境の制御を強化することができる。

7 **コール・レベル・インターフェース (CLI) (call level interface (CLI)).** データベース・アクセス用の API。ランタイムに SQL ステートメントと関連サービスを処理するための一連の標準機能を提供する。21 ページの『組み込み SQL (embedded SQL)』と対比。

7 **高可用性災害時リカバリー (HADR) (high availability disaster recovery (HADR)).** ログ・ SHIPPING に基づく高可用性ソリューション。1 次システムで部分的または全的に障害が発生した場合、スタンバイ・システムでのデータ可用性を提供する。111 ページの『Q レプリケーション (Q replication)』と対比。

2 **合計経過時間 (elapsed total time).** Query Patroller において、照会の経過キュー時間と実行経過時間の合計。23 ページの『経過キュー時間 (elapsed queued time)』および 36 ページの『実行時間 (execution time)』を参照。

2 **合計時間 (total time).** 『合計経過時間 (elapsed total time)』を参照。

**交渉可能ロック (negotiable lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、そのモードが、競合するユーザー間の同意によって、すべてのユーザーに適用できるモードに下げることが可能なロック。物理ロックは、交渉可能ロックの 1 つ。

7 **更新 (update).** DB2 Data Links Manager 環境では、リンク・ファイルを変更することを指す。

7 **更新可能結果セット (updatable result set).** FOR UPDATE 文節を含む SELECT 使って作成されたカーソルに関連した結果セット。23 ページの『結果セット (result set)』も参照。

1 **更新可能性 (updatability).** 位置付けられた更新と削除を実行するカーソルの機能。カーソルの更新可能性は、SELECT ステートメントと DECLARE CURSOR ステートメントで指定されるカーソル・センシティブティー・オプションに左右される。

**更新規則 (update rule).** データベース・マネージャーが強制する条件。列の更新が行われる前に満たされなければならない。

1 **更新進行状態 (update-in-progress state).** 更新プロセスが進行中である DB2 Data Links Manager の制御下にあるファイルの論理状態。リンク・ファイルは、書き込みトークンを使用してオープンされた後にこの状態となり、DB2 Universal Database ホストに更新の完了が通知されると、この状態ではなくなる。

7 **更新トリガー (update trigger).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 におけるトリガーの 1 つで、トリガー定義の基本表に対して更新操作が実行されると、このトリガーが活動化される。61 ページの『トリガー (trigger)』および 61 ページの『トリガー起動 (trigger activation)』も参照。

1 **更新ホール (update hole).** 行が更新されたために基本表の中に対応する行が存在しなくなった、カーソルの SELECT ステートメントの行。基本表の行が更新され、その行が結果セットに含まれるべきではないにもかかわらず、オープンしているカーソルの SELECT ステートメント結果にその更新済み行が含まれる場合、更新ホールが作成される。このような行はカーソルからもはやアクセスできない。32 ページの『削除ホール (delete hole)』も参照。

1 **構成可能なオンライン構成パラメーター (configurable online configuration parameters).** データベース・マネージャーの実行中に、値の変更ができる構成パラメーターの集合。

1 **構成可能な構成パラメーター (configurable configuration parameters).** 変更が可能な情報が含まれる構成パラメーターの集合。『構成可能なオンライン構成パラメーター (configurable online configuration parameters)』および 51 ページの『通知構成パラメーター (informational configuration parameter)』も参照。

1 **構成パラメーター (configuration parameter).** 値が、データベース・マネージャーまたはデータベースで使用できるリソースを制限するパラメーター。構成パラメーターの中には通知パラメーターがあり、変更できない環境に関する特性を表示する。

## 用語集

構成ファイル (**configuration file**). 構成パラメーターとして指定された値が含まれるファイル。構成ファイルには、DB2 Universal Database インスタンスごとのデータベース・マネージャー構成ファイルと、個々のデータベースに対するデータベース構成ファイルの 2 つがある。

構造化照会言語 (**SQL**) (**Structured Query Language (SQL)**). リレーショナル・データベースのデータを定義および操作するための標準化言語。

構造型 (**structured type**). さまざまな属性 (標準のデータ・タイプまたは他の構造化型) からなる名前付き集合であるデータ・タイプ。定義済みタイプに比べて、セマンティックをより良く制御できる。

構造体 (**structure**). 表、データベース、ビュー、索引、表スペースなど、さまざまなタイプの DB2 Universal Database オブジェクトを集合的に表す名前。

高速コミュニケーション・マネージャー (**FCM**) (**fast communication manager (FCM)**). パーティション・データベース環境でパーティション間の通信サポートを提供する機能のグループ。

構文文字セット (**syntactic character set**). 文字セット 00640 として IBM レジストリーに登録されている、81 個の GRAPHIC 文字から成る文字セットのこと。このセットは、システム間および国境や地域の境界を越えた移植性と互換性を最大化することを目的とする構文に使用される。少数の例外を除き、この文字セットはほとんどの登録済み 1 次文字セットの中に含まれている。6 ページの『インバリエント文字セット (invariant character set)』も参照。

顧客情報管理システム (**Customer Information Control System**). 99 ページの『CICS』を参照。

国際化対応 (**internationalization**). ソフトウェア・エンジニアリングにおいて、特定の言語、スクリプト、国別情報、およびコード化文字セットに依存しない製品を製造するプロセス。86 ページの『ユニコード (Unicode)』も参照。

コスト (**cost**). ステートメントのアクセス・プラン (またはステートメントのエレメント) を実行するために必要なリソース使用量の合計見積もり。コストは、処理プログラムのコスト (命令の数) および I/O (シークおよびページ転送の数) の組み合わせから出される。

コスト・カテゴリー (**cost category**). SQL ステートメントのバインド時に DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 がそのステートメントに関するコスト見積もりを入れるカテゴリーのこと。

固定長ストリング (**fixed-length string**). 長さが特定されていて、変更できない文字または GRAPHIC のストリング。13 ページの『可変長ストリング (variable-length string)』も参照。

コピー・ターゲット (**copy target**). コピー・プールのボリューム・コピーでコンテナとして使用される SMS ストレージ・グループの名前付きセット。SMS 構成であるコピー・ターゲットを使用すれば、FlashCopy 機能を使ってコピーされるボリュームのコンテナとしてどのストレージ・グループを使用するかを定義できる。

コピー・バージョン (**copy version**). HSM によって管理されるポイント・イン・タイム FlashCopy コピー。それぞれのコピー・プールごとに、ディスク上に保守されるコピー・バージョンの数を示すバージョン・パラメーターがある。

コピー・プール (**copy pool**). 集合的にコピーされるデータを格納する SMS ストレージ・グループの名前付きセット。SMS 構成であるコピー・プールを使用すれば、FlashCopy<sup>®</sup> 機能を使ってどのストレージ・グループをコピーするかを定義できる。HSM は、どのボリュームがコピー・プールに属するかを決定する。

個別特権 (**individual privilege**). シングル・データ・オブジェクトに付与される特権。60 ページの『特権 (privilege)』も参照。

コマンド (**command**). データベース・マネージャーのアクセスおよび保守を行うデータベース管理機能の開始方法。102 ページの『DB2 コマンド (DB2 command)』も参照。

コマンド行プロセッサ (**CLP**) (**command line processor (CLP)**). SQL ステートメントを入力するためのテキスト・ベースのインターフェース、あるいはデータベース・マネージャー・コマンド。



**コマンド接頭部 (command prefix).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、1 ～ 8 文字のコマンド ID。コマンド接頭部は、コマンドが DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ではなくアプリケーションまたはサブシステムに属していることを見分けるのに役立つ。

**コマンド認識文字 (CRC) (command recognition character (CRC)).** MVS コンソール・オペレーターまたは IMS サブシステム・ユーザーが特定の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムに DB2 コマンドを経路指定するときに使用できる文字。

7 **コマンドの有効範囲 (command scope).** データ共有グループ内でコマンドが影響を与える範囲。データ共有環境で  
7 のコマンドの有効範囲は、グループ有効範囲またはメンバー有効範囲。21 ページの『グループ有効範囲 (group  
7 scope)』および 84 ページの『メンバー有効範囲 (member scope)』も参照。

**コマンド・リスト (command list).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が TSO タスクを実行するために使用する言語。

**コミット (commit).** ロックを解除することにより作業単位を終了し、その作業単位によって行われたデータベースの変更を他のプロセスが認識できるようにする操作。この操作により、データ変更が永続化される。

**コミットされたフェーズ (committed phase).** マルチサイト更新プロセスの 2 番目のフェーズであり、すべての参加者が論理作業単位の効果をコミットするように要求するフェーズ。

7 **コミット中 (in-commit).** 2 フェーズ・コミット処理が開始した後に DB2 Universal Database for z/OS and OS/390  
7 に障害が起きた場合の、リカバリー単位の状況。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が再始動されたとき、  
7 この状況は、データの変更内容が整合していることを示す。

1 **コミット・ポイント (commit point).** データに整合性があると見なされる時点。

**コミュニケーション・データベース (CDB) (communications database (CDB)).** リモート・データベース管理システムとの会話を確立する際に使用される DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 カタログにある一連の表。

7 **コメント・オブジェクト・タイプ (comments object type).** インフォメーション・カタログ・センターで、別のオ  
7 ブジェクトにコメントを付けるオブジェクト・タイプ。たとえば、図表にあるデータに関する注が含まれる図表オブ  
7 ジェクトに、コメントをアタッチすることができる。このタイプはインフォメーション・カタログ・センターで事前  
7 定義される。

7 **孤立した連絡先 (orphaned contact).** ヘルス通知連絡先リストに含まれているにもかかわらず、DB2 管理サーバー  
7 の CONTACT\_HOST 構成パラメーターで指定されたシステムに保管されている連絡先リストに定義されていない連絡  
7 先。93 ページの『連絡先 (contact)』も参照。

**コレクション (collection).** (1) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、同じ修飾子をもつパッケージの  
1 グループ。(2) インフォメーション・カタログ・センターでは、オブジェクトのコンテナを指す。コレクションに  
1 はオブジェクトの個人用フォルダーと同様に、ユーザーが参照する特権をもったオブジェクトが含まれる。

1 **コロケートド結合 (collocated join).** 2 つの表が、同じデータベース・パーティションの単一パーティションのデ  
1 ータベース・パーティション・グループにある場合の結合結果。または 2 つの表が同じデータベース・パーティショ  
1 ン・グループにあり、同じ数のパーティション列がある (このとき、それらのパーティション列はパーティション互換  
1 であり、両方の表が同じパーティション関数を使用する。さらに対応するパーティション・キー列のペアが等価結合述  
1 部に加わる。) 65 ページの『パーティション互換性結合 (partition-compatible join)』も参照。

7 **子ロック (child lock).** 明示的階層ロッキングにおいて、表、ページ、行、またはラージ・オブジェクトに対して保持  
7 されるロック。それぞれの子ロックには、親ロックが存在する。9 ページの『親ロック (parent lock)』も参照。

1 **混合文字ストリング (mixed-character string).** 1 バイトおよびマルチバイト文字の混合が含まれるストリング。  
1 「(混合データ・ストリング)」の同義語。

## 用語集

- 1 **コンテナ (container).** データの物理ストレージ・ロケーション。たとえば、ファイル、ディレクトリー、デバイスなどである。71 ページの『表スペース・コンテナ (table space container)』を参照。
- 7 **コンデンス CCD 表 (condensed CCD table).** SQL レプリケーションにおいて、行の最新の値だけを含む CCD 表。また、それぞれのキー値ごとに 1 行だけが含まれる。69 ページの『非コンプリート CCD 表 (noncomplete CCD table)』と対比。43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』も参照。
- 7 **コンデンス (condensed).** SQL レプリケーションでは、データに加えられた変更の履歴ではなく、現行データが表に入っていることを示す表属性。コンデンス表には、表内の各主キー値につき 1 つまたは複数の行が含まれることはない。そのため、コンデンス表は、最新表示のための現行情報を提供するのに使うことができる。
- コントロール特権 (control privilege).** オブジェクトをアクセス、消去、または代替する権限と、オブジェクトに対する他のユーザーの特権を拡張したり取り消したりする権限。
- 1 **コントロール表 (control table).** 93 ページの『レプリケーション・コントロール表 (replication control table)』を参照。
- コントロール・インターバル (control interval).** VSAM では、VSAM がレコードを保管し、分散フリー・スペースを作成する、直接アクセス記憶装置の固定長域。キー・シーケンス・データ・セットまたはファイルにおいて、シーケンス・セット索引レコードの項目によって指される一連のレコード。VSAM が直接アクセス記憶装置との間で伝送する情報の単位。常に整数の物理レコード数が含まれる。
- コントロール・インターバル定義フィールド (CIDF) (control interval definition field (CIDF)).** VSAM では、各コントロール・インターバルの終わりの 4 バイトにあるフィールド。このフィールドは、コントロール・インターバル内のフリー・スペースを記述する (ある場合)。
- 7 **コントロール・サーバー (control server).** SQL レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラム、アプライ・プログラム、またはレプリケーション・アラート・モニター用のレプリケーション・コントロール表を含むデータベース・サーバー。2 ページの『アプライ・コントロール・サーバー (Apply control server)』、18 ページの『キャプチャー・コントロール・サーバー (Capture control server)』、110 ページの『Q アプライ・サーバー (Q Apply server)』、111 ページの『Q キャプチャー・サーバー (Q Capture server)』、および 85 ページの『モニター・コントロール・サーバー (Monitor control server)』も参照。
- 7 **コントロール・センター (Control Center).** DB2 Universal Database のグラフィカル・インターフェース。これを使用して、データベースを管理し、さまざまなタスク (オブジェクトの作成、パフォーマンスのモニター) を実行することができる。コントロール・センターは、データベース・オブジェクト (データベースや表など)、およびそれら相互のリレーションシップを示す。
- 7 **コントロール・ポイント (control point).** APPN では、ノードのリソースを管理するためのコンポーネントであり、オプションでネットワーク内の他のノードにサービスを提供する。その例に、タイプ 5 ノード内のシステム・サービズ制御点 (SSCP)、タイプ 4 ノード内の物理装置制御点 (PUCP)、タイプ 2.1 (T2.1) 内のネットワーク・ノード制御点 (NNCP)、および T2.1 エンド・ノード内のエンド・ノード制御点 (ENCP) がある。SSCP と NNCP は、他のノードにサービスを提供できる。74 ページの『物理装置 (physical unit)』および『コントロール・ポイント名 (control point name)』も参照。
- 1 **コントロール・ポイント名 (control point name).** コントロール・ポイントのネットワーク修飾名。コントロール・ポイント・ノードが帰属するネットワークを識別するネットワーク ID 修飾子で構成される。『コントロール・ポイント (control point)』も参照。
- コントロール・メタデータ (control metadata).** データウェアハウス・センターで、ウェアハウスの内容の変更に関する情報 (たとえば、ステップ処理によって表が更新された日時)。
- 7 **コントロール・メッセージ (control message).** Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムまたはユーザー・アプリケーションからのメッセージ。Q キャプチャー・プログラムに対して、Q サブスクリプションまたは XML 発行の活動化と非活動化、送信キューの無効化、またはターゲット表がロードされたことの確認を要求する。

**コンパウンド SQL ステートメント (compound SQL statement).** アプリケーション・サーバーに対する 1 回の呼び出しで実行される SQL ステートメント・ブロック。

7 **コンプリート CCD 表 (complete CCD table).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソース表またはビューのすべての行と、ソース表またはビューのすべての述部が初期状態で含まれる CCD 表。 69 ページの『非コンプリート CCD 表 (noncomplete CCD table)』および 43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』と対比。

**コンプリート (complete).** 該当する各主キー値につき 1 行ずつが表に入っていることを示す表属性。そのため、コンプリート・ソース表を使うと、ターゲット表を最新表示できる。

**コンプレッション・ディクショナリー (compression dictionary).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、圧縮および解凍の処理を制御する辞書。この辞書は、表スペースまたは表スペース・パーティションから作成される。

## [サ行]

7 **サーバー (server).** (1) ネットワークにおいて、他のステーションに機能を提供するハードウェアまたはソフトウェア。たとえば、ファイル・サーバー、プリンター・サーバー、メール・サーバーなど。(2) リモート・リクエストからの要求のターゲット。DB2 Universal Database システムにおいて、サーバーの機能は、リモート・アプリケーションから DB2 Universal Database データにアクセスするための分散データ機能によって提供される。3 ページの『アプリケーション・サーバー (application server)』も参照。(3) 96 ページの『論理サーバー (logical server)』を参照。27 ページの『アプライ・コントロール・サーバー (Apply control server)』、2 ページの『アプライ・サーバー (Apply server)』、18 ページの『キャプチャー・コントロール・サーバー (Capture control server)』、28 ページの『コントロール・サーバー (control server)』、85 ページの『モニター・コントロール・サーバー (Monitor control server)』、110 ページの『Q アプライ・サーバー (Q Apply server)』、111 ページの『Q キャプチャー・サーバー (Q Capture server)』、46 ページの『ソース・サーバー (source server)』、および 48 ページの『ターゲット・サーバー (target server)』も参照。

7 **サーバー定義 (server definition).** フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソースをフェデレーテッド・データベースに定義する名前および情報。ニックネームを使用する SQL ステートメントがフェデレーテッド・データベースにサブミットされる時、ラッパーによって使用される。

1 **サーバー・オプション (server option).** フェデレーテッド・システムにおいて、ラッパー自身を構成する、または DB2 Universal Database がラッパーを使用する方法に影響を与える、サーバー定義内の情報。サーバー・オプション値はグローバル・カタログに保管される。

7 **サーバー・サイド・プログラミング (server-side programming).** DB2 Universal Database データを動的 Web ページに追加する方法。

1 **サーバー・プロファイル (server profile).** システム上のサーバー・インスタンスと、各サーバー・インスタンス内のデータベースに関する情報が含まれるプロファイル。21 ページの『クライアント・プロファイル (client profile)』も参照。

1 **サービス定義 (service definition).** フェデレーテッド・データベース・システムでは、データ・ソースの説明。

**サービス名 (service name).** リモート・ノードで使用されるポート番号を指定するシンボリック・メソッドを提供する名前。TCP/IP 接続では、リモート・ノードのアドレスと、アプリケーションを識別するためにリモート・ノードで使用されるポート番号が必要である。

**サービス・クラス (class of service).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ネットワークを介する経路のリストを表す VTAM 用語。これらの経路を使用する際の優先順序で配置される。

## 用語集

**サービス・クラス (service class).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、MVS ワークロード管理プログラムがカスタマーのパフォーマンスのゴールを特定の DDF スレッドやストアド・プロシージャに関連付けるために使用する 8 文字の ID。並列補助機能の作業を分類するためにも使用される。

1 **再移行 (remigration).** 以前のリリースの DB2 Universal Database にフォールバックしたあと、現行リリースに戻る  
1 処理。この手順は、もう 1 つの移行プロセスを構成する。

1 **災害時リカバリー (disaster recovery).** 地震や火災などの災害によって部分的または全面的な障害が発生した後にデ  
ータベースを復元するプロセス。災害時リカバリーを利用するには、通常、データベースを別の場所にフル・バックア  
7 ヱップしておく必要がある。

**再帰サイクル (recursion cycle).** 共通表式的全選択に FROM 文節の共通表式名が組み込まれているときに起きるサイ  
クル。

**再帰的共通表式 (recursive common table expression).** 全選択から FROM 文節内の自分自身を参照する共通表  
式。再帰的共通表式は再帰的照会を書き込むときに使用される。

**再帰的照会 (recursive query).** 再帰的共通表式を使用する全選択。

1 **再キャプチャー (recapture).** update-anywhere レプリケーションで、レプリカ表で変更をキャプチャーし、これらの  
1 変更をマスター表か他のレプリカ表に転送することを指す。

1 **サイクル (cycle).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、各表がその前の表の下層となり、最初の表が  
1 最後の表の下層となるように順序付できる一連の表。たとえば、自己参照表は、単一メンバーの場合のサイクルであ  
1 る。

**再最適化 (reoptimization).** ランタイムに SQL ステートメントのアクセス・パスを再考慮する DB2 Universal  
Database for z/OS and OS/390 処理。再最適化の実行中、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 はホスト変  
数、パラメーター・マーカー、または特殊レジスターの値を使用する。

1 **再作業 (rework).** (1) レプリケーション・ターゲット表への挿入を、ターゲット表にすでに行が存在するために挿入  
1 が失敗した場合、更新へ変換すること。(2) レプリケーション・ターゲット表への更新を、ターゲット表に行が存在し  
1 ないために更新が失敗した場合、挿入へ変換すること。

**再実行 (redo).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、データ保全性を確保するために、変更内容を  
DASD メディアに再度適用すべきことを示すリカバリー単位の状態。

**再始動ペンディング (RESTP) (restart pending (RESTP)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ペ  
ージ・セットまたはパーティションに対する限定状態であり、そのオブジェクトに対して再始動 (バックアウト) 作業  
を実行する必要があることを示す。ページ・セットあるいはパーティションへのアクセスは、RECOVER POSTPONED  
コマンドによるアクセス、または (システム・パラメーターが LBACKOUT=AUTO の場合、再始動後に DB2  
Universal Database for z/OS and OS/390 によって起動される) 自動オンライン・バックアウトによるアクセスを除い  
て、すべて拒否される。

**最適化 SQL テキスト (optimized SQL text).** Explain 機能で作成された SQL テキストで、アクセス・プランを選  
択するときに実際にオプティマイザーが行う照会に基づいているもの。この照会は、ステートメント・コンパイル時  
に、SQL コンパイラーのさまざまなコンポーネントによって補足され、再記述される。テキストは初期表示から再  
構造されるため、元の SQL テキストとは異なる。最適化ステートメントは元のステートメントと同じ結果を生成す  
る。

1 **再バインド (rebind).** すでにバインドされたアプリケーション・プログラムのためにパッケージを作成すること。た  
とえば、プログラムによってアクセスされた表に索引が追加された場合、新しい索引を利用するためには、パッケージ  
を再バインドする必要がある。36 ページの『自動再バインド (automatic rebind)』および 66 ページの『バインド  
(bind)』も参照。

1 **サインオン (sign on).** 個々の CICS または IMS アプリケーション・プロセスのためにアタッチ機能によって出される要求。アプリケーション・プロセスに対して DB2 Universal Database リソースの使用が許可されていることを DB2  
7 Universal Database for z/OS and OS/390 が検査できるようにする。

7 **作業単位 (UOW) (unit of work (UOW)).** アプリケーション・プロセスにおけるリカバリー可能な一連の操作。アプリケーション・プロセスは、常に単一の作業単位であるが、コミットまたはロールバック操作のため、アプリケーション・プロセス全体には複数の作業単位が関与する。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 マルチサイト更新操作では、単一の作業単位に複数のリカバリー単位 (unit of recovery) を組み込むことができる。60 ページの『トランザクション (transaction)』の同義語。88 ページの『リカバリー単位 (unit of recovery)』および 82 ページの『マルチサイト更新 (multisite update)』も参照。

7 **作業単位表 (UOW 表) (unit-of-work table (UOW table)).** SQL レプリケーションにおいて、データベース・ログまたはジャーナルから読み取られるコミット・レコードを含む、キャプチャー・コントロール・サーバーに保管されたコントロール表。これらのレコードは、トランザクションまたは作業単位が正常にコミットされたことを示す。レコードに含まれるリカバリー単位 ID を使用して、作業単位表と CD 表を結合し、トランザクション間で整合性のある変更データを生成することができる。

7 **作業ファイル (work file).** SQL レプリケーションでは、サブスクリプション・セットの処理中にアプライ・プログラムが使用する一時ファイル。

7 **作業論理単位 ID (LUWID) (logical unit of work identifier (LUWID)).** z/OS または OS/390 環境において、ネットワーク内のスレッドを固有に識別する名前。この名前は、完全修飾された論理装置ネットワーク名、作業論理単位のインスタンス番号、および作業論理単位のシーケンス番号で構成される。

**作業論理単位 (LUW) (logical unit of work (LUW)).** プログラムが同期点間で行う処理。

1 **先読みプリフェッチ (readahead prefetch).** スキャンの先を見越すことによってページをプリフェッチする方式。この結果、ページがディスクに連続して配置されていなくても、ページの非同期探索が可能である。38 ページの『順次プリフェッチ (sequential prefetch)』および 88 ページの『リスト・プリフェッチ (list prefetch)』も参照。

1 **索引 (index).** キーの値に基づいて論理的に順序付けされている、一組のポインター。索引は、データに迅速にアクセスするのに使われ、表内の行を固有化することができる。索引を要求すると、データベース・マネージャーは構造をビルドし、これを自動的に保守する。パフォーマンスを改善し、固有性を保証するために、データベース・マネージャーで使用される 86 ページの『ユニーク索引 (unique index)』も参照。

**索引キー (index key).** 索引項目の順序を決定するために使用される、表内の列のセット。

**索引スペース (index space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、1 つの索引の項目を保管するときに使用するページ・セット。

7 **索引に制御されたパーティション (index-controlled partitioning).** パーティション化の 1 つのタイプで、CREATE INDEX ステートメントで指定された値によってパーティション表のパーティション境界が制御される。パーティション制限は カタログ表の LIMITKEY 列に保管される。

7 **索引の指定 (index specification).** フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソース・オブジェクト索引に関するメタデータの集合を指す。照会オプティマイザーはこれを使用して、分散要求処理を円滑にする。ニックネームがデータ・ソース・オブジェクトに作成されると、フェデレーテッド・サーバーはそのオブジェクトに関する索引情報を収集し、グローバル・カタログに情報を保管する。

1 **索引パーティション (index partition).** 特定のデータベース・パーティションにある表パーティションに関連した索引の部分。表に定義された索引は、表パーティションにつき 1 つずつ、複数の索引パーティションによって実施される。

**索引ファイル (index file).** ビデオ・エクステンダーがショット やビデオ・クリップの個々のフレームを検出するときに使用する索引情報が入っているファイル。

## 用語集

**削除規則 (delete rule).** 親行の削除を制限したり、従属行でのそのような削除による効果を指定したりするための参照制約に関連した規則。

7 **削除トリガー (delete trigger).** レコードが削除されると活動状態になるトリガー。 61 ページの『トリガー (trigger)』も参照。

1 **削除ホール (delete hole).** 行が削除されたため、基本表に対応する行が存在しなくなったカーソルの SELECT ステートメントに対する行。カーソルがオープンしている間に基本表の行が削除されると作成される。カーソルの SELECT ステートメント結果には削除されている行が含まれる。このような行はカーソルからアクセスできない。 80 ページの『ホール (hole)』および 25 ページの『更新ホール (update hole)』も参照。

1 **削除履歴 (delete history).** インフォメーション・カタログ・センターでは、削除アクティビティーのログ、インフォメーション・カタログ・センターによってオン/オフにされるキャプチャーを指す。ログはタグ言語ファイルに転送される。

1 **作成済みの一時的表 (created temporary table).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、一時データを保留し、SQL ステートメント CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE で定義される表。作成済み一時的表に関する情報は、DB2 カタログに保管されるため、この種類の表は永続的で、複数のアプリケーション・プロセス間で共有できる。 4 ページの『一時的表 (temporary table)』を参照。 45 ページの『宣言済み一時的表 (declared temporary table)』も参照。

**差し戻しトランザクション (transaction compensation).** リジェクトされたコミット済みトランザクションによって処理された行をリストアする処理。コミット・トランザクションがリジェクトされると、トランザクションがコミットされる前の状態に行がリストアされる。

7 **サテライト (satellite).** 類似した DB2 Universal Database サーバーからなるグループのメンバーである DB2 Universal Database サーバー。グループ内のそれぞれのサテライトは同じアプリケーションを実行し、アプリケーションをサポートするための類似した構成を持つ。

**サテライト管理センター (Satellite Administration Center).** サテライトのために集中管理サポートを提供するユーザー・インターフェース。

7 **サテライト・コントロール・サーバー (satellite control server).** サテライト・コントロール・データベース SATCTLDB を含む DB2 Universal Database システム。

1 **作動不能トリガー (inoperative trigger).** ドロップまたは作動不能にされたオブジェクトや、失効した特権に依存するトリガー。 61 ページの『トリガー (trigger)』も参照。

7 **作動不能パッケージ (inoperative package).** パッケージが依存する 1 つまたは複数のユーザー定義関数またはプロシージャがドロップされたために、使用できなくなったパッケージのこと。このようなパッケージは明示的に再バインドする必要がある。 83 ページの『無効パッケージ (invalid package)』も参照。

7 **作動不能ビュー (inoperative view).** 以下のいずれかの理由で使用できなくなったビュー。基礎表に対する特権が取り消された。表、別名、または関数がドロップされた。スーパービューが作動不能になった。あるいは、このビューが依存している別のビューがドロップされたか、作動不能になった。

7 **座標 (coordinate).** N ディメンションの空間内の位置を示す N 個の数値からなる順序セットの各メンバー。たとえば、地球の 2 ディメンション地図では、2 つの座標によって位置を示す。最初の座標は位置の経度値、2 番目の座標は位置の緯度値をそれぞれ示す。

1 **サブエージェント (subagent).** サブリクエストを処理するエージェントのタイプ。1 つのアプリケーションが多く1の要求を出す場合、各要求はいくつかのサブリクエストに分割できる。したがって、同じアプリケーションの代わりに複数のサブエージェントが使用されることがある。1 つのアプリケーションで使用されるサブエージェントはすべて、そのアプリケーションの開始エージェントで開始される。 24 ページの『コーディネーター・エージェント (coordinating agent)』も参照。



## 用語集

- 1 差分リフレッシュ (**differential refresh**). 79 ページの『変更キャプチャー・レプリケーション (change-capture replication)』を参照。
- 1 サポート・リレーションシップ・カテゴリー (**support relationship category**). インフォメーション・カタログ・センターでは、別のオブジェクトにサポートしているオブジェクトを接続するリレーションシップ・タイプのカテゴリーを指す。たとえば、News オブジェクトを Spreadsheet オブジェクトに接続することができる。
- 1 サポート・リレーションシップ・タイプ (**support relationship type**). インフォメーション・カタログ・センターでは、使用中のインフォメーション・カタログまたはエンタープライズに関する追加情報を提供するリレーションシップ・タイプのカテゴリーを指す。たとえば、サンプル・インフォメーション・カタログの“インフォメーション・カタログ・センターの News” オブジェクト・タイプ。90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。
- 1 サマリー表 (**summary table**). マテリアライズ照会表の特殊タイプ。このタイプの全選択には、全選択で参照される表からデータをマテリアライズする GROUP BY 文節が含まれる。82 ページの『マテリアライズ照会表 (materialized query table)』も参照。
- 7 サロゲート・ペア (**surrogate pair**). 2 つのユニコード値のシーケンスから構成される単一文字のコード化表現。このペアの最初の値は、U+D800 から U+DBFF の範囲の high-surrogate で、2 番目の値は U+DC00 から U+DFFF の範囲の low-surrogate である。サロゲート・ペアは、32 ビット文字を使用しなくても、917 476 文字のエンコードに対する拡張機構を提供する。
- 7 参加者 (**participant**). z/OS または OS/390 環境において、コミット処理に参加するエンティティ (コミットを開始したプログラムを除く)。SNA における「エージェント (agent)」の同義語。
- 1 散在データ読み取り (**scattered read**). ディスクから非連続メモリ部分へ連続するデータ・ページを読み取るメソッド。76 ページの『ブロック・ベース入出力 (block based I/O)』も参照。
- 参照構造 (**referential structure**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、少なくとも 1 つの表を含む表および関係の集合。その集合の各表について、表が参加するすべての関係および関連するすべての表。
- 1 参照サイクル (**referential cycle**). それぞれの表自体が子孫である参照制約の集合。
- 7 参照制約 (**referential constraint**). 外部キーの非 NULL 値が有効なのは親キーの値として表示されるときだけである、という参照保全規則。44 ページの『制約 (constraint)』、50 ページの『チェック制約 (check constraint)』、40 ページの『情報制約 (informational constraint)』、および 86 ページの『ユニーク制約 (unique constraint)』も参照。
- 7 参照保全 (**referential integrity**). 外部キーの値がすべて有効であるデータベースの状態。参照保全を保守するには、参照制約が定義されている表のデータを変更するすべての操作に対して、参照制約を実施する必要がある。
- 7 シーケンス (**sequence**). 初期のユーザー指定に基づいてユニーク・キー値を自動的に生成する、どの表にも依存しないデータベース・オブジェクト。
- 7 ジオコーダー (**geocoder**). DB2 Spatial Extender において、既存のデータを地理情報用語で理解できるデータに変換するスカラー関数。たとえば、Spatial Extender で提供されるジオコーダーは、アメリカ合衆国内の住所を空間データ・タイプのインスタンスに変換する。また、ウェアハウスのシェルフ ID を、そのウェアハウスのシェルフのロケーションを識別するデータに変換するようなジオコーダーもある。
- 式 (**expression**). 1 つの値を生み出す 1 つの SQL オペランド、または演算子とオペランドの集合。
- しきい値トリガー (**threshold trigger**). パフォーマンス変数の値がユーザー定義のしきい値を超えるか、それ未満になった場合に発生するイベント。しきい値トリガーの結果として起こり得るアクションには、以下のものがある。
- アラート・ログ・ファイルの情報のログ。
  - アラート・ログ・ウィンドウの情報の表示。
  - オーディオ・アラームの生成。



- メッセージ・ウィンドウの発行。
- 事前定義されたコマンドまたはプログラムの呼び出し。

7 **シグナル (signal)**. レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラムと Q キャプチャー・プログラムの間の通  
7 信を可能にする SQL ステートメント。シグナルはシグナル・コントロール表に挿入され、キャプチャー・プログラム  
7 または Q キャプチャー・プログラムがシグナル挿入用のログ項目を読み取るときにプログラムに渡される。

**時刻 (time)**. 時刻を時、分、秒で示す 3 つの部分から成る値。

**時刻期間 (time duration)**. 時間、分、秒を表す DECIMAL(6,0) の値。

**自己参照行 (self-referencing row)**. 自分の親である行。

1 **自己参照制約 (self-referencing constraint)**. 表がそれ自体従属である関連を定義する参照制約。

**自己参照表 (self-referencing table)**. 同じ参照制約にある親および従属表。

**自己参照副照会 (self-referencing subquery)**. SQL ステートメントのオブジェクトである表を参照する DELETE、INSERT、または UPDATE ステートメントの副選択または全選択。

1 **指示結合 (directed join)**. 結合した表の 1 つあるいは両方にあるすべての行が、結合述部に基づいてハッシュし直さ  
1 れ新しいデータベース・パーティションに宛先指定される関係操作。1 つの表内のすべてのパーティション・キー列  
1 が等価結合述部に関係する場合、もう片方の表が作り直される。そうでない場合 (少なくとも 1 つの等価結合述部があ  
1 る場合)、両方の表が作り直される。23 ページの『結合 (join)』を参照。

**システム会話 (system conversation)**. 分散処理が始まる前にシステム・メッセージを処理するために、2 つの DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が確立しておかなければならない会話。

**システム間拡張サービス (XES) (cross-system extended services (XES))**. 並列シブプレックス内の異なるシステムで稼働しているアプリケーションやサブシステムの複数インスタンスが、カップリング・ファシリティを使用して高度のパフォーマンスと高い使用可能性が備わったデータ共有を実行できるようにする、一組の OS/390 サービス。

**システム間カップリング・ファシリティ (XCF) (cross-system coupling facility (XCF))**. シブプレックス内で実行されている許可プログラム間で協調し合えるようにする機能を提供する OS/390 のコンポーネント。

1 **システム管理機能 (SMF) (system management facility (SMF))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で  
1 は、さまざまなシステムやジョブ関連情報を収集して記録する標準機構を指す。たとえば、統計、アカウントング情  
1 報、パフォーマンス・データなど。

7 **システム管理者 (system administrator)**. (1) コンピューターの設置において、コンピューター・システムの設計、  
7 制御、および使用管理を行う担当者。(2) SYSADM 権限を持つ DB2 Universal Database ユーザー。

**システム管理スペース (SMS) 表スペース (system-managed space (SMS) table space)**. オペレーティング・システムで管理される表スペース。このストレージ・モデルは、サブディレクトリーで作成されたファイルに基づいており、ファイル・システムで管理される。53 ページの『データベース管理スペース表スペース (database-managed space table space)』も参照。

1 **システム権限 (system authority)**. SYSCTRL および SYSMAINT 権限レベル。システムを管理するすべての特権を持つが、データにアクセスすることはできない。

2 **システム時間 (system time)**. UNIX において、システム呼び出しに費やされた時間を表す。85 ページの『ユーザー一時間 (user time)』も参照。

1 **システム指定接続 (system-directed connection)**. ロケーション透過性のレベルを提供する 3 パート名 (またはニックネーム) で、SQL ステートメントを処理することによって RDBMS が管理する接続。2 ページの『アプリケーション指定接続 (application-directed connections)』も参照。

## 用語集

7 システム診断作業域 (SDWA) (system diagnostic work area (SDWA)). z/OS または OS/390 環境において、プログラムまたはハードウェア・エラーを記述する SYS1.LOGREC 項目に記録されるデータ。

1 システム・エージェント (system agent). プリフェッチ処理、据え置き書き出し、およびサービス・タスクなどの、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が内部的に作成する作業要求。7 ページの『エージェント (agent)』も参照。

システム・カタログ (system catalog). 13 ページの『カタログ (catalog)』を参照。

1 システム・サービス制御点 (SSCP) (system services control point (SSCP)). 従属ノードにネットワーク・サービスを提供する SNA ネットワークの制御点。

1 システム・データベース・ディレクトリー (system database directory). データベース・マネージャーを使用してアクセスできるデータベースの項目を含むディレクトリー。最初のデータベースがシステムで作成またはカタログに入れられたときに作成される。94 ページの『ローカル・データベース・ディレクトリー (local database directory)』も参照。

1 システム・ネットワーク体系 (SNA) (Systems Network Architecture (SNA)). 論理構造、書式、プロトコルや、ネットワーク上に情報単位を送信する操作手順およびネットワークの構成や操作を制御する操作手順の記述をしている。

1 システム・モニター (system monitor). 54 ページの『データベース・システム・モニター (database system monitor)』を参照。

シスプレックス (Sysplex). 78 ページの『並行シスプレックス (Parallel Sysplex)』を参照。

シスプレックス照会並列処理 (Sysplex query parallelism). 複数の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムで複数のタスクを使用して単一の照会を並列実行すること。39 ページの『照会 CP 並列処理 (query CP parallelism)』も参照。

実行可能ステートメント (executable statement). アプリケーション・プログラムに組み込んだり、動的に準備して実行したり、対話式で発行したりできる SQL ステートメント。

2 実行時間 (execution time). 照会の実行の経過時間。照会の実行が開始した時刻と、終了した時刻との差。85 ページの『ユーザー時間 (user time)』および 35 ページの『システム時間 (system time)』も参照。

1 自動構成パラメーター (automatic configuration parameters). 構成パラメーターの集合で、これらのパラメーターの値は、現在のリソース使用率を反映するようデータベース・マネージャーによって自動的に変更される。

1 自動再バインド (automatic rebind). アプリケーション・プロセスが実行を開始したとき、必要なバインド済みアプリケーション・プランまたはパッケージが有効でなければ、(ユーザーが BIND コマンドを出さなくても) SQL ステートメントを自動的にバインドする処理。66 ページの『バインド (bind)』および 30 ページの『再バインド (rebind)』も参照。

1 自動サマリー表 (AST) (automatic summary table (AST)). サマリー表で、基礎表に対する変更が即時に、REFRESH TABLE ステートメントを必要とせずにサマリー表にカスケードされるようサマリー表を定義すること。34 ページの『サマリー表 (summary table)』および 82 ページの『マテリアライズ照会表 (materialized query table)』も参照。

7 自動保守 (automatic maintenance). ユーザー定義の目標を使って DB2 Universal Database が実行する処理。実行可能な次の保守時間枠の間に、必要な保守アクティビティーを識別して実行する。81 ページの『保守時間枠 (maintenance window)』も参照。

7 自動ロード (automatic load). Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムがターゲット表にデータをロードする処理。ユーザーはロード・ユーティリティーを指定できる。あるいは、使用できる最適なユーティリティーを Q アプライ・プログラムに選択させることができる。38 ページの『手動ロード (manual load)』も参照。

**シフトアウト文字 (shift-out character).** EBCDIC システムで使用される特殊制御文字 (X'0E)。これ以降のバイトから次のシフトイン文字までが DBCS 文字であることを表す。『シフトイン文字 (shift-in character)』も参照。

**シフトイン文字 (shift-in character).** EBCDIC システムで使用される特殊制御文字 (X'0F)。これ以降のバイトが SBCS 文字であることを表す。『シフトアウト文字 (shift-out character)』も参照。

**ジャーナル (journal).** (1) iSeries システムでは、記録 (ジャーナル) されるオブジェクトを識別するシステム・オブジェクト、現行のジャーナル・レシーバー、およびジャーナル用システム上のすべてのジャーナル・レシーバーを指す。オブジェクト・タイプに対するシステムが認識する ID は \*JRN である。『ジャーナル・レシーバー (journal receiver)』も参照。 (2) タスク履歴、データベース履歴、PM アラート、メッセージ、および通知ログに関する使用可能なすべての履歴情報を表示できる宛先ページ。

**ジャーナル項目タイプ (journal entry type).** iSeries システムにおいて、ジャーナル項目に含まれる 2 文字からなるフィールド。システムが生成するジャーナル項目の操作タイプ、またはユーザーが生成するジャーナル項目のタイプを識別する。たとえば、PT は項目タイプが書き込み操作であることを示す。『ジャーナル・コード (journal code)』も参照。

**ジャーナル・コード (journal code).** iSeries システムにおいて、ジャーナル項目のカテゴリーを識別する 1 文字からなるコード。たとえば、F はファイルに対する操作、R はレコードに対する操作をそれぞれ識別する。『ジャーナル項目タイプ (journal entry type)』も参照。

**ジャーナル・レシーバー (journal receiver).** iSeries システムでは、データベース・ファイルへの変更、他のジャーナル・オブジェクト、あるいはセキュリティ関連イベントへの変更などのイベントが発生した時に追加されるジャーナル項目が含まれるシステム・オブジェクト。オブジェクト・タイプは \*JRNRCV である。『ジャーナル (journal)』も参照。

**射影座標システム (projected coordinate system).** DB2 Spatial Extender において、プレーナーの表面の位置を定義する参照システム。

**シャドウ (shadowing).** 現行ページが上書きされないようにするリカバリー方法。値が置換されているページがシャドウ・コピーとして保持されている間に、新しいページが割り当てられ、書き込まれる。シャドウ・コピーは、トランザクション・ロールバックによるシステム状態のリストアをサポートする必要がなくなるまで保持される。

**シャドウ索引 (shadow index).** 索引再編成中に作成された新規索引構造。データベース・マネージャーが索引を完全に再ビルドするまで、アクセスするユーザーには見えない。

**収縮変換 (contracting conversion).** 変換されたストリングがソース・ストリングより短い場合に発生する処理。12 ページの『拡張変換 (expanding conversion)』も参照。

**従属 (dependent).** SQL では、最低 1 つの親を持つオブジェクト (行、表、または表スペース)。9 ページの『親行 (parent row)』、9 ページの『親表 (parent table)』、および 9 ページの『親表スペース (parent table space)』も参照。

**従属エージェント (subordinate agent).** 32 ページの『サブエージェント (subagent)』を参照。

**従属外部キー表 (dependent foreign key table).** 特定の表の従属外部キーは、この表を参照する外部キー制約を少なくとも 1 つ含む表である。

**従属行 (dependent row).** 親行内の親キーの値に一致する外部キーの入った行。外部キーの値は、従属行から親行への参照を表す。9 ページの『親行 (parent row)』も参照。

**従属表 (dependent table).** 少なくとも 1 つの参照制約に従属する表。

**従属表スペース (dependent table space).** 親表の従属を含む表スペース。9 ページの『親表スペース (parent table space)』も参照。

## 用語集

1 従属マテリアライズ照会表 (**dependent materialized query table**). マテリアライズ照会表定義で特定の表を直接ま  
1 たは (たとえばビューから) 間接に参照するマテリアライズ照会表。

従属論理装置 (**DLU (dependent logical unit (DLU))**). LU-LU (論理装置間) セッションをインスタンス化するためにシステム・サービス制御点 (SSCP) の補助を必要とする論理装置。 60 ページの『独立論理装置 (independent logical unit)』を参照。

7 集約関数 (**aggregate function**). 92 ページの『列関数 (column function)』を参照。

7 集約表 (**aggregate table**). SQL レプリケーションにおいて、ソース表からのデータの集約が含まれる読み取り専用  
7 のレプリケーション・ターゲット表。このデータは MIN、MAX、SUM、AVG といった SQL 列関数を基にしてい  
7 る。

1 主キー (**primary key**). (1) 表の定義の一部であるユニーク・キー。主キーは、参照制約定義の親キーのデフォルト。  
1 表の行を固有に識別する列または複数の列の組み合わせ。(2) フェデレーテッド・システムにおいて、ニックネーム定  
7 義の一部であるユニーク・キー。オプティマイザーは照会のパフォーマンスを改善するためにこれを使用する。挿入や  
7 更新などの操作が実行されるとき、このキーは妥当性検査されない。

7 受信キュー (**receive queue**). Q レプリケーションにおいて、Q キャプチャー・プログラムによってキャプチャーさ  
7 れたトランザクションを受信するために Q アプライ・プログラムによって使用される WebSphere MQ メッセージ・  
7 キュー。

述部 (**predicate**). 比較演算を明示または暗黙指定する検索条件のエレメント。

出力ファイル (**output file**). レコードの書き込みを認めるオプション付きでオープンできるデータベースまたは装置  
ファイル。

1 出力リレーションシップ・タイプ (**output relationship type**). インフォメーション・カタログ・センターで、出力デ  
1 ータ・リソースにトランスフォームするオブジェクトを接続するために使用される。 61 ページの『トランスフォーメ  
1 ーション・リレーションシップ・カテゴリー (transformation relationship category)』を参照。 90 ページの『リレーシ  
1 ョンシップ・タイプ (relationship type)』も参照。

7 手動ロード (**manual load**). Q レプリケーションにおけるロード処理の 1 つ。ユーザーがターゲット表にデータをロ  
7 ードして、表のロードが完了したらレプリケーション・プログラムにそれを通知する。 36 ページの『自動ロード  
7 (automatic load)』も参照。

1 循環参照制約 (**cyclical referential constraint**). 別の表に従属するか、下層に属する表。

7 循環ログ (**circular log**). アクティブ・データベースで記録が不要となった場合、上書きされるデータベース・ログ。  
7 55 ページの『データベース・ログ (database log)』および 1 ページの『アーカイブ・ログ (archive log)』も参照。

1 順次カーソル (**serial cursor**). 39 ページの『順方向カーソル (nonscrollable cursor)』を参照。

順次データ・セット (**sequential data set**). 磁気テープ上のような、連続した物理位置に基づいてレコードの編成が  
行われる、非 DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データ・セット。DB2 Universal Database for z/OS and  
OS/390 データベース・ユーティリティには、順次データ・セットを必要とするものがいくつかある。

1 順次プリフェッチ (**sequential prefetch**). 連続する非同期入出力操作を起動するメカニズム。ページは必要とされ  
1 る前に取り出され、いくつかのページが単一の入出力操作で読み取られる。

準備 (**prepare**). (1) SQL ステートメントを SQL コンパイラーに送信し、テキスト形式から実行可能な形式に変換す  
1 ること。(2) すべての参加者がコミットの準備を要求される、2 フェーズ・コミット・プロセスの第 1 フェーズ。

準備済み SQL ステートメント (**prepared SQL statement**). SQL では、PREPARE ステートメントによって処理さ  
れる SQL ステートメントの実行可能形式である名前付きのオブジェクト。

1 順方向カーソル (**nonscrollable cursor**). 順方向にのみ移動可能なカーソル。順方向カーソルは、前方スクロール・  
1 カーソルまたはシリアル・カーソルとも呼ばれる。89 ページの『両方向スクロール・カーソル (scrollable cursor)』も  
1 参照。

7 順方向リカバリー (**forward recovery**). 94 ページの『ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery)』を参  
7 照。

順方向ログ・リカバリー (**forward log recovery**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 がログを順方向に  
処理し、すべての REDO ログ・レコードを適用する、再始動処理の第 3 フェーズ。

1 照会 CP 並列処理 (**query CP parallelism**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、複数のタスクを使  
1 用して単一の照会を並列して実行すること。36 ページの『シスプレックス照会並列処理 (Sysplex query parallelism)』  
1 も参照。

照会 (**query**). (1) 特定の条件に基づいてデータベースから情報を要求すること。(たとえば、カスタマー表から残高  
が ¥100,000 以上のすべてのカスタマーのリストを要求すること。) (2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390  
では、結果表を指定する、特定の SQL ステートメントのコンポーネント。

1 照会オプティマイザー (**query optimizer**). 代替アクセス・プランの実行コストをモデル化し、見積コストが最低のア  
1 クセス・プランを選択することによって、データ操作言語ステートメント (DML) のアクセス・プランを選択する、  
1 SQL コンパイラーのコンポーネント。

1 照会間並列処理 (**inter-query parallelism**). 複数のアプリケーションからの照会を受け入れることができるデータベ  
7 ース機能。それぞれの照会は他の照会と独立して実行されるが、DB2 はすべての照会を同時に実行する。『照会内  
並列処理 (intra-query parallelism)』も参照。

2 照会クラス (**query class**). Query Patroller において、サイズに応じて複数の照会をグループ化して実行するための手  
2 段。照会クラスを使用すれば、データベースに対する照会の流れを制御できる。これにより、さまざまなサイズのグル  
2 ープ化された照会 (照会クラス) の間でリソースを共有することができる。

1 照会最適化クラス (**query optimization class**). 照会のコンパイルに応じた照会再書き込み規則および最適化手法の  
集合。

2 照会サブミット設定 (**query submission preferences**). Query Patroller におけるサブミッターの特性の集合。サブ  
2 ミッターはこれを表示および更新することができる。33 ページの『サブミッター (submitter)』も参照。

7 照会状況 (**query status**). Query Patroller における管理対象照会の処理状態。初期 (代行受信)、実行中、完了、保  
7 留、待機、取り消し、アポート、リジェクト、または不明のいずれか。15 ページの『管理対象照会 (managed  
7 query)』も参照。

1 照会内並列処理 (**intra-query parallelism**). 65 ページの『パーティション内並列処理 (intra-partition parallelism)』ま  
たは 65 ページの『パーティション間並列処理 (inter-partition parallelism)』のどちらか、あるいはその両方を使用して、  
同時に単一致会の複数部分を処理すること。

照会入出力並列処理 (**query I/O parallelism**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、単一の照会で複  
数の入出力要求を生成して行われるデータへの並列アクセス。

7 照会の自動再作成 (**automatic query rewrite**). 1 つまたは複数の基本表を参照する SQL を検査する処理。必要に  
7 応じて、パフォーマンス改善のために照会を再作成する。また、このプロセスは、ソース表から派生する 1 つまたは複  
7 数のマテリアライズ照会表を参照するよう照会を再作成すべきかどうかを判別できる。

照会ブロック (**query block**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、FROM 文節の 1 つによって表さ  
れる照会の一部。照会の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 内部プロセスによって、FROM 文節ごとに複  
数の照会ブロックがありうる。

## 用語集

**障害メンバー状態 (failed member state).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データ共有グループのメンバーの状態。メンバーに障害が起これば、XCF が障害メンバー状態を永続的に記録する。この状態はメンバーのタスク、アドレス・スペースまたは MVS システムがアクティブから静止状態になる前に終了することを意味している。

- 7 **使用可能にする (enable).** (1) データベース、テキスト・テーブル、またはテキスト列を DB2 Net Search Extender または DB2 XML Extender で使用できるように準備すること。 (2) オンにするまたはアクティブにすること。

**状況 (status).** データウェアハウス・センターで、進行中のステップ処理の状態。たとえば、スケジュール済み、移植中、成功。

- 1 **条件 (condition).** XML データの選択基準か、または XML コレクション表を結合する方法の指定。

**条件付き再始動 (conditional restart).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ユーザー定義の条件付き再始動制御レコード (CRCR) により指示される再始動を指す。

- 7 **条件付き再始動制御レコード (CRCR) (conditional restart control record (CRCR)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、DB2 Universal Database の条件付き再始動に関連したブートストラップ・データ・セット (BSDS) のレコードのキューを指す。キューの各エレメントは、レコードが作成 (変更ログ・インベントリー・ユーティリティ DSNJU003 から行われた) された時に行った選択と、エレメントが制御する再始動操作の進行を示す。
- 7 『条件付き再始動 (conditional restart)』も参照。

**照合シーケンス (collating sequence).** 索引付きデータを順序どおりにソート、連結、比較、および処理できるように文字を並べる順序。

- 7 **使用不能にする (disable).** 使用可能プロセス中に作成された項目を除去することにより、データベース、テキスト・テーブル、またはテキスト列を DB2 Net Search Extender で使用可能になる前の状態に復元すること。

- 7 **情報管理システム (IMS) (Information Management System (IMS)).** さまざまなデータベースや端末ネットワークを管理できる、データベース・マネージャーおよびトランザクション・マネージャーを使用可能なシステム環境。

- 1 **情報源 (information source).** 表や図表のように、インフォメーション・カタログ・センターのオブジェクトとして表示されるデータまたは情報のアイテム。

- 7 **情報交換用米国標準コード (ASCII) (American Standard Code for Information Interchange (ASCII)).** さまざまな環境 (通常はパーソナル・コンピューターや UNIX システム) で、文字ストリングを表示するために使用されるコード化スキーム。104 ページの『EBCDIC』および 86 ページの『ユニコード (Unicode)』も参照。

- 7 **情報制約 (informational constraint).** SQL コンパイラーによって使用される規則で、それ以上のデータ検査を必要とせず、照会のパフォーマンスを改善する。50 ページの『チェック制約 (check constraint)』、34 ページの『参照制約 (referential constraint)』、および 86 ページの『ユニーク制約 (unique constraint)』も参照。

**初期化全選択 (initialization fullselect).** ソース表から初期値の直接子を入力する再帰的共通表式内の最初の全選択。

**ジョブ制御言語 (JCL) (job control language (JCL)).** ジョブをオペレーティング・システムに識別させ、ジョブの要件を示すために使われるコマンド言語。

**ジョブ入力サブシステム (JES) (Job Entry Subsystem (JES)).** ジョブをシステム内に取り入れて、ジョブの生成するすべての出力データを処理する IBM ライセンス・プログラム。

**ジョブ・スケジューラー (job scheduler).** データベース・ジョブを実行および管理する特定のタスクを自動化するのに使われるプログラム。

- 1 **所有権特権 (ownership privilege).** 所有されたデータ・オブジェクトに対するすべての特権を許可する CONTROL 特権。60 ページの『特権 (privilege)』も参照。

7 処理プログラム表 (PPT) (processing program table (PPT)). CICS のもとで実行可能なアプリケーション・プログラムと BMS マップを定義する表。

**処理待ち (to-do).** リカバリー単位の 1 つの状態。リカバリー可能 DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 リソースに行ったリカバリー単位の変更が未確定であり、コミット・コーディネーターの判断に従って、その変更を DASD メディアに適用するかバックアウトする必要があることを示している状態。

1 **シリアライズ (serialization).** (1) 項目の連続配列。 (2) リソースの保全性を保護するリソースへのアクセスを制御する処理。 (3) Q レプリケーションにおいて、ソースでコミットされたのと同じ順序で複数のトランザクションをアプリケーションする処理。

**シンボリック宛先名 (symbolic destination name).** リモート・パートナーの名前。 CPI-C サイド情報表の項目に対応する名前。サーバーへの APPC 接続をセットアップするためにクライアントが必要とする情報 (パートナー LU 名、モード名、パートナー TP 名など) を含む。

1 **スーパーユーザー (superuser).** 通常のユーザーのシステム・コントロール権限より多くの権限を持つユーザー。  
1 UNIX 環境では標準のスーパーユーザーは root である。

1 **据え置き書き出し (deferred write).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、変更されたデータ・ページをディスクに非同期に書き込む処理。

**据え置き組み込み SQL (deferred embedded SQL).** 完全に静的でも、完全に動的でもない SQL ステートメント。静的ステートメントのようにアプリケーション内に組み込まれるが、動的ステートメントのようにアプリケーションの実行中に作成されるステートメント。

7 **スカラー関数 (scalar function).** オプションの引き数を受け入れ、呼び出されるたびに単一のスカラー値を戻す関数。 SQL ステートメント内の有効な式からスカラー関数を参照することができる。 14 ページの『関数 (function)』、 38 ページの『集約関数 (aggregate function)』、 18 ページの『行関数 (row function)』、および 70 ページの『表関数 (table function)』も参照。

**スカラー全選択 (scalar fullselect).** 単一値 (1 行 1 列のみで構成されているデータ) を戻す全選択。

7 **スカラー・メソッド (scalar method).** オプションの引き数を受け入れ、呼び出されるたびに単一のスカラー値を戻すメソッド。 84 ページの『メソッド (method)』も参照。

1 **スキーマ (schema).** (1) 表、ビュー、索引またはトリガーなどデータベースを定義するデータベース・オブジェクトのコレクション。 データベース・オブジェクトの論理種別を提供する。 (2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ユーザー定義関数、特殊タイプ、トリガー、およびストアド・プロシージャを論理的にグループ化したもの。 これらのタイプのいずれかのオブジェクトが 1 つ作成されると、そのオブジェクトは、そのオブジェクト名に基づいた 1 つのスキーマに割り当てられる。 (3) データウェアハウス・センターで、ウェアハウス・ターゲット表、およびウェアハウス・ターゲット表間の関連から成る集合。これを構成するターゲット表は、1 つまたは複数のウェアハウス・ターゲットに由来する。

7 **スクロール可能結果セット (scrollable result set).** アプリケーションが行をフェッチしてフェッチ済み行を再フェッチすることを可能にする、両方向スクロール・カーソルに関連した結果セット。 23 ページの『結果セット (result set)』も参照。

7 **スクロール可能性 (scrollability).** z/OS または OS/390 環境において、順方向または逆方向でのフェッチにカーソルを使用する機能。 FETCH ステートメントは、カーソルの新しい位置を示す複数のフェッチ方向をサポートする。 72 ページの『フェッチ・オリエンテーション (fetch orientation)』も参照。

**スケール (scale).** 小数部の桁数。

**スタースキーマ (star schema).** リレーショナル・データベース・スキーマの 1 つのタイプで、1 つの中心的なファクト表と、その周囲にある複数のディメンション表というセットから構成される。スタースキーマは DB2 OLAP Server によって使用され、ほとんどの場合、データウェアハウス・センター内で作成される。

## 用語集

**スタック (stack).** 一時レジスター情報、パラメーターおよびサブルーチンの戻りアドレスを保管するメモリー内の領域。

**スタンドアロン (standalone).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サービスを使用せずに、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 から独立して実行できるプログラムの属性。

7 **スタンバイ・データベース (standby database).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、1 次データベース  
7 のコピー。1 次データベースで生成され、スタンバイ・データベースに送られたログ・データをロールフォワードす  
7 ることで、このデータベースが更新される。

**ステー징表 (staging table).** SQL レプリケーションにおいて、データがターゲット・データベースへ複製される前に、データを保管するために使用される CCD 表。ステーjing・データ用の CCD 表は、1 つまたは複数のターゲット表へデータを更新するための中間ソースとして機能する。43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』も参照。

**ステートメント (statement).** プログラムまたはプロシージャーでの命令。

**ステートメント・ストリング (statement string).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 環境の動的 SQL ステートメントでは、ステートメントの文字ストリング書式。

7 **ステートメント・セーブポイント (statement savepoint).** SQL ステートメントの完了時に、すべての更新内容がデ  
7 ータベースにアプライされるか、またはどの更新内容もアプライされないようにする内部セーブポイント・メカニズ  
7 ム。27 ページの『コミット (commit)』と比較。

7 **ステートメント・トリガー (statement trigger).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、FOR  
7 EACH STATEMENT 文節を使って細分性を定義できるトリガー。61 ページの『トリガー (trigger)』も参照。

7 **ステートメント・ハンドル (statement handle).** CLI では、SQL ステートメントに関する情報を含むデータ・オブ  
1 ジェクトを参照するハンドル。動的引き数、動的引き数および列のバインド、カーソル情報、結果値および状況情報  
1 などを含む。各ステートメント・ハンドルは、接続ハンドル (connection handle) と関連している。

1 **ステップ (step).** データウェアハウス・センターで、ウェアハウス・プロセスでのデータに対する個々の操作。ほと  
1 んどの場合、ステップは、ウェアハウス・ソース、データのトランスフォーメーションまたは移動に関する記述、およ  
1 びターゲットで構成される。ステップは、スケジュールに従って実行することができる。または、別のステップから  
1 カスケード (カスケード (cascade)参照) することもできる。

**ステップ・エディション (step edition).** データウェアハウス・センターで、ウェアハウス・ソース内の、特定時刻におけるデータのスナップショット。

**ストーリーボード (storyboard).** ビデオの可視的なサマリー。ビデオ・エクステンダーには、ビデオの代表ショットであるビデオ・フレームを識別し、保管する機能がある。これらの代表フレームを使用して、ストーリーボードを作成することができる。

1 **ストアード・プロシージャー (stored procedure).** (1) SQL CALL ステートメントで始まる SQL ステートメントが  
1 含まれることがあるアプリケーション・プログラム。(2) ユーザー作成のアプリケーション・プログラムで、SQL  
1 CALL ステートメントを使用することにより呼び出される。

**ストアード・プロシージャー・ビルダー (Stored Procedure Builder).** DB2 Universal Database バージョン 8 で名前が変更され、機能拡張された。58 ページの『デベロップメント・センター (Development Center)』を参照。

1 **ストリング (string).** (1) プログラミング言語では、テキストの保管および操作に使用されるデータの形式。(2) 文字  
1 を表すことができるバイトのシーケンス。



1 **ストレージ管理サブシステム (SMS) (Storage Management Subsystem (SMS)).** OS/390 では、コントロールの中  
1 央化、タスクの自動化、およびシステム管理者用の対話式コントロールの提供によって、物理ストレージの管理をでき  
1 るだけ自動化するソフトウェアを指す。SMS は、パフォーマンス、スペース、および装置管理の詳細に関して、ユー  
1 ザーの負担を軽減することができる。

1 **ストレージ・グループ (storage group).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データを保管できるディスク  
1 の名前付きセット。

1 **スナップショット (snapshot).** データベース環境の現行状態のレコード。67 ページの『パフォーマンス・スナップ  
1 ショット (performance snapshot)』、105 ページの『explain』、および 79 ページの『ヘルス・スナップショット  
1 (health snapshot)』も参照。

1 **スライス (slice).** いずれかのクラスター化ディメンションの値を持つデータが入っているページを含むブロックの集  
1 合。ディメンションごとにスライスを想定し、各スライスがそのディメンションの特定値を含むとすると、セルはこれ  
1 らのスライスの共通部分となる。

1 **スレッド (thread).** (1) アプリケーションの接続を記述し、その過程をトレースし、リソース機能を処理し、そしてそ  
1 のデータベース・マネージャー・リソースとサービスへのアクセス可能性の範囲を区切るデータベース・マネージャー  
1 構造。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 機能は、大部分がスレッド構造下で実行する。16 ページの『関  
1 連スレッド (allied thread)』および 54 ページの『データベース・アクセス・スレッド (database access thread)』も参  
1 照。(2) いくつかのオペレーティング・システムでは、プロセス内の最小実行単位。

1 **スロットル・ユーティリティ (throttled utilities).** 制限をリソースに設置するユーティリティ。この制限がない  
1 とリソースが消費される。リソースの制限度は、システムの現在のワークロードに基づいている。サポートされるユ  
1 ーティリティには、バックアップ、リストア、および表スペース再編成が含まれる。

7 **セーブポイント (savepoint).** 作業単位の特定の時点でのデータおよびスキーマの状態を表す名前付きエンティティ  
7 ー。

7 **セーブポイント・レベル (savepoint level).** セーブポイント関連ステートメント間の参照および対話のために使用さ  
7 れる特殊な有効範囲。

1 **正規化 (normalization).** データ・モデルの関係を最も単純な形式に再構造化する処理。これは、論理リレーショナ  
1 ル・データベース設計を構築するタスクの中で、主要なステップである。データの冗長度および不整合を回避するのに  
1 役立つ。エンティティは、特定の正規形 (第 1 正規形、第 2 正規形など) に対する制約の設定に合致している場  
1 合、正規化される。69 ページの『非正規化 (denormalization)』および 89 ページの『リピーティング・グループ  
1 (repeating group)』も参照。

1 **成功コード・セット (success code set).** 正常なタスクの戻りコードを指定する 1 つまたは複数の式。たとえば、  
1 >-1 (-1 より大きい) と指定すると、ゼロまたはそれ以上の成功の戻りコードをすべて想定する。

1 **整合性トークン (consistency token).** アプリケーションのユニーク ID (DB2 Universal Database for z/OS and  
1 OS/390 ではバージョン ID) を生成するために使用されるタイム・スタンプ。

**整合点 (point of consistency).** プログラムがアクセスする、リカバリー可能データに一貫性があるポイント・イ  
ン・タイム。整合点は、更新、挿入、または削除が物理データベースをコミットしたりロールバックするいずれかの  
場合に発生する。94 ページの『ロールバック (roll back)』および 27 ページの『コミット・ポイント (commit point)』  
も参照。

7 **整合変更データ (CCD) 表 (consistent-change-data (CCD) table).** SQL レプリケーションにおいて、履歴の保管、  
7 監査、またはステージング・データに使用されるレプリケーション・ターゲット表のタイプ。CCD 表はレプリケーシ  
7 ョン・ソースでもある。29 ページの『コンプリート CCD 表 (complete CCD table)』、28 ページの『コンデンス  
7 CCD 表 (condensed CCD table)』、10 ページの『外部 CCD 表 (external CCD table)』、62 ページの『内部 CCD 表  
7 (internal CCD table)』、69 ページの『非コンプリート CCD 表 (noncomplete CCD table)』、および 69 ページの『非コ  
7 ンデンス CCD 表 (noncondensed CCD table)』も参照。

## 用語集

**静止 (quiesce).** 新たな作業要求をリジェクトし、正常に操作を完了してプロセスを終了すること。

1 **静止ポイント (quiesce point).** DB2 Universal Database QUIESCE ユーティリティの実行結果としてデータが整合  
1 するポイント。

**静止メンバー状態 (quiesced member state).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データ共有グループのメンバーの状態。STOP DB2 コマンドが障害なく有効となるときに、アクティブなメンバーは静止状態になる。コマンドが有効になる前に、メンバーのタスク、アドレス・スペース、または DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 システムに障害が発生すると、メンバー状態は障害となる。

1 **生成列 (generated column).** 表の 1 つまたは複数の列を含む式から抽出される列。

1 **静的 SQL (static SQL).** プログラムに組み込まれている SQL ステートメント。このステートメントは、プログラム  
1 を実行する前にプログラム準備処理中に準備されるもの。準備された後、ステートメントで指定されたホスト変数が  
1 変更されても、静的 SQL ステートメントは変更されない。21 ページの『組み込み SQL (embedded SQL)』および  
1 59 ページの『動的 SQL (dynamic SQL)』も参照。

7 **静的カーソル (static cursor).** アプリケーションがカーソルをオープンした後に、結果表のサイズおよび行の順序を  
7 変更しない名前付き制御構造。59 ページの『動的カーソル (dynamic cursor)』も参照。

1 **静的バインド (static bind).** SQL ステートメントがプリコンパイルされた後でバインドされるという処理。すべて  
1 の静的 SQL ステートメントの実行準備は、同時に行われる。66 ページの『バインド (bind)』を参照。59 ページの  
1 『動的バインド (dynamic bind)』も参照。

1 **精度 (precision).** 数値データ・タイプにおける、バイナリー数または 10 進数の桁数の合計 (符号を除く)。符号は  
1 数値がゼロである場合には正であると見なされる。

1 **制約 (constraint).** 表の中で挿入、削除、または更新できる値を限定するための規則。50 ページの『チェック制約  
1 (check constraint)』、40 ページの『情報制約 (informational constraint)』、34 ページの『参照制約 (referential  
1 constraint)』、86 ページの『ユニーク制約 (unique constraint)』も参照。

**セクション (section).** 単一 SQL ステートメントの実行可能な構造体を含むプランまたはパッケージのセグメント。ほとんどの SQL ステートメントでは、ソース・プログラムの各 SQL ステートメントごとに、プランの中にセクションが 1 つ存在する。しかし、カーソル関連ステートメントの場合、DECLARE、OPEN、FETCH、および CLOSE ステートメントは DECLARE CURSOR ステートメントで指定されている SELECT ステートメントをそれぞれ参照するため、すべてが同じセクションを参照する。また、COMMIT や ROLLBACK などの SQL ステートメントと一部の SET ステートメントはセクションを使用しない。

1 **セグメント (segment).** 単一表の行を保持するページのグループ。『セグメント化表スペース (segmented table  
1 space)』も参照。

**セグメント化表スペース (segmented table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、セグメントという同一サイズのページのグループに分けられた表スペース。セグメントが表に割り当てられるとき、異なる表の行が同じセグメントに保管されないように割り当てられる。

**セッション (session).** 2 つのステーションまたは SNA ネットワーク・アドレス可能単位 (NAU) の間の論理接続。これにより、2 つのステーションまたは NAU 間の通信ができる。

**セッション限度 (session limit).** SNA で、特定の論理単位 (LU) がサポートできる、並行してアクティブである論理装置-論理装置 (LU 対 LU) セッションの最大数。

**セッション・セキュリティ (session security).** LU 6.2 では、パートナー LU 検査およびセッション・データの暗号化。データを暗号化された形式で送信できるシステム・ネットワーク体系 (SNA) 機能。

**セッション・パートナー (session partner).** SNA では、アクティブ・セッションに参加している 2 つのネットワーク・アドレス可能単位 (NAU) のうちの一方。

**セッション・プロトコル (session protocol).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SNA 通信要求および応答で使用できるセット。

**接続 (connection).** (1) アプリケーション・プロセスとアプリケーション・サーバーとの相関関係。(2) データ通信では、情報を伝えるために機能単位相互間に確立される相関関係。(3) SNA では、2 つのパートナーの LU 間に通信パスが存在し、情報交換を可能にすること (たとえば、2 つの DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムを接続し、対話による通信を行えるようにすること)。

**接続 ID (connection ID).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、接続機能によって提供され、特定のアドレス・スペース接続に関連する ID。

| **接続コンセントレーター (connection concentrator).** DB2 ホスト・サーバーのリソースを消費せずに、多数のアプリケーションを接続したままにしておくことができる処理。何千ものユーザーがアプリケーションでアクティブになっ  
| たとしても、DB2 ホスト・サーバーではほんの数個のスレッドがアクティブになるだけである。

| **接続ハンドル (connection handle).** DB2 ODBC で管理される接続に関連した情報が含まれるデータ・オブジェクト。この情報には、一般的な状況情報、トランザクション状況、および診断情報などが含まれる。42 ページの『ステートメント・ハンドル (statement handle)』も参照。

| **接続プール (connection pooling).** DB2 Connect はインバウンド接続を切断を要求するアプリケーションによってドロップするが、ホストへのアウトバウンド接続をプールに保持しておく処理。新規アプリケーションが接続を要求した場合、DB2 Connect は既存のプールからの接続を使用する。既存の接続を使用すると、ホスト上の高度な処理プログラムの接続コストと同様に、接続時間全体も削減することができる。

| **絶対パス (absolute path).** オブジェクトの絶対パス名。絶対パス名は (スラッシュ文字 (/) または円記号 (¥) で識別される) 最上位のレベル、つまりルート・ディレクトリーから始まる。

| **接頭部 (prefix).** DB2 Data Links Manager 環境では、リンクされたファイルが保管されている DLFS の絶対パスを指す。

**セット演算子 (set operator).** 合併、差、および論理積といった関係演算子に対応する SQL 演算子 UNION、EXCEPT および INTERSECT。集合演算子は、2 つの別々の結果表を結合させて結果表を派生する。

| **セル (cell).** ディメンション値のユニークな組み合わせ。物理的には、セルは複数ページのブロックから構成され、それらのページのレコードは各クラスター化列に関して同じ値をすべて共有する。

| **遷移表 (transition table).** トリガー・イベントが発生する前後に、サブジェクト表の影響を受けたすべての表がその状態で含まれる一時表。トリガー定義でトリガーされた SQL ステートメントは、旧状態または新状態で、変更された表を参照することができる。

**遷移変数 (transition variable).** FOR EACH ROW トリガーでのみ有効な変数。遷移変数を用いて現在行の遷移値にアクセスできる。古い遷移変数は、修正が適用される前の行の値であり、新しい遷移変数は、修正後の行の値である。

| **全外部結合 (full outer join).** SQL 結合操作の結果、結合対象の両方の表の一致した行が含まれ、両方の表の不一致行が保持されること。23 ページの『結合 (join)』、11 ページの『外部結合 (outer join)』、69 ページの『左外部結合 (left outer join)』、および 83 ページの『右外部結合 (right outer join)』も参照。

**線形データ・セット (LDS) (linear data set (LDS)).** OS/390 環境では、データを含むが、制御情報は含まない、VSAM データ・セット。仮想記憶域において線形データ・セットは、バイト・アドレス可能ストリングとしてアクセスできる。

| **宣言済み一時表 (declared temporary table).** 一時データを保留し、SQL ステートメント DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE で定義される表。宣言済み一時表に関する情報は、DB2 カタログに保管されないため、この種

## 用語集

1 類の表は非永続的で、DECLARE ステートメントを発行したアプリケーション・プロセスでのみ使用できる。 17 ペー  
1 ジの『基本表 (base table)』、 32 ページの『作成済みの一時表 (created temporary table)』、 および 4 ページの『一時表  
1 (temporary table)』も参照。

**宣言生成機能 (DCLGEN) (declarations generator (DCLGEN)).** SQL 表宣言、ならびにその表に従った  
COBOL、C、または PL/I データ構造宣言を生成する、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 のサブコンポー  
ネント。宣言は、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 システム・カタログ情報から生成される。DCLGEN  
も DSN サブコマンドである。

1 **センシティブ・カーソル (sensitive cursor).** 結果表がマテリアライズした後、データベースに対して行われる変更  
1 を識別できるカーソル。 5 ページの『インセンシティブ・カーソル (insensitive cursor)』も参照。

1 **全選択 (fullselect).** セット演算子によって結合された副選択、値文節、またはこの両方。全選択は結果表を指定す  
1 る。UNION が使用されていない場合、全選択の結果は、指定された副選択の結果である。

**前方スクロール・カーソル (forward-only cursor).** 39 ページの『順方向カーソル (nonscrollable cursor)』を参照。

1 **ソース (source).** データウェアハウス・センターで、ステップへの入力となる表、ビュー、またはファイル。 47 ペ  
1 ージの『ターゲット (target)』も参照。

7 **ソース派生関数 (sourced function).** 他の関数 (これをソース関数という) のセマンティクスをそのまま使用する関  
7 数。ソース派生関数となり得るのは、スカラー関数および集約関数だけである。 10 ページの『外部関数 (external  
7 function)』、 85 ページの『ユーザー定義関数 (user-defined function)』、 21 ページの『組み込み関数 (built-in  
7 function)』、 および 113 ページの『SQL 関数 (SQL function)』も参照。

7 **ソース表 (source table).** (1) 基本表、ビュー、表式、またはユーザー定義の表関数。 (2) ターゲット表に複製され  
7 るデータを含む表。 47 ページの『ターゲット表 (target table)』と対比。

7 **ソース・サーバー (source server).** レプリケーションのソース表が格納されているデータベースまたはサブシステ  
7 ム。

**ソース・タイプ (source type).** 特殊タイプを内部的に表示するために使用される既存のタイプ。

**ソース・プログラム (source program).** SQL プリコンパイラーによって処理されるホスト言語ステートメントおよ  
び SQL ステートメントのセット。

1 **相関 ID (correlation ID).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、特定のスレッドに関連する ID。 TSO  
1 では、許可 ID またはジョブ名。

**相関参照 (correlated reference).** 副照会の外側にある表の列に対する参照。

1 **相関副照会 (correlated subquery).** (1) 副照会の外にある表の列への相関参照を含む副照会。 (2) DB2 Universal  
1 Database for z/OS and OS/390 では、WHERE または HAVING 文節の一部である副照会。副照会ステートメントで、  
1 名前を変更した表またはビューの行または行のグループに適用される。

**相関名 (correlation name).** 単一 SQL ステートメント内で表またはビューを指定する ID。名前は、FROM 文節で  
定義することも、UPDATE または DELETE ステートメントの最初の文節で定義することもできる。

**相関列 (correlated columns).** SQL では、ある 1 つの列の値ともう 1 つの列の値との関係。

**送信キュー (send queue).** Q レプリケーションにおいて、キャプチャーされたトランザクションを発行するために  
Q キャプチャー・プログラムが使用する WebSphere MQ メッセージ・キュー。送信キューは Q レプリケーションま  
たはイベント発行で使用できるが、両方で同時に使用することはできない。

7 **相対バイト・アドレス (RBA) (relative byte address (RBA)).** z/OS または OS/390 環境において、データ・セット  
7 またはそれが属するファイルに割り振られた記憶スペースの先頭からの、データ・レコードまたは制御インターバルの  
7 相対位置。

- 1 装置名 (**device name**). システムで予約されているか、または特定の装置を参照する装置ドライバーで予約されている名前。たとえば、並列ポートの DOS 装置名は LPT1 である。
- 1 挿入演算子 (**infix operator**). 比較式で使われる演算子。68 ページの『比較演算子 (comparison operator)』も参照。
- 挿入規則 (**insert rule**). 行を表に挿入する前に従う必要のある、データベース・マネージャーで実施されている条件。
- 7 挿入トリガー (**insert trigger**). 基本表に対する挿入操作が発生すると活動化されるトリガー。61 ページの『トリガー (trigger)』および 61 ページの『トリガー起動 (trigger activation)』を参照。
- 1 増分バインド (**incremental bind**). SQL ステートメントがアプリケーション・プロセスの実行時にバインドされる処理。これは、SQL ステートメントがバインド・プロセス時にバインドされることができず、VALIDATE(RUN) が指定されていたためである。66 ページの『バインド (bind)』を参照。
- 1 増分バックアップ (**incremental backup**). 成功したフル・バックアップ操作の最新の操作から変更となったすべてのデータのコピー。累積バックアップ・イメージともいう。これは時間を超過して取られた一連の増分バックアップは、以前の増分バックアップ・イメージの内容を持つためである。増分バックアップ・イメージの以前は、常に同じオブジェクトの最新のフル・バックアップで成功したものが使用された。
- 7 双方向レプリケーション (**bidirectional replication**). Q レプリケーションにおけるレプリケーション構成の 1 つで、表の 1 つのコピーの変更内容がその表の 2 番目のコピーに複製される。2 番目のコピーの変更内容もまた、最初のコピーに複製される。
- 1 即時下層マテリアライズ照会表 (**descendent immediate materialized query table**). マテリアライズ表定義において、即時下層マテリアライズ照会表を直接参照する REFRESH IMMEDIATE オプションで定義されたマテリアライズ照会表を指す。
- 7 即時従属マテリアライズ照会表 (**dependent immediate materialized query table**). 照会結果に基づいて定義され、結果予測という形式でデータが格納される表。これらの結果は、マテリアライズ照会表の定義に使用される表またはニックネームから得られる。
- 7 属性 (**attribute**). エンティティーの特性または特徴の記述。たとえば、従業員の電話番号はその従業員の属性の 1 つ。
- 7 測地距離 (**geodesic distance**). 地球の楕円体形状の上での 2 点間の最短経路。2 つの端点の経度が同じであっても、この経路は固定された緯線と一致しない場合がある。
- 1 ソケット (**socket**). TCP/IP で使用される通信ハンドル。
- 1 ソケット・インターフェース (**socket interface**). 呼び出し可能な TCP/IP プログラミング・インターフェース。TCP/IP ネットワーク・アプリケーションでリモートの TCP/IP パートナーと通信するために使用される。
- ソフト・チェックポイント (**soft checkpoint**). 情報をログ・ファイルのヘッダーに書き込む処理。この情報は、データベースの再始動要求が出された場合に、ログでの開始点を判別するために使用される。

## [夕行]

- 1 ターゲット (**target**). データウェアハウス・センターで、ステップによって生成または移植される表、ビュー、またはファイル。つまり、ステップの出力。46 ページの『ソース (source)』も参照。
- 7 ターゲット表 (**target table**). (1) SQL レプリケーションにおいて、登録済みレプリケーション・ソースの変更内容を反映する宛先である表。ターゲット表には、ユーザー・コピー表、ポイント・イン・タイム表、基礎集約表、変更集約表、CCD 表またはレプリカ表がある。(2) Q レプリケーションにおいて、Q サブスクリプションに含まれるレプリケーション・ソースの変更内容を複製する宛先である表。

7 **ターゲット・サーバー (target server).** (1) SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ターゲットである  
7 表、ビュー、またはストアド・プロシージャが格納されているデータベースまたはサブシステム。 (2) Q レプリ  
7 ケーションにおいて、レプリケーション・ターゲットである表またはストアド・プロシージャが格納されているデ  
7 ータベースまたはサブシステム。 110 ページの『Q アプライ・サーバー (Q Apply server)』と比較。

1 **待機順次アクセス方式 (QSAM) (queued sequential access method (QSAM)).** 基本順次アクセス方式 (BSAM)  
(basic sequential access method) (BSAM) の拡張版。この方式が使われる時、キューは処理待ちの入力データ・ブロッ  
クで構成されるか、または補助記憶装置や出力装置への転送を待っている出力データ・ブロックで構成される。

2 **代行受信照会 (intercepted query).** Query Patroller が他のアプリケーションから代行受信する照会。この照会を  
2 Query Patroller で管理することも、管理しないこともできる。管理対象照会は、代行受信された照会のサブセットであ  
2 る。 15 ページの『管理対象照会 (managed query)』および 82 ページの『保留照会 (held query)』も参照。

7 **対等状態 (peer state).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) における状態。メモリー内のログ・バッファから新し  
7 いログ・ページが 1 次データベースのログ・ディスクに書き込まれるとき、1 次データベースが同じログ・ページを  
7 スタンバイ・データベースに配送すること。

7 **対等通信 (peer-to-peer communication).** DB2 ファミリーのデータベースによって管理されない 2 つの SNA 論理  
7 装置 (LU) 間の通信。通常は、LU 6.2 ノードを参照するときに使用される。

1 **対等リレーションシップ・カテゴリー (peer to peer relationship category).** インフォメーション・カタログ・セ  
1 ンターでは、対等リレーションシップのあるオブジェクトに接続するために使用されるリレーションシップ・タイプの  
1 カテゴリーを指す。

7 **対等レプリケーション (peer-to-peer replication).** 複数の論理表の間のレプリケーション構成。いずれかの表の更新  
7 内容が他のすべての表に複製され、収束が保守される。対等レプリケーションでは、2 つ、3 つ、またはそれ以上のサ  
7 ーバーを含めることができる。SQL レプリケーションの場合、115 ページの『Update-anywhere レプリケーション  
(update-anywhere replication)』と対比。 73 ページの『複数の層でのレプリケーション (multi-tier replication)』も参照。

**タイプ 1 索引 (type 1 index).** タイプ 2 索引でない索引。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 バージョ  
ン 8 では、タイプ 1 索引はポートされない。『タイプ 2 索引 (type 2 indexes)』も参照。

**タイプ 2 索引 (type 2 index).** 255 より長い可変長のキー・パートをサポートする削除削除削除。『タイプ 1 索引  
(type 1 indexes)』も参照。

1 **タイムアウト (timeout).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムかアプリケーションのどちらか  
1 が、リソースを利用できないために異常終了すること。インストールの指定では、DB2 Universal Database for z/OS  
1 and OS/390 が始動後に IRLM サービスを待機する時間と、アプリケーション要求が利用できないリソースを IRLM  
1 が待機する時間の両方を判別するために設定される。これらの時刻指定のどちらかを超過すると、タイムアウトが宣言  
1 される。

7 **タイム・シェアリング・オプション (TSO) (Time-Sharing Option (TSO)).** z/OS または OS/390 環境において、対  
7 話式コミュニケーションを提供するソフトウェア。このソフトウェアによって、ユーザーまたはプログラマーは端末か  
7 らアプリケーションを開始して操作することができる。TSO はアプリケーション・プランとパッケージを結合し、  
1 DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で提供されるいくつかのオンライン機能を実行するために必要である。

7 **タイム・スタンプ (timestamp).** 年、月、日、時、分、秒、およびマイクロ秒の 7 つの部分で表される日時の値が入  
7 ったデータ・タイプ。

**タイム・スタンプ期間 (timestamp duration).** 年、月、日、時間、分、秒およびマイクロ秒を表す DECIMAL(20,6)  
の値。

1 **対話式 SQL (interactive SQL).** コマンド・センターまたはコマンド行プロセッサなどのインターフェースから提  
1 供される SQL ステートメントの集合。これらのステートメントは、動的 SQL として処理される。たとえば、対話  
1 式 SELECT ステートメントは DECLARE CURSOR、PREPARE、DESCRIBE、OPEN、FETCH、および CLOSE ステ  
1 ートメントを使用して動的に処理することができる。

- 7 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) (Interactive System Productivity Facility (ISPF)). z/OS または OS/390 環境において、対話式のダイアログ・サービスを提供する IBM ライセンス・プログラム。ユーザーは、ほとんどの DB2 Universal Database タスクを ISPF パネルから対話式に実行することができる。

**タグ (tag).** タグ言語の要素。タグ言語ファイルがインフォメーション・カタログにインポートされた場合に行われるアクションを示す。

**タグ言語 (tag language).** データウェアハウス・センターまたはインフォメーション・カタログでは、オブジェクト・タイプとオブジェクトを定義するフォーマットと、このオブジェクト・タイプとオブジェクトで行われるアクションを指す。

**タグ言語ファイル (tag language file).** タグ言語が入っているファイル。ファイルのインポート時に、データウェアハウス・センターまたはインフォメーション・カタログに追加、更新、または削除されるオブジェクトおよびオブジェクト・タイプを記述する。

インフォメーション・カタログ・センターでは、以下の場合にタグ言語ファイルが生成される。

- 削除履歴ログを転送する。
- 抽出プログラムを使用して、別のデータベース・システムから記述データを抽出する。

- 1 **タスク (task).** タスク・センターでは、作業単位および関連したスケジュールとタスク・アクションを指す。タスクは、スケジュールどおりに動作するように設定され、タスクの成功または失敗に基づいたさまざまなアクションを実行することができる。DB2 Universal Database スクリプト、オペレーティング・スクリプト、およびウェアハウス・ステップはすべてタスクの例である。『タスク・アクション (task action)』および 42 ページの『ステップ (step)』も参照。

- 1 **タスク異常終了 (異常終了) (abnormal end of task (abend)).** 実行中にエラー状態が発生したが、リカバリー機能によって解決できないためにタスク、ジョブ、またはサブシステムを終了させること。

**タスク制御ブロック (TCB) (task control block (TCB)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に接続されたアドレス・スペース内のタスクに関する情報を伝達するときに用いられる、制御ブロック。アドレス・スペースは多数のタスク接続をサポートできるが (タスク当たり 1 つまで)、サポートできるアドレス・スペース接続は 1 つだけである。

- 1 **タスク・アクション (task action).** タスク・センターでは、特別なタスクの完了状況を基にして実行されるアクションを指す。たとえば、「タスク A が正常に完了した場合、タスク B を行う」や、「タスク Z が失敗した場合、タスク Y のスケジュールを使用不可にする」などのアクション。『タスク (task)』および 42 ページの『ステップ (step)』も参照。

- 1 **タスク・カテゴリ (task category).** タスク・センターの任意の数のタスクに関連付けられるストリング。これにより、関連タスクの管理が容易になる。たとえば、“Payroll” という名前のタスク・カテゴリを作成して、Payroll カテゴリに、payroll 関連のすべてのタスクをグループ分けすることができる。

- 1 **タスク・センター (Task Center).** DB2 Universal Database のグラフィカル・インターフェース。タスク・フローの編成、タスクのスケジュールリング、および完了済みタスクに関する通知の配布を行う。

- 1 **タプル (tuple).** 表の行の同義語。50 ページの『チューニング・パラメーター表 (tuning parameters table)』も参照。

- 7 **多方向レプリケーション (multidirectional replication).** Q レプリケーションにおいて、対等または双方向のレプリケーションを含む構成。

- 7 **単一方向レプリケーション (unidirectional replication).** Q レプリケーションにおける構成の 1 つ。ソース表の変更内容が WebSphere MQ キューを介してターゲット表に複製されるか、データ操作のためにストアード・プロシージャに渡される。ターゲット表に発生した変更内容は、ソース表には複製されない。

**単純表スペース (simple table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、パーティション化されたりセグメント化されない表スペース。

## 用語集

**単純ページ・セット (simple page set).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、区分化されていないページ・セット。単純ページ・セットは最初は単一のデータ・セット (ページ・セット部分) から成る。データ・セットが 2 ギガバイトにまで拡張される場合、別のデータ・セットが作成されて、こうして合計 32 個までのデータ・セットが可能。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 はこのデータ・セットを、最大 64 ギガバイトを含む単一の隣接した線形アドレス・スペースであると見なす。データは、パーティションしている構造とは見なされず、このアドレス・スペース内で次に使用可能なロケーションに保管される。

**単精度浮動小数点数 (single-precision floating point number).** 実数を 32 ビットで近似表現したもの。

**単調減少式 (monotonic decreasing expression).** 以下のような特性の生成列を導出するために使用される式または関数。可能なすべての値のペア  $x_1$  と  $x_2$  に関して、 $x_2 > x_1$  であれば  $fn(x_2) < fn(x_1)$  である。

**単調増加式 (monotonic increasing expression).** 以下のような特性の生成列を導出するために使用される式または関数。可能なすべての値のペア  $x_1$  と  $x_2$  に関して、 $x_2 > x_1$  であれば  $fn(x_2) > fn(x_1)$  である。

**単調非減少式 (monotonic nondecreasing expression).** 以下のような特性の生成列を導出するために使用される式または関数。可能なすべての値のペア  $x_1$  と  $x_2$  に関して、 $x_2 > x_1$  であれば  $fn(x_2) \geq fn(x_1)$  である。

**単調非増加式 (monotonic nonincreasing expression).** 以下のような特性の生成列を導出するために使用される式または関数。可能なすべての値のペア  $x_1$  と  $x_2$  に関して、 $x_2 > x_1$  であれば  $fn(x_2) \leq fn(x_1)$  である。

**チェック条件 (check condition).** チェック制約で使用される制限された形式の検索条件。

**チェック制約 (check constraint).** 表に関連付けられた規則で、その表のすべての行の 1 つまたは複数の列で使用可能な値を指定する。オプションで、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントを使用してチェック制約を定義できる。44 ページの『制約 (constraint)』、86 ページの『ユニーク制約 (unique constraint)』、および 40 ページの『情報制約 (informational constraint)』も参照。

**チェックポイント (checkpoint).** データベース・マネージャーがログに内部状況情報を記録する点。サブシステムが異常終了する場合に、リカバリー処理がこの情報を使用する。

**チェック健全性 (check integrity).** 表の中の各行がその表で定義されたチェック制約に適合するときに現れる条件。チェック健全性を保守するには、データを追加または変更する操作で DB2 に表チェック制約を実行させることが必要になる。

**チェック・ペンディング (check pending).** 表の状態の 1 つ。この状態のとき、表に対して実行できる活動は限定され、表が更新されても制約はチェックされない。

**置換ファイル (replacement file).** DB2 Data Links Manager では、内容が既存ファイルの代理をする目的のファイルを指す。

**置換文字 (substitution character).** SQL では、ターゲットのコード化表現に一致する文字のない、ソース・プログラム内の任意の文字を文字変換するときに、置換されるユニークな文字。

**チャージバック・アカウント (charge-back account).** 企業の各部門またはプロジェクトによるコンピューター・リソースの使用状況を追跡するためのアカウント。たとえば、「マーケティング部門」、「サマー・カタログ・プロジェクト」などがチャージバック・アカウントである。

**チューニング・パラメーター表 (tuning parameters table).** キャプチャー・プログラムが使用するタイミング情報を含むソース・サーバーの表。この情報には、変更データ表に行を保持しておく期間、変更がデータベース・ログまたはジャーナルに保管されるまでの経過時間、および変更されたデータを作業単位表にコミットする頻度が含まれる。49 ページの『タプル (tuple)』も参照。

**中央処理装置複合システム (CPC) (central processor complex (CPC)).** z/OS または OS/390 環境で、(ES/3090 システムのような) ハードウェアの物理的集合で、主記憶域、1 つまたは複数の中央処理装置、タイマー、およびチャネルで構成される。



- 1 **中間結合表 (joined table).** 内部結合 (inner join) または 外部結合 (outer join) のいずれかの結果である中間結果表。
- 7 **中間言語 (IL) (intermediate language (IL)).** .NET Framework 共通言語ランタイムによって解釈される、コンパイル  
7 済みバイトコードの 1 つのタイプ。すべての .NET 互換言語のソース・コードは IL バイトコードにコンパイルされ  
7 る。19 ページの『共通言語ランタイム (common language runtime)』および 1 ページの『アセンブリー (assembly)』も  
7 参照。
- 1 **中間データベース・サーバー (intermediate database server).** オブジェクトがターゲット・データベース・サー  
バーにないため、別のデータベース・サーバーへ転送されるローカル・アプリケーションまたはリモート・アプリケーション  
・リクエストからの要求のターゲット。リモート要求は、3 パート名によって参照されるオブジェクトが、ロー  
カル・ロケーションを参照しない場合、別のデータベース・サーバーに透過的に転送される。54 ページの『データ  
ベース・サーバー (database server)』も参照。
- 中間ネットワーク・ノード (intermediate network node).** APPN で、経路の起点論理装置 (OLU) と宛先論理装置  
(DLU) の間にあるノード。ただし、OLU も DLU も含まず、また OLU または DLU のどちらにもネットワーク・サ  
ーバーとしてサービスを提供しない。
- 1 **抽出コントロール・ファイル (extract control file).** 抽出ユーティリティー・プログラムの操作をコントロールする  
1 ステートメントが含まれるファイル。
- 1 **抽出プログラム (extract program).** インフォメーション・カタログ・センターでは、メタデータをメタデータ・ソー  
1 スからコピーしたり (RDBMS カタログ など)、メタデータをタグ言語に変換したり、この出力をタグ言語ファイルに  
1 置いたりするユーティリティー・プログラムを指す。
- 1 **重複ログ・パス (dual log path).** オンライン・アーカイブ・ファイルおよびアクティブ・ログの重複コピーを保守す  
るために使用される 2 次ログ・パス。
- 1 **超並列処理 (MPP) (massively parallel processing (MPP)).** 1 つの要求を調整して実行すること。(各コンピュー  
ターが独自のメモリーとディスクを持つ) 完全疎結合環境で複数のシングル・プロセッサ・コンピューターによって  
実行されるか、または (各コンピューターの複数のプロセッサがメモリーとディスクを共有する) 対称型マルチ・プ  
ロセッサ (SMP) コンピューターによって実行される。どちらの環境でも、すべてのコンピューターが高速ネットワ  
7 ークで互いにリンクされていなければならない。
- 直接的な名前 (exposed name).** 関連名が指定されていない FROM 文節に指定された関連名、表、またはビュー  
名。
- 7 **地理座標システム (geographic coordinate system).** DB2 Spatial Extender および DB2 Geodetic Extender におい  
7 て、緯度および経度を使用して、球形または回転楕円体の表面にある位置を定義する参照システム。
- 7 **地理情報システム (GIS) (geographic information system (GIS)).** 地理的特徴に関する空間情報を作成および分析  
7 するために使用される、オブジェクト、データ、およびアプリケーションの複合。『地理的特徴 (geographic  
7 feature)』も参照。
- 7 **地理的特徴 (geographic feature).** 地球の表面にあるオブジェクト (都市、河川など)、空間 (たとえば危険地帯の周  
7 囲のセーフティー・ゾーン)、またはある場所で発生する出来事 (たとえば、特定の交差点で発生した自動車事故) を指  
7 す。
- 7 **通常 ID (ordinary identifier).** 大文字 1 つの後に、0 個以上の文字 (すべて大文字)、数字、または下線文字が続く  
7 識別子。通常 ID は予約語であってはならない。
- 通常トークン (ordinary token).** 数値定数、通常 ID、ホスト ID、またはキーワード。
- 1 **通知構成パラメーター (informational configuration parameter).** 変更できない情報を保持する構成パラメーターの  
1 タイプ。25 ページの『構成可能な構成パラメーター (configurable configuration parameters)』および 25 ページの『構  
1 成可能なオンライン構成パラメーター (configurable online configuration parameters)』も参照。

## 用語集

**通知プロセス (notification process).** データウェアハウス・センターによって作成されるプロセスの 1 つ。ステップ完了時の通知のために作成されるすべてのステップを含む。

7 **通知メッセージ (informational message).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、Q キャプチャー・プログラム、Q サブスクリプション、または XML 発行の状況を示すメッセージ。

1 **通知ログ (notification log).** 15 ページの『管理通知ログ (administration notification log)』を参照。

7 **強い型定義 (strong typing).** その指定されたタイプには、ユーザー定義関数および特殊タイプに対して定義された操作しか適用できないことを保証する処理。たとえば、カナダ・ドルと米ドルのように、2 種類の通貨タイプを直接比較することはできないが、片方の通貨からもう一方の通貨に変換するユーザー定義関数を提供し、それによって比較を行うことができる。

1 **ツリー・ビュー (tree view).** オブジェクトの階層図と、1 つのオブジェクトを含むオブジェクトを提供するビュー。

7 **テークオーバー (takeover).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、スタンバイ・データベースを新たに 1 次データベースにする処理。

1 **データ域 (data area).** プログラムが情報を保持するのに使うメモリー領域。

1 **データウェアハウス (data warehouse).** (1) 戦略的な意思決定を支援する、サブジェクト指向の不揮発性データ集合。ウェアハウスは、ビジネス情報管理のためのデータ統合で中心的な役割を果たす。これは企業内のデータマートのためのデータ・ソースであり、企業データの共通のビューを提供する。(2) 組織のビジネス・システムが収集するデータのすべてまたは有効部分に対する中央リポジトリ。情報ウェアハウス (*information warehouse*) ともいう。55 ページの『データマート (data mart)』も参照。

1 **データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center).** DB2 Universal Database のコンポーネントで、ウェアハウス・コンポーネントの処理を可能にするグラフィカル・インターフェースとその背後のソフトウェア。データウェアハウス・センターを使用すると、ウェアハウス・データの定義や管理、およびデータをウェアハウス内に作成するプロセスの定義や管理が可能になる。

**データウェアハウス・センター・コントロール・インターフェース (Data Warehouse Center administrative interface).** データウェアハウス・センターの管理機能のユーザー・インターフェース。このインターフェースは、データウェアハウス・センター・サーバーに配置が可能で、複数の管理者の異なるコンピューターにも配置することができる。

**データウェアハウス・センター・プログラム (Data Warehouse Center program).** データウェアハウス・センター付属のプログラムで、データウェアハウス・センターから開始することが可能で、自動的に定義される。たとえば、DB2 ロード・プログラムやトランスフォーマーがデータウェアハウス・センター・プログラムである。

**データウェアハウス・センター・プロパティ (Data Warehouse Center property).** データウェアハウス・センターの複数のセッションにまたがって適用される属性 (たとえばテクニカル・メタデータを含むツール・カタログ)。77 ページの『プロパティ (property)』も参照。

**データ記述言語 (data description language).** 53 ページの『データ定義言語 (data definition language)』の同義語。

**データ共有 (data sharing).** 2 つまたはそれ以上の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムが、単一セットのデータに直接アクセスし、それを変更できる機能。

**データ共有グループ (data sharing group).** 1 つまたは複数の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムの集合。データ安全性を保持しながら、同じデータに直接アクセスし、それを変更する。

7 **データ共有メンバー (data sharing member).** (1) ODBC API をサポートする ODBC ドライバーを使ったデータ・アクセスを可能にする、ローカルまたはリモートの、リレーショナルまたは非リレーショナルのデータ・マネージャ。 (2) フェデレーテッド・システムでは、通常は、リレーショナル DBMS インスタンスと、このインスタンスでサ

7 ポートされる 1 つまたは複数のデータベースを指す。フェデレーテッド・システムには、他のタイプのデータ・ソース (フラット・ファイル・データベースや表構造のファイルなど) を組み込むこともできる。

1 **データ交換 (data interchange)**. アプリケーション間のデータの共有。XML の場合、プロプラエタリー・フォーマットからデータを最初にトランスフォームしなくても、データ交換がサポートされる。

1 **データ操作言語 (DML) (data manipulation language (DML))**. データを操作するのに使われる SQL ステートメントのサブセット。大半のアプリケーションは、主に DML SQL ステートメントを使用する。これは DB2 Connect プログラムでサポートされる。SELECT、INSERT、UPDATE、および DELETE ステートメントは IBM リレーショナル・データベース製品間で類似している。26 ページの『構造化照会言語 (Structured Query Language)』および『データ定義言語 (data definition language)』も参照。

1 **データ定義言語 (DDL) (data definition language (DDL))**. データベース内のデータとその相関関係を記述するための言語。

**データ定義名 (ddname) (data definition name (ddname))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、同じ名前が入っているデータ制御ブロックに対応する、データ定義 (DD) ステートメントの名前。

1 **データ統合 (data consolidation)**. 読み取り専用のターゲット・データベースを 1 つ含むレプリケーション構成。ターゲット表には、1 つまたは複数のソース・データベースからの行が含まれる。

7 **データの現行性 (data currency)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、検索されてプログラムのホスト変数に入れられたデータが、基本表のデータのコピーであるという状態。

7 **データ分散レプリケーション (data distribution replication)**. レプリケーションにおいて、単一のソース表からなるレプリケーション構成。この表の変更内容は 1 つまたは複数の読み取り専用ターゲット表に複製される。ターゲット表へのレプリケーションが発生する前に、ソース表からのデータの完全セットが表に含まれている必要がある。

7 **データベース (database)**. 一括した保管され、1 つまたは複数のアプリケーションにサービスを提供する、相互に関連したデータ項目または独立データ項目の集合。90 ページの『リレーショナル・データベース (relational database)』も参照。

1 **データベース関数 (database function)**. 入力データの集合と結果値の集合の間のリレーションシップ。21 ページの『組み込み関数 (built-in function)』および 85 ページの『ユーザー定義関数 (user-defined function)』も参照。

**データベース管理システム (DBMS) (database management system (DBMS))**. 55 ページの『データベース・マネージャー (database manager)』の同義語。

1 **データベース管理者 (DBA) (database administrator (DBA))**. (1) データベースの設計、開発、操作、セキュリティ、保守、および使用についての責任者。(2) DBADM 権限を持つ DB2 UDB ユーザー。

**データベース管理スペース (DMS) 表スペース (database-managed space (DMS) table space)**. データベースによってスペースを管理される表スペース。35 ページの『システム管理スペース表スペース (system-managed space table space)』も参照。

**データベース記述子 (DBD) (database descriptor (DBD))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 カタログにあるデータ定義を反映する DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データベース定義の内部表示。データベース記述子で定義されるオブジェクトは、表スペース、表、索引、索引スペース、およびリレーションシップである。

7 **データベース権限 (database authority)**. この権限を所有するユーザーは、データベース・レベルのタスク (データベースへの接続、データベース内でのパッケージの作成など) の実行を許可される。

1 **データベース構成パラメーター (database configuration parameter)**. データベースが使用できるシステム・リソースを、その値が制限するパラメーター。25 ページの『構成パラメーター (configuration parameter)』および 55 ページの『データベース・マネージャー構成パラメーター (database manager configuration parameter)』も参照。

## 用語集

データベース接続サービス (DCS) ディレクトリー (database connection services (DCS) directory). リモート・ホスト・データベースとそれにアクセスするのに使われるアプリケーション・リクエスター用の項目の入ったディレクトリー。

データベース名 (database name). ユーザーが CREATE DATABASE コマンドまたはアプリケーション・プログラミング・インターフェースの一部として指定する識別名。カタログされているロケーション内では、データベース名はユニークである必要がある。

データベース要求モジュール (DBRM) (database request module (DBRM)). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 プリコンパイラーにより作成され、SQL ステートメントについての情報が入っているデータ・セット・メンバー。DBRM は、バインド・プロセスで使用される。

データベース・アクセス・スレッド (database access thread). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リモート・サブシステムに代わってローカル・サブシステムでデータにアクセスできるスレッド。16 ページの『関連スレッド (allied thread)』も参照。

データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース (DARI) (Database Application Remote Interface (DARI)). 42 ページの『ストアード・プロシージャ (stored procedure)』の旧用語。

データベース・エンジン (database engine). データベースを使用するために必要な基本となる関数や構成ファイルを提供するデータベース・マネージャーの部分。

データベース・オブジェクト (database object). (1) インストールされた DB2 Universal Database を構成するオブジェクト。インスタンスとデータベース、およびインスタンス内のデータベース・パーティション・グループ、バッファ・プール、表、索引など。(2) ユーザーがデータベース内に作成するすべてのオブジェクト (プロシージャ、トリガーなど) は、CREATE ステートメントを発行することで作成される。

データベース・オブジェクト階層 (database object hierarchy). 親/子のリレーションシップへのデータベース・オブジェクトの配置。たとえば、データベースは、そのデータベース・インスタンスという親の子である。

データベース・カタログ (database catalog). データウェアハウス・センターでは、表、ビュー、および索引などのデータベース・オブジェクトの記述を格納する表の集合。

データベース・クライアント (database client). データベース・サーバーにあるデータベースにアクセスするのに使われるワークステーション。

データベース・サーバー (database server). クライアント/サーバー環境のローカル・エリア・ネットワークにおいて、データベース・マネージャーがインストールされたスタンドアロン・ワークステーションのこと。アプリケーションを実行するクライアント・ワークステーションがデータベースにリモート・アクセスできるようにする。DB2 Universal Database 環境では、データベース・サーバーの機能は分散データ機能によって提供され、ローカル・アプリケーションまたは中間データベース・サーバーとして動作するリモート・データベース・サーバーから DB2 Universal Database データにアクセスするために使用される。

データベース・システム・モニター (database system monitor). インスタンス、データベース、およびアプリケーション・レベルのデータベース・システムの状態に関する情報を収集する API の集合。この情報は、データ・エレメントに保管される。これらは、ポイント・イン・タイム・スナップショットを取る、または期間を超過してイベント・モニターをログ・システム・アクティビティに使用して確認される。

データベース・データベース (database agent). データベース・エンジン内部で実際の作業を行う物理処理またはスレッドに対する表現。

データベース・ディレクトリー (database directory). クライアントから接続できるすべてのデータベースについてのデータベース・アクセス情報が入ったディレクトリー。64 ページの『ノード・ディレクトリー (node directory)』も参照。

データベース・ノード (**database node**). 『データベース・パーティション (database partition)』を参照。

7 データベース・パーティション (**database partition**). パーティション・データベース環境では、固有のユーザー・データ、索引、構成ファイル、およびトランザクション・ログから構成されるデータベースの一部。

1 データベース・パーティション・グループ (**database partition group**). パーティション・データベース環境では、1 つまたは複数のデータベース・パーティションをまとめて名前を付けたもの。ノード・グループと置き換えられる。

1 データベース・パーティション・サーバー (**database partition server**). パーティション・データベース環境では、db2nodes.cfg ファイルに記録される DB2 のオカレンス。

7 データベース・マネージャー (**database manager**). 効率的なアクセス、整合性、リカバリー、並行性制御、プライバシー、セキュリティのために、中央制御、データ独立性、複合物理構造などの各種サービスを提供することによってデータを管理するプログラム。

1 データベース・マネージャー構成パラメーター (**database manager configuration parameter**). インスタンスが作成された時に確立される構成パラメーター。データベース・マネージャー構成パラメーターの大半は、データベース・マネージャーのシングル・インスタンスに割り振られたシステム・リソースの量に影響するか、データベース・マネージャーと環境上の考慮事項を基にした別の通信サブシステムのセットアップを構成する。25 ページの『構成パラメーター (configuration parameter)』および 53 ページの『データベース構成パラメーター (database configuration parameter)』も参照。

1 データベース・マネージャー・インスタンス (**database manager instance**). (1) 実際のデータベース・マネージャー環境のイメージに似た論理データベース・マネージャー環境。同じサーバー上にデータベース・マネージャー製品の複数のインスタンスを格納することができる。このインスタンスを使うと、実動環境から開発環境を分離したり、特定の環境に合わせてデータベース・マネージャーを調整したり、重要な情報を保護したりできる。(2) データを管理する DB2 コード。インスタンスは、独自のデータベース (他のインスタンスがアクセスできない) を持ち、すべてのデータベース・パーティションは同一のシステム・ディレクトリを共有する。同一のコンピューター上の他のインスタンスからの別々のセキュリティも持つ。

7 データベース・リカバリー・ログ (**database recovery log**). レプリケーションにおいて、データベースのすべての変更内容をログ・レコードに記録するために使用される 1 次および 2 次ログ・ファイルのセット。

データベース・ログ (**database log**). データベースに対するすべての変更内容を記録するログ・レコードで構成される一連の 1 次および 2 次ログ・ファイル。データベース・ログを使って、コミットされない作業単位に加えられた変更をロールバックしたり、データベースを整合性のある状態に回復したりする。

1 データマート (**data mart**). ある部署またはチーム特定のレポート要求に対して調整され、最適化されたデータを含むデータウェアハウスのサブセット。データマートを、オンライン分析 (OLAP) ツールに含まれるデータのように、組織全体のデータウェアハウスのサブセットにすることができる。

7 データ・エレメント (**data element**). 85 ページの『モニター・エレメント (monitor element)』を参照。

7 データ・スペース (**data space**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 バージョン 8 より前のリリースにおいて、プログラムが直接操作できる 0 バイトから 2 GB までの範囲の連続した仮想ストレージ・アドレス。アドレス・スペースとは異なって、データ・スペースはデータのみを保持することができ、共通域、システム・データ、あるいはプログラムは含まれない。

7 データ・ソース (**data source**). フェデレーテッド・サーバーの接続先となり、ラッパーを使ってデータが検索されるデータ・リポジトリ。データ・ソースには、リレーショナル・データベース、XML ファイル、検索アルゴリズム、表構造ファイル、その他のオブジェクトが含まれる。フェデレーテッド・システムでは、データ・ソースは 1 つの集約的なデータベースとして表示される。

## 用語集

7 **データ・ソース・オブジェクト (data source object)**. フェデレーテッド・システムでは、操作を実行する対象のデータ・ソースにあるオブジェクトを指す。たとえば、データベース表、データベース・ビュー、またはスプレッドシート・リスト。 63 ページの『ニックネーム (nickname)』も参照。

**データ・タイプ (data type)**. SQL では、列、リテラル、ホスト変数、特殊レジスター、および関数と式の結果の属性。

1 **データ・タイプ・マッピング (data type mapping)**. フェデレーテッド・システムでは、DB2 データ・タイプに対して、データ・ソースで使用されるデータ・タイプのマッピングを指す。たとえば、Oracle タイプの FLOAT は、デフォルトでは DB2 タイプ DOUBLE にマップする。DB2 はほとんどの種類データ・タイプに対してデフォルトのマッピングを提供する。デフォルト・マッピングはラッパーに入っている。

1 **データ・ディクショナリー (data dictionary)**. 組織のアプリケーション・プログラム、データベース、論理データ・モデル、および許可に関する情報のリポジトリ。手動または自動となる。

7 **データ・パーティション (data partition)**. z/OS または OS/390 環境において、パーティション表スペースに格納される VSAM データ・セット。

7 **データ・パーティション副次索引 (DPSI) (data-partitioned secondary index (DPSI))**. パーティション化された副次索引。索引は、基礎となるデータに従ってパーティション化される。

7 **データ・ブロック (data blocking)**. SQL レプリケーションにおいて、アプライ・サイクル内の特定の時間 (分) にわたるデータ変更を複製する処理。

1 **データ・マイニング (data mining)**. データウェアハウスからの重要なビジネス情報の収集、情報の相関、およびアソシエーション、パターン、および傾向の開示処理。

7 **データ・メッセージ (data message)**. Q レプリケーションおよびイベント発行におけるメッセージで、複数のソース表に関連したコミット済みトランザクションの全体または一部を含む。あるいは、1 つのソース表内の単一行に対するコミット済み操作 (イベント発行のみ)、またはトランザクションでの行操作によるラージ・オブジェクト (LOB) 値の全体または一部を含む。

**データ・リンク制御 (DLC) (data link control (DLC))**. SNA では、2 つのノード間でのリンクを経由したデータ転送をスケジュールしたり、そのリンクのエラー制御を行ったりするリンク・ステーションで構成されるプロトコル層。

1 **データ・リンク調整不能 (DRNP) (Data Link Reconcile Not Possible (DRNP))**. DB2 表の状態の 1 つで、1 つまたは複数の DATALINK タイプ列に、保全性に違反するファイル参照が含まれること (たとえば、データベースが参照するファイルをリストアできないまま、データベースをリストアした場合)。

1 **データ・リンク調整ペンディング (DRP) (Data Link Reconcile Pending (DRP))**. DB2 表の状態の 1 つで、1 つまたは複数の DATALINK タイプ列に、保全性未確定である可能性があるファイル参照が含まれること (たとえば、データベース・ロギングからロールフォワードせずにデータベースをリストアした場合)。

1 **データ・リンク・サーバー (Data Links server)**. 次の DB2 Data Links Manager コンポーネントが含まれるコンピューター。データ・リンク・ファイル・マネージャー (DLFM)、Data Links ファイル・システム (DLFS) をコントロールする データ・リンク・ファイル・マネージャー・フィルター (DLFF)、および DB2 データベース (ロギング・マネージャーとして使用)。

1 **データ・リンク・ファイル・システム (DLFS) (Data Links File System (DLFS))**. データ・リンク・ファイル・システム・フィルター (DLFF) の制御下にあるファイル・システム。

1 **データ・リンク・ファイル・システム・フィルター (DLFF) (Data Links Filesystem Filter (DLFF))**. DB2 Data Links Manager コンポーネント。リンクされたファイルへの制御された有効なアクセスを確保することによってデータ保全性を実施する、ファイル・システムのフィルター・プログラム。 91 ページの『リンク・ファイル (linked file)』も参照。

1 データ・リンク・ファイル・マネージャー (**DLFM (Data Links File Manager (DLFM))**). DB2 Data Links Manager  
1 のコンポーネント。DB2 データベースが、データベースの外側にあるファイルを管理することができる。

1 デーモン (**daemon**). 特定のサービスをアプリケーションまたはユーザーに提供するシステム処理。

**定義メタデータ (definition metadata)**. データウェアハウス・センターで、データウェアハウスの形式 (スキーマ)、データのソース、およびデータのロード中に適用されるトランスフォーメーションについての情報。

7 **ディクショナリー (dictionary)**. テキストの分析、索引付け、検索、特定言語の文書の強調表示などのために DB2  
7 Net Search Extender が使用する言語関連情報の集まり。

1 **ディクショナリー・リレーションシップ・タイプ (dictionary relationship type)**. インフォメーション・カタログ・  
1 センターでは、用語集の項目オブジェクト・タイプと別のオブジェクトを関連付けるために使用されるリレーションシ  
1 ャップ・タイプ。用語集の項目オブジェクト・タイプは、オブジェクトと関連した用語を定義するために使用できる。  
1 90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。

**定数 (constant)**. 不変の値を指定する言語エレメント。定数は、ストリング定数と数値定数に分けられる。80 ペ  
1 ジの『変数 (variable)』も参照。

1 **ディメンション (dimension)**. データのカテゴリ (たとえば、時刻、アカウント、製品、または市場)。ディメンシ  
1 ャンのエレメントはメンバーとして参照される。ディメンションは検索、調査、および分析に対するデータの編成お  
1 びび選択の非常に簡潔で、単純な方法を提供する。ディメンションは、マルチディメンション・データベースの枠組  
1 みの中の最上位の統合レベルも表す。69 ページの『ビジネス・ディメンション (business dimension)』、82 ページの  
1 『マルチディメンション分析 (multidimensional analysis)』、および『ディメンション表 (dimension table)』も参照。

1 **ディメンション表 (dimension table)**. スタースキーマのディメンション表記。ディメンション表の行はそれぞれ、  
1 ディメンションの特別なメンバーの属性をすべて表す。『ディメンション (dimension)』および 41 ページの『スター  
1 キーマ (star schema)』も参照。

1 **ディメンション・ブロック索引 (dimension block index)**. マルチディメンション・クラスター化では、ディメンシ  
1 ャンが MDC 表で定義される場合、特別なディメンションに対して自動的に作成されるブロック索引。この索引は、  
1 表に定義されている他のディメンションと共に、そのディメンションに従ったデータのクラスター化を保守するために  
1 使用される。

**ディレクトリー (directory)**. データベース記述子およびスケルトン・カーソル表のような内部オブジェクトが入って  
1 いる、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 システム・データベース。

**ディレクトリー・サービス (directory services)**. APPN ネットワーク内のリソース位置についての情報を保持する  
1 APPN プロトコルの部分。

**出口ルーチン (exit routine)**. 特定の関数を実行するために、他のプログラムから制御を受け取るプログラム。

1 **テクニカル・メタデータ (technical metadata)**. データウェアハウス・センターで、データの技術的な面 (たと  
1 えば、データベース・タイプや長さ) を記述するデータ。テクニカル・メタデータには、データ・ソースに関する情報、  
1 およびデータの抽出、消去、変換に使われる規則に関する情報が含まれる。データウェアハウス・センターのメタデ  
1 ータのかなりの部分はテクニカルである。69 ページの『ビジネス・メタデータ (business metadata)』も参照。

7 **テッセレーション (tessellation)**. 表面をメッシュまたは網目に分割すること。

1 **デッドロック (deadlock)**. あるトランザクションが、別のトランザクションによってロックされた排他的リソースに  
1 依存しているが、そのもう 1 つのトランザクションもまた、元のトランザクションが使用する排他的リソースに依存  
1 している状態。トランザクションは先に進むことができない。

## 用語集

**デッドロック検出機能 (deadlock detector).** デッドロック状態が存在するかどうかを判別するためにロックの状態をモニターするデータベース・マネージャー内の処理。デッドロック状態が検出されると、検出機能は、そのデッドロックに関与しているトランザクションの 1 つを停止する。このトランザクションはロールバックされ、他のトランザクションは処理を継続する。

**デフォルト・サブシステム名 (DSN) (default subsystem name (DSN)).** (1) z/OS または OS/390 環境では、DB2 の TSO コマンド・プロセッサ名。 (2) コントロール・サーバーに接続することのできる DB2 サブシステム名 (デフォルトのサブシステム名は DSN)。 (3) z/OS または OS/390 環境では、DB2 モジュールおよびマクロ名の最初の 3 文字。

**デフォルト・ビュー (default view).** XML Extender では、XML 表および関連するサイド表のすべてが結合されたデータを示す。

**デベロップメント・センター (Development Center).** DB2 UDB のコンポーネントで、ストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数のビルド、テスト、および展開のグラフィカル・インターフェースを提供する。機能には、サーバー・ビュー、組み込み SQL デバッガー、インポートおよびエクスポート・ウィザードおよびテキスト・エディターが含まれる。

**デベロップメント・センター・プロジェクト (Development Center project).** デベロップメント・センターで開発されるデータベース接続とルーチンに関する情報が含まれる。

**テリトリー (territory).** データベース・マネージャーによる内部処理のためにテリトリー・コードにマップされる POSIX ロケールの部分。

**テリトリー・コード (territory code).** DB2 Universal Database で使用されるコードの 1 つ。SBCS データベースのデフォルト照合順序を事前設定し、国、地域、またはテリトリーに特有の通貨、日付、時刻、および数値の形式を設定する。

**電子データ管理プール (EDM プール) (electronic data management pool (EDM pool)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データベース記述子、アプリケーション・プラン、許可キャッシュ、アプリケーション・パッケージ、および動的ステートメント・キャッシュのために使用される主記憶域内のプール。

**伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP) (Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)).** 業界標準となっている非プロプラエタリーの通信プロトコル・セット。さまざまな種類の相互接続ネットワークを介して複数のアプリケーションが通信するための、信頼性の高いエンドツーエンド通信を提供する。

**伝搬 (propagation).** 構成パラメーターのグループが更新され、さまざまな速度で影響を及ぼすプロセス。

**テンプレート (template).** z/OS または OS/390 環境において、動的割り振りのために使用される DB2 Universal Database ユーティリティの出力データ・セット記述子。TEMPLATE ユーティリティ制御ステートメントで定義される。

**トークン (token).** 計算言語の基本構文単位。トークンは、ブランク文字やストリング定数または区切り ID に使われている文字以外の 1 つまたは複数の文字で構成される。

**透過 DDL ステートメント (transparent DDL statement).** リモート表を作成および変更するために、パススルー・セッションの外側に発行できる DDL ステートメント。

**等価結合 (equijoin).** 結合条件に 式 = 式 のフォームがある場合の結合操作。

**同期 (synchronization).** サテライトがグループの他のメンバーと同じ DB2 Universal Database コマンド、オペレーティング・システム・コマンド、および SQL ステートメントをサテライト・コントロール・サーバーからダウンロードして実行する処理。その後、その結果をサテライト・コントロール・サーバーに報告する。

**同期 (synchronous).** 共通時刻信号などの特定のイベントの発生に依存する複数のプロセス。69 ページの『非同期 (asynchronous)』も参照。



**同義語 (synonym).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SQL における、表またはビューの代替名。

**同期点 (sync point).** 43 ページの『整合点 (point of consistency)』を参照。

7 **同期点 (synchpoint).** SQL レプリケーションにおいて、最新のアプライ・サイクル中に適用された最新の変更の  
7 DB2 Universal Database ログまたはジャーナル・レコードのシーケンス番号に対するコントロール表の値。この値は、  
7 CD 表の整理を調整するためにも使用される。

7 **同期モード (synchronous mode).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) の同期モードの 1 つ。関連するログ・デー  
7 タが受信されてスタンバイ・システム上のディスクに書き込まれたという通知を 1 次データベースがスタンバイ・シ  
7 ステムから受け取ったとき、1 次データベースはそのトランザクションがコミットされたと見なす。

1 **同期レプリケーション (synchronous replication).** リアルタイム・レプリケーションともいう。更新をソース・トラ  
1 ンザクションの有効範囲内で連続して送達するレプリケーションのタイプ。

**同期レベル (synchronization level).** APPC では、対応するトランザクション・プログラムが確認要求および応答を  
交換することを示す指定。

7 **統計プロファイル (statistics profile).** 特定の RUNSTATS コマンド論理を使用した場合に表に関するどんな統計が  
7 収集されるかを指定する、すべてのオプション情報を含むファイル。

1 **動的 SQL (dynamic SQL).** ランタイムに準備され、実行される SQL ステートメント。動的 SQL では、SQL ステ  
1 ートメントはホスト変数の文字ストリングとして含まれ、プリコンパイルされない。21 ページの『組み込み SQL  
1 (embedded SQL)』および 44 ページの『静的 SQL (static SQL)』も参照。

7 **動的カーソル (dynamic cursor).** アプリケーション・プログラムが使用する名前付き制御構造。カーソルがオープン  
7 した後、結果表のサイズとそれに含まれる行の順序を変更する。44 ページの『静的カーソル (static cursor)』も参照。

7 **動的ステートメント・キャッシュ・プール (dynamic statement cache pool).** 動的 SQL ステートメントを保持す  
7 る、2 GB より多いストレージにあるキャッシュ。

**動的バインド (dynamic bind).** SQL ステートメントがその入力と同時にバインドされる処理。66 ページの『バイ  
ンド (bind)』を参照。44 ページの『静的バインド (static bind)』も参照。

7 **登録 (registration).** SQL レプリケーションにおいて、DB2 Universal Database の表、ビュー、またはニックネームを  
7 レプリケーション・ソースとして登録する処理。33 ページの『サブスクリプション (subscription)』と対比。93 ペ  
7 ジの『レプリケーション・ソース (replication source)』も参照。

7 **登録処理 (registration process).** レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソースを定義する処理。

**特殊タイプ (distinct type).** 内部的には既存のタイプ (そのソース・タイプ) として表示されるが、セマンティクスと  
しての用途においては別個で非互換のタイプと見なされるユーザー定義のデータ・タイプ。

**特殊レジスター (special register).** データベース・マネージャーによってアプリケーション・プロセス用に定義され  
たストレージ。SQL ステートメントで参照される情報を保管するときに使用する。たとえば、USER および  
CURRENT DATE など。

7 **特定関数名 (specific function name).** (1) システムに固有の関数を識別する名前。(2) DB2 Universal Database for  
z/OS and OS/390 では、その特定の名称によってデータベース・マネージャーに認識されている特定のユーザー定義関  
数のこと。データベースに対してユーザー定義関数を定義すると、各関数にはそれが属すスキーマの中でユニークな特  
定名が割り当てられる。特定名は、同じ名前を持ちながらパラメーターの数が異なったり、このパラメーターに関連  
したデータ・タイプが異なる関数で重要である。ユーザーはこの名前を提供するか、またはデフォルトを使用すること  
1 ができる。

**独立 (independent).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、オブジェクト (行、表、もしくは表スペ  
ース) は、別のオブジェクトの親や従属のどちらでもなければ独立である。

## 用語集

7 **独立補助ストレージ・プール (IASP) (independent auxiliary storage pool (IASP)).** ディスク装置またはディスク  
7 装置サブシステムから定義され、アドレス可能なディスク装置を構成する 1 つまたは複数の記憶装置。独立補助プー  
7 ルには、オブジェクト、オブジェクトを含むディレクトリー、その他のオブジェクト属性 (たとえば許可所有権属性)  
7 が格納される。

1 **独立論理装置 (ILU) (independent logical unit (ILU)).** システム・サービス制御点 (SSCP) の補助がなくても、LU  
1 対 LU セッションを活動化できる論理装置。ILU は、SSCP-to-LU セッションをもたない。38 ページの『従属論理  
1 装置 (dependent logical unit)』および 36 ページの『システム・サービス制御点 (system services control point)』も参  
1 照。

7 **特権 (privilege).** (1) 特定の 방법으로特定のデータベース・オブジェクトにアクセスする権利。特権は、SYSADM (シ  
7 ステム管理者) 権限または DBADM (データベース管理者) 権限を持つユーザーによって制御される。また、オブジェ  
7 クト作成者によっても制御される。特権には、たとえば表のデータを作成、削除、検索する権限がある。(2) DB2  
Universal Database for z/OS and OS/390 では、特定の機能を (たとえば特定のオブジェクトに対して) 実行する能力。  
83 ページの『明示特権 (explicit privilege)』、4 ページの『暗黙特権 (implicit privilege)』、および 23 ページの『権限  
(authority)』も参照。

7 **特権セット (privilege set).** 定義済み SYSADM ID の場合、可能なすべての特権のセット。その他の許可 ID の場  
7 合、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 カタログ内のその ID について記録されているすべての特権のセッ  
1 ト。

**トポロジー・ルーティング・サービス (TRS) (topology and routing services (TRS)).** トポロジー・データベース  
を管理し、経路を計算する APPN 制御点のコンポーネント。

1 **ドメイン (domain).** 共通プロトコルで単位として管理されるネットワークの一部。

7 **ドメイン・ネーム (domain name).** Internet プロトコルのセットで、ホスト・システムの名前。ドメイン・ネーム  
7 は、一連のサブネームとそれらを区切る文字で構成される。たとえば、www.ibm.com。

7 **ドメイン・ネーム・サーバー (domain name server (DNS)).** ドメイン・ネームを IP アドレスにマッピングするこ  
7 とで名前をアドレスに変換するサーバー・プログラム。

7 **トランザクション (transaction).** (1) 1 つの作業論理単位を形成する一連の個別の SQL ステートメント。トランザ  
7 クション内で行われるデータ変更は、すべていっしょに 1 単位としてコミットまたはロールバックされる。31 ペー  
7 ジの『作業単位 (unit of work)』の同義語。(2) 特定のアクションまたは結果を実行する、サーバーとプログラム、2  
7 つのサーバー、または 2 つのプログラム間の交換。トランザクションの例には、たとえばカスタマーの預金の入力お  
7 よびカスタマーの貸借の更新などがある。

7 **トランザクション整合レプリケーション (transaction-consistent replication).** SQL レプリケーションにおける処理  
7 タイプの 1 つで、トランザクションのすべての更新内容の最終結果がターゲット表に複製されること。『トランザク  
7 ション・ベース・レプリケーション (transaction-based replication)』と対比。

**トランザクション・プログラム (TP) (transaction program (TP)).** APPC を使用してパートナー・アプリケーション  
・プログラムと通信するアプリケーション・プログラム。

**トランザクション・プログラム名 (transaction program name).** SNA LU 6.2 の会話では、会話の相手方となるリ  
モート論理装置のプログラムの名前。

7 **トランザクション・ベース・レプリケーション (transaction-based replication).** SQL レプリケーションにおける処  
7 理タイプの 1 つで、各トランザクションがソース表でコミットされたときにターゲット表に複製すること。『トラン  
7 ザクション整合レプリケーション (transaction-consistent replication)』と対比。

**トランザクション・マネージャー (transaction manager).** トランザクションに ID を割り当て、進行状況をモニタ  
ーし、トランザクションの完了および障害リカバリーの責任を持つ機能。

**トランザクション・マネージャー・データベース (TM Database) (Transaction Manager Database (TM Database))**. 2 フェーズ・コミット (SYNCPOINT TWOPHASE) が DB2 データベースで使用される場合に、トランザクションをログに記録するために使用するデータベース。トランザクション障害の発生時には、TM データベース情報がアクセスされ、失敗したトランザクションに組み込まれていたデータベースが再同期化される。

**トランザクション・モード処理 (transaction-mode processing)**. SQL レプリケーションにおけるレプリケーション・サブスクリプション・セット処理の 1 つのタイプ。アプライ・プログラムがソース CD 表からデータを検索した後、ソースと同じコミット順序でデータをターゲット表に適用すること。アプライ・プログラムは、順次ではなく、すべてのサブスクリプション・セット・メンバーのトランザクションをまとめて処理する。71 ページの『表モード処理 (table-mode processing)』と対比。

**トランザクション・ロック (transaction lock)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SQL ステートメントの並行実行を制御するために使用されるロック。

**トランスフォーマー (transformer)**. ウェアハウス・データに対して操作を行うプログラム。データウェアハウス・センターの提供するトランスフォーマーには 2 つのタイプがある。1 つはデータに関する統計を 1 つまたは複数の表で提供する統計トランスフォーマー、もう 1 つは、分析用にデータを加工するウェアハウス・トランスフォーマーである。トランスフォーマーには、ステップが実行するデータ操作のタイプに対して、対応するステップ・タイプがある。たとえば、クリーン・ステップは「データのクリーン」トランスフォーマーを使用する。

**トランスフォーメーション (transformation)**. データウェアハウス・センターで、データに対して行われる 1 回の操作。トランスフォーメーションのタイプには、ピボットおよびクレンジングがある。

**トランスフォーメーション・リレーションシップ・カテゴリー (transformation relationship category)**. インフォメーション・カタログ・センターでは、トランスフォーメーション・オブジェクトをデータ・リソースに接続するリレーションシップ・タイプのカテゴリーを指す。たとえば、トランスフォーメーション・オブジェクトをファイル・オブジェクトに接続することができる。このカテゴリーのリレーションシップに接続したオブジェクトは、インフォメーション・カタログ・センターの「リネージュ・ツリーの表示」ウィンドウに表示される。

**トリガー SQL ステートメント (triggered SQL statements)**. トリガーが起動され、そのトリガー・アクション条件が真の場合に実行される、一連の SQL ステートメント。トリガー SQL ステートメントを、トリガー本体 (trigger body) ともいう。『トリガー (trigger)』、62 ページの『トリガー・アクション (triggered action)』、および 62 ページの『トリガー・アクション条件 (triggered action condition)』も参照。

**トリガー (trigger)**. 1 つの基本表または基本ビューに関連付けられ、規則を定義するデータベース・オブジェクト。規則には、関連した基本表または基本ビューに対してデータベース操作 (挿入、更新、または削除) が発生した場合に実行される一連の SQL ステートメントが含まれる。47 ページの『挿入トリガー (insert trigger)』および 107 ページの『INSTEAD OF トリガー (instead of trigger)』も参照。

**トリガー起動 (trigger activation)**. トリガー定義の中で定義されているトリガー・イベントの実行時に発生するプロセスのこと。トリガー起動は、トリガー・アクション条件の評価と、トリガー SQL ステートメントの条件付き実行から構成される。『トリガー (trigger)』、62 ページの『トリガー・イベント (trigger event)』、および『トリガー起動時間 (trigger activation time)』も参照。

**トリガー起動時間 (trigger activation time)**. トリガー定義において、トリガー・イベントに関連したトリガーがいつ活動化されるかを指定すること。トリガー起動時間は、トリガー・イベントの前または後と指定できる。『トリガー (trigger)』、62 ページの『トリガー・イベント (trigger event)』、『トリガー起動 (trigger activation)』、80 ページの『変更前トリガー (before trigger)』、および 80 ページの『変更後トリガー (after trigger)』も参照。

**トリガー細分性 (trigger granularity)**. トリガー定義において、トリガー・イベントの 1 つのインスタンスに対してどれほどの頻度でトリガーを活動化するか指定すること。トリガー細分性は、トリガー元 SQL ステートメントごとに一度、またはトリガー元 SQL ステートメントによって変更される各行ごとに一度と指定することができる。『トリガー (trigger)』および 62 ページの『トリガー・イベント (trigger event)』も参照。

**トリガーのカスケード (cascading trigger)**. 62 ページの『トリガー・カスケード (trigger cascading)』を参照。

- 7 トリガー本体 (**trigger body**). 61 ページの『トリガー SQL ステートメント (triggered SQL statements)』を参照。
- 1 トリガー元 SQL 操作 (**triggering SQL operation**). サブジェクト表に対して実行されたときにトリガーの起動のきっかけとなる SQL 操作。
- 7 トリガー・アクション (**triggered action**). トリガー・イベントが発生し、トリガーが起動されたときに実行される SQL 論理。トリガー・アクションは、オプションの 1 つのトリガー・アクション条件と、トリガー・アクション条件が真の場合にのみ実行される一連のトリガー SQL ステートメントで構成される。61 ページの『トリガー (trigger)』、『トリガー・イベント (trigger event)』、『トリガー・アクション条件 (triggered action condition)』、および 61 ページの『トリガー SQL ステートメント (triggered SQL statements)』も参照。
- 7 トリガー・アクション条件 (**triggered action condition**). WHEN 文節によってインプリメントされる、トリガー・アクション内のオプション・プール検索条件。トリガー・アクションのトリガー SQL ステートメントを実行すべきかどうかを判断するために、DB2 Universal Database がこれを評価する。61 ページの『トリガー (trigger)』、『トリガー・アクション (triggered action)』、および 61 ページの『トリガー SQL ステートメント (triggered SQL statements)』も参照。
- 7 トリガー・イベント (**trigger event**). CREATE TRIGGER ステートメントにおいて、トリガーを起動する、指定された表に対する挿入、更新、または削除操作を指定すること。61 ページの『トリガー (trigger)』、61 ページの『トリガー起動 (trigger activation)』、および 61 ページの『トリガー起動時間 (trigger activation time)』も参照。
- 1 トリガー・カスケード (**trigger cascading**). 1 つのトリガーのトリガー・アクションによって別のトリガーが起動されるときに発生する処理。
- 1 トリガー・パッケージ (**trigger package**). CREATE TRIGGER ステートメントの実行時に作成されるパッケージ。このパッケージは当該トリガーが起動されたときに実行される。
- 1 取り消し (**revoke**). 特権または権限を許可 ID から除くこと。
- 1 取り消し (**undo**). (1) 最後に行われた編集を回復すること。(2) リカバリー可能な DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 リソースに対してリカバリー単位が行った変更はバックアウトしなければならないことを示す、リカバリー単位の状態。
- 7 トレース (**trace**). (1) 監査、パフォーマンス、アカウントिंग、統計、および保守容易性 (グローバル) 関連のデータをモニターし、収集するための DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 機能。(2) DB2 レプリケーションでは、キャプチャー・プログラム、Q キャプチャー・プログラム、アプライ・プログラム、Q アプライ・プログラム、またはレプリケーション・アラート・モニター用のモニター、監査、およびパフォーマンス・データを収集する機能。
- 1 ドレイン (**drain**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、オブジェクトへのアクセスを静止させることにより、ロックされたリソースを獲得すること。22 ページの『クレーム (claim)』も参照。
- ドレイン・ロック (**drain lock**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、クレームの発生を防ぐ、クレーム・クラスへのロック。

## [ナ行]

- 7 内部 CCD 表 (**internal CCD table**). 登録済みレプリケーション・ソースではないため、サブスクリプションできない CCD 表。内部 CCD 表は、関連した登録済みレプリケーション・ソースの行の CCD\_OWNER および CCD\_TABLE 列によって識別される。10 ページの『外部 CCD 表 (external CCD table)』と対比。43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』も参照。

**内部結合 (inner join)**. 結合しようとするすべての表に共通していない列を、処理結果の表からドロップするような結合方式。23 ページの『結合 (join)』を参照。11 ページの『外部結合 (outer join)』も参照。

1 内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) (internal resource lock manager (IRLM)). データへのシリアル・アクセスを許可する DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 コンポーネント。DB2 は、アプリケーション、ユーティリティ、およびコマンドが同じデータにアクセスしようとする時に、データ保全性を保証する IRLM からのロックを要求する。

長さ属性 (length attribute). スtringの宣言された固定長または最大長を表す、Stringに関連した値。

日時値 (datetime value). データ・タイプ DATE、TIME、または TIMESTAMP の値。

1 ニックネーム (nickname). (1) フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソース上のオブジェクトを参照するために照会で使用される ID。ニックネームが識別するオブジェクトは、データ・ソース・オブジェクトとして参照される。データ・ソース・オブジェクトの例としては、表、ビュー、同義語、表構造のファイル、および検索アルゴリズムが含まれる。(2) DB2 以外のリレーショナル・データベースの物理データベース・オブジェクト (たとえば表やストアド・プロシージャ) を表すために、DB2 Information Integrator で定義される名前。

1 入力リレーションシップ・タイプ (input relationship type). インフォメーション・カタログ・センターで、オブジェクトの入力データ・リソースにトランスフォームするオブジェクトに接続するために使用される。61 ページの『トランスフォーメーション・リレーションシップ・カテゴリー (transformation relationship category)』を参照。90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。

1 認証 (authentication). システムがユーザーの識別を検査する処理。ユーザー認証は、DB2 Universal Database の外側にあるセキュリティ機能によって実施される。この機能はオペレーティング・システムの一部または別の製品であることが多い。

7 認証タイプ (authentication type). インスタンスまたはサブシステムによって使用される、事前定義された特定数の方式のうちいずれか 1 つ。インスタンスやサブシステム (または、インスタンスやサブシステム内に存在するすべてのオブジェクト) の使用がユーザーにどのように許可されるか、およびどの部分の使用が許可されるかの認証を決定する。

ヌル (null). 情報が存在しないことを示す特殊な値。

7 ネームスペース (namespace). XML における Uniform Resource Identifier (URI) で、スキーマ内のすべてのエレメントと型定義に関連付けられるユニーク名を提供する。

7 ネストされたセーブポイント (nested savepoint). 他のセーブポイントに含まれる (つまり、内部に位置する) セーブポイント。アプリケーションはネストされたセーブポイントを使用して、多数のレベルのセーブポイントを同時にアクティブにすることができ、必要に応じて任意のアクティブ・セーブポイントにロールバックできる。

1 ネストされた表の式 (nested table expression). FROM 文節の全選択項目 (括弧で囲まれている)。

7 ネットワーク ID (NID) (network identifier (NID)). z/OS または OS/390 環境において、IMS または CICS によって割り当てられるネットワーク ID。または、接続タイプが RRSF である場合は、z/OS および OS/390 リカバリー単位 ID (URID)。

ネットワーク修飾名 (network-qualified name). 相互接続 SNA ネットワーク内で知られている LU の名前。ネットワーク修飾名は、各サブネットワークを識別するネットワーク名およびネットワーク LU 名で構成されている。また、ネットワーク修飾名は相互接続ネットワーク内でユニークな名前である。「ネットワーク修飾 LU 名 (network-qualified LU name)」または「完全修飾 LU 名 (fully qualified LU name)」ともいう。

7 ネットワーク情報サービス (NIS/NIS+) (Network Information Service (NIS/NIS+)). AIX における、パスワード、ノード、その他の関連データに関する中央記録。ユーザーおよびグループ名の管理のためにこれを DB2 Administration Server で使用できる。

1 ネットワーク名 (network name). SNA において、ユーザーがネットワーク・アドレス可能単位 (NAU)、リンク・ステーション、またはリンクを参照するときに使用するシンボル名。

## 用語集

**ネットワーク・アドレス (network address).** ネットワーク内のノードの ID。

**ネットワーク・アドレス可能単位 (NAU) (network addressable unit (NAU)).** パス制御ネットワークによって伝送される情報の発信元または宛先。NAU は、論理装置 (LU)、物理装置 (PU)、制御点 (CP)、またはシステム・サービス制御点 (SSCP) のいずれか。63 ページの『ネットワーク名 (network name)』も参照。

**ネットワーク・サービス (network services).** SSCP-SSCP、SSCP-PU、SSCP-LU および CP-CP セッション中のネットワーク操作を制御するネットワーク・アドレス可能単位のサービス。

**ネットワーク・ノード (NN) (network node (NN)).** APPN では、分散ディレクトリー・サービス、他の APPN ネットワーク・ノードとのトポロジー・データベースの交換およびセッション・ルーティング・サービスを提供するネットワーク上のノード。12 ページの『拡張対等ネットワーク機能 (Advanced Peer-to-Peer Networking)』も参照。

**ネットワーク・ノード・サーバー (network node server).** ローカル論理装置および隣接するエンド・ノードに対してネットワーク・サービスを提供する APPN ネットワーク・ノード。

**ノード (node).** (1) 通信では、通信リンクの端点またはネットワーク内の複数のリンクに共通の接合点。ノードになるのは、処理装置、通信コントローラー、クラスター・コントローラー、端末またはワークステーション。ルーティングおよび他の機能性は、ノードごとに異なる。(2) ハードウェアでは、クラスター・システムまたは大量並列処理 (MPP) システムの一部である、単一プロセッサ・コンピューターまたは対称マルチプロセッサ (SMP) コンピューター。たとえば、RS/6000® SP™ は高速ネットワークによって接続されたいくつかのノードから成る MPP システムである。(3) 「データベース・パーティション」の旧用語。55 ページの『データベース・パーティション (database partition)』を参照。

**ノード・グループ (nodegroup).** 「データベース・パーティション・グループ」の旧用語。55 ページの『データベース・パーティション・グループ (database partition group)』を参照。

**ノード・ディレクトリー (node directory).** クライアント・ワークステーションから該当するすべてのデータベース・サーバーへの接続を確立するために必要な情報があるディレクトリー。

**ノンリーフ・ページ (nonleaf page).** 索引中に他のページ (リーフ・ページ、またはノンリーフ・ページ) のキーおよび番号を含んでいるページ。ノンリーフ・ページは実データを指すことはない。87 ページの『リーフ・ページ (leaf page)』も参照。

## [八行]

**バージョン (version).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、同じようなプログラム、DBRM、パッケージ、または LOB からなる集合のメンバー。たとえば、

• プログラムのバージョンは、プログラムのプリコンパイルによって作成されたソース・コード。プログラムのバージョンは、プログラム名とタイム・スタンプ (整合性トークン) によって識別される。

• DBRM のバージョンは、プログラムのプリコンパイルによって作成される DBRM。DBRM のバージョンは、対応するプログラムのバージョンと同じプログラム名およびタイム・スタンプによって識別される。

• パッケージのバージョンは、特定のデータベース・システム内の DBRM をバインドした結果である。パッケージのバージョンは、DBRM と同じプログラム名および整合性トークンによって識別される。

• LOB のバージョンは、ある時点における LOB 値のコピーである。LOB のバージョン番号は、その LOB に関する補助索引項目の中に保管されている。

**バージョン・リカバリー (version recovery).** バックアップ操作中に作成されたイメージを使用して、データベースの前のバージョンをリストアすること。21 ページの『クラッシュ・リカバリー (crash recovery)』および 94 ページの『ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery)』も参照。

7 **パーティション (partition).** z/OS または OS/390 環境における、ページ・セットの一部分。各パーティションは、単一の、独立して拡張できるデータ・セットに対応する。パーティションのサイズは、パーティション・ページ・セット内のパーティションの数に応じて、最大 1、2、または 4 ギガバイトに拡張できる。1 つのページ・セットのすべてのパーティションは同じ最大サイズを持つ。

7 **パーティション化索引 (partitioned index).** 物理的にパーティション化される索引。パーティション化索引と副次索引のどちらもパーティション化することができる。

7 **パーティション間並列処理 (inter-partition parallelism).** パーティション・データベースの複数パーティションにまたがり、並列して実行される単一のデータベース操作 (索引作成など)。『パーティション内並列処理 (intra-partition parallelism)』も参照。

1 **パーティション互換性結合 (partition-compatible join).** 結合されるすべての行が同じデータベース・パーティションに置かれる結合。23 ページの『結合 (join)』および 27 ページの『コロケートド結合 (collocated join)』も参照。

7 **パーティション索引 (partitioning index).** 左端の列が表のパーティション列である索引。索引をパーティション化または非パーティション化することができる。

7 **パーティション整理 (partition pruning).** 該当しないパーティションを考慮して除外すること。パーティション表に対する照会で述部を設定することにより、照会を満たす特定のパーティションだけにアクセスする。

1 **パーティション内並列処理 (intra-partition parallelism).** シングル・データベース操作 (索引作成など) を複数パーティションに分割する。その後、シングル・データベース・パーティション内で並列に実行される。『パーティション間並列処理 (inter-partition parallelism)』も参照。

7 **パーティション表スペース (partitioned table space).** z/OS または OS/390 環境において、(索引キー範囲に基づいて) 部分に分割された表スペース。ユーティリティによってそれぞれを個別に処理できる。

1 **パーティション・エージェント (partitioning agent).** オートローダー内で、ロード用パーティション・ファイルを作成するために使用される処理。入力ファイルを分割またはパーティションすることによって実行される。

**パーティション・キー (partitioning key).** (1) 任意の表の 1 つまたは複数の列の順序セット。表の各行ごとに、行が属するデータベース・パーティションがどれかを判別するためにパーティション・キー列の値が使用される。(2) レプリケーションでは、表内での 1 つまたは複数の列の順序セット。ソース表内の各行ごとに、行が属するターゲット表がどれかを判別するためにパーティション・キー列の値が使用される。

1 **パーティション・データベース (partitioned database).** 複数のデータベース・パーティションをもつデータベース。データベース・パーティションはそれぞれ常駐する表ごとの表データのサブセットを保管する。55 ページの『データベース・パーティション (database partition)』を参照。

7 **パーティション・データ・セット (partitioned data set (PDS)).** z/OS または OS/390 環境において、パーティション (これをメンバーという) に分けられた直接アクセス記憶装置のデータ・セット。各パーティションには、プログラム、プログラムの一部、またはデータが格納される。「プログラム・ライブラリー (program library)」の同義語。

7 **パーティション・ページ・セット (partitioned page set).** z/OS または OS/390 環境におけるパーティション表スペースまたは索引スペース。ヘッダー・ページ、スペース・マップ・ページ、データ・ページ、および索引ページは、パーティションの有効範囲内のデータだけを参照する。

**パーティション・マップ (partitioning map).** パーティション・マップ索引をデータベース・パーティション・グループ内のデータベース・パーティションにマップする、パーティション番号のベクトル。

**パーティション・マップ索引 (partitioning map index).** ハッシュ区分化または範囲の区分化に割り当てられた番号。

## 用語集

**パートナー論理装置 (LU) (partner logical unit (LU)).** (1) SNA では、セッション内のリモート参加者。(2) VTAM 会話によってローカル DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に接続された、SNA ネットワーク内のアクセス・ポイント。

**倍精度浮動小数点数 (double-precision floating point number).** SQL では、実数の 64 ビットによる近似表現。

1 **排他ロック (exclusive lock).** 実行中のアプリケーション・プロセスがデータベース・データにアクセスしないようにするロック。 19 ページの『共有ロック (shared lock)』も参照。

7 **バイト反転 (byte reversal).** 最下位のバイトから先に数値データを保管する技法。 最下位バイトとは数値の中で最も低いバイトで、ストリングの最も右に位置する。

**バイナリー整数 (binary integer).** 基本データ・タイプの 1 つ。これは、さらに短精度整数と長精度整数に分類することができる。

1 **バイナリー・ストリング (binary string).** CCSID と関連付けられていない一連のバイト。たとえば、BLOB データ・タイプはバイナリー・ストリングである。 99 ページの『coded character set identifier』も参照。

7 **バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object (BLOB)).** 0 バイトから 2 ギガバイト未満までのサイズのバイト・シーケンスを含むデータ・タイプ。このストリングには、関連したコード・ページおよび文字セットがない。 BLOB には、イメージ、オーディオ、およびビデオ・データを入れることができる。 84 ページの『文字ラージ・オブジェクト (character large object)』および 98 ページの『2 バイト文字ラージ・オブジェクト (double-byte character large object)』も参照。

7 **ハイパースペース (hyperspace).** DB2 UDB for z/OS バージョン 8 より前のリリースにおいて、プログラムがデータ・バッファーとして使用できる 2 GB までの連続する仮想ストレージ・アドレスが含まれるストレージ・スペース。 アドレス・スペースと同様に、ハイパースペースはユーザー・データを保持できるが、共通域やシステム・データを含まない。また、アドレス・スペースまたはデータ・スペースとは異なり、ハイパースペースのデータに直接アクセスすることはできない。ハイパースペースのデータを操作するには、データを 4 KB ブロックにしてアドレス・スペースに入れる必要がある。

1 **ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HTML) (Hypertext Markup Language (HTML)).** SGML 標準に準拠するマークアップ言語で、主な目的は、ハイパーテキスト・リンクを含むテキストおよびグラフィカルな情報をオンラインで表示すること。 HTML は Web 文書で使用される主要なマークアップ言語である。

**バインド (bind).** 出力を SQL コンパイラーからアクセス・プラン、アプリケーション・プラン、またはパッケージなどの使用可能な制御構造に変換すること。 バインド処理の際には、データへのアクセス・パスが選択され、許可検査が実行される。 30 ページの『再バインド (rebind)』、 36 ページの『自動再バインド (automatic rebind)』、 59 ページの『動的バインド (dynamic bind)』、 47 ページの『増分バインド (incremental bind)』、 44 ページの『静的バインド (static bind)』も参照。

1 **バインド・ファイル (bind file).** PRECOMPILE コマンドまたは個々の API で BINDFILE オプションを使用したときにプリコンパイラーが作成するファイル。

**パケット (packet).** データ通信では、バイナリー数字の列。複合体全体として送信され切り替えられるデータおよび制御信号を含んでいる。

1 **パス (path).** (1) オペレーティング・システムでは、ファイル・システムから特定のファイルへの経路を指す。(2) ネットワーク環境では、任意の 2 つのノード間の経路を指す。 113 ページの『SQL パス (SQL path)』も参照。

1 **パススルー (pass-through).** フェデレーテッド・システムにおける特別な DB2 Universal Database セッション。データ・ソースに関連した SQL ダイアレクトを使用して、SQL ステートメントを DBMS に直接サブミットすること。 DB2 SQL/API で実行できない操作や、SQL でサポートされないアクションを実行したい場合に、パススルー・セッションを使用する。



1 **派生データ (derived data).** インフォメーション・カタログ・センターで、操作可能データ・ソースから通知データ  
1 ベースへコピーまたは拡張された (データの要約による可能性がある) データを指す。

1 **バックアウト (backout).** アプリケーション・プロセスが行った非コミット変更を取り消す処理。バックアウトは、  
1 アプリケーション・プロセスの一部に障害が発生したとき、またはデッドロック状態の結果として必要になる。 94 ペ  
1 ージの『ロールバック (roll back)』も参照。

1 **バックアウト・フリー・インターバル (backout free interval).** トランザクションがアボートした場合に補正されな  
1 いログ・レコードの集合。『バックアウト (backout)』も参照。

1 **バックアップ (backup).** データベースまたは表スペースのコピー。別のメディアに保管可能であり、オリジナルに対  
1 して障害または損傷が起きた場合に、データベースまたは表スペースをリストアするために使用される。

**バックアップ・ペンディング (backup pending).** データベースまたは表スペースの状態。データベースまたは表ス  
ペースがバックアップされるまで操作は行われない。

**パッケージ (package).** (1) SQL ステートメントを実行するために使用されるプログラム準備中に作成される制御構  
1 造。 (2) Java プログラミングでは、Java アプリケーションのディレクトリー構造またはライブラリー内にある Java  
1 クラスのロケーションを定義するプログラミング・ステートメントを指す。

1 **パッケージ名 (package name).** BIND PACKAGE または REBIND PACKAGE コマンドによって作成されたオブジ  
1 ェクトの名前。オブジェクトは、データベース要求モジュール (DBRM) のバインド済みバージョンである。この名  
1 前は、ロケーション名、コレクション ID、パッケージ ID、およびバージョン ID から構成される。

**パッケージ・リスト (package list).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、アプリケーション・プラン  
を拡張する際に使用できる、パッケージ名の順序付きリスト。

7 **発行キュー・マップ (publishing queue map).** イベント発行におけるオブジェクトの 1 つ。メッセージ送信用の送  
7 信キューを含み、送信キューを使用するすべてのトランザクションを Q キャプチャー・プログラムがどのように扱う  
7 かの設定を含む。 92 ページの『レプリケーション・キュー・マップ (replication queue map)』および 18 ページの『キ  
7 ュー・マップ (queue map)』も参照。

**ハッシュ・パーティション (hash partitioning).** ハッシュ関数をパーティション・キー値に適用して、行を割り当て  
るデータベース・パーティションを判別するパーティションの手法。

7 **バッファー・プール (buffer pool).** データ・ページに対する読み取り、変更、および処理中の保留が行われるメモリ  
7 領域。

7 **バッファー・マニピュレーター (buffer manipulator).** データベースからの読み取りまたはデータベースへの書き込  
7 みを行うために、バックアップおよびリストア操作で使用される処理。

7 **パネル (panel).** フォーマットされた情報を表示する画面。

7 **パフォーマンス変数 (performance variable).** データベース・マネージャーから取得されるパフォーマンス・デー  
7 タから派生する統計。この変数の式はユーザーによって定義することができる。

**パフォーマンス・スナップショット (performance snapshot).** ある時点でデータベース・マネージャーから検索さ  
れた一連のデータベース・オブジェクトのためのパフォーマンス・データ。

**パフォーマンス・メトリックス (performance metrics).** 同じデータベース・オブジェクトに属するパフォーマンス  
変数の集合。

**パラメーター化データ・タイプ (parameterized data type).** 任意の長さ、スケールまたは精度に定義できるデー  
タ・タイプ。ストリングまたは 10 進データ・タイプがパラメーター化される。

1 **パラメーター名 (parameter-name).** プロシージャーまたはユーザー定義関数で参照される、パラメーター名を指定す  
る長 ID。

## 用語集

**パラメーター・マーカ (parameter marker).** 動的 SQL ステートメントのストリングに含まれる疑問符 (?). 疑問符は、ステートメント・ストリングが静的 SQL ステートメントの場合、ホスト変数が存在する可能性のある場所に現れる。

1 **パワー・ユーザー (power user).** オブジェクトの作成や更新など、いくつかのオブジェクト管理タスクを実行する特別な特権を与えられたユーザー。 85 ページの『ユーザー (user)』を参照。

7 **範囲クラスター表 (RCT) (range-clustered table (RCT)).** 表の 1 つまたは複数の列にまたがるデータが強固にクラスタ化されている表。表の各レコードには、表の論理的開始点からの事前決定された相対位置が含まれ、これによって迅速なデータ・アクセスが可能になる。

**ハンドル (handle).** (1) ソフトウェア・システム内の内部構造を表す変数。 (2) 表内のイメージ、オーディオ、またはビデオ・オブジェクトを表すために使う、エクステンダーによって作成される文字ストリング。オブジェクトのハンドルは、ユーザー表と管理サポート表に保管される。この方法でエクステンダーは、ユーザー表に保管されているハンドルと、管理サポート表に保管されているオブジェクトに関する情報とリンクする。 (3) テキスト文書を識別するバイナリー値。テキスト列が DB2 Net Search Extender で使用可能な場合、テキスト列内の各テキスト文書ごとにハンドルが作成される。

**反復可能読み取り (RR) (repeatable read (RR)).** トランザクション中に参照される、アプリケーション内の行すべてをロックする分離レベル。プログラムが反復可能読み取り保護を使用する場合、プログラムによって参照される行は、そのプログラムが現在のトランザクションを終了しない限り他のプログラムによって変更できない。 87 ページの『読み取り固定 (RS) (read stability)』、69 ページの『非コミット読み取り (UR) (uncommitted read (UR))』、および 10 ページの『カーソル固定 (cursor stability)』も参照。

7 **汎用トレース機能 (GTF) (generalized trace facility (GTF)).** z/OS または OS/390 環境において、入出力割り込み、SVC 割り込み、プログラム割り込み、または外部割り込みなどの重要なシステム・イベントを記録するサービス・プログラム。

7 **汎用リソース名 (generic resource name).** z/OS または OS/390 環境の VTAM によって使用される名前。並列シプレックス環境でセッションの分散と平衡化を処理するために同じ機能を提供するいくつかのアプリケーション・プログラムを表す。

1 **非 deterministic 関数 (not deterministic function).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、結果が入力引き数の値だけに依存するわけではないユーザー定義関数。同じ引き数値を使用して連続的に呼び出した場合に異なる応答を生成する可能性がある。このタイプの関数を 13 ページの『可変関数 (variant function)』ともいう。 103 ページの『deterministic 関数 (deterministic function)』と対比。

7 **ピース (piece).** z/OS または OS/390 環境において、非パーティション化ページ・セットに含まれるデータ・セット。

7 **ヒープ (heap).** 特定のコンポーネントの必要を満たす、メモリー内の論理グループ。たとえば、ユーティリティー・ヒープ・メモリーはバックアップ、リストア、ロードなどの DB2 ユーティリティーによって使用される。

1 **比較演算子 (comparison operator).** 比較演算子には、 $\neq$  (より小さくない)、 $<$  (より小さい)、 $\leq$  (より小か等しい)、 $\neq$  (等しくない)、 $=$  (等しい)、 $\geq$  (より大か等しい)、 $>$  (より大)、 $\neq$  (より大きくない) がある。 47 ページの『挿入演算子 (infix operator)』も参照。

**比較述部 (quantified predicate).** ある値を値の集合と比較する述部。

1 **非可変関数 (not variant function).** 103 ページの『deterministic 関数 (deterministic function)』の同義語。 13 ページの『可変関数 (variant function)』も参照。

**引き数 (argument).** ランタイムに関数またはプロシージャに渡される値、または戻される値。

1 **非コミット確約 (possibly uncommitted).** キーの追加や削除に関する COMMIT が完了したかどうか判別できない索引キーに対して、索引マネージャーが割り当てる状態。

**非コミット読み取り (UR) (uncommitted read (UR)).** アプリケーションが他のトランザクションの非コミット変更  
にアクセスするのを可能にする分離レベル。他のアプリケーションが表を消去または変更しようとし  
ない限り、アプリケーションは自分が読み取っている行以外のアプリケーションをロックしない。68  
ページの『反復可能読み取り (repeatable read)』、10ページの『カーソル固定 (cursor stability)』、  
および87ページの『読み取り固定 (RS) (read stability)』も参照。

7 **非コンデンス CCD 表 (noncondensed CCD table).** SQL レプリケーションにおいて、キー値ごとに複数の行を含  
むことができる CCD 表。これらの重複行は、表の行に含まれる値の変更履歴を表す。28ページの『  
コンデンス CCD 表 (condensed CCD table)』と対比。43ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』も参照。

**非コンデンス属性 (noncondensed attribute).** 現在のデータではなく、データの変更の履歴を含む表であることを示  
す表属性。この属性を持つ表では、キー値に複数の行が組み込まれている。

7 **非コンプリート CCD 表 (noncomplete CCD table).** SQL レプリケーションにおける CCD 表の 1 つ。初期状態は  
空で、レプリケーション・ソースに変更が行われるにつれて行が追加されていく。29ページの『  
コンプリート CCD 表 (complete CCD table)』と対比。43ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』も参照。

1 **ビジネス名 (business name).** データウェアハウス・センターでは、物理名も持つオブジェクトに関連付けられる記  
述名。ビジネス名を持つことのできるオブジェクト・タイプは、表、ファイル、列またはフィールドである。検索で  
ビジネス名を使用できる。さらに、ウェアハウス・メタデータ交換機能からエンド・ユーザー・ツールにも渡される。

1 **ビジネス・ディメンション (business dimension).** 製品や時間枠など、組織による分析対象となるデータのカテゴリ  
ー。57ページの『ディメンション (dimension)』および82ページの『マルチディメンション分析 (multidimensional  
analysis)』も参照。

1 **ビジネス・メタデータ (business metadata).** 情報資産をビジネス用語によって記述したデータ。ビジネス・メタデ  
ータはインフォメーション・カタログに保管され、ユーザーが必要に応じてこれを検索し、アクセスする。たと  
えば、プログラムのビジネス・メタデータには、そのプログラムの機能およびプログラムが使用する表につ  
いての記述が含まれる。57ページの『テクニカル・メタデータ (technical metadata)』も参照。

7 **非常時接続 (occasionally connected).** SQL レプリケーションにおいて、常にネットワークに接続しているわけ  
ではないターゲット・サーバーが含まれるレプリケーション構成。この構成により、ユーザーはローカル・データ  
ベースをソースのデータと同期化するために、基本データ・ソースに短時間接続することができる。

1 **非正規化 (denormalization).** 複数の表で列を意図的に重複させることで、この結果データ冗長度が増す。パ  
フォーマンス上の問題を最小化するために必要なこともあり、物理的なりレーショナル・データベース設計  
にはキー・ステップである。43ページの『正規化 (normalization)』も参照。

1 **左外部結合 (left outer join).** 結合操作の結果、結合対象の両方の表の一致した行が含まれ、不一致  
行のうち最初の表の行が保持されること。23ページの『結合 (join)』を参照。83ページの『右外部結合 (right  
outer join)』および45ページの『全外部結合 (full outer join)』も参照。

7 **ビッグ・エンディアン (big endian).** バイナリー・データを保管または伝送する形式の 1 つで、最上位  
ビット (またはバイト) が先頭に置かれる。

1 **日付 (date).** 日、月、および年を示す 3 つの部分から構成される値。たとえば、YYYY-MM-DD 形式。

**日付期間 (date duration).** 年、月、および日の数を表す DECIMAL(8,0) 値。

**ビット・データ (bit data).** 文字型 CHAR または VARCHAR を持つ、コード化文字セットに関連付けられない  
データ。このため、変換されることはない。

7 **非同期 (asynchronous).** イベントが時間の点で同期されないこと。または、イベントが定期的な時間  
間隔や予測可能な時間間隔で発生しないこと。データの入力後、指定されない時間が経過した後に  
プログラムがデータを読み取るような場合には、入力イベントは非同期である。58ページの『同期 (synchronous)』も参照。

## 用語集

- 1 非同期入出力 (**asynchronous I/O**). 複数ディスクにまたがる、読み取りおよび書き込み要求の非順次処理。
  - 7 非同期バッチ更新 (**asynchronous batched update**). ソースに対するすべての変更内容を記録し、それを指定の時間間隔で既存のターゲット・データに対して適用する処理。『非同期連続更新 (asynchronous continuous update)』も参照。
  - 7 非同期モード (**asynchronous mode**). 高可用性災害時リカバリー (HADR) の同期モードの 1 つ。関連するログ・データをトランザクションがネットワークにサブミットしたとき、1 次データベースはそのトランザクションがコミットされたと見なす。1 次データベースは、スタンバイ・システムがログ・データを受け取ったという確認通知を待たない。25 ページの『高可用性災害時リカバリー (HADR) (high availability disaster recovery (HADR))』および 48 ページの『対等状態 (peer state)』も参照。
  - 7 非同期レプリケーション (**asynchronous replication**). レプリケーションにおいて、ソース表を更新した元のトランザクションの有効範囲外にあるターゲット表へ、ソース表からデータをコピーする処理。59 ページの『同期レプリケーション (synchronous replication)』と対比。
  - 7 非同期連続更新 (**asynchronous continuous update**). ソースに対するすべての変更内容が基本表においてコミットされた後、それを記録し、指定の時間間隔で既存の宛先に対して適用する処理。『非同期バッチ更新 (asynchronous batched update)』も参照。
  - 7 非パーティション化索引 (**nonpartitioned index**). 物理的にはパーティション化されない索引。パーティション索引と副次索引のどちらも非パーティション化することができる。
  - 7 非パーティション索引 (**nonpartitioning index**). 73 ページの『副次索引 (secondary index)』を参照。
  - 7 非パーティション副次索引 (**NPSI**) (**nonpartitioned secondary index (NPSI)**). パーティション化されない副次索引。73 ページの『副次索引 (secondary index)』も参照。
- 1 ビュー (**view**). (1) 照会によって生成されるデータからなる論理表。ビューは基本表の基礎設定に基づき、ビュー内のデータは、基本表に対して実行される SELECT ステートメントによって決定される。基本表と対比。(2) オブジェクトに関する情報とオブジェクトに含まれる情報を参照する方法。それぞれのビューは、オブジェクトに関する異なった情報を示す場合がある。17 ページの『基本表 (base table)』も参照。
  - 7 ビュー・チェック・オプション (**view check option**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ビューを介して挿入または更新される行のすべてがそのビューの定義に従う必要があるかどうかを指定するオプション。ビュー・チェック・オプションは、CREATE VIEW ステートメントの CASCADED CHECK OPTION、WITH CHECK OPTION、または WITH LOCAL CHECK OPTION 文節を使用して指定することができる。
- 1 表 (**table**). 名前付きのデータ・オブジェクトで、特定の数の列およびいくつかの順不同の行で構成される。17 ページの『基本表 (base table)』、45 ページの『宣言済み一時表 (declared temporary table)』、および 4 ページの『一時表 (temporary table)』も参照。
  - 7 表関数 (**table function**). オptional の引き数を受け入れ、参照元の SQL ステートメントに表を戻す関数。表関数は、FROM 文節でのみ参照できる。14 ページの『関数 (function)』、38 ページの『集約関数 (aggregate function)』、41 ページの『スカラー関数 (scalar function)』、および 18 ページの『行関数 (row function)』も参照。
  - 1 表キュー (**table queue**). データベース・パーティション間で行を転送するメカニズム。表キューは、行の挿入および除去に関する単純化された規則のある分散表ストリームである。また、表キューは、単一パーティション・データベース内の異なる処理間で行を配送するためにも使用される。
  - 1 表コロケーション (**table collocation**). パーティション・データベース環境では、2 つの表が同じデータベース・パーティション・グループに保管され、互換性のあるパーティション・キーが同数である場合に発生する状態を指す。この状態が発生した場合、DB2 Universal Database は、データが保管されているデータベース・パーティションで結合または副照会処理を実行するよう選択できる。

1 **表式 (table expression).** 単純照会から一時結果表を作成する式。表式を使用して、たとえばいくつかの部門からすべての管理者を選択し、さらにこの中から、15年以上の勤務経験があり、主要な支店に配属されている管理者を指定して照会することができる。19ページの『共通表式 (common table expression)』も参照。

**標識変数 (indicator variable).** アプリケーション・プログラムで NULL 値を表す変数。選択された列の値が NULL であると、負の値が標識変数に入れられる。

**標識列 (indicator column).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、基本表内の LOB 列の 1 つに保管される 4 バイトの値のこと。

**表指定子 (table designator).** 特定のオブジェクト表を指定する列名修飾子。

7 **標準データベース (standard database).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、1 次データベースでもス  
7 タンバイ・データベースでもないデータベース。標準データベースは HADR 用には構成されない。

**表スペース (table space).** (1) データベース・オブジェクトが保管されるコンテナの集合を指す抽象概念。表スペースは、データベースとデータベースに保管されている表との間の間接参照レベルを提供する。メディア・ストレージ・デバイスのスペースが割り当てられる。表のデータ、索引、長フィールドおよび LOB 部分は同じ表スペースに保管できる。また、それぞれ別個の表スペースに保管することもできる。(2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、レコードを 1 つまたは複数の表に保管するときに使用するページ・セット。

1 **表スペース・コンテナ (table space container).** 表スペースへのスペースの割り振り。表スペース・タイプによ  
1 って、コンテナはディレクトリー、装置またはファイルとなる。

1 **表スペース・セット (table space set).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 における表スペースおよびパ  
1 ーティションの集合。集合内の他の表の親または子孫である表が含まれる場合や、基本表と関連する補助表が含まれる  
1 場合には、この集合をまとめて回復する必要がある。表スペース・セットは、上記の 2 つのタイプの関係を両方とも  
1 包含することができる。

7 **表制御パーティション (table-controlled partitioning).** パーティション化の 1 つのタイプで、CREATE TABLE ス  
7 テートメントで定義された値によってパーティション表のパーティション境界が制御される。

7 **表チェック制約 (table check constraint).** 50ページの『チェック制約 (check constraint)』を参照。

7 **表モード処理 (table-mode processing).** SQL レプリケーションにおけるレプリケーション・サブスクリプション・  
7 セット処理の 1 つのタイプ。アプライ・プログラムがソース CD 表からすべてのデータを検索した後、データを各タ  
7 ーゲット表に適用 (一度に 1 メンバーずつ) し、最終的にこの作業をコミットする。61ページの『トランザクシ  
7 ョン・モード処理 (transaction-mode processing)』と対比。

**表ロケータ (table locator).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SELECT ステートメントの  
FROM 文節および INSERT ステートメントの副選択の中で、または、ユーザー定義関数の内部から、トリガー遷移表  
にアクセスすることを可能にするメカニズム。表ロケータは、遷移表を表すフルワードの整数値である。

1 **表ロック (table lock).** 表のデータ上のロック。19ページの『行ロック (row lock)』および18ページの『行 ID  
1 (row identifier)』も参照。

**非累積バックアップ・イメージ (noncumulative backup image).** 33ページの『差分バックアップ (delta backup)』  
を参照。

1 **ブートストラップ・データ・セット (BSDS) (bootstrap data set (BSDS)).** DB2 Universal Database for z/OS and  
1 OS/390 の名前と状況情報が入っている VSAM データ・セット。加えて、すべてのアクティブ・ログ・データ・セッ  
1 トおよびアーカイブ・ログ・データ・セットに関する相対バイト・アドレス範囲指定も格納される。さらに、DB2  
1 Universal Database for z/OS and OS/390 ディレクトリーとカタログについてのパスワード、ならびに条件付き再始動お  
1 よびチェックポイント・レコードのリストも含まれる。

7 **プール (pool).** 68ページの『ヒープ (heap)』を参照。

## 用語集

1 **ファイル更新操作 (file update operations).** ファイルが変更される時に含まれるすべてのアクション。特に、ファイ  
1 ルが DATALINK タイプ列で参照され、DB2 Data Links Manager の制御下にある場合のアクションを指す。91 ペー  
1 ジの『リンク・ファイル (linked file)』も参照。

**ファイル参照変数 (file reference variable).** クライアント・メモリー・バッファーにではなく、クライアントのファ  
イル内にデータを常駐させるよう指示するのに使われるホスト変数。

1 **ファイル入力式 SQL 処理プログラム (SPUFI) (SQL Processor Using File Input (SPUFI)).** DB2 Universal  
1 Database for z/OS and OS/390 では、DB2I ユーザーが SQL ステートメントをアプリケーション・プログラムに組み  
1 込まずに実行できるようにする TSO アタッチ・サブコンポーネントの機能。

7 **ファイル割り振り表 (FAT) (file allocation table (FAT)).** ディスク上にファイル用のスペースを割り振り、ファイル  
7 を配置する表。

1 **ファイル・アクセス・トークン (file access token).** 87 ページの『読み取りトークン (read token)』を参照。

1 **ファクト表 (fact table).** (1) DB2 OLAP Server で、リレーショナル・キューブのすべての値を含む、表、または多  
1 数の場合、表の集合。(2) 販売個数または商品のコストなどのファクト (fact) が含まれるリレーショナル表と、ファク  
1 ト表をディメンション表にリンクする外部キー。

**フィールド・プロシージャー (field procedure).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、単一の値を受  
け取り、ユーザーが指定できる任意の方法でそれを変換 (エンコードまたはデコード) するように設計された、ユーザ  
ー作成の出力ルーチン。

1 **フィルター係数 (filter factor).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、述部が真である表の行の比率を  
1 見積もる 0 ~ 1 の数値。これらの行はその述部により限定するとされる。フィルター係数は、述部の設定で限定さ  
1 れる行数を見積もることで、アクセス・パスの選択に影響を及ぼす。

7 **フェイルオーバー (failover).** 元の 1 次システムに障害が発生したために、スタンバイ・システムから 1 次システム  
7 に状況が変更されること。

7 **フェイルバック (failback).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、フェイルオーバー発生後に元の 1 次シス  
7 テムを再始動して 1 次システム状況に戻す処理。『フェイルオーバー (failover)』を参照。

1 **フェッチ (fetch).** カーソルの位置を結果表の次の行に移し、その行の値をホスト変数に割り当てる SQL アクショ  
ン。

1 **フェッチ・オリエンテーション (fetch orientation).** FETCH ステートメントの一部として (たとえば、BEFORE,  
1 AFTER, NEXT, PRIOR, CURRENT, FIRST, LAST, ABSOLUTE, および RELATIVE)、カーソルを望ましい位置に指定  
1 すること。41 ページの『スクロール可能性 (scrollability)』も参照。

1 **フェッチ・センシティブィー (fetch sensitivity).** 他のカーソルまたは他のアプリケーション・プロセスによる変更  
内容だけでなく、このカーソルによるすべての変更内容に対する可視性を FETCH ステートメントに与える指定。フェ  
ッチ・センシティブィーを指定すると、カーソルの SELECT ステートメントの基本表から、常に行がフェッチされ  
るようになる。

1 **フェデレーテッド・サーバー (federated server).** フェデレーテッド・システムの DB2 サーバーを指す。任意の数  
1 の DB2 インスタンスを、フェデレーテッド・サーバーとして機能するように構成することができる。既存の DB2 イ  
1 ンスタンスをフェデレーテッド・サーバーとして使用するか、またはフェデレーテッド・システムに特定して使用する  
1 ために新規のインスタンスを作成することができる。

1 **フェデレーテッド・システム (federated system).** 分散データベース管理システム (DBMS) の特殊タイプ。他のサ  
1 ーバーにあるデータの照会と操作が可能になる。データは、Oracle、Sybase、Informix、Microsoft SQL Server などのデ  
1 ータベース・マネージャーにあるか、あるいはスプレッドシート、Web サイト、データマートなどのリストまたは格  
1 納先にある。

1 フェデレーテッド・システムは、サーバーとして操作する DB2 インスタンス、フェデレーテッド・データベースとして動作するデータベース、1 つまたは複数のデータ・ソース、およびデータベースとデータ・ソースにアクセスするクライアント (ユーザーおよびアプリケーション) から構成される。

7 **フェデレーテッド・セーブポイント (federated savepoint).** SQL ステートメントの原子性を保持するためにフェデレーテッド・サーバーが使用する、データ・ソースの API。DB2 Universal Database の INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメント用に、フェデレーテッド・サーバーはデータ・ソース・セーブポイント API を使用して、データ・ソース側で実行される一連の INSERT、UPDATE、および DELETE ステートメントをまとめる。

1 **フェデレーテッド・データベース (federated database).** フェデレーテッド・システムにおいて、フェデレーテッド・サーバー内にあるデータベースを指す。ユーザーおよびアプリケーションは、インターフェースを介してフェデレーテッド・データベースと通信する。これらのクライアントから見て、データ・ソースは単一の集成的な DB2 データベースとして認識される。

**フォールバック (fallback).** (1) 障害により、別のコンピューターでデータベース・サーバーを稼働させることになった後で、データベース・サーバーが使用可能になった時に、オリジナル・コンピューターで稼働するように、データベース・サーバーが自動的に戻る処理。(2) 現行リリースへの移行を試みた後、または移行を完了した後に、前の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 のリリースに戻る処理。

**複合キー (composite key).** 同じ表のキー列が一定順序に並んだものの集合。

1 **複合ブロック索引 (composite block index).** ディメンション・キー列のみが含まれ、マルチディメンション・クラスタ化 (MDC) 表での挿入または更新アクティビティからデータのクラスタ化を保守するために使用される索引。57 ページの『ディメンション・ブロック索引 (dimension block index)』も参照。

7 **副次索引 (secondary index).** パーティション表スペースで定義されるが、パーティション化索引の定義には該当しない索引。

**副照会 (subquery).** 別の SQL ステートメントの WHERE 文節または HAVING 文節の内側に置かれた SELECT ステートメント。ネストされた SQL ステートメント。

1 **複数仮想記憶 (MVS) (Multiple Virtual Storage (MVS)).** IBM メインフレーム・コンピューターで使用される基本オペレーティング・システム。このオペレーティング・システムは、大量のメモリーおよびディスク・スペースを管理する。

7 **複数の層でのレプリケーション (multi-tier replication).** SQL レプリケーションにおけるレプリケーション構成で、7 1 つのデータベースのレプリケーション・ソースから別のデータベースのレプリケーション・ターゲットに変更内容が複製され、そのレプリケーション・ターゲットの変更内容が、さらに別のデータベースのレプリケーション・ターゲットに複製される。

1 **複数論理パーティション構成 (multiple logical partition configuration).** パーティション・データベース環境において、複数のデータベース・パーティション・サーバーが 1 つのコンピューターに割り当てられる構成。これらのパーティション・データベース・サーバーは、同じ db2nodes.cfg ファイルに記録される。

**副選択 (subselect).** ORDER BY 文節、UPDATE 文節または UNION 演算子を含まない照会書式。

7 **プッシュ構成 (push configuration).** SQL レプリケーションにおいて、ソース・サーバーまたはターゲット・サーバー以外のレプリケーション・サーバーでアプライ・プログラムが実行するときの構成。アプライ・プログラムは更新をターゲットにアプライするために、更新内容をソース・サーバーからプッシュする。75 ページの『プル構成 (pull configuration)』と対比。

1 **プッシュダウン処理 (push-down processing).** フェデレーテッド・システムでは、フェデレーテッド・サーバーでの照会ではなく、データ・ソースでの照会のセグメントの処理を指す。

**物理クレーム (physical claim).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、非パーティション索引全体のクレーム。

## 用語集

7 **物理装置 (physical unit (PU)).** SSCP-PU セッション (システム・サービス制御点と物理装置の間のセッション) に  
7 おいて、SSCP からの要求に従って、ノードに関連するリソース (付加リンク、隣接リンク・ステーションなど) を管  
7 理しモニターするコンポーネント。SSCP は物理装置とのセッションを活動化し、物理装置を通してノードのリソー  
7 ス (付加リンクなど) を間接的に管理する。この用語は、タイプ 2.0、4、および 5 のノードのみに使われる。28 ペ  
7 ージの『コントロール・ポイント (control point)』も参照。

**物理データ (physical drain).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、非パーティション索引全体のドレー  
ン処理。

**物理的な完了 (physically complete).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、並列コピー・プロセスが  
完了し、出力データ・セットが作成されている状態。

**物理的な整合性 (physical consistency).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、部分変更状態でない  
ページの状態。

**物理ロック (P ロック) (physical lock (P-lock)).** 複数の異なる DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブ  
システムでキャッシュに入れられるデータの整合性を提供するために DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が  
獲得するロックのタイプ。物理ロックは、データ共有環境でのみ使用される。97 ページの『論理ロック (logical  
lock)』も参照。

**物理ロック競合 (physical lock contention).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、物理ロックのリク  
エスターが対立している状態。25 ページの『交渉可能ロック (negotiable lock)』も参照。

1 **部分更新 (update-in-place).** DB2 Data Links Manager 環境では、データベースの DATALINK 列値がリンク・ファ  
1 イルを示している間に、このファイルへの変更を行うプロセスを指す。部分更新操作中にリンク・ファイルに行われ  
1 た変更は、更新の完了が DB2 Universal Database ホストに通知されるとデータベース・ユーザーに見えるようにな  
1 る。

1 **部分デクラスタリング (partial declustering).** パーティション・データベース環境では、データベースのすべてのデ  
1 ータベース・パーティション上ではなく、データベース・パーティションの名前付きサブセット (データベース・パー  
1 ティション・グループ) 上の表データのストレージを指す。

1 **付与 (grant).** 許可 ID に対する特権または権限を提供すること。

1 **プライベート接続 (private connection).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に固有の通信接続。たとえ  
1 ば、アプリケーション・サーバーが DB2 Universal Database サブシステムである場合、他の DB2 Universal Database  
1 サブシステム上のオブジェクトへの参照をサポートするために必要な接続として、DB2 Universal Database プライベ  
1 ート接続が割り振られる。SQL 接続と同様に、DB2 Universal Database プライベート接続は最初はペンディング状態  
1 であり、リリース・ペンディング状況に設定できる。

1 **プライベート・プロトコル接続 (private protocol connection).** アプリケーション・プロセスでの DB2 Universal  
1 Database プライベート接続。たとえば、アプリケーション・プログラムの第 1 段階が DB2 Universal Database プライ  
1 ベート・プロトコルを使用し、第 2 段階が DRDA アクセスを使用する場合、DB2 Universal Database プライベート・  
1 プロトコル接続を第 1 段階からオープンすると、第 2 段階で CONNECT 操作が失敗する原因となる可能性がある。  
1 『プライベート接続 (private connection)』も参照。

**プライベート・プロトコル・アクセス (private protocol access).** 分散データにアクセスする方式。これにより、照  
会を別の DB2 Universal Database システムに送信することができる。104 ページの『DRDA アクセス (DRDA  
access)』も参照。

7 **ブラウザー (browser).** (1) コンピューターの画面にテキストを表示できるようにする DB2 Net Search Extender の機  
1 能。(2) ユーザーがデータを表示できるが、データを変更できないプログラム。

7 **ブラウザー・スレッド (browser thread).** Q レプリケーションにおいて、受信キューからメッセージを受け取って 1  
7 つまたは複数のエージェント・スレッドに渡す Q アプライ・プログラム・スレッド。渡されたメッセージはターゲッ  
7 トに適用される。



- 1 **ブラウズ (browse).** サブジェクトごとにグループ分けされたインフォメーション・カタログ・オブジェクトを表示すること。「検索」と対比。
  - 7 **プラグイン (plug-in).** データベースを処理するユーザー作成アクションを実行するために DB2 Universal Database が使用する、動的にロード可能なライブラリー。
  - 1 **フラグメント化 (fragmentation).** 索引で挿入または削除が行われた結果として、索引が断片に分離すること。
  - 7 **フラッシュ (flush).** 一時記憶域からコンピューターの永続メモリーにコンピューター・データを転送すること。
- プラン (plan).** 3 ページの『アプリケーション・プラン (application plan)』を参照。
- プラン名 (plan name).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、アプリケーション・プランの名前。
- プラン割り振り (plan allocation).** プランの実行を準備するために、プランに DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 リソースを割り振る処理。
- プラン・セグメント化 (plan segmentation).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、各プランをセクションに分割すること。セクションが必要なとき、独立して EDM プールにもたらされる。- 1 **フリー・スペース (free space).** ページ内の合計未使用スペース。レコードや制御情報の保管に使用されていないスペース。
- 1 **フリー・スペース制御レコード (FSCR) (free space control record (FSCR)).** 次の 500 ページそれぞれに対して、使用可能なスペースの近似値が含まれるレコード。マルチディメンション・クラスター化 (MDC) 表では、各ブロックごとに 1 つの FSCR がある。そのブロックの先頭ページに保管され、そのブロックのページのみをカバーする。
- 1 **プリコンパイル (precompile).** SQL ステートメントを含むプログラムをコンパイルする前に処理すること。SQL ステートメントは、ホスト言語コンパイラーによって認識されるステートメントに置き換えられる。プリコンパイル・プロセスの出力には、コンパイラーに発信されバインド処理で使用されるソース・コードが含まれる。
- 1 **プリフェッチ (prefetch).** データの使用に先行してデータを読み取ること。
- 1 **プリフェッチ処理 (prefetch processing).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データが次の機構のいずれかで読み取られる操作。順次プリフェッチまたはリスト順次プリフェッチ (リスト・プリフェッチとしても参照される)。
- 1 **プリンシパル (principal).** 別のエンティティと確実に通信できるエンティティ。Kerberos の場合、プリンシパルは、Kerberos レジストリー・データベースの項目として表される。これには、ユーザー、サーバー、コンピューターなどが入る。
- 7 **プルーニング、整理 (pruning).** レプリケーションにおいて、キャプチャー・プログラム、Q キャプチャー・プログラム、アプライ・プログラム、または Q アプライ・プログラムが使用するレプリケーション・コントロール表またはログ・ファイルから、古いデータを除去するタスク。
- 7 **プル構成 (pull configuration).** SQL レプリケーションにおいて、アプライ・プログラムがターゲット・サーバーで実行するときの構成。アプライ・プログラムは更新をターゲットにアプライするために、更新内容をソース・サーバーからプルする。73 ページの『プッシュ構成 (push configuration)』と対比。
- 7 **フル・リフレッシュ (full refresh).** (1) SQL レプリケーションにおける処理で、レプリケーション・ソース表の登録およびサブスクリプション・セット述部に一致するすべてのデータがターゲット表にコピーされること。ターゲット表のロードともいう。フル・リフレッシュは、ターゲット表の既存のデータをすべて置換する。79 ページの『変更キャプチャー・レプリケーション (change-capture replication)』と対比。(2) Q レプリケーションにおける処理で、レプリケーション・ソース表の Q サブスクリプションの検索条件に一致するすべてのデータがターゲット表にコピーされること。フル・リフレッシュは、ターゲット表の既存のデータをすべて置換する。

## 用語集

- 1 **ブロードキャスト結合 (broadcast join).** 表のすべてのパーティションをすべてのノードに送るための結合。
- 7 **プログラム・オブジェクト・タイプ (programs object type).** インフォメーション・カタログ・センターのオブジェクトによって記述される情報を処理することのできるアプリケーションを説明し、識別するオブジェクト・タイプ。
- 7 **プログラム・リスト・テーブル (PLT) (program list table(PLT)).** CICS 開始時またはシャットダウン時にグループとして実行されるプログラムのリストを含んでいる CICS 管理テーブル。これらのプログラムは、単一の CEMT トランザクションによってグループとして使用可能または使用不可にされる。
- 7 **プロシージャー (procedure).** 42 ページの『ストアード・プロシージャー (stored procedure)』を参照。
- 7 **プロシージャー呼び出し (procedure call).** 87 ページの『呼び出し (call)』を参照。
- 7 **プロセス (process).** (1) データウェアハウス・センターで、ソース・データに対して操作を行う一連のステップ。これらのステップは、データを元の形式から意思決定に役立つ形式に変更する。データウェアハウス・センターのプロセスはすべて、1 つまたは複数のソース、1 つまたは複数のステップ、および 1 つまたは複数のターゲットで構成される。(2) 3 ページの『アプリケーション・プロセス (application process)』を参照。
- 7 **プロセス間通信 (IPC) (interprocess communication (IPC)).** 同じコンピューター内またはネットワークから、プロセスが相互に通信するための、オペレーティング・システムの機構。
- 7 **ブロッキング (blocking).** 通信サブシステムが複数行の情報をキャッシュできるようにするオプションで、FETCH ステートメントは各要求ごとに 1 行をネットワークに伝送する必要がなくなる。SQL レプリケーションを使用する際には、このオプションが推奨される。『ブロック・フェッチ (block fetch)』も参照。
- 7 **ブロック (block).** (1) 1 単位として記録または伝送されるデータ・エレメントのストリング。(2) バッファ・プール内の連続するデータ・ページの集合。(3) ディスク上で連続するページの集合。
- 1 **ブロック ID (BID) (block identifier (BID)).** ブロック索引のリーフ・ノードのキー値に従って保管される項目。この ID は、マルチディメンションのクラスター表の中の特別なブロックを参照する。
- 7 **ブロック化因数 (block factor).** 『ブロック・サイズ (block size)』を参照。
- 1 **ブロック索引 (block index).** 従来のレコード ID (RID) 索引と同じような構造の索引。ただし、リーフ・レベルでは、キーが RID ではなくブロック ID (BID) をポイントする。
- 1 **ブロック・サイズ (block size).** ブロック内のページ数を示す。エクステント・サイズと等しい。ブロック化因数ともいう。
- 1 **ブロック・フェッチ (block fetch).** 大量の行を一緒に検索 (つまりフェッチ) する DB2 Universal Database の機能。ブロック・フェッチを使用すると、ネットワーク全体に送信されるメッセージの数をかなり減らすことができる。ブロック・フェッチは、データを更新しないカーソルのみに適用される。
- 1 **ブロック・ベース入出力 (block based I/O).** データベース・マネージャーの方式の 1 つで、ディスクから連続するメモリー部分の中へ、連続するデータ・ページを読み込むこと。34 ページの『散在データ読み取り (scattered read)』も参照。
- 1 **ブロック・マップ (block map).** ブロック状態の配列が含まれるビットマップで、マルチディメンション・クラスター化表の各ブロックごとに 1 つ存在する。各項目は 8 ビットで、このうち 4 ビットは次のように使用される。
- 1 • 使用中: ブロックが表の一部であるとみなされる場合は 1 に設定される。そうでない場合 (つまりブロックが空いている場合)、0 となる。
  - 1 • ロード: 新規にロードされたブロックに対して 1 に設定される。ロード・ユーティリティーが完了すると 0 にリセットされる。
  - 1 • 制約ペンディング: 新規にロードされたブロックに対して 1 に設定される。制約がチェックされると 0 にリセットされる。

1 • リフレッシュ・ペンディング: 新規にロードされたブロックに対して 1 に設定される。自動サマリー表の保守が完了すると 0 にリセットされる。

1 **ブロック・ロック (block locks).** マルチディメンション・クラスター化環境内のブロックのロック。

7 **プロパティ (property).** 情報の単位を記述する特性または属性。

1 **プロパティ名 (property name).** インフォメーション・カタログ・センターのユーザー・インターフェースで表示される、254 バイトのプロパティの記述名。

7 **プロファイル (profile).** いくつかの特性からなる集合。サブミッターの照会を Query Patroller がどのように処理するか、またはオペレーターがどんなタスクを実行できるかを定義する。9 ページの『オペレーター (operator)』および 33 ページの『サブミッター (submitter)』を参照。

7 **プロモート (promote).** SQL レプリケーションにおいて、ソースを再度登録したりサブスクリプション・セットを再作成したりせずに、サブスクリプション・セットまたは登録済みソースのレプリケーション定義を 1 つのデータベースから別のデータベースへコピーすること。

1 **分解する (decompose).** XML Extender において、XML コレクション内の複数のリレーショナル表のコレクションに XML 文書を分けること。

1 **分散インストール (distributed installation).** Windows NT または Windows 2000 の Microsoft Systems Management Server (SMS) のようなシステム管理ソフトウェアを使用して DB2 製品をインストールするプロセス。または、応答ファイルを使用して共有 CD ドライブか共有ネットワーク・ハード・ディスクから DB2 製品をインストールするプロセス。サイレント・インストールまたは無人インストールともいう。

**分散作業単位 (distributed unit of work).** 複数のリレーショナル・データベース管理システムに SQL ステートメントの実行を要求するための作業単位。ただし、各 SQL ステートメントにつき複数のシステムに実行要求することはできない。

**分散データ機能 (DDF) (distributed data facility (DDF)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が他の RDBMS と通信を行うための、一組の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 コンポーネント。

1 **分散ディレクトリー・データベース (distributed directory database).** APPN ネットワーク全体に散在する個々のディレクトリー内に維持されている、ネットワークのすべてのリソースの完全リスト。各ノードには、完全なディレクトリーが 1 つずつあるが、1 つのノードがリスト全体を持つ必要はない。システム定義、オペレーター処置、自動登録、および現在のネットワーク検索手順を通して、項目が作成、変更、および削除される。分散ネットワーク・ディレクトリーの同義語。

1 **分散トランザクション (distributed transaction).** 複数のデータベースでデータを更新するトランザクション。98 ページの『2 フェーズ・コミット (two-phase commit)』も参照。

**分散ネットワーク・ディレクトリー (distributed network directory).** 『分散ディレクトリー・データベース (distributed directory database)』を参照。

1 **分散要求 (distributed request).** フェデレーテッド・データベース・システムにおいて、複数のデータ・ソースに送信される SQL 照会。

**分散リレーショナル・データベース (distributed relational database).** 相互接続された別のコンピューター・システムに表を保管されているデータベース。

1 **分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) (Distributed Relational Database Architecture (DRDA)).** リモート・データに透過アクセスするための形式とプロトコルを定義する体系。DRDA はアプリケーション・リクエスター (application requester)機能と アプリケーション・サーバー (application server)機能の 2 つのタイプの機能を定義する。

## 用語集

- 7 **文書アクセス定義 (DAD) (document access definition (DAD))**. XML とリレーショナル・データとのマッピング  
7 を定義する XML 文書形式。
- 7 **文書アクセス定義拡張 (DADX) (Document Access Definition Extension (DADX))**. Web サービスが実行できる操  
7 作を定義することにより、XML ベースの照会形式と SQL ベースの照会形式の両方を制御する構成ファイル。
- 7 **文書タイプ定義 (DTD) (document type definition (DTD))**. SGML または XML 文書の特定のクラスの構造を指定  
7 する規則。DTD は、エレメント、属性、および表記法を使って構造を定義する。また、各エレメント、属性、および  
7 表記法を、文書の個々のクラス内で使用する方法に関する制約も規定する。
- 7 **文書モデル (document model)**. 文書が含むセクションに関する、文書の構造の定義。DB2 Net Search Extender は  
7 索引付けの際に文書モデルを使用する。
- 文節 (clause)**. SQL では、SELECT 文節や WHERE 文節などのように、ステートメントの明確な一部分。
- 7 **分離 (fenced)**. データベース・マネージャーとは別個のプロセスで実行するよう定義されたプロシージャ、ユーザ  
7 一定義関数、またはフェデレーテッド・ラッパーのタイプ (つまり特性)。(fenced 文節を使って) このタイプのオブジ  
7 ェクトが実行される時、オブジェクトによって変更されないようデータベース・マネージャーが保護される。105  
7 ページの『fenced でない (not fenced)』も参照。
- 1 **分離レベル (isolation level)**. (1) データがアクセスされている間、どのように他の処理からロックされるかを決定す  
るセキュリティ機能。68 ページの『反復可能読み取り (repeatable read)』、87 ページの『読み取り固定 (RS) (read  
stability)』、10 ページの『カーソル固定 (cursor stability)』、および 69 ページの『非コミット読み取り (UR)  
(uncommitted read (UR))』も参照。(2) アプリケーション・プログラムを、現在実行されている他のアプリケーシ  
ン・プロセスから分離する程度を定義する属性。
- 1 **ページ (page)**. (1) 表または索引内のストレージのブロックで、4096 バイト (4 KB)。(2) 表スペース内または索引  
1 スペース内のストレージの単位。そのサイズは、表スペースの場合は 4 K バイト、8 K バイト、16 K バイト、また  
1 は 32 K バイトであり、索引スペースの場合は 4 K バイトである。表スペース内においては、1 つのページには表  
1 の行が 1 つまたは複数入っている。LOB 表スペースでは、1 つの LOB 値が複数のページにまたがる可能性がある  
1 が、1 ページには 1 つの LOB 値しか保管されない。(3) グラフィカル・インターフェースのノートブックでは、ユ  
ーザーがタスクを完了する手助けをするフィールドとコントロールを通常提供する事前定義表示イメージ。
- ページ取得 (getpage)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 によるデータ・ページのアクセスが行われる操  
作。
- 7 **ページ・セット (page set)**. z/OS または OS/390 環境において、VSAM データ・セットの集合で構成される表ス  
7 ースまたは索引スペース。
- 1 **ページ・セット・リカバリー・ペンディング (PSRCP) (page set recovery pending (PSRCP))**. DB2 Universal  
1 Database for z/OS and OS/390 では、索引スペースの限定状態の 1 つで、ページ・セットすべてがリカバーされる。
- 7 **並行シスプレックス (Parallel Sysplex)**. カスタマーの作業負荷を処理するために、多重システム・ハードウェア・  
7 コンポーネントおよびソフトウェア・サービスを介して相互に通信および調整を行う、複数の z/OS または OS/390 シ  
7 ステムからなるセット。
- 並行性 (concurrency)**. 複数の対話式ユーザーまたはアプリケーション・プロセスが同時にリソースを共有するこ  
と。
- 7 **並列グループ (parallel group)**. z/OS または OS/390 環境において、並列に実行される連続操作の集合で、操作には  
7 同じ数の並列タスクが含まれる。
- 7 **並列処理 (parallelism)**. 複数のデータベース操作を同時に実行する機能。65 ページの『パーティション間並列処理  
(inter-partition parallelism)』、65 ページの『パーティション内並列処理 (intra-partition parallelism)』、および 107 ページ  
1 の『I/O 並列処理 (I/O parallelism)』も参照。

- 1 並列処理の度合い (**degree of parallelism**). 照会の処理のために開始する、同時に実行された操作の数。
- 並列セッション (**parallel session**). SNA において、同じ論理装置 2 台の間で同時にアクティブな 2 つ以上のセッション。各セッションは、異なるセッション・パラメーターを持つことができる。44 ページの『セッション (session)』を参照。
- 7 並列タスク (**parallel task**). z/OS または OS/390 環境において、照会を並列して処理するために動的に作成される実行単位。
- 並列入出力処理 (**parallel I/O processing**). (1) 入出力処理形式の 1 つ。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が単一ユーザーの照会に対して複数の並行要求を開始し、複数のデータ・パーティションで同時に (並行して) 入出力処理を行う。(2) 応答時間を短縮するために、同時に複数の入出力装置に対して読み取りまたは書き込みを実行する処理。
- 1 ベクトル化入出力 (**vectorized I/O**). 34 ページの『散在データ読み取り (scattered read)』を参照。
- 1 別名 (**alias**). 表、ビュー、データベース、またはニックネームを識別するのに使われる代替名。同一の DB2 システムまたはサブシステム、あるいはリモートの DB2 システムまたはサブシステムに置かれている表またはビューを参照するために、SQL ステートメントで別名を使用できる。
- 1 別名連鎖 (**alias chain**). 反復しない方法で順次に参照し合う一連の表別名。
- 1 ヘルス (**health**). データベース環境の一般的な状態。
- 7 ヘルス通知コンタクト・リスト (**health notification contact list**). ヘルス・アラートが発生したときに通知を受け取る連絡先のセット。
- 1 ヘルス・インディケーター (**health indicator**). オブジェクトのヘルスの様相を計測したもの。基準は、ヘルス状態を判別するためのメジャーに適用され、ここで適用される基準は、次のようなヘルス・インディケーターのタイプに従属する。
  - 1 ・しきい値に基づく: このメジャーはオブジェクトの振る舞いの統計を示す。警告およびアラームしきい値は、正常、警告、およびアラーム範囲を定義する統計の値に境界を設定する。
  - 1 ・状態に基づく: このメジャーは複数の状態を示す。この状態のうちの 1 つは正常で、その他のすべては非正常であると見なされる。
- 1 ヘルス・スナップショット (**health snapshot**). ある時点でデータベース・マネージャーから検索される、データベース・オブジェクトの集合に関するヘルス・データ。
- 1 ヘルス・センター (**Health Center**). データベース環境およびすべての現行アラートの全体の状態を表示する DB2 グラフィカル・インターフェース。ヘルス・センターから、アラートに関する詳細と推奨される解決アクションを取得することができる。
- 1 ヘルス・モニター (**health monitor**). しきい値を超過している、または非正常状態であるヘルス・インディケーターに基づいたアラートを作成するインスタンス・レベルのモニター。モニターは通知ログに通知を送信し、さらに通知リストにある連絡先に E メールとポケットベルを送信する。
- 7 ヘルス・モニター・アラート (**health monitor alert**). ヘルス・モニターによって生成されるアラート。ヘルス・インディケーターのタイプに応じて、しきい値ベース (ヘルス・インディケーター値が警告またはアラームしきい値を超過または下回った場合)、あるいは状態ベース (ヘルス・インディケーター値が非正常状態である場合) のいずれか。
- 7 変位値 (**quantile**). 1 つのグループを、互いに等しい序列化された部分に分けるときに作成されるサブグループ。
- 7 変更キャプチャー・レプリケーション (**change-capture replication**). レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソース表に対して行われた変更をキャプチャーし、これをレプリケーション・ソース・ターゲット表にアプライする処理。75 ページの『フル・リフレッシュ (full refresh)』と対比。

## 用語集

- 7 **変更後値 (after-value).** Q レプリケーションにおいて、ソース表列の更新後の内容。
- 7 **変更後イメージ (after-image).** SQL レプリケーションにおいて、変更データ (CD) 表、データベース・ログ、またはジャーナルに記録されるソース表の列の更新後の内容。『変更前イメージ (before-image)』と対比。
- 7 **変更後トリガー (after trigger).** 定義済みのトリガー・イベント (トリガー定義で指定された表に対する挿入、更新、または削除操作) の発生後に活動化するように指定されたトリガー。61 ページの『トリガー (trigger)』および『変更前トリガー (before trigger)』も参照。
- 7 **変更集約表 (change aggregate table).** SQL レプリケーションにおいて、CD 表の内容に基づく集約データを含むレプリケーション・ターゲット表のタイプ。16 ページの『基礎集約表 (base aggregate table)』と対比。
- 7 **変更前値 (before-value).** Q レプリケーションにおいて、トランザクションによって更新される前のレプリケーション・ソース表の列の内容。
- 7 **変更前イメージ (before-image).** SQL レプリケーションにおいて、トランザクションによって更新される前のレプリケーション・ソース表の列の内容。この内容は、変更データ (CD) 表、データベース・ログ、またはジャーナルに記録される。『変更後イメージ (after-image)』と対比。『変更前値 (before-value)』も参照。
- 1 **変更前トリガー (before trigger).** 定義済みのトリガー・イベント (トリガー定義で指定された表に対する挿入、更新、または削除操作) の発生前に活動化するように指定されたトリガー。61 ページの『トリガー (trigger)』および『変更後トリガー (after trigger)』も参照。
- 7 **変更データ表 (CD 表) (change-data table (CD table)).** レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソース表の変更済みデータの入った、キャプチャー・コントロール・サーバーのレプリケーション表。
- 変更ロック (modify lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 で、MODIFY 属性を持つ L ロックまたは P ロック。これらのアクティブなロックのリストは、常に結合機能のロック構造に保持されている。要求していたサブシステムに障害が起こった場合、サブシステムの変更ロックは保持ロックに変換される。
- 変数 (variable).** 変更可能な値を指定するデータ・エレメント。57 ページの『定数 (constant)』も参照。
- 7 **ホーム・アドレス・スペース (home address space).** z/OS or OS/390 環境において、現在ディスパッチされると OS/390 によって認識されるストレージ。
- 7 **ホール (hole).** 削除操作または更新操作が実行されたためにアクセスできない結果表の行。32 ページの『削除ホール (delete hole)』および 25 ページの『更新ホール (update hole)』も参照。
- 7 **ポイント・イン・タイム表 (point-in-time table).** SQL レプリケーションにおいて、ソース表の全体または一部と内容が一致するレプリケーション・ターゲット表のタイプ。ソース・システムで特定の行が挿入または更新されたおおよその時刻を識別する追加列を含む。
- 1 **包含リレーションシップ・タイプ (contains relationship type).** インフォメーション・カタログ・センターでは、他のオブジェクトが含まれるインフォメーション・カタログ・センターを識別するために使用されるリレーションシップ・タイプを指す。たとえば、包含リレーションシップ・タイプを使用すると、親の役割 (オブジェクトが他のオブジェクトを格納できること) としてオブジェクトを表すことができる。また、包含リレーションシップ・タイプを使用すると、子の役割 (オブジェクトを他のオブジェクトに入れることができる) としてオブジェクトを表すことができる。90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。
- 1 **保管済み検索 (saved search).** インフォメーション・カタログ・センターでは、後で使用するために保管される検索基準の集合を指す。保管済み検索はツリーの**保管済み検索**フォルダーの下にあるオブジェクトとして表示される。
- 7 **保護会話 (protected conversation).** z/OS または OS/390 環境において、2 フェーズ・コミットの流れをサポートする VTAM 会話。
- 7 **保持可能結果セット (holdable result set).** WITH HOLD 文節を使って作成されたカーソルに関連した結果セット。23 ページの『結果セット (result set)』も参照。

7 **保持制限整理 (retention-limit pruning).** SQL レプリケーションにおいて、ユーザー指定の制限よりも古い CD または作業単位表をキャプチャー・プログラムが整理すること。

7 **保守時間枠 (maintenance window).** 必要な自動保守アクティビティだけを実行するようユーザーが定義する時間枠。 36 ページの『自動保守 (automatic maintenance)』も参照。

1 **補償 (compensation).** フェデレーテッド・システムでは、データ・ソースでサポートされていない SQL を処理するための DB2 の機能を指す。DB2 は、データ・ソースが、照会フラグメントを処理できない場合、またはデータ・ソースが処理するより DB2 の処理が速い場合は、この照会フラグメントを下げることはしない。データ・ソースが処理できない場合 DB2 が代わりに処理をする。フェデレーテッド・サーバーがデータ・ソースの機能の喪失を補正する方法には、次の 2 つがある。データ・ソース機能をシミュレートする方法と、フェデレーテッド・サーバーヘッダ・セットを移動し、機能をローカルで行う方法である。39 ページの『照会オプティマイザー (query optimizer)』および 73 ページの『プッシュダウン処理 (push-down processing)』も参照。

**補助索引 (auxiliary index).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、各索引項目が LOB を参照する補助表の索引。『補助表 (auxiliary table)』も参照。

**補助表 (auxiliary table).** 列が定義されている表の外部にその列を保管する表。17 ページの『基本表 (base table)』も参照。

1 **保持ロック (retained lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステム障害時にそのサブシステムが保持していた MODIFY ロック。ロックは DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 システムにまたがって、結合機能のロック構造に保持される。

**ホスト (host).** TCP/IP で、それに関連した IP アドレスが少なくとも 1 つ存在するシステム。

**ホスト ID (host identifier).** ホスト・プログラムで宣言される名前。

**ホスト言語 (host language).** SQL ステートメントを組み込むことができる任意のプログラミング言語。

**ホスト構造 (host structure).** アプリケーション・プログラムにおいて、組み込み SQL ステートメントによって参照される構造。

**ホスト変数 (host variable).** アプリケーション・ホスト・プログラムでは、組み込み SQL ステートメントで参照される変数。ホスト変数は、アプリケーション・プログラムのプログラミング変数であり、データベース内の表とアプリケーション・プログラムの作業域との間でデータを転送するための 1 次機構である。

7 **ホスト変数配列 (host variable array).** 各エレメントが列値に対応する配列。配列のディメンションは、配列で利用できる行の最大数を決定する。

**ホスト・コンピューター (host computer).** (1) コンピューター・ネットワークでは、計算、データベース・アクセス、およびネットワーク制御機能などのサービスを提供するコンピューター。(2) 複数のコンピューターのインストールにおける 1 次または制御コンピューター。

**ホスト・ノード (host node).** SNA では、システム・サービス制御点 (SSCP) の入ったサブエリア・ノード。たとえば、MVS および VTAM を備えた IBM システム/390<sup>®</sup> コンピューター。

**ホスト・プログラム (host program).** 組み込み SQL ステートメントを含んだホスト言語で作成されたプログラム。

1 **ホットスポット更新 (hot-spot update).** 短い期間で、同じ行に対して行われる一連の繰り返し更新。

**ホップ (hop).** APPN では、中間ノードのない経路の部分。ホップは、隣接ノードを接続する単一の伝送グループで構成される。

**ポリシー (policy).** 99 ページの『CFRM ポリシー (CFRM policy)』を参照。

## 用語集

- 2 **保留照会 (held query).** コストの推定値が Query Patroller しきい値より高いため、Query Patroller によって実行を  
2 抑止された照会。照会は、Query Patroller 自体によって保留解除されるまで、または十分な権限を持つユーザー (たと  
2 えは管理者) によって保留解除されるまで保留される。 48 ページの『代行受信照会 (intercepted query)』および 15 ペ  
2 ージの『管理対象照会 (managed query)』も参照。
- 7 **ボロノイ・セル (Voronoi cell).** 地球の表面上において、隣接する地域との境界が含まれる領域。境界は、ボロノ  
7 イ・セルの中心点と、近隣の ボロノイ・セルの中心点との側地距離によって定義される。ボロノイ・セル内のすべて  
7 の点は、他の ボロノイ・セルの中心よりも、その ボロノイ・セル自身の中心により近い。
- 7 **ボロノイ・セル構造 (Voronoi cell structure).** 地球の表面をセルに再分割すること。このとき、特定のセル内のすべ  
7 ての点は、他のセルの中心よりも、そのセル自身の中心点により近い。

## [マ行]

- 1 **マージ (merge).** 新規内容を表に挿入して更新すること。

**マスク文字 (masking character).** 検索する用語の最初、最後、またはその中の任意の文字を表すために使用する文字。索引でその用語の関連部分を検索するときに使用する。

- 1 **マスター表 (master table).** SQL レプリケーション、とくに update-anywhere レプリケーションにおいて、レプリカ  
1 表のデータに対するオリジナルのソース表を指す。レプリケーション競合検出が使用可能な場合、マスター表への変更  
1 は保存されるが、レプリカ表への変更はリジェクトされる。 115 ページの『Update-anywhere レプリケーション  
1 (update-anywhere replication)』、92 ページの『レプリカ表 (replica table)』、および 19 ページの『競合検出 (conflict  
1 detection)』も参照。

- 7 **待ち時間 (latency).** ソースの更新内容がターゲットに複製されるときに必要な時間。

**マップ式会話 (mapped conversation).** APPC では、APPC マップ式会話 API を使用してトランザクション・プログラム (TP) 間で行う会話。通常、エンド・ユーザー TP はマップ式会話を使用し、サービス TP は基本会話を使用する。どちらのプログラムも両方の会話を使用できる。 17 ページの『基本的会話 (basic conversation)』も参照。

**マテリアライズ (materialize).** (1) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ビューまたはネストした表式からの行を、照会によってさらに処理するために作業ファイルに入れることを指す。(2) LOB 値を連続するストレージに置くこと。LOB 値は非常に大きくなる可能性があるため、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、どうしても必要になるまで LOB データのマテリアライズを避ける。

- 1 **マテリアライズ照会表 (materialized query table).** 定義は照会結果に基づき、データは、表 (または複数の表) から  
1 取得し、マテリアライズ照会表定義が基にした予測結果の形式である表。

- 1 **マルチサイト更新 (multisite update).** 単一作業単位内の複数のロケーションでデータの更新が行われる、分散リ  
1 ーナショナル・データベースの処理。

**マルチタスキング (multitasking).** 複数のタスクの並行実行またはインターリーブ実行を行う操作モード。

- 7 **マルチディメンション (multidimensional).** DB2 OLAP Server において、3 つ以上のディメンションでデータを参  
7 照する方法。ファクト表内の個々のデータ値は、各ディメンションによる 1 つのメンバーの座標点である。 69 ペ  
1 ージの『ビジネス・ディメンション (business dimension)』および 57 ページの『ディメンション (dimension)』も参照。

- 1 **マルチディメンション分析 (multidimensional analysis).** 複数のレベルにあるエンタープライズを査定し、評価する  
1 処理。

- 2 **マルチディメンション・クラスター化 (MDC) 表 (multidimensional clustering (MDC) table).** ORGANIZE BY  
2 DIMENSIONS 文節で指定される 1 つまたは複数のディメンション (つまりクラスタリング・キー) のブロックとして  
2 データが物理的に編成される表。



**マルチディメンション・データベース (multidimensional database).** DB2 OLAP Server で、OLAP 分析のためにリレーショナル・データをコピーするコピー先の非リレーショナル・データベース。 90 ページの『リレーショナル・キューブ (relational cube)』も参照。

**マルチバイト文字セット (multibyte character set (MBCS)).** 各文字が 1 バイト以上である文字のセット。 98 ページの『2 バイト文字セット (double-byte character set)』および 97 ページの『1 バイト文字セット (single-byte character set)』と対比。 98 ページの『ASCII』、 97 ページの『1 バイト文字セット (single-byte character set)』、 104 ページの『EBCDIC』および 86 ページの『ユニコード (Unicode)』も参照。

**7 未確定 (indoubt).** データベース・マネージャーがフェーズ 1 コミット処理の終了後、フェーズ 2 を開始する前に障害が発生した場合のリカバリー単位の状況。緊急再始動の後、このリカバリー単位をコミットするかロールバックするかをコミット・コーディネーターがデータベース・マネージャーに示すまで、リカバリー単位の状況は未確定のままになる。

**1 未確定カーソル (ambiguous cursor).** (1) 以下の条件のすべてが真の場合に、未確定であるカーソル。

- 1 • SELECT ステートメントが動的に準備済みである。
- 1 • SELECT ステートメントに FOR READ ONLY 文節または FOR UPDATE 文節のいずれも含まれない。
- 1 • LANGLEVEL BIND オプションが SAA1 である。
- 1 • これ以外の条件で削除可能カーソルの条件を満たす。

1 未確定カーソルは、BLOCKING BIND オプションが ALL の場合、読み取り専用と見なされる。ALL 以外の場合、削除可能と見なされる。(2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、FOR FETCH ONLY 文節または FOR UPDATE OF 文節によって定義されておらず、読み取り専用結果表で定義されておらず、SQL UPDATE または DELETE ステートメントの WHERE CURRENT 文節のターゲットでなく、また PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE SQL ステートメントのいずれかを含むプランまたはパッケージ内にあるデータベース・カーソル。 12 ページの『確定カーソル (unambiguous cursor)』も参照。

**未確定解決 (indoubt resolution).** 未確定の論理作業単位の状況を、コミット状態またはロールバック状態に変える処理。

**1 未確定トランザクション (indoubt transaction).** 2 フェーズ・コミットの片方のフェーズは正常に完了したにもかかわらず、次のフェーズが完了する前にシステムに障害が起きたトランザクション。

**7 未完了 (inflight).** リカバリー単位のコミット処理フェーズ 1 が完了する前に DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に障害が起きた場合の、リカバリー単位の状況。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が再始動すると、未完了状況のすべてのリカバリー単位の更新内容はバックアウトされる。

**右外部結合 (right outer join).** 結合操作の結果、結合対象の両方の表の一致した行が含まれ、2 番目の結合オペランドの不一致行が保持されること。 23 ページの『結合 (join)』を参照。 69 ページの『左外部結合 (left outer join)』および 45 ページの『全外部結合 (full outer join)』も参照。

**無効パッケージ (invalid package).** ドロップされたオブジェクトに付属するパッケージ。 32 ページの『作動不能パッケージ (inoperative package)』も参照。

**7 明示接続 (explicit connect).** ユーザー ID とパスワードが指定される形態のデータベース接続。

**7 明示的階層ロッキング (explicit hierarchical locking).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、内部リソース・ロック・マネージャーに認識される複数リソースの間に親子関係を設定するためのロッキング。このタイプのロッキングは、リソースに DB2 間インタレストが存在しない場合のグローバル・ロックを防止する。

**1 明示特権 (explicit privilege).** SQL GRANT および REVOKE ステートメントの結果として保持される、名前を持つ特権 (たとえば SELECT 特権)。 60 ページの『特権 (privilege)』を参照。 4 ページの『暗黙特権 (implicit privilege)』も参照。

## 用語集

7 **メソッド (method)**. CREATE METHOD ステートメントを実行することにより作成されるデータベース・オブジェクト。構造化型の動作を指定するカプセル化された論理である。SQL メソッドまたは外部メソッドとしてインプリメントすることができる。41 ページの『スカラー・メソッド (scalar method)』、114 ページの『SQL メソッド (SQL method)』、および 11 ページの『外部メソッド (external method)』も参照。

1 **メタデータ (metadata)**. 保管データの特徴を記述するデータ、つまり記述データ。たとえば、データベース表のメタデータには、表名、その表を含むデータベースの名前、表内の列の名前、および列に関する記述が、技術的な用語またはビジネス用語で含まれる。データベース・カタログおよびインフォメーション・カタログにはメタデータが含まれる。

1 **メタデータ・パブリケーション・プロセス (metadata publication process)**. データウェアハウス・センターによって作成されるプロセスの 1 つ。公表されたメタデータと元のメタデータとの同期を保つために作成されるすべてのステップが含まれる。

1 **メッセージ処理プログラム (MPP) (message processing program (MPP))**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データベース、完全機能データベース、データ入力データベース、および主記憶データベースにアクセスする IMS オンライン・プログラムを指す。

7 **メニュー (menu)**. ユーザーが選択できる機能を表示したリスト。

**メンバー状態 (member state)**. DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データ共有グループの DB2 メンバー (サブシステム) の状態を指す。

**メンバー名 (member name)**. データ共有グループ中の特定の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムの XCF ID。

7 **メンバー有効範囲 (member scope)**. データ共有環境において、コマンドの対象となる DB2 データベースだけに影響を与えるコマンド有効範囲。21 ページの『グループ有効範囲 (group scope)』も参照。

**モード (mode)**. データウェアハウス・センターで、ステップの開発段階 (たとえば開発、テスト、または実動)。

**モード名 (mode name)**. (1) APPC では、セッションの開始プログラムがそのセッションに適する特性を指定するときに使用する名前。たとえば、トランスポート・ネットワークのメッセージ長の制限、同期点、サービス・クラスや、セッションのルーティング、遅延特性など。(2) z/OS または OS/390 環境において、セッションの物理特性、論理特性、および属性の集まりを指す VTAM 名。

1 **文字ストリング (character string)**. ビット・データ、1 バイト文字、または 1 バイト文字とマルチバイト文字の混合を表すバイトのシーケンス。

1 **文字ストリング区切り文字 (character string delimiter)**. インポートまたはエクスポートされる区切り付き ASCII ファイル内で文字ストリングを囲むのに使われる文字。20 ページの『区切り文字 (delimiter)』も参照。

1 **文字セット (character set)**. 定義された文字の集合。たとえば、A から Z までのアクセントなし文字。

7 **文字データ表示体系 (CDRA) (Character Data Representation Architecture (CDRA))**. 異機種混合環境で GRAPHIC 文字データを整合性のある方法で表現、処理、および交換するために、ID、リソース、サービス、および規則を定義した IBM の体系。

1 **文字変換 (character conversion)**. 1 つの文字コード表記を別の表記に変更する処理。

7 **文字ラージ・オブジェクト (CLOB) (character large object (CLOB))**. 0 バイトから 2 ギガバイト未満までのサイズの文字シーケンス (単一バイト、マルチバイト、または両方) を含むデータ・タイプ。通常、文字ラージ・オブジェクト値は、文字ストリングが VARCHAR タイプの制限を超過した場合に常に使用される。文字ラージ・オブジェクト・ストリングともいう。66 ページの『バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object)』および 98 ページの『2 バイト文字ラージ・オブジェクト (double-byte character large object)』も参照。

7 **モデリング・データベース (modeling database).** z/OS または OS/390 環境において、z/OS および OS/390 環境  
7 の DB2 Universal Database サブシステムをモデルとしてワークステーションに作成される DB2 データベース。索引付  
7 けと照会最適化に使用できる。

**モデル統計 (modeled statistics).** SQL ステートメントで参照されるかどうかにかかわらず、現在 Explain モデルに  
存在するデータベース・オブジェクトの統計。オブジェクトが現在データベースに存在する必要はない。

7 **モニター修飾子 (Monitor qualifier).** レプリケーションにおいて、レプリケーション・アラート・モニターのインス  
7 タンスを識別する大文字小文字の区別のある文字ストリング。

7 **モニター・エレメント (monitor element).** データベース・システムの特定の状態に関する情報を保管するためにシ  
7 ステム・モニターによって使用されるデータ構造。データ・エレメントは、1 つまたは複数の論理データ・グループに  
7 対してデータを収集する。それぞれのモニター・エレメントは、カウンター、ゲージ、水準点、テキスト情報、または  
7 タイム・スタンプのいずれかの種類のデータを収集する。96 ページの『論理データ・グループ (logical data group)』  
7 も参照。

7 **モニター・コントロール・サーバー (Monitor control server).** レプリケーションにおいて、モニター・コントロー  
7 ル表を格納するデータベース。この表は、レプリケーション・アラート・モニターが監視するアラート条件に関する情  
7 報を保管する。

7 **モニター・スイッチ (monitor switch).** パフォーマンス・スナップショットに戻される情報のタイプと量を制御する  
7 ために、ユーザーが操作するデータベース・マネージャーのパラメーター。

7 **モニター・タスク (monitoring task).** アクティビティ・モニターにおいて、レポートとフィルター設定からなるセ  
7 ット。特定のスナップショット・データが収集され、アプリケーションやステートメントのトラブルシューティング、  
7 またはデータベース・リソースの最適使用のための照会の調整に役立てることができる。

7 **モバイル・クライアント (mobile client).** モバイル・イネーブラーが配置されたノード (通常はモバイル・コンピュ  
7 ーター)。

## [ヤ行]

7 **役割 (role).** インフォメーション・カタログ・センターにおいて、リレーションシップ・タイプ・カテゴリーに関連し  
7 た記述子。各オブジェクト・タイプの使用可能な役割は、リレーションシップ・カテゴリーによって判別される。

1 **ユーザー (user).** インフォメーション・カタログ・センターでは、インフォメーション・カタログで使用可能な情報  
1 にアクセスするが、管理者ではないユーザーを指す。ユーザーの中には、オブジェクトの作成や更新などの通常管理  
1 者が実行するオブジェクト管理タスクを実行できるものもある。15 ページの『管理者 (administrator)』および 68 ペ  
1 ジの『パワー・ユーザー (power user)』も参照。

2 **ユーザー時間 (user time).** UNIX において、データベース・マネージャー・コードの実行に費やされる時間。35 ペ  
2 ージの『システム時間 (system time)』も参照。

7 **ユーザー定義関数 (UDF) (user-defined function (UDF)).** CREATE FUNCTION ステートメントを使って作成される  
7 データベース・オブジェクト。組み込み関数でない関数はすべて、ユーザー定義関数である。14 ページの『関数  
7 (function)』および 21 ページの『組み込み関数 (built-in function)』も参照。

7 **ユーザー定義構造型 (user-defined structured type).** 26 ページの『構造型 (structured type)』を参照。

1 **ユーザー定義タイプ (UDT) (user-defined type (UDT)).** データベース・マネージャーにもともとあったものではな  
1 く、ユーザーにより作成されたデータ・タイプ。DB2 Universal Database では、ユーザー定義タイプの代わりに特殊  
1 タイプ (distinct type) という用語を使用する。

**ユーザー定義データ・タイプ (user-defined data type).** 59 ページの『特殊タイプ (distinct type)』を参照。

**ユーザー定義特殊タイプ (user-defined distinct type).** 59 ページの『特殊タイプ (distinct type)』を参照。

## 用語集

**ユーザー定義パフォーマンス変数 (user-defined performance variable).** ユーザーにより作成され、パフォーマンス変数プロファイルに追加されたパフォーマンス変数。

**ユーザー定義プログラム (user-defined program).** ユーザーが提供してデータウェアハウス・センターに定義するプログラム。これとは対照的に、付属のプログラムは自動的にデータウェアハウス・センターに含まれて定義される。

1 **ユーザー出口プログラム (user exit program).** 定義済みのユーザー出口ポイントで制御を受け取る、ユーザーによって作成されるプログラム。ユーザー出口プログラムが呼び出されると、データベース・マネージャーは制御を実行可能ファイルに渡す。データベース・マネージャーの 1 つのインスタンス内で呼び出すことができるユーザー出口プログラムは、1 つだけである。

7 **ユーザー表 (user table).** SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソースとして定義される前に作成され、アプリケーションによって使用される表。ユーザー表は、読み取り専用ターゲット表、整合変更データ表、レプリカ、および行レプリカ表を更新するときのソースとして使用される。

1 **ユーザー・オプション (user options).** フェデレーテッド・システムにおいて、許可に関連する値が割り当てられる、CREATE USER MAPPING および ALTER USER MAPPING ステートメントのパラメーター。たとえば、フェデレーテッド・データベースとデータ・ソースに対して、ユーザーが同じユーザー ID と異なるパスワードを持っているとする。ユーザーがデータ・ソースにアクセスするには、2 つのパスワードを互いにマップする必要がある。これは、ユーザー・オプション REMOTE\_PASSWORD によって達成される。『ユーザー・マッピング (user mapping)』を参照。

7 **ユーザー・コピー表 (user copy table).** SQL レプリケーションにおいて、登録済みソース表の内容と全部または一部が一致する、レプリケーション・ターゲット表。ユーザー・データ列のみを含む。

1 **ユーザー・ビュー (user view).** 論理データ・モデリングでは、ビジネスが必要とする重要な情報のモデルまたは表示を指す。

1 **ユーザー・マッピング (user mapping).** フェデレーテッド・システムにおいて、フェデレーテッド・サーバーの許可 ID とデータ・ソースの許可 ID との関連を指す。ユーザー・マッピングは、分散要求をデータ・ソースに送信するために必要とされる。ユーザー・マッピングは、フェデレーテッド・データベースへアクセスするユーザーの許可 ID がデータ・ソースへアクセスするユーザーの許可 ID と異なる場合に作成される。関連を定義するには、CREATE USER MAPPING ステートメントが使用される。ALTER USER MAPPING ステートメントは、すでに作成したユーザー・マッピングを変更するために使用される。

1 **ユニーク ID (UI) (unique identifier (UI)).** インフォメーション・カタログ・センターでは、オブジェクトのキーを指す。キーは 16 以下のプロパティで構成され、指定された順序で連結され、インポート機能中にオブジェクトを一意に識別する。

**ユニーク索引 (unique index).** 表に同一のキー値がないことを保証する索引。

7 **ユニーク制約 (unique constraint).** 主キーまたはユニーク索引のキー内の 2 つの値が同一になり得ないという規則。「固有性制約 (uniqueness constraint)」ともいう。44 ページの『制約 (constraint)』、50 ページの『チェック制約 (check constraint)』、34 ページの『参照制約 (referential constraint)』、および 40 ページの『情報制約 (informational constraint)』も参照。

**ユニーク・キー (unique key).** 値が同じものがないように制約されているキー。

**ユニコード (Unicode).** ISO 10646 標準のサブセットである国際文字エンコード・スキーム。各文字はユニークな 2 バイト・コードで定義される。98 ページの『ASCII』および 104 ページの『EBCDIC』も参照。

1 **要求コミット (request commit).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、参加者がデータを修正し終わって、コミットまたはロールバックの準備ができたときに準備フェーズに提出される決定。

7 **予備エージェント・スレッド (spill agent thread).** Q レプリケーションにおいて、予備キュー内で待機しているトランザクションをアプライするスレッド。予備キューが空になって削除されると、ブラウザー・スレッドに通知する。

7 **予備キュー (spill queue).** Q レプリケーションにおいて、ターゲット表のロード中にソース表で発生するトランザクションを保持するために、Q アプライ・プログラムによって作成される動的キュー。Q アプライ・プログラムはあとでこれらのトランザクションをアプライして、予備キューを削除する。

7 **呼び出し (call).** SQL CALL ステートメントを使ってストアド・プロシージャを起動すること。

7 **予備ファイル (spill file).** SQL レプリケーションにおいて、ターゲット表の更新用のデータを保持するためにアプライ・プログラムによって作成される一時ファイル。

1 **読み取り固定 (read stability (RS)).** アプリケーションがトランザクション中に検索する行のみをロックする分離レベル。行の読み取りの修飾がトランザクションが完了するまで他のアプリケーション・プロセスによって変更されないようにする。また、他のアプリケーション・プロセスによって変更された行の読み取りは、変更がプロセスによってコミットされるまで行われぬ。読み取り固定は、反復可能読み取りより並行性が高いが、カーソル固定より低い。10 ページの『カーソル固定 (cursor stability)』、68 ページの『反復可能読み取り (repeatable read)』、および 69 ページの『非コミット読み取り (UR) (uncommitted read (UR))』も参照。

7 **読み取り専用 (read-only).** 読み取りはできるが、変更と削除ができないデータ。

1 **読み取りトークン (read token).** READ PERMISSION DB DATALINK 列値で組み込まれた許可キー。単純列値として、またはスカラー関数 DLURLCOMPLETE あるいは DLURLPATH を使用して戻される。READ PERMISSION DB DATALINK 列でファイルの読み取りに必要である。

**予約語 (reserved word).** (1) プログラムまたはコンパイラーが行う処理を記述するためにソース・プログラムによって使用される語。ユーザー定義名またはシステム名としてプログラムで使用することはできない。(2) SQL 標準で特別に使用するために取ってある語。

1 **予約済みアドレス (well-known address).** ノード間の接続を確立するためにネットワーク上の特定ノードを固有に識別するとき使用されるアドレス。予約済みアドレスは、ネットワーク・アドレスと論理ノードで使用されるポートの組み合わせである。

## [ラ行]

7 **ラージ・オブジェクト (large object (LOB)).** 0 バイトから 2 ギガバイト未満までサイズのバイト・シーケンスを含むデータ・タイプ。ラージ・オブジェクトには、バイナリー・ラージ・オブジェクト (バイナリー)、文字ラージ・オブジェクト (1 バイト文字または混合)、および 2 バイト文字ラージ・オブジェクト (2 バイト文字) の 3 つのタイプがある。84 ページの『文字ラージ・オブジェクト (character large object)』、66 ページの『バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object)』、および 98 ページの『2 バイト文字ラージ・オブジェクト (double-byte character large object)』も参照。

**ラッチ (latch).** 並行イベントまたはシステム・リソースの使用を制御するための DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 内部メカニズム。

1 **ラッパー (wrapper).** フェデレーテッド・システムにおいて、データ・ソースとの通信やデータ検索のために、フェデレーテッド・サーバーが使用するメカニズム。ラッパーをインプリメントするには、フェデレーテッド・サーバーは、ラッパー・モジュールというライブラリーに保管されているルーチンを使用する。これらのルーチンによって、フェデレーテッド・サーバーはデータ・ソースへの接続やデータ・ソースからのデータの繰り返し検索などの操作を実行することができる。DB2 Universal Database フェデレーテッド・インスタンス所有者は、CREATE WRAPPER ステートメントを使用して、フェデレーテッド・システムに組み込まれる各データ・ソースのラッパーを登録することができる。

**ラベル付き期間 (labeled duration).** 年、月、日、時、分、秒、またはマイクロ秒の期間を表す数値。

1 **リーフ・ページ (leaf page).** キーとレコード ID のペアを含み、実際のデータを指すページ。64 ページの『ノンリーフ・ページ (nonleaf page)』も参照。

## 用語集

リアルタイム・レプリケーション (**real-time replication**). 59 ページの『同期レプリケーション (synchronous replication)』を参照。

リカバリー (**recovery**). ハードウェアまたはソフトウェア障害あるいはこの両方の障害のために使用できなくなったデータベースまたは表スペースを再ビルドする処理。この処理には、バックアップ・イメージの復元が含まれるほか、以前の時点までデータベース・ログをロールフォワードすることもできる。39 ページの『順方向リカバリー (forward recovery)』および 94 ページの『ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery)』も参照。

リカバリー可能リソース・マネージャー・サービス (**RRSAF**) (**Recoverable Resource Manager Services (RRSAF)**). リカバリー可能リソース管理プログラム・サービス・アタッチ機能。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 のサブコンポーネントであり、OS/390 Transaction Management and Recoverable Resource Manager Services を使用して、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 と (OS/390 システムで OS/390 RRS を使用する) 他のすべてのリソース管理プログラム間のリソース・コミットメントを調整する。

リカバリー可能ログ (**recoverable log**). すべてのログ・レコードが保存されているデータベース・ログ。障害時に、順方向リカバリーによりデータ脱落をリカバリーできる。38 ページの『循環ログ (circular log)』も参照。

リカバリー単位 (**unit of recovery**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 のインスタンスなどの単一のリソース管理プログラム内での一連のリカバリー可能操作。31 ページの『作業単位 (unit of work)』も参照。

リカバリー・トークン (**recovery token**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リカバリー時に使用されるエレメントの ID。(たとえば、*NID* または *URID*)。

リカバリー・ペンディング (**recovery pending**). バックアップからリストアされる時のデータベースまたは表スペースの状態。データベースまたは表スペースがリカバリー・ペンディング状態のとき、データのアクセスはできない。

リカバリー・ログ (**recovery log**). 55 ページの『データベース・ログ (database log)』を参照。

リクエスター (**requester**). (1) リモート・サーバーのデータにアクセスする要求のソース。データを要求するシステム。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リクエスター機能は、リモート RDBMS にアクセスする分散データ機能によって提供される。使用されている DRDA プロトコルのレベルにより、リクエスターは アプリケーション・リクエスター (application requester) または データベース・サーバー (database server) のいずれかとなる。  
(2) リモート・リクエスターからの要求のターゲット。

リジェクトされたトランザクション (**rejected transaction**). マスター表と競合するレプリカ表からの 1 つまたは複数の更新データを含むトランザクション。

リスト (**list**). DB2 ユーティリティが処理できるオブジェクトのタイプ。複数の表スペース、索引、またはその両方を識別する。LISTDEF ユーティリティ制御ステートメントで定義される。

リストア (**restore**). BACKUP ユーティリティで生成されたバックアップ・イメージから、損傷または破壊されたデータベースや表スペースを再ビルドすること。

リストア・セット (**restore set**). リストアまたはロールフォワードされるときに、データベースまたは表スペースを整合した状態に戻すバックアップ・コピー。

リスト構造 (**list structure**). z/OS または OS/390 環境において、データをキューのエレメントとして共用および操作する機能を提供する結合機能構造。

リスト・プリフェッチ (**list prefetch**). データに逐次アクセスしない照会においてもプリフェッチの利点が活かされるアクセス方式。リスト・プリフェッチの際には、データ・ページにアクセスする前に索引がスキャンされてレコード ID が収集される。次にそれらのレコード ID は保管され、このリストを使ってデータがプリフェッチされる。

リソース (**resource**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ロックまたはクレームのオブジェクト。これには表スペース、索引スペース、データ・パーティション、索引パーティション、または論理パーティションがある。

**リソース管理表 (RCT) (resource control table (RCT)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、サイト提供のマクロ・パラメーターによって作成される CICS アタッチ機能の構成。トランザクションまたはトランザクション・グループの許可およびアクセス属性を定義する。

**リソース限定機能 (RLF) (resource limit facility (RLF)).** 動的操作可能 SQL ステートメントが指定の時間制限を超えないようにする、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 コードの一部。管理プログラム ともいう。

**リソース限定表 (resource limit specification table).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リソース限定機能によって実行される制限を指定する、サイト定義の表。

リソース割り振り (**resource allocation**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、とくにデータベース・リソースを扱うプラン割り振りの一部。

**リソース・アクセス制御機能 (RACF) (Resource Access Control Facility (RACF)).** アクセス制御を提供する IBM ライセンス・プログラム。システムに対するユーザーの識別、システムのユーザーの検証、保護リソースへのアクセスの許可、許可されないシステム・アクセス試行が検出された場合のロギング、保護リソースへのアクセスが検出された場合のロギングなどを行う。

**リトル・エンディアン (little endian).** バイナリー・データを保管または伝送する形式の 1 つで、最下位ビット (またはバイト) が先頭に置かれる。

**リピーティング・グループ (repeating group).** エンティティに、本質的に同じである複数の属性が含まれる状態。リピーティング・グループの存在は、第 1 正規形の要件に違反している。第 1 正規形の要件を満たすエンティティでは、それぞれの属性の意味と名前が独自で、ユニークである。43 ページの『正規化 (normalization)』も参照。

**リモート (remote).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、ユーザーまたはアプリケーションが常駐するローカル DB2 Universal Database サブシステム以外の、リモート DB2 Universal Database サブシステムによって保守されるオブジェクトの特性。たとえば、リモート・ビューは、リモート DB2 Universal Database サブシステムによって保守されるビューである。93 ページの『ローカル (local)』も参照。

**リモート作業単位 (RUOW) (remote unit of work (RUOW)).** ユーザーまたはアプリケーション・プログラムに、作業単位ごとに 1 つのロケーションでデータの読み取りと更新をさせる。リモート作業単位は、作業単位内で 1 つのデータベースへアクセスすることをサポートする。アプリケーション・プログラムは、いくつかのリモート・データベースを更新できるが、作業単位内では 1 つのデータベースにしかアクセスできない。31 ページの『作業単位 (unit of work)』も参照。

**リモート・アタッチ要求 (remote attach request).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、リモート・ロケーションから出される、ローカル DB2 Universal Database サブシステムへのアタッチ要求。具体的には、この要求送信は SNA 機能管理ヘッダー 5 である。

**リモート・キャッチアップ状態 (remote catchup state).** 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、スタンバイ・データベースが既存のすべてのローカル・ログ・ファイルを読み取った後のスタンバイ・データベースの状態。このデータベースが 1 次データベースとの接続を確立するまで、この状態が続く。48 ページの『対等状態 (peer state)』も参照。

**リモート・サブシステム (remote subsystem).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ローカル・サブシステム (local subsystem) 以外の RDBMS。ユーザーまたはアプリケーションはこれと通信することができる。サブシステムは、物理的な意味でリモートにある必要はなく、同一 DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 システム下の同じプロセッサで稼働するものであってもよい。

**リモート・データベース (remote database).** 現在使用しているシステム以外のシステムに物理的に置かれているデータベース。93 ページの『ローカル・データベース (local database)』も参照。

**両方向スクロール・カーソル (scrollable cursor).** 順方向と逆方向の両方に移動できるカーソル。39 ページの『順方向カーソル (nonscrollable cursor)』も参照。

## 用語集

**リレーショナル・キューブ (relational cube).** 全体としてマルチディメンション・データベースを定義するデータおよびメタデータからなる集合。マルチディメンション・データベースの一部で、リレーショナル・データベースに保管される。83 ページの『マルチディメンション・データベース (multidimensional database)』も参照。

リレーショナル・データベース (relational database). 表集合として認知され、データのリレーショナル・モデルに従って操作されるデータベース。各データベースには、データの物理構造と論理構造を説明したシステム・カタログ表と、データベースに割り振られたパラメーター値が含まれる構成ファイル、進行中のトランザクションとアーカイブ可能なトランザクションによるリカバリー・ログの記述をするシステム・カタログ表の集合が含まれる。

リレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) (relational database management system (RDBMS)). リレーショナル・データベースへのアクセスを編成および提供するハードウェアとソフトウェアの集まり。

リレーショナル・データベース名 (RDBNAM) (relational database name (RDBNAM)). ネットワークにおけるリレーショナル・データベース・ユニークな ID。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、この名前は、コミュニケーション・データベース内の表 SYSIBM.LOCATIONS の LOCATION 列にある値である必要がある。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 の資料では、LOCATION 値またはロケーション名として他の RDBMS の名前を参照する。

リレーションシップ・カテゴリー (relationship category). インフォメーション・カタログ・センターでは、リレーションシップ・タイプを定義する基本を指す。次の 4 つのカテゴリーがある。

- ・ サポート
- ・ 階層
- ・ トランスフォーム
- ・ 対等

これらのリレーションシップ・カテゴリーには、オブジェクトがどのように他のオブジェクトに関係するかを定義する役割がそれぞれ関連付けられている。たとえば、サポート・リレーションシップ・カテゴリーでは、「オブジェクト」および「サポート・オブジェクト」の役割が使用可能。

リレーションシップ・タイプ (relationship type). インフォメーション・カタログ・センターでは、オブジェクト・タイプがリレーションシップで演じる役割を定義する。デフォルトのリレーションシップ・タイプは次のとおりである。

- ・ アタッチメント
- ・ 連絡先
- ・ 包含
- ・ ディクショナリー
- ・ 入力
- ・ 出力
- ・ リンク
- ・ サポート

それぞれのデフォルト・リレーションシップには、オブジェクト・タイプが果たすことのできる特定の役割の集合がある。たとえば、包含リレーションシップ・タイプでは、親および子の役割が可能。2 つのオブジェクトの間に包含リレーションシップを追加すると、一方のオブジェクトが親の役割を果たし、他方が子の役割を果たす。

履歴分析 (historical analysis). Query Patroller において、データウェアハウスの過去の使用状況を分析すること。管理報告、調整、Query Patroller しきい値の最適化などの目的でこれを行う。

リンク (link). DATALINK 列を含む表によって参照されるファイルを DB2 Data Links Manager が制御するために行うアクション。ファイルは、SQL UPDATE、INSERT、IMPORT、または LOAD ステートメントなどのデータベース・アクションの結果としてリンクされる。



リンク解除 (**unlink**). DB2 Data Links Manager が、DATALINK 列が含まれる表ではもう参照されないファイルのコントロールを放棄するために行うアクション。ファイルは、SQL UPDATE、DELETE、または DROP TABLE などのデータベース・アクションの結果としてリンク解除される。

リンク解除ファイル (**unlinked file**). DB2 Data Links Manager 環境では、オペレーティング・システムで固有のファイル・システムで制御されたファイルを指す。一方、リンク・ファイルは DLFF コンポーネントで制御される。

リンク・エディット (**link-edit**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リンケージ・エディターを用いてロード可能なコンピューター・プログラムを作成すること。

リンク・パック域作成 (**CPLA**) (**create link pack area (CLPA)**). 初期プログラム・ロード中に、リンク・パック・ページング可能域の初期化に使われるオプション。

リンク・ファイル (**linked file**). DB2 Data Links Manager では、LINK CONTROL で定義された表の DATALINK 列で参照されるファイルを指す。参照保全を保証するために、リンク・ファイルは DLFF コンポーネントのコントロール下で保守される。

リンク・リレーションシップ・タイプ (**linked relationship type**). インフォメーション・カタログ・センターで、インフォメーション・カタログで複数のオブジェクトの接続に使用されるリレーションシップ・タイプを指す。リンク・リレーションシップのオブジェクトは、親 (parent) - 子 (child) リレーションシップではなく対等である。たとえば、インフォメーション・カタログ・センターに含まれるサンプルのインフォメーション・カタログでは、**CelDial Sales Information** というオブジェクトは年間の CelDial 広告を記述するオブジェクトとリンクしている。90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。

リンケージ・エディター (**linkage editor**). モジュール間の相互参照を決定し、必要に応じてアドレスを調整することによって、1 つまたは複数のオブジェクト・モジュールやロード・モジュールからロード・モジュールを作成するコンピューター・プログラム。

隣接ノード (**adjacent nodes**). 他のノードを接続していない少なくとも 1 つのパスによって接続された 2 つのノード。

ルーチン (**routine**). プロシージャ論理や SQL ステートメントをカプセル化したデータベース・オブジェクト。データベース・サーバーに保管され、SQL ステートメントまたは CALL ステートメントによって呼び出される。ルーチンには、主に、プロシージャ、関数、およびメソッドの 3 種類がある。42 ページの『ストアード・プロシージャ (stored procedure)』、14 ページの『関数 (function)』、および 84 ページの『メソッド (method)』も参照。

ルート・ページ (**root page**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、最初の索引スペース・マップ・ページの後に続く索引ページ・セットのページ。ルート・ページは、索引の最上位レベル (または開始点)。

累積バックアップ (**cumulative backup**). 47 ページの『増分バックアップ (incremental backup)』を参照。

例外表 (**exception table**). (1) ロードされる表の定義を反映するユーザー作成表。(2) 参照制約またはチェック制約に違反し、CHECK DATA ユーティリティによって検出された行を保持している表。

レコード ID (**RID**) (**record identifier (RID)**). DB2 が表内のレコードを固有に識別するために内部で使用する 1 バイトのロット番号に続く 3 バイトのページ番号。レコードが保管されているページをアドレッシングするのに必要な情報を含む。18 ページの『行 ID (row identifier)』も参照。

レコード ID (**RID**) プール (**record identifier (RID) pool**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、16 メガバイトの境界より上の主記憶域。リスト・プリフェッチ処理中のレコード ID のソート用に予約される。

レコード (**record**). 表またはその他のデータの単一行のストレージを表す用語。

レコード長 (**record length**). 表のすべての列の長さの合計。データベースに物理的に保管される時のデータ長である。レコードは、列の定義方法により、固定または可変長になる。すべての列が固定長の場合、レコードは固定長レコードとなる。1 つまたは複数の列が可変長の場合、レコードは可変長列となる。

## 用語集

7 レジスター (**register**). SQL レプリケーションにおいて、DB2 Universal Database の表、ビュー、またはニックネームをレプリケーション・ソースとして定義すること。

7 レジストリー・データベース (**registry database**). z/OS または OS/390 環境において、プリンシパル、グループ、編成、アカウント、およびセキュリティー・ポリシーに関するセキュリティー情報のデータベース。

1 列オプション (**column options**). フェデレーテッド・システムでは、ニックネームを参照するデータ・ソース・オブジェクトの特定の列にある値を記述する ALTER NICKNAME ステートメントのパラメーターを指す。この情報は、グローバル・カタログに追加され、より良いアクセス・プランを開発するために DB2 照会オプティマイザーによって使用される。列オプションは、データ・ソース・ラッパーに対して、通常とは異なる方法で列を処理するよう指示する方法を提供する。

7 列関数 (**column function**). オプションの引き数を受け入れて、単一のスカラー値を戻す関数。このスカラー値は、いくつかの類似値 (たとえば、1 つまたは複数の行からなるセットに含まれる列の類似値) に対する評価の結果である。集約関数ともいう。14 ページの『関数 (function)』、41 ページの『スカラー関数 (scalar function)』、18 ページの『行関数 (row function)』、および 70 ページの『表関数 (table function)』も参照。

1 列挙リスト (**enumerated list**). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、パターン・マッチング文字 (\*、%、\_、または ?) を含む LISTDEF ユーティリティー制御ステートメントによって定義される DB2 オブジェクトの集合。

1 列データ (**column data**). DB2 の列に保管されるデータ。データのタイプは、DB2 でサポートされる任意のデータである。

列分布値 (**column distribution value**). 特定の列の中の最も頻繁に現れる値または変位値を記述する統計。その値は、最善のアクセス・プランを判別するために DB2 オプティマイザーで使われる。

7 レプリカ表 (**replica table**). SQL レプリケーション、とくに update-anywhere (任意の場所で更新) レプリケーションにおいて、ローカルに更新できるターゲット表。さらに、サブスクリプション・セット定義を通して、マスター表から更新情報も受け取ることもできる。レプリケーション競合検出が使用可能な場合、レプリカ表への変更はリジェクトされるが、マスター表への変更は保存される。115 ページの『Update-anywhere レプリケーション (update-anywhere replication)』、82 ページの『マスター表 (master table)』、および 19 ページの『競合検出 (conflict detection)』も参照。

レプリケーション (**replication**). 複数の場所にある定義済みデータ集合を保守するための処理。これには、1 つの場所 (ソース) から別の場所 (ターゲット) に特定の変更内容をコピーしたり、2 つの場所にあるデータを同期化する処理が含まれる。

7 レプリケーション管理者 (**replication administrator**). (1) Q レプリケーションにおいて、Q サブスクリプションおよび XML 発行の作成を担当するユーザー。また、このユーザーは Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムを実行することもできる。(2) SQL レプリケーションにおいて、レプリケーション・ソースの登録およびサブスクリプション・セットの作成を担当するユーザー。また、このユーザーはキャプチャー・プログラムとアプライ・プログラムを実行することもできる。

7 レプリケーション・アナライザー (**Replication Analyzer**). セットアップの問題、構成エラー、およびパフォーマンスの問題に応じたレプリケーション環境を分析できるプログラム。

7 レプリケーション・アラート・モニター (**Replication Alert Monitor**). キャプチャー・プログラム、アプライ・プログラム、Q キャプチャー・プログラム、および Q アプライ・プログラムの稼働状況を検査するプログラム。指定されたアラート条件を検出した場合、1 つまたは複数のユーザーにアラートを送る。

7 レプリケーション・キュー・マップ (**replication queue map**). Q レプリケーションにおいて、送信キューと受信キューをリンクするオブジェクト。レプリケーション・キュー・マップには、送信キューを使用するすべてのトランザクションを Q キャプチャー・プログラムがどのように扱うか、および受信キューを使用するすべてのトランザクションを Q アプライ・プログラムがどのように扱うかの設定が含まれる。67 ページの『発行キュー・マップ (publishing queue map)』および 18 ページの『キュー・マップ (queue map)』も参照。

レプリケーション・コントロール表 (replication control table). レプリケーション定義または制御情報が保管されている表。

レプリケーション・サブスクリプション (replication subscription). 33 ページの『サブスクリプション・セット (subscription set)』を参照。

レプリケーション・センター (Replication Center). レプリケーション環境を定義、操作、保守、およびモニターできるグラフィカル・インターフェース。DB2 Administration Client ツール・スイートに含まれる。

レプリケーション・ソース (replication source). (1) SQL レプリケーションにおいて、レプリケーションのソースとして登録される表、ビュー、またはニックネーム。この表、ビュー、またはニックネームの変更内容はキャプチャーされ、サブスクリプション・セット・メンバーで定義されたターゲット表にコピーされる。33 ページの『サブスクリプション・セット (subscription set)』および 33 ページの『サブスクリプション・セット・メンバー (subscription set member)』も参照。(2) Q レプリケーションにおいて、レプリケーションのソースである表。このタイプの表の変更内容はキャプチャーされ、Q サブスクリプションまたは XML 発行で定義されたターゲット表にコピーされる。111 ページの『Q サブスクリプション (Q subscription)』および 117 ページの『XML 発行 (XML publication)』も参照。

レプリケーション・ターゲット (replication target). (1) SQL レプリケーションにおいて、登録済みのレプリケーション・ソースから複製された変更内容の宛先となる表、ビュー、またはニックネーム。これらの変更内容はアプライ・プログラムによってアプライされる。47 ページの『ターゲット表 (target table)』も参照。(2) Q レプリケーションにおいて、ソースから複製された変更内容の宛先となる表またはストアード・プロシージャ。これらの変更内容は Q アプライ・プログラムによってアプライされる。47 ページの『ターゲット表 (target table)』も参照。

連結削除 (delete-connected). SQL では、表 P の従属、または表 P からの削除操作がカスケードする表の従属である表のプロパティ。

連絡先 (contact). 通知ログに書き込まれる DB2 管理メッセージの通知を電子メールまたはページャで受け取るよう構成されたユーザー ID。連絡先のそれぞれの定義には、通知を受け取るユーザーの名前、電子メールまたはページャのアドレスが含まれる。この定義は、DB2 管理サーバーの CONTACT\_HOST 構成パラメーターによって指定されるシステムのコンタクト・リストに保管される。27 ページの『孤立した連絡先 (orphaned contact)』、15 ページの『管理通知ログ (administration notification log)』、および 16 ページの『管理用通知メッセージ (administration notification message)』も参照。

連絡先リレーションシップ・タイプ (contact relationship type). インフォメーション・カタログ・センターでは、連絡先を識別するために使用されるリレーションシップ・タイプを指す。連絡先リレーションシップ・タイプはオブジェクトに関する詳細情報を提供する。このような情報には、オブジェクトが表す情報を作成する担当者、または情報の保守に責任を負う部門が含まれることがある。90 ページの『リレーションシップ・タイプ (relationship type)』も参照。

ローカル (local). ユーザーのシステムからアクセスされる装置、ファイル、またはシステムが通信回線を使用しないこと。89 ページの『リモート (remote)』も参照。

ローカル更新 (local update). レプリカにではなく、基本表に対する更新。

ローカル表ロック (local table lock). 単一のデータベース・パーティションにおいてのみ獲得される表ロック。

ローカル・キャッチアップ状態 (local catchup state). 高可用性災害時リカバリー (HADR) のスタンバイ・データベースが開始され、自身のログ・パスまたはユーザー出口プログラムによって示されるローカルに保管されたログを読み取ろうとする状態。ログが読み取られた後、ログの内容がスタンバイ・データベースで再生される。

ローカル・サブシステム (local subsystem). ユーザーもしくはアプリケーション・プログラムが直接 (DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 の場合は、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 接続機能の 1 つにより) 接続するユニークなりレシヨナル・データベース管理システム。

ローカル・データベース (local database). 現在使用中のシステムに格納されているデータベース。89 ページの『リモート・データベース (remote database)』も参照。

## 用語集

1 **ローカル・データベース・ディレクトリー (local database directory).** データベースが物理的に常駐するディレクトリー。ローカル・データベース・ディレクトリーに表示されるデータベースは、システム・データベース・ディレクトリー (system database directory)と同じノードに位置する。

1 **ローカル・ロック (local lock).** DB2 内の並行性制御を提供するが、DB2 間の並行性は制御しないロック。その有効範囲は単一の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブシステムである。

**ロー項目ネットワーク・ノード (LEN ノード) (low-entry networking node (LEN node)).** 非従属 LU プロトコルをサポートし、CP to CP セッションをサポートしないタイプ 2.1 ノード。これは、サブエリア・ネットワーク内の境界ノードに接続された周辺ノード、APPN ネットワーク内の APPN ネットワーク・ノードに接続されたエンド・ノード、または別の LEN ノードまたは APPN エンド・ノードに直接接続された対等接続ノードのどれでもかまわない。

1 **ロード権限 (load authority).** データを表にロードするためにロード・ユーティリティーまたはオートローダー・ユーティリティーに特権を与えるアクセス・レベル。

**ロード・コピー (load copy).** すでにロードされたデータのバックアップ・イメージ。ロールフォワード・リカバリー時にこれをリストアすることができる。

7 **ロード・フェーズ (load phase).** Q レプリケーションにおいて、ソース表のデータがターゲット表にロードされて 2 7 つの表が同期化される段階。ロード・フェーズは自動的に、または手動で実行される。

**ロード・モジュール (load module).** 主記憶域にロードして実行するのに適したプログラム単位。リンケージ・エディターのロード・モジュール。

1 **ロールアウト (roll out).** マルチディメンション・クラスター化 (MDC) 表の大部分を効率的に削除すること。また、1 1 つまたは複数のディメンション列に、特定の述部タイプ (等式、範囲、BETWEEN、IN) がある DELETE ステートメントが処理される時にこの方法が可能である。大半のロギングを回避することが可能で、特定の場合ではすべての行単位の処理も回避することができる。

1 **ロールバック (roll back).** SQL ステートメントによって変更されたデータを最終コミット・ポイントの状態にリストアすること。67 ページの『バックアウト (backout)』を参照。43 ページの『整合点 (point of consistency)』も参照。

1 **ロールフォワード (roll forward).** データベース・ログ・ファイルで記録された変更を適用することによって、リストアされたデータベースまたは表スペースでデータを更新すること。『ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery)』も参照。

1 **ロールフォワード・リカバリー (rollforward recovery).** ロールフォワード・ユーティリティーを介して開始されるプロセス。データベース・リカバリー・ログ・ファイルに記録されたトランザクションをアプライすることによってデータベースを回復するために使用される。64 ページの『バージョン・リカバリー (version recovery)』も参照。

7 **ログ (log).** (1) さまざまなイベントの記録。(2) システムで発生したイベントを記述するレコードの集合で、一連の 7 イベントの順序を示す。55 ページの『データベース・ログ (database log)』も参照。

1 **ログ切り捨て (log truncation).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、相対バイト・アドレスの明示的な開始を確立する処理。この RBA は、ログ・データの次のバイトが書かれるポイントである。

**ログ初期設定 (log initialization).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 がログの現行の終わりの探索を試みる、再始動処理の第 1 フェーズ。

**ログ先頭 (log head).** アクティブ・ログ内の一番先のログ・レコード。

7 **ログ表 (log table).** テキスト文書の索引付け情報を含む、DB2 Net Search Extender によって作成される表。

**ログ末尾 (log tail).** アクティブ・ログに一番後から書き込まれたログ・レコード。

7 **ログ・ファイル (log file).** (1) ログ・イベントが記録されたファイル。 (2) インフォメーション・カタログにタグ言語ファイルをインポートする時に、インフォメーション・カタログ・センターで生成されるファイル。このファイルは、インポート処理の開始および停止日時と、この処理のエラー情報を記録する。

**ログ・レコード (log record).** ある作業単位時に実行された、データベースに対する更新のレコード。このレコードは、アクティブ・ログのログ末尾の後に書き込まれる。

**ログ・レコード・シーケンス番号 (LRSN) (log record sequence number (LRSN)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が生成し、各ログ・レコードに関連付ける番号。ページのバージョン管理にも、LRSN が使用される。特定の DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データ共有グループが生成する LRSN は、各 DB2 ログの厳密な増加順序、およびデータ共有グループ内の各ページの厳密な増加順序を形成する。

1 **ログ・レコード・ヘッダー (LRH) (log record header (LRH)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、制御情報が含まれる論理レコードの接頭部を指す。先頭のセグメントにのみ、LRH 全体が含まれる。その後のセグメントには最初の 2 つのフィールドだけが含まれる。リカバリーのために特定のログが必要とされる場合、レコードが連続して保管されたかのように全セグメントが戻され、まとめて提供される。

7 **ロケーション別名 (location alias).** データベース・サーバーがネットワーク内で自分を識別するための別名。アプリケーションはこの名前を使用して DB2 データベース・サーバーにアクセスすることができる。

1 **ロケーション名 (location name).** (1) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 が、サブシステムのネットワーク内で、特定の DB2 サブシステムを参照するとき使用する名前。 (2) データベース・サーバーのユニーク名。アプリケーションは、DB2 データベース・サーバーにアクセスするためにロケーション名を使用する。

7 **ロケーション・パス (location path).** XPath によって定義されるロケーション・パスの省略構文のサブセット。XML エレメントまたは属性を識別する、一連の XML タグ。これは、ユーザー定義関数を抽出する際、抽出する対象を識別するために使用される。また、DB2 Net Search Extender のユーザー定義関数が検索基準を識別するためにも使用される。

**ロケータ (locator).** 108 ページの『LOB ロケータ (LOB locator)』を参照。

1 **ロケータ変数 (locator variable).** アプリケーション・サーバーの LOB 値を示すロケータが含まれるホスト変数。

7 **ロケール (locale).** (1) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ユーザー環境のサブセットの定義のこと。特定の言語用および国または地域別に定義されている文字と CCSID とを結合したものである。 (2) プロセスがどのように実行されるかを指定するための処理変数の集合。コンピューター・ロケールには特定の言語および国別環境に応じた規則、適切な日時形式、文字種別、ソート、テキスト処理が含まれる。

7 **ロック (lock).** (1) 複数のイベントまたはデータへのアクセスをシリアル化するための手段。 (2) あるアプリケーション・プロセスが行ったまだコミットされていない変更内容を別のアプリケーション・プロセスから認識できないようにしたり、別のプロセスからアクセスされるデータをアプリケーション・プロセスが変更不能にするための手段。ロックによって、並行ユーザーが不整合データにアクセスすることを防げるため、データの保全性が確保される。

**ロック解除 (unlock).** 以前にロックされたオブジェクトまたはシステム・リソースを解放して、それを DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 内で一般に使用できるように戻すこと。

1 **ロック期間 (lock duration).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ロックを保持する時間間隔。たとえば、LOB のロックは、これらが必要で、通常コミット時にリリースされる時に取得される。

**ロック構造 (lock structure).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、結合機能データ構造の 1 つ。一連のロック項目から成り、論理リソースの共有ロックおよび排他ロックをサポートする。

**ロック対象 (lock object).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ロックによって制御されるリソース。

## 用語集

**ロック・エスカレーション (lock escalation).** あるエージェント用に発行されたロック数が、データベース構成で指定された上限を超えたときにとられる措置。この上限値は、*maxlocks* 構成パラメーターで定義される。ロック・エスカレーション時には、表の行に対するロックを、表に対する 1 つのロックに変換することによってロックが解放される。このプロセスは、上限値を超えなくなるまで繰り返される。

**ロック・サイズ (lock size).** 表データに対する DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ロックによって制御されるデータの量。その値として、行、ページ、LOB、パーティション、表、または表スペースを取ることができる。

**ロック・プロモーション (lock promotion).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ロックのサイズまたはモードを上レベルに変更する処理。

**ロック・モード (lock mode).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 ロックが保留するリソースに、並行して実行中のプログラムが持てるアクセスのタイプに関する表示。

**論理エージェント (logical agent).** クライアントまたはアプリケーション接続を示すエージェント。

**論理演算子 (logical operator).** 複数の検索条件をどのように評価するか (AND、OR)、検索条件の論理的な意味を逆転するかどうか (NOT) を指定するキーワード。

**論理クレーム (logical claim).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、非パーティション索引の論理パーティションのクレーム。

**論理サーバー (logical server).** (1) レプリケーションにおいて、Linux、UNIX、および Windows 上の DB2 データベース。(2) z/OS では、DB2 Universal Database を実行しているサブシステム。

**論理索引パーティション (logical index partition).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、同じデータ・パーティションを参照するすべてのキーの集合。

**論理装置 (LU) (logical unit (LU)).** ユーザーまたはアプリケーション・プログラムが別のユーザーまたはアプリケーション・プログラムと通信するために SNA ネットワークにアクセスするときのアクセス・ポイント。108 ページの『LU 名 (LU name)』も参照。

**論理装置タイプ 6.2 (LU 6.2) (logical unit 6.2 (LU6.2)).** APPC を使ったアプリケーション相互間のセッションをサポートする LU タイプ。

**論理データ・グループ (logical data group).** データベース・アクティビティーの特定の範囲で、データベース・システム・モニター情報を収集するデータ・エレメントの集合。スナップショット・モニターおよびイベント・モニターには、それぞれ論理データ・グループの独自の設定がある。55 ページの『データ・エレメント (data element)』を参照。

**論理データ・モデル (logical data modeling).** 包括的なビジネス情報の要件を正確で一貫性のあるフォーマットで文書化する処理。データ・モデルはデータベースを設計する最初のステップである。

**論理ドレーン (logical drain).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、非パーティション索引の論理パーティションのドレーン。

**論理パーティション (logical partition).** (1) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、特定のパーティション (区画) と関連付けられている非パーティション索引内のキーまたは RID のペアの集合。(2) パーティション・データベース環境では、複数のデータベース・パーティション・サーバーが割り当てられているプロセッサ上のデータベース・パーティション・サーバーを指す。

**論理表 (logical table).** Q レプリケーションにおいて、双方向レプリケーションまたは対等レプリケーションに含まれるサーバーに配布される、1 つの表のすべてのコピー。ユーザーが 2 つの論理表を複製した場合、両方の表のコピーがさまざまなサーバーに配布される。

1 論理ページ・リスト (LPL) (logical page list (LPL)). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、エラーが  
 1 生じたページのリスト。ページが回復するまでアプリケーションによって参照できない。実際のメディア (結合機能ま  
 1 たは DASD) でエラーが発生していなくても、ページは論理エラーの状態にある。通常、メディアへの接続は失われ  
 1 ている。

論理リカバリー・ペンディング (LRECP) (logical recovery pending (LRECP)). DB2 Universal Database for z/OS  
 and OS/390 では、矛盾するデータを参照するデータと索引キーの状態。

論理ロック (L-lock) (logical lock (L-lock)). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、トランザクシ  
 ン間で DB2 内および DB2 間のデータ並行性を制御するためにトランザクションが使用するロック・タイプ。74 ペ  
 ジの『物理ロック (physical lock)』も参照。

## [ワ行]

1 割り当てカーソル (allocated cursor). SQL ステートメント ALLOCATE CURSOR を使用してストアード・プロシ  
 1 ージャの結果セットに定義されるカーソル。

## [数字]

1 1 次許可 ID (primary authorization ID). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 に対しアプリケーション・  
 1 プロセスを識別するときに使用する許可 ID。

1 1 次グループ・バッファ・プール (primary group buffer pool). 二重化グループ・バッファ・プールの場合  
 1 に、キャッシュ・データの一貫性を維持するために使用される DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 構造のこ  
 1 と。この構造は、ページ登録および相互無効化に使用される。z/OS または OS/390 環境の旧 構造体に相当する。  
 1 『2 次グループ・バッファ・プール (secondary group buffer pool)』も参照。

7 1 次再統合 (primary reintegration). フェイルオーバー後、元の 1 次データベースを高可用性災害時リカバリー  
 7 (HADR) のペアとして再結合させる処理。元の 1 次データベースは、HADR ペアの新しい 2 次データベースとして  
 7 のみ再結合される。

1 1 次索引 (primary index). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、主キーの一意性を強める索引。

7 1 次データベース (primary database). 高可用性災害時リカバリー (HADR) において、アプリケーションがアクセ  
 7 スするメイン・データベース。アプリケーションは更新内容を 1 次データベースに適用し、これらの更新内容はロ  
 7 グ・ SHIPPING を介してスタンバイ・データベースに波及する。

1 1 次ログ (primary log). 変更をデータベースに記録するために使用される 1 つまたは複数のログ・ファイル。これ  
 1 らのファイルのストレージは前もって割り当てられる。98 ページの『2 次ログ (secondary log)』も参照。

1 1 バイト文字セット (SBCS) (single-byte character set (SBCS)). 各文字が単一バイト・コードで表されている文  
 1 字セット。98 ページの『2 バイト文字セット (double-byte character set)』および 83 ページの『マルチバイト文字セ  
 1 ット (multibyte character set)』も参照。

1 2 次許可 ID (secondary authorization ID). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、許可出口ルーチン  
 1 によって 1 次許可 ID に結び付けられた許可 ID。

2 2 次グループ・バッファ・プール (secondary group buffer pool). DB2 Universal Database for z/OS and OS/390  
 環境の二重化されたグループ・バッファ・プールにおいて、1 次グループ・バッファ・プールに書き込まれる変  
 更済みページをバックアップするために使用される構造。2 次グループ・バッファ・プールを使用していると、ペ  
 ージの登録および相互無効化は実行されない。z/OS および OS/390 でこれに該当するものは、新規の 構造。『1 次  
 グループ・バッファ・プール (primary group buffer pool)』も参照。

## 用語集

**2 次ログ (secondary log).** 変更をデータベースに記録するために使用される 1 つまたは複数のログ・ファイル。これらのファイルのストレージは、1 次ログがいっぱいになったときに必要に応じて割り当てられる。97 ページの『1 次ログ (primary log)』も参照。

**2 バイト文字セット (DBCS) (double-byte character set (DBCS)).** 文字がそれぞれ 2 バイトで表記される文字セット。通常は、日本語や中国語のように、1 バイトで表記できるシンボルよりも多くのシンボルがある言語で共通に使用される。97 ページの『1 バイト文字セット (single-byte character set)』および 83 ページの『マルチバイト文字セット (multibyte character set)』も参照。

**2 バイト文字ラージ・オブジェクト (DBCLOB) (double-byte character large object (DBCLOB)).** 0 バイトから 2 ギガバイト未満までサイズの 2 バイト文字シーケンスを含むデータ・タイプ。このデータ・タイプを使用して、2 バイト・テキストのラージ・オブジェクトを保管できる。2 バイト文字ラージ・オブジェクト・ストリングともいう。84 ページの『文字ラージ・オブジェクト (character large object)』および 66 ページの『バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object)』も参照。

**2 フェーズ・コミット (two-phase commit).** リカバリー可能なリソースおよび外部サブシステムがコミットされる際の 2 ステップ・処理。最初のステップでは、データベース・マネージャー・サブシステムがコミットできる状態にあることを確認するために、データベース・マネージャー・サブシステムがポーリングされる。すべてのサブシステムが肯定応答の場合、データベース・マネージャーはコミット命令を出す。77 ページの『分散トランザクション (distributed transaction)』も参照。

**3 パート名 (three-part name).** ピリオドで区切られた、ロケーション名、許可 ID、およびオブジェクト名から構成される表、ビュー、別名の完全名。

## A

**ADSM.** この名称は現在使用されません。115 ページの『Tivoli Storage Manager』を参照。

**APF.** 20 ページの『許可プログラム機能 (APF) (authorized program facility (APF))』を参照。

**API.** 3 ページの『アプリケーション・プログラミング・インターフェース (application programming interface)』を参照。

**APPC.** 12 ページの『拡張プログラム間通信機能 (Advanced program-to-program communication)』を参照。

**APPL.** SNA LU 6.2 プロトコルを使用するアプリケーション・プログラムとして DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 を VTAM に定義するために使用する VTAM<sup>®</sup> ネットワーク定義ステートメント。

**Application Development Client.** クライアントのワークステーションでのアプリケーション開発を可能にするアプリケーション開発製品。DB2 ファミリー・データベースを含むリモート・データベース・サーバーに DB2 Connect 製品を使ってアクセスするためにアプリケーションが開発される。

**APPN.** 12 ページの『拡張対等ネットワーク機能 (Advanced Peer-to-Peer Networking)』を参照。

**ASCII.** 40 ページの『情報交換用米国標準コード (American Standard Code for Information Interchange)』を参照。

**AST.** 36 ページの『自動サマリー表 (AST) (automatic summary table (AST))』を参照。

## B

**BLOB.** 66 ページの『バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object)』を参照。

**BSAM.** 17 ページの『基本順次アクセス方式 (BSAM) (basic sequential access method)』を参照。

**BSDS.** 71 ページの『ブートストラップ・データ・セット (BSDS) (bootstrap data set (BSDS))』を参照。



## C

**CAF.** 25 ページの『コール・アタッチメント機能 (call attachment facility)』を参照。

7 | **CASE 式 (CASE expression).** 1 つまたは複数の条件の評価に基づいて、別の式を選択可能にする式。

7 | **cast 関数 (cast function).** あるソース・データ・タイプのインスタンスを別のターゲット・データ・タイプのイン  
7 | スタンスに変換するために使われる関数。通常、cast 関数の名前はターゲット・データ・タイプで、引き数 (1 個)  
7 | はソース・データ・タイプである。戻りタイプはターゲット・データ・タイプである。

**CCD 表 (CCD table).** 43 ページの『整合変更データ表 (consistent-change-data table)』を参照。

**CCSID.** 『coded character set identifier』を参照。

**CD 表 (CD table).** 80 ページの『変更データ表 (change-data table)』を参照。

**CDB.** 27 ページの『コミュニケーション・データベース (communications database)』を参照。

**CDRA.** 84 ページの『文字データ表示体系 (Character Data Representation Architecture)』を参照。

7 | **CelDial サンプル・カタログ (CelDial sample catalog).** インフォメーション・カタログ・センターのインストール  
7 | 時に選択可能である、インフォメーション・カタログのサンプル (ICCSAMP)。管理者がこのカタログを初期化し、ユ  
7 | ーザーはサンプル・データを使用してインフォメーション・カタログ・センターについての知識を得ることができる。

7 | **CFRM.** 13 ページの『カップリング・ファシリティ・リソース管理 (Coupling Facility Resource Management)』を参  
照。

**CFRM ポリシー (CFRM policy).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、結合機能構造の割り振り規則  
に関する、MVS 管理者による宣言。

**CHECK 文節 (CHECK clause).** SQL では、表チェック制約を指定する CREATE TABLE ステートメントと  
ALTER TABLE ステートメントの拡張部分を指す。

**CI.** 28 ページの『コントロール・インターバル (control interval)』を参照。

7 | **CICS.** ビジネス・アプリケーションのトランザクションや処理のサービスおよび管理機能をオンラインで行うことを  
7 | 可能にする IBM ライセンス・プログラム。

7 | **CICS アタッチ機能 (CICS attachment facility).** CICS 環境で実行されるアプリケーションが DB2 コマンドを実行  
7 | できるようにするために、DB2 Universal Database へのマルチスレッド接続を提供する機能。

**CIDF.** 28 ページの『コントロール・インターバル定義フィールド (control interval definition field)』を参照。

**CLI.** 25 ページの『コール・レベル・インターフェース (call level interface)』を参照。

**CLIST.** 27 ページの『コマンド・リスト (command list)』を参照。

**CLOB.** 84 ページの『文字ラージ・オブジェクト (character large object)』を参照。

**CLP.** 26 ページの『コマンド行プロセッサ (command line processor)』を参照。

**CLPA.** 91 ページの『リンク・バック域作成 (create link pack area)』を参照。

7 | **CLR.** 19 ページの『共通言語ランタイム (common language runtime)』を参照。

**coded character set identifier (CCSID).** エンコード・スキーマ ID、文字セット ID、コード・ページ ID、および  
コード化 GRAPHIC 文字表現を固有に識別するその他の情報を含む数字。

## 用語集

- 1 **come-from チェック (come-from checking).** パートナー LU から DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 への接続を認める許可 ID のリストを定義する、 SNA LU 6.2 セキュリティー・オプション。
- CP.** 28 ページの『コントロール・ポイント (control point)』を参照。
- CP 名 (CP name).** 28 ページの『コントロール・ポイント名 (control point name)』を参照。
- CPC.** 50 ページの『中央処理装置複合システム (central processing complex)』を参照。
- CPI-C.** 19 ページの『共通プログラミング・インターフェース・コミュニケーション (Common Programming Interface Communications)』を参照。
- CPI-C サイド情報プロファイル (CPI-C side information profile).** SNA では、リモート・トランザクション・プログラムで会話を割り当てるときに使う会話特性を指定するプロファイル。このプロファイルは、CPI 通信を介して通信するローカル・トランザクション・プログラムで使われる。これは、パートナー LU 名 (リモート LU 名の入った接続プロファイルの名前)、モード名、およびリモート・トランザクション・プログラム名を指定する。
- CRC.** 27 ページの『コマンド認識文字 (command recognition character)』を参照。
- CRCR.** 40 ページの『条件付き再始動制御レコード (conditional restart control record)』を参照。
- CS.** 10 ページの『カーソル固定 (cursor stability)』を参照。
- CSA.** 19 ページの『共通サービス域 (common service area)』を参照。

## D

- DAD.** 78 ページの『文書アクセス定義 (document access definition)』を参照。
- 7 **DADX.** 78 ページの『文書アクセス定義拡張 (Document Access Definition Extension)』を参照。
- DARI.** 54 ページの『データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース (Database Application Remote Interface)』を参照。
- 1 **Data Links Manager 管理者 (Data Links Manager Administrator).** DB2 Data Links Manager および関連した環境の管理に責任を負う担当者およびユーザー ID。DLFM ユーザー ということもある。これは、DB2 Data Links Manager がインストールされると、dlm のデフォルト・ユーザー ID によるアカウントが Data Links Manager 管理用にセットアップされるため。
- 1 Data Links Manager 管理者のユーザー ID も DLFM コンポーネントによって使用されるすべてのリソースを所有する。たとえば次の場合がある。
- 1 • DLFM\_DB データベースが含まれる DB2 インスタンス
  - 1 • READ PERMISSION DB DATALINK タイプ列で参照されるリンク済みファイル
  - 1 • DLFM サーバー自身が実行するユーザー ID
- 1 103 ページの『dlmadmin アカウント (dlmadmin account)』および 41 ページの『スーパーユーザー (superuser)』も参照。
- 7 **DataJoiner.** 101 ページの『DB2 Information Integrator』を参照。72 ページの『フェデレーテッド・サーバー (federated server)』も参照。
- 7 **DataJoiner レプリケーション管理 (DJRA) ツール (DataJoiner Replication Administration (DJRA) tool).** 101 ページの『DB2 Information Integrator』を参照。28 ページの『コントロール・センター (Control Center)』も参照。
- 1 **DATALINK.** データベースから、データベース外に保管されているファイルへの論理参照を可能にする、SQL データ・タイプの 1 つ。

7 **DB2 Administration Server.** DB2 サーバーの管理タスクを支援するコントロール・ポイントで、クライアント要求  
7 に応じてサーバーおよびホスト・システムに対するリモート・タスクを実行する。

1 **DB2 Application Development Client (DB2 AD Client).** 開発者がデータベース・アプリケーションを作成する  
1 ときに役に立つツールの集合。

7 **DB2 Connect.** DB2 ファミリー・データベース・サーバーに保管されたデータをクライアント・アプリケーションか  
7 ら読み取りおよび更新できるようにする製品。

7 **DB2 Data Links Manager.** 別途オーダー可能な機能で、構造化されていないファイルおよびリレーショナル・デー  
7 タベース管理システム (RDBMS) に保管されたデータをアプリケーションから操作できるようにする。DB2 Data  
Links Manager を使用すれば、DB2 Universal Database はデータベースに保管されているかのように非構造化ファイル  
を管理して、DB2 Universal Database の拡張機能を介して RDBMS と外部ファイル・システムを統合することができ  
る。

1 **DB2 DataPropagator.** OS/390、z/OS、OS/400、z/VM、VM、および VSE オペレーティング・システム環境に DB2  
1 レプリケーションを提供する製品。UNIX および Windows オペレーティング・システム環境では、レプリケーション  
1 は DB2 に組み込まれており、別のライセンスは不要である。92 ページの『レプリケーション (replication)』も参照。

7 **DB2 Geodetic Extender.** DB2 UDB コンポーネントの 1 つで、(DB2 Spatial Extender のように丸い地球を平らな  
7 面として扱うのではなく) 連続した閉じた球体としての地球モデルを使用して、空間データ・タイプを保管および操作  
7 する。

1 **DB2 Information Integrator.** 分散した多様なリアルタイム・データを統合する IBM 製品。単一の API のもとで構  
1 造化データと非構造化データをアクセスおよび統合するためのラッパーを提供する。DB2 Information Integrator は、  
1 DB2 Relational Connect、DB2 Life Sciences Data Connect、および DB2 DataJoiner 製品およびツールに代わるもので  
1 ある。

7 **DB2 Net Search Extender.** DB2 ストアード・プロシージャから、完全テキスト検索を提供するプログラム。  
DB2 Net Search Extender は主にパフォーマンスを最適化する。DB2 Net Search Extender を使用すると、同時照会に  
従う大規模索引やスケーラビリティでの検索パフォーマンスが重要な要因であるアプリケーションで特に有利になる。

7 さらに DB2 Net Search Extender が提供する強力な検索機能は、豊富な言語機能によって拡張されている。情報のニー  
ズが複雑で検索結果の質と精度がシステム応答時間よりも重要な課題となる高度に構造化した文書を使用するアプリケ  
7 ーションは、これを役立てることができる。

7 **DB2 PM.** DB2 Performance Monitor for z/OS and OS/390 のこと。

**DB2 SDK.** 『DB2 Application Development Client』を参照。

7 **DB2 Spatial Extender.** 空間データ・タイプを保管および操作する DB2 UDB コンポーネント。DB2 Spatial  
Extender を使用して、地理的な特徴を示す空間情報を生成して分析することができる。51 ページの『地理的特徴  
7 (geographic feature)』も参照。

1 **DB2 XML エクステンダー (DB2 XML Extender).** DB2 の表で XML 文書を保管し管理するために使用されるプロ  
1 グラム。適格で妥当性検査された XML 文書は、既存のリレーショナル・データから生成され、列データとして保管  
される。XML エレメントの内容と属性は DB2 の表に保管される。

1 **DB2 以外のリレーショナル・データベース・サーバー (non-DB2 relational database server).** IBM 以外のベンダ  
1 ーからの Informix データベース・サーバーまたはリレーショナル・データベース・サーバー。

7 **DB2 エクステンダー (DB2 extender).** 従来の数値および文字データ以外のデータ・タイプ (たとえば画像、音声、  
7 ビデオ・データ)、およびこれらの複合した文書を保管および検索できるプログラム。

## 用語集

**DB2 間 R/W インタレスト (inter-DB2 R/W interest).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データ共有グループの複数のメンバーによってオープンされ、そのうち少なくとも 1 メンバーが書き込みのためにオープンしているような、表スペース、索引、またはパーティションの中のデータの特徴。

7 **DB2 クライアント (DB2 client).** リモート・データベースのロケーションを判別し、データベース・サーバーへの要求の伝送を管理して結果を戻すクライアント。

7 **DB2 コール・レベル・インターフェース (CLI) (DB2 Call Level Interface (CLI)).** 25 ページの『コール・レベル・インターフェース (call level interface)』を参照。

**DB2 コマンド (DB2 command).** データベース・マネージャーへのアクセスおよび保守のためのオペレーティング・システムへの指示。たとえば、DB2 コマンドによってユーザーはデータベースの開始または停止、現行ユーザーの情報およびデータベース状況の表示が可能になる。

1 **DB2 ダウンロード・ツール (DB2 Download Tool).** MVS と SP システム間で高速データ転送を実行するツール。

1 **DB2 ツール・カタログ (DB2 tools catalog).** データベース・ツール (データウェアハウス・センター、コントロール・センター、タスク・センター、インフォメーション・カタログ・センター) で保守され、ロード、再編成、データベース保守処理、データ移動処理、および関連したスケジュール、ログ、従属関係の処理などの DB2 が実行する処理とタスクに関する情報が含まれる表またはファイルの集合。

1 **DB2 ツール・メタデータ (DB2 tools metadata).** ロード、再編成、データベース保守処理、データ移動処理、および関連したスケジュール、ログ、従属関係の処理などの DB2 が実行する処理とタスクに関する情報。DB2 ツール・カタログに含まれる。

1 **DB2 テキスト・エクステンダー (DB2 Text Extender).** DB2 Universal Database バージョン 8 で名前が変更され、7 機能拡張された。101 ページの『DB2 Net Search Extender』を参照。

1 **DB2 ホスト (DB2 host).** DB2 Data Links Manager 構成、DB2 データベース、DB2 サーバーで、DATALINK 列が含まれているもの。

7 **DB2 レプリケーション (DB2 replication).** 114 ページの『SQL レプリケーション (SQL replication)』を参照。111 ページの『Q レプリケーション (Q replication)』も参照。

7 **DB2 .NET Data Provider.** ADO.NET インターフェースの拡張機能で、セキュア接続、コマンドの実行、および結果の検索を使用して .NET アプリケーションから DB2 UDB データベースにアクセスできるようにする。

1 **DB2DC.** 58 ページの『デベロップメント・センター (Development Center)』を参照。

1 **DB2DT.** 『DB2 ダウンロード・ツール (DB2 Download Tool)』を参照。

7 **DB2I.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 における DB2 対話機能。

**DB2I 漢字フィーチャー (DB2I Kanji Feature).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、DB2I パネルを漢字で表示できるようにするパネルとジョブを収めているテープ。

**DBA.** 53 ページの『データベース管理者 (database administrator)』を参照。

**DBA ユーティリティ (DBA Utility).** DB2 ユーザーが、グラフィカル・インターフェースを使って、データベースおよびデータベース・マネージャー・インスタンスを構成したり、ローカルおよびリモートのデータベースにアクセスするのに必要なディレクトリーを管理したり、データベースまたは表スペースをバックアップおよび回復したり、システム上のメディアを管理したりするためのツール。このツールで提供されたタスクは、DB2 コントロール・センターからアクセスできる。

**DBCLOB.** 98 ページの『2 バイト文字ラージ・オブジェクト (double-byte character large object)』を参照。

**DBCS.** 98 ページの『2 バイト文字セット (double-byte character set)』を参照。

- DBD.** 53 ページの『データベース記述子 (database descriptor)』を参照。
- DBID.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データベース ID。
- DBMS.** 53 ページの『データベース管理システム (database management system)』を参照。
- DBMS インスタンス接続 (DBMS instance connection).** アプリケーションと、DB2 インスタンスが所有するエージェント・プロセスまたはスレッドとの間の論理接続。
- DBRM.** 54 ページの『データベース要求モジュール (database request module)』を参照。
- DCLGEN.** 46 ページの『宣言生成機能 (declarations generator)』を参照。
- DD 名 (ddname).** 53 ページの『データ定義名 (data definition name)』を参照。
- DDF.** 77 ページの『分散データ機能 (distributed data facility)』を参照。
- DDL.** 53 ページの『データ定義言語 (data definition language)』を参照。
- deterministic 関数 (deterministic function).** 結果が入力引き数の値に従属しているユーザー定義関数。同じ引き数値を続けて呼び出すとすべて同じ結果になる。68 ページの『非 deterministic 関数 (not deterministic function)』 (inter-partition parallelism) と対比。
- DFP.** z/OS または OS/390 環境では、データ機能製品 (DFP)。
- DLC.** 56 ページの『データ・リンク制御 (DLC) (data link control)』を参照。
- DLFF.** 56 ページの『データ・リンク・ファイル・システム・フィルター (DLFF) (Data Links Filesystem Filter (DLFF))』を参照。
- DLFM.** 57 ページの『データ・リンク・ファイル・マネージャー (DLFM) (Data Links File Manager (DLFM))』を参照。
- DLFM\_ASCOPYD ファイル・コピー・デーモン (Data Links Manager レプリケーション・デーモン) (DLFM\_ASCOPYD file-copy daemon (Data Links Manager Replication daemon)).** データ・レプリケーションのサポートで、DB2 Data Links Manager ファイル (DB2 リレーショナル・データに関連した結合) のレプリケーションを使用可能にする DLFM 処理。
- DLFM\_DB データベース (DLFM\_DB database).** データ・リンク・サーバーのロギング・マネージャーとして動作する DB2 データベース。
- DLFS.** 56 ページの『データ・リンク・ファイル・システム (DLFS) (Data Links File System (DLFS))』を参照。
- DLM.** 101 ページの『DB2 Data Links Manager』を参照。
- dldadmin アカウント (dldadmin account).** DB2 Data Links Manager において、Windows 環境の拡張ユーザー特権を持つアカウント。UNIX 環境の root ユーザーと同等の動作が可能である。その目的は、スーパーユーザーとして動作し、DLFM コンポーネントとデータ・リンク・サーバー上の Data Links Manager 管理者との両方によって必要な拡張管理操作を実行すること。
- DLU.** 38 ページの『従属論理装置 (dependent logical unit)』を参照。
- DML.** 53 ページの『データ操作言語 (data manipulation language)』を参照。
- DMS 表スペース (DMS table space).** 53 ページの『データベース管理スペース表スペース (database-managed space table space)』を参照。
- DNS.** 60 ページの『ドメイン・ネーム・サーバー (domain name server)』を参照。

## 用語集

**Domino™ Go Web サーバー(Domino Go Web server).** 通常接続とセキュア接続の両方を提供する Web サーバー。ICAPI と GWAPI は、このサーバーで提供されるインターフェース。

7 **DPSI.** 56 ページの『データ・パーティション副次索引 (data-partitioned secondary index)』を参照。

**DRDA.** 77 ページの『分散リレーショナル・データベース体系 (Distributed Relational Database Architecture)』を参照。

| **DRDA アクセス (DRDA access).** 分散データにアクセスする方式。これにより、SQL ステートメントを用いて別の  
| データベース・サーバー (ロケーション別) に接続し、そのロケーションで前にバインドされたパッケージを実行でき  
| る。SQL CONNECT ステートメントまたは 3 パート名 SQL ステートメントがサーバーを識別するのに使用され  
| る。74 ページの『プライベート・プロトコル・アクセス (private protocol access)』も参照。

| **DRNP.** 56 ページの『データ・リンク調整不能 (DRNP) (Data Link Reconcile Not Possible (DRNP))』を参照。

| **DRP.** 56 ページの『データ・リンク調整ペンディング (Data Link Reconcile Pending (DRP))』を参照。

**DSN.** 58 ページの『デフォルト・サブシステム名 (default subsystem name)』を参照。

| **DTD.** 78 ページの『文書タイプ定義 (document type definition)』を参照。

| **DTD 参照表 (DTD reference table).** DTD から構成される表で、さまざまな XML 文書を検証したり、アプリケー  
| ションが DAD を定義するのを支援する。この表は、データベースが XML 使用可能な場合に作成される。ユーザー  
| 独自の DTD を DTD\_REF 表に挿入することができる。

**DUOW.** 77 ページの『分散作業単位 (distributed unit of work)』を参照。

## E

**EA 使用可能表スペース (EA-enabled table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、4 ギガバイトより大きい個別のパーティション (LOB 表スペースの場合は部分) を含んでおり、拡張アドレッシング機能 (EA) (extended addressability, EA) が使用可能となっている表スペースまたは索引スペース。

| **EBCDIC.** テキストのデータ表記 (通常は zSeries および iSeries サーバーで使用される) 用に開発された 256 個の 8  
| ビット文字のコード化文字セット。98 ページの『ASCII』および 86 ページの『ユニコード (Unicode)』も参照。

**EDM.** 電子データ管理。

7 **EDU.** 7 ページの『エンジン・ディスパッチ可能単位 (engine dispatchable unit)』を参照。

**EID.** イベント ID (Event identifier)。

**EN.** 8 ページの『エンド・ノード (end node)』を参照。

**EOM.** メモリーの終了 (End of memory)。

**EOT.** タスクの終了 (End of task)。

7 **ESDS.** レコードがデータ・セットに書き込まれるときの順序とレコードの物理的順序が同じである VSAM データ・  
7 セット。VSAM データ・セットはアドレスによる直接アクセスまたはアドレスによる順次アクセスによって処理さ  
7 れ、索引を持たない。新しいレコードは、データ・セットの末尾に追加される。

**ESMT.** 11 ページの『外部サブシステム・モジュール表 (external subsystem module table)』を参照。

**EUC.** 12 ページの『拡張 UNIX コード (EUC) コード化スキーム (Extended UNIX Code (EUC) encoding scheme)』  
を参照。

**explain.** SQL ステートメントを解決するため SQL コンパイラーが選んだアクセス・プランについての詳細な情報を獲得すること。この情報は、そのアクセス・プランを選ぶのに使われた決定基準を記述している。

**EXPLAIN 可能ステートメント (explainable statement).** Explain 操作が実行可能な SQL ステートメント。  
EXPLAIN 可能ステートメントは SELECT、UPDATE、INSERT、DELETE、および VALUES。

**EXPLAIN されたステートメント (explained statement).** Explain 操作が実行された SQL ステートメント。

7 **EXPLAIN された統計 (explain statistics).** SQL ステートメントが explain されるときに参照される、カタログ内の  
7 統計。

1 **EXPLAIN スナップショット (explain snapshot).** (1) SQL ステートメントが explain されるときに圧縮される情報の  
7 集合。(2) SQL 照会とその関連情報の現行の内部表記をキャプチャーしたもの。この情報は、Visual Explain ツール  
7 で必要とされる。

1 **Extensible Markup Language (XML).** 文書処理および Web での情報出版のためのテキスト・ベースのタグ言語。

7 **Extensible Stylesheet Language Transformation (XSLT).** XML 文書を XML、PDF、HTML その他の形式の別の  
7 文書に変換するための XML 処理言語。

7 **Extensible Stylesheet Language (XSL).** XML 文書のスタイル・シートを指定するための言語。XSL は、XML  
7 文書をトランスフォームする言語と、フォーマット・セマンティクスを指定する XML ボキャブラリーの 2 つの部分  
7 から構成される。『Extensible Stylesheet Language Transformation』も参照。

## F

7 **FAT.** 72 ページの『ファイル割り振り表 (file allocation table)』を参照。

7 **fenced でない (not fenced).** データベース・マネージャー・プロセスで実行するよう定義されたプロシージャ、  
7 ユーザー定義関数、またはフェデレーテッド・ラッパーのタイプ (つまり特性)。(not fenced 文節を使って) このタイ  
7 プのオブジェクトが実行されるとき、データベース・マネージャーはこのオブジェクトによる変更から保護されない。  
7 78 ページの『分離 (fenced)』も参照。

1 **File System Migrator (FSM).** Tivoli Space Manager で制御されたスペース使用の仮想ファイル・システム。DB2  
1 Data Links Manager は、AIX 操作環境のファイル・システムの使用をサポートする。

**flagger.** 選択された検証基準 (たとえば、ISO/ANSI SQL92 項目レベル標準) に合致しない、アプリケーション内の  
SQL ステートメントを識別するプリコンパイラー・オプション。

1 **FSM.** 『File System Migrator』を参照。

## G

1 **GBP.** 22 ページの『グループ・バッファ・プール (group buffer pool)』を参照。

**GBP 従属 (GBP-dependent).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、グループ・バッファ・プールに  
従属するページ・セットまたはページ・セット・パーティション状況。このページ・セットの読み取り/書き込みイン  
タレストが DB2 サブシステムでアクティブであるか、またはディスクにまだ書き出されていないグループ・バッファ  
ー・プール内に、変更されたページを持つページ・セットがある。

1 **GIS.** 51 ページの『地理情報システム (geographic information system)』を参照。

**GRAPHIC ストリング (graphic string).** DBCS ストリング。

**GRAPHIC 文字 (graphic character).** DBCS 文字。

## 用語集

**GTF.** 68 ページの『汎用トレース機能 (generalized trace facility)』を参照。

**GWAPI.** Domino Go Web サーバー API。

## H

1 **HACMP.** 『High Availability Cluster Multiprocessing (HACMP)』を参照。

7 **HADR.** 25 ページの『高可用性災害時リカバリー (HADR) (high availability disaster recovery (HADR))』を参照。

7 **High Availability Cluster Multiprocessing (HACMP).** IBM pSeries サーバーまたは pSeries サーバーの論理区画を  
7 高可用性クラスターにリンクさせる IBM アプリケーション。ビジネス上重要なアプリケーションが必要とする複数の  
7 IT リソースへの並行アクセス、および障害からの回復力を提供する。 72 ページの『フェイルオーバー (failover)』お  
7 よび 73 ページの『フォールバック (fallback)』を参照。

1 **HTML.** 66 ページの『ハイパーテキスト・マークアップ言語 (Hypertext Markup Language)』を参照。

## I

7 **ICAPI.** インターネット接続 API。

7 **ICF.** z/OS または OS/390 環境における統合カタログ機能。

1 **ID 列 (identity column).** DB2 が、表に挿入されたそれぞれの行に対して自動的に数値を生成する方法を提供する  
1 列。一致列は、AS IDENTITY 文節として定義される。表には識別列が 1 つしかない。

7 **IDCAMS.** z/OS または OS/390 環境において、アクセス方式サービス・コマンドの処理に使用される IBM プログラ  
7 ム。このプログラムは、TSO 端末またはユーザー・アプリケーション・プログラム内から、ジョブもしくはジョブ・  
7 ステップとして呼び出すことができる。

7 **IDCAMS LISTCAT.** z/OS または OS/390 環境において、アクセス方式サービス・カタログの情報を入手するための  
7 機能。

**IFCID.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、計測機能コンポーネント ID (Instrumentation facility component identifier)。

**IFI.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、計測機能インターフェース (Instrumentation facility interface)。

**IFI 呼び出し (IFI call).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、定義した関数の 1 つによる、計測機能インターフェース (IFI) の呼び出し。

7 **IFP.** z/OS または OS/390 環境における IMS 高速パス (IMS Fast Path)。

7 **IL.** 51 ページの『中間言語 (intermediate language)』を参照。

**ILU.** 60 ページの『独立論理装置 (independent logical unit)』を参照。

7 **IMS.** 40 ページの『情報管理システム (Information Management System)』を参照。

1 **IMS DataPropagator.** IMS と DB2 データベースの間のレプリケーションを提供する製品。 92 ページの『レプリケ  
1 ーション (replication)』も参照。

1 **IMS DB.** 情報管理システム・データベース・マネージャー (Information Management System Database Manager) を指  
1 す。



**IMS TM.** 情報管理システム・トランザクション・マネージャー (Information Management System Transaction Manager)。

7 **IMS アタッチ機能 (IMS attachment facility).** IMS から DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 へのユーザー・アクセスを可能にする DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 サブコンポーネント。IMS アタッチ機能は、IMS サブシステムによって提供される出口を使用して、DB2 データベースにアクセスする要求を受け取り解釈する。

7 **INSTEAD OF トリガー (instead of trigger).** 単一のビューに関連付けられ、そのビューに対する挿入、更新、または削除操作によって活動化されるトリガー。ビューに対する挿入、更新、または削除操作がどのように基礎表に波及するかを定義する。61 ページの『トリガー (trigger)』、80 ページの『変更前トリガー (before trigger)』、および 80 ページの『変更後トリガー (after trigger)』も参照。

**IP.** 6 ページの『インターネット・プロトコル (Internet Protocol)』を参照。

7 **IP アドレス (IP address).** イン트라ネットまたはインターネットにおいて、それぞれの装置またはワークステーションの場所を指定するユニーク・アドレス。たとえば 9.67.97.103 は IP アドレスである。

**IRLM.** 63 ページの『内部リソース・ロック・マネージャー (internal resource lock manager)』を参照。

**ISAPI.** Microsoft® Internet Server API.

**ISPF.** 49 ページの『対話式システム生産性向上機能 (Interactive System Productivity Facility)』を参照。

7 **ISPF/PDF.** z/OS または OS/390 環境における対話式システム生産性向上機能/プログラム開発機能 (Interactive System Productivity Facility/Program Development Facility)。

**I/O 並列処理 (I/O parallelism).** 78 ページの『並列処理 (parallelism)』を参照。

## J

7 **Java Database Connectivity (JDBC).** Java プラットフォームとさまざまなデータベースを接続するための、データベース非依存コネクティビティの業界標準。JDBC は、SQL ベースのデータベース・アクセス用のコール・レベル API を提供する。

7 **Java アーカイブ (Java archive).** Java プログラムをインストールして実行するのに必要なすべてのリソースを 1 つのファイルにまとめて保管した圧縮ファイル形式。JAR ファイルと呼ばれることが多い。

**JCL.** 40 ページの『ジョブ制御言語 (job control language)』を参照。

7 **JDBC ドライバー (JDBC driver).** データベースと Java アプリケーションとの間の JDBC 標準アクセスをサポートするデータベース管理システムが組み込まれたプログラム。

**JES.** 40 ページの『ジョブ入力サブシステム (Job Entry Subsystem)』を参照。

7 **JFS.** 『journaled file system』を参照。

7 **Journaled File System (JFS).** AIX オペレーティング・システム固有のファイル・システム。

## K

7 **Kerberos.** 秘密鍵暗号方式を使用してクライアント/サーバー・アプリケーションに強力な認証を提供するように設計されたネットワーク認証プロトコル。108 ページの『Kerberos チケット (Kerberos ticket)』も参照。

## 用語集

1 **Kerberos チケット (Kerberos ticket).** 開始プリンシパルの識別をそのターゲットに伝送する透過アプリケーションのメカニズム。単一のチケットには、ターゲットの機密キーによって封印された、プリンシパルの ID、セッション・キー、タイム・スタンプ、およびその他の情報が含まれる。

**KSDS.** 16 ページの『キー順データ・セット (key-sequenced data set)』を参照。

## L

1 **LARGE 表スペース (large table space).** LONG スtring、ラージ・オブジェクト (LOB)、または索引データだけを記憶できる表スペース。

7 **LCID.** z/OS または OS/390 環境におけるログ制御インターバル定義 (Log control interval definition)。

**LDS.** 45 ページの『線形データ・セット (linear data set)』を参照。

**LEN ノード (LEN node).** 94 ページの『ロー項目ネットワーク・ノード (low-entry networking node)』を参照。

**LOB.** 87 ページの『ラージ・オブジェクト (LOB) (large object)』を参照。

**LOB 表スペース (LOB table space).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、関連する基本表内の特定の LOB 列にすべてのデータが入っている表スペース。

**LOB ロケーター (LOB locator).** アプリケーション・プログラムがデータベース・システム内のラージ・オブジェクト (LOB) 値を操作できるようにするメカニズム。LOB ロケーターは、単一の LOB 値を表す単純なトークン値である。アプリケーション・プログラムは、LOB ロケーターをホスト変数に取り込んでから、それに関連した LOB 値に対してロケーターを介して SQL 関数を適用する。

**LOB ロック (LOB lock).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 における LOB 値のロック。

7 **LONG スtring (long string).** 最大長が 254 バイトより長い可変長スtring。

1 **LONG 表スペース (long table space).** 『LARGE 表スペース (large table space)』を参照。

**LPL.** 97 ページの『論理ページ・リスト (logical page list)』を参照。

**LRECP.** 97 ページの『論理リカバリー・ペンディング (logical recovery pending)』を参照。

**LRH.** 95 ページの『ログ・レコード・ヘッダー (log record header)』を参照。

**LRSN.** 95 ページの『ログ・レコード・シーケンス番号 (log record sequence number)』を参照。

**LU.** 96 ページの『論理装置 (logical unit)』を参照。

**LU 6.2.** 96 ページの『論理装置タイプ 6.2 (logical unit 6.2)』を参照。

1 **LU タイプ (LU type).** SNA プロトコルの特定のサブセット、および特定のセッションでサポートされるオプションに基づく論理装置の分類。とくに、セッション活動化要求と、データ・ストリーム制御機能、機能管理ヘッダー、要求単位パラメーター、センス・データ値、および機能管理ヘッダーに関連した表示サービス・プロトコルで使用可能な値。

7 **LU 名 (LU name).** z/OS または OS/390 環境で、VTAM がネットワーク内のノードを参照するときに使う名前。

7 95 ページの『ロケーション名 (location name)』も参照。

**LUW.** 31 ページの『作業論理単位 (logical unit of work)』を参照。

**LUWID.** 31 ページの『作業論理単位 ID (logical unit of work identifier)』を参照。

## M

- 1 **MBCS.** 83 ページの『マルチバイト文字セット (multibyte character set)』を参照。
- 2 **MDC 表 (MDC table).** 82 ページの『マルチディメンション・クラスター化表 (multidimensional clustering table)』を参照。
- 7 **MODEENT.** z/OS または OS/390 環境において、セッション・プロトコルを示すパラメーターの集合にログオン・モード名を関連付ける VTAM マクロ命令。MODEENT マクロ命令の集合はログオン・モード表を定義する。
- MPP.** 84 ページの『メッセージ処理プログラム (message processing program)』または 51 ページの『超並列処理 (massively parallel processing)』を参照。
- 1 **MQT.** 82 ページの『マテリアライズ照会表 (materialized query table)』を参照。
- MTO.** OS/390 環境では、マスター端末オペレーター (master terminal operator)。

## N

- NAU.** 64 ページの『ネットワーク・アドレス可能単位 (network addressable unit)』を参照。
- 1 **NETWORK netid.** リモート LU が常駐する SNA ネットワークの ID。このネットワーク ID は、SNA の命名規則に従った 8 文字以内のストリングである。
- NID.** 63 ページの『ネットワーク ID (network identifier)』を参照。
- 1 **NIS/NIS+.** 63 ページの『ネットワーク情報サービス (Network Information Service)』を参照。
- NN.** 64 ページの『ネットワーク・ノード (network node)』を参照。
- 7 **NPSI.** 70 ページの『非パーティション副次索引 (nonpartitioned secondary index)』を参照。
- 7 **NRE.** z/OS または OS/390 環境におけるネットワーク・リカバリー・エレメント (network recovery element)。
- 1 **NTFS.** Windows NT および Windows 2000 のような後継操作環境の固有のファイル・システムの 1 つ。
- 1 **NULL.** (1) C プログラミング言語では、ストリングの終了を表す単一の文字。(2) SQL において、特定の行および 7 列のデータが存在しないことを示す値。
- NULL 値 (null value).** 値が指定されていないパラメーターの位置。
- 7 **NULL 可能 (nullable).** 列、関数パラメーター、または結果に値がなくてもよい状態。
- 7 **NULL 終止符 (null terminator).** C において、ストリングの終了を示す値。EBCDIC、ASCII、および Unicode UTF-8 ストリングの場合、ヌル終止符は単一バイトの値 (X'00')。Unicode UTF-16 および UCS-2 (wide) ストリングの場合、ヌル終止符は 2 バイトの値 (X'0000')。
- 7 **NULL で終了するホスト変数 (null terminated host variable).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、ヌル終止符の存在によってデータの終わりが示される可変長のホスト変数。
- 1 **NULL 標識 (null indicator).** 表の列にロードされているデータに関して NULL 標識フラグが含まれる、区切りなし ASCII ファイル内の列 (バイト位置単位)。NULL 標識フラグの値は、任意の有効な正の整数である。『NULL 標識フラグ (null indicator flag)』も参照。
- 1 **NULL 標識フラグ (null indicator flag).** 区切りなし ASCII ファイルの『NULL 標識 (null indicator)』列に含まれる 1 バイト文字。ロード処理でそれぞれのデータ行が参照される時、NULL 標識フラグは、開始位置と終了位置によって定義される列のデータが NULL であるかどうかを示す。

## 用語集

- 1 **NULLIF.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、引き数が等しい場合は NULL を戻し、等しくない場合  
1 は最初の引き数の値を戻して、2 つの渡された式を評価するスカラー関数。

## O

**OASN.** 16 ページの『起点アプリケーション・スケジュール番号 (origin application schedule number)』を参照。

**OBID.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、データ・オブジェクト ID (Data object identifier)。

**ODBC.** 『Open Database Connectivity』を参照。

**ODBC ドライバー (ODBC driver).** ODBC 関数呼び出しを実行し、データ・ソースと対話するドライバー。

**OLAP.** 9 ページの『オンライン分析処理 (online analytical processing)』を参照。

- 7 **Open Database Connectivity (ODBC).** (SQL プリプロセッサを必要としない) 呼び出し可能 SQL を使ってデー  
7 タベース管理システムにアクセスできるようにするアプリケーション・プログラム・インターフェース (API)。ODBC  
7 アーキテクチャーを使用すると、ユーザーはデータベース・ドライバー (database driver) というモジュールを追加する  
7 ことができる。このモジュールは、選択されたデータベース管理システムにアプリケーションをランタイムにリンクす  
7 る。

## P

**P ロック (P-lock).** 74 ページの『物理ロック (physical lock)』を参照。

**PCT.** CICS では、プログラム制御テーブル (program control table)。

**PDS.** 65 ページの『パーティション・データ・セット (partitioned data set)』を参照。

- 7 **PLT.** 76 ページの『プログラム・リスト・テーブル (program list table)』を参照。

**PPT.** (1) CICS では、処理プログラム表 (processing program table)。 (2) OS/390 では、プログラム特性表 (program properties table)。

**PSRCP.** 78 ページの『ページ・セット・リカバリー・ベンディング (page set recovery pending)』を参照。

**PU.** 74 ページの『物理装置 (physical unit)』を参照。

**PU タイプ (LU type).** SNA では、常駐しているノードのタイプによる物理装置の種別。

## Q

- 7 **Q アプライ待ち時間 (Q Apply latency).** Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムが受信キューか  
7 らトランザクションを受け取った後、トランザクションがターゲット表にアプライされるまでの時間。

7 **Q アプライ・サーバー (Q Apply server).** Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムのコントロール  
7 表が格納され、Q アプライ・プログラムが実行されるデータベースまたはサブシステム。ここには、ターゲット表そ  
7 の他のレプリケーション定義に関する情報を保管するコントロール表のセットが 1 つまたは複数含まれる。

7 **Q アプライ・スキーマ (Q Apply schema).** Q レプリケーションにおいて、Q アプライ・プログラムとそのコント  
7 ロール表のための ID。

7 **Q アプライ・プログラム (Q Apply program).** Q レプリケーションにおいて、受信キューからトランザクションを  
7 読み取り、変更内容を 1 つまたは複数のターゲット表にアプライするか、変更内容をストアード・プロシージャーに  
7 渡すプログラム。

7 **Q キャプチャー待ち時間 (Q Capture latency).** Q レプリケーションにおいて、現在の Q キャプチャー・プログラ  
7 ムが DB2 Universal Database リカバリー・ログを読み取るおおよその時間。Q キャプチャー待ち時間は、Q キャプ  
7 チャー・プログラムがパフォーマンス・データを保管した時間と、データ保管時にプログラムがログ内で読み取った、  
7 最後にコミットされたトランザクションのタイム・スタンプとの差異を測定する。たとえば、Q キャプチャー・プログ  
7 ラムが午前 10 時にパフォーマンス・データを保管した場合、最後にコミットされたトランザクションのタイム・スタ  
7 ンプが午前 9:59 であれば、Q キャプチャー待ち時間は 1 分。

7 **Q キャプチャー・サーバー (Q Capture server).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、Q キャプチャー  
7 ー・プログラムのコントロール表が格納され、Q キャプチャー・プログラムが実行されるデータベースまたはサブシ  
7 ステム。Q キャプチャー・サーバーには、Q サブスクリプション、XML 発行、その他のレプリケーション定義また  
7 は発行定義に関する情報を保管するコントロール表のセットが 1 つまたは複数含まれる。

7 **Q キャプチャー・スキーマ (Q Capture schema).** Q レプリケーションにおいて、Q キャプチャー・プログラムと  
7 そのコントロール表のための ID。

7 **Q キャプチャー・トランザクション待ち時間 (Q Capture transaction latency).** Q レプリケーションにおいて、  
7 DB2 Universal Database リカバリー・ログにあるトランザクションのコミット・ステートメントを Q キャプチャー・  
7 プログラムが読み取った後、トランザクションを含むメッセージを Q キャプチャー・プログラムが送信キューに入れ  
7 るまでの時間。

7 **Q キャプチャー・プログラム (Q Capture program).** Q レプリケーションおよびイベント発行において、DB2  
7 Universal Database ソース表の変更内容をキャプチャーするために DB2 Universal Database リカバリー・ログを読み取  
7 り、1 つまたは複数の送信キューを使って変更内容を伝送するプログラム。

7 **Q サブスクリプション (Q subscription).** Q レプリケーションにおいて、ソース表とターゲット表またはストアー  
7 ド・プロシージャの間のマッピングを識別し、どの変更内容が複製されるかを指定するオブジェクト。117 ページ  
7 の『XML 発行 (XML publication)』と対比。

7 **Q サブスクリプション・グループ (Q subscription group).** Q レプリケーションにおいて、同じ論理表の複製に参  
7 加する複数の Q サブスクリプションのグループ。

7 **Q レプリケーション (Q replication).** WebSphere MQ メッセージ・キューを使用する、大規模で待ち時間の少ない  
7 レプリケーション・ソリューション。

**QBIC.** 5 ページの『イメージ内容による照会 (Query by Image Content)』を参照。

**QSAM.** 48 ページの『待機順次アクセス方式 (queued sequential access method)』を参照。

## R

1 **RACF.** 89 ページの『リソース・アクセス制御機能 (RACF) (Resource Access Control Facility (RACF))』を参照。

7 **RAMAC.** z/OS または OS/390 環境において、IBM の企業向けディスク装置システム製品のファミリー。

**RBA.** 46 ページの『相対バイト・アドレス (relative byte address)』を参照。

7 **RCT.** (1) 89 ページの『リソース管理表 (resource control table)』を参照。(2) 68 ページの『範囲クラスター表  
7 (range-clustered table)』を参照。

**RDB.** 90 ページの『リレーショナル・データベース (relational database)』を参照。

**RDBMS.** 90 ページの『リレーショナル・データベース管理システム (relational database management system)』を参  
照。

1 **RDBMS カタログ (RDBMS catalog).** インフォメーション・カタログ・センターでは、RDBMS で保守される表、ビ  
1 ュー、および索引などの SQL オブジェクトの記述を収めている表の集合。

## 用語集

7 **RECP.** 88 ページの『リカバリー・ペンディング (recovery pending)』を参照。

**REGULAR 表スペース (regular table space).** 非一時データを保管できる表スペース。

**REORG ペンディング (REORP) (REORG pending (REORP)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、再編成が必要なオブジェクトに対する SQL アクセスおよびほとんどのユーティリティ・アクセスを制限する条件のこと。

**REORP.** 『REORG ペンディング (REORG pending)』を参照。

7 **residual recovery entry (RRE).** 未確定の可能性があるとデータベース・マネージャーによって判断されるリカバリー単位。

**RESTOP.** 30 ページの『再始動ペンディング (restart pending)』を参照。

**RID.** 91 ページの『レコード ID (record identifier)』を参照。

**RID プール (RID pool).** 91 ページの『レコード ID プール (record identifier pool)』を参照。

**RLF.** 89 ページの『リソース限定機能 (resource limit facility)』を参照。

**ROWID.** 18 ページの『行 ID (row identifier)』を参照。

**RR.** 68 ページの『反復可能読み取り (repeatable read)』を参照。

1 **RRE.** 『residual recovery entry』を参照。

**RRSAF.** 88 ページの『リカバリー可能リソース・マネージャー・サービス (Recoverable Resource Manager Services)』を参照。

**RS.** 87 ページの『読み取り固定 (RS) (read stability)』を参照。

**RUOW.** 89 ページの『リモート作業単位 (remote unit of work)』を参照。

## S

**SBCS.** 97 ページの『1 バイト文字セット (single-byte character set)』を参照。

7 **SCA.** 19 ページの『共有連絡域 (shared communications area)』を参照。

7 **SDWA.** 36 ページの『システム診断作業域 (system diagnostic work area)』を参照。

**SHORT スtring (short string).** (1) 最大長が 254 以下である固定長ストリングまたは可変長ストリング。(2) DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 において、実際の長さが 255 バイト (127 個の 2 バイト文字) 以下のストリング。または、最大長が 255 バイト (127 個の 2 バイト文字) 以下の可変長ストリング。LOB ストリングは、長さにかかわらず、SHORT ストリングではない。108 ページの『LONG ストリング (long string)』も参照。

7 **Simple Object Access Protocol (SOAP).** 非集中の分散環境で情報を交換するための、XML ベースのプロトコル。

**SMF.** 35 ページの『システム管理機能 (system management facility)』を参照。

**SMS.** 43 ページの『ストレージ管理サブシステム (Storage Management Subsystem)』を参照。

**SMS 表スペース (SMS table space).** 35 ページの『システム管理スペース表スペース (system-managed space table space)』を参照。

**SNA.** 36 ページの『システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture)』を参照。

**SNA ネットワーク (SNA network).** システム・ネットワーク体系 (SNA) の形式およびプロトコルに適合するユーザー・アプリケーション・ネットワークの一部。ユーザー間の確実なデータ転送を可能にし、さまざまなネットワーク構成のリソースを制御するプロトコルを提供する。SNA ネットワークは、ネットワーク・アドレス可能単位 (NAU)、ゲートウェイ機能、中間セッション・ルーティング関数コンポーネントおよびトランスポート・ネットワークから成る。

7 **SOAP.** 112 ページの『Simple Object Access Protocol』を参照。

**SPUFI.** 72 ページの『ファイル入力式 SQL 処理プログラム (SQL Processor Using File Input)』を参照。

**SQL.** 26 ページの『構造化照会言語 (Structured Query Language)』を参照。

**SQL ID.** 『SQL 許可 ID (SQL authorization ID)』を参照。

7 **SQL PL.** 114 ページの『SQL プロシージャ言語 (SQL procedural language)』を参照。

| **SQL アシスタント (SQL Assistant).** SQL ステートメントをグラフィカルに生成する、いくつかの DB2 Universal Database ツールおよびセンターで使用可能なウィザード。

| **SQL 拡張文字 (SQL escape character).** SQL 区切り ID を囲むために使用される記号。拡張文字は引用符である。ただし、COBOL アプリケーションでは、記号を引用符またはアポストロフィにユーザーが割り当てることができない。

| **SQL 関数 (SQL function).** いくつかの SQL ステートメントおよび SQL PL ステートメントのサブセットを使って完全にインプリメントされる関数。14 ページの『関数 (function)』、21 ページの『組み込み関数 (built-in function)』、46 ページの『ソース派生関数 (sourced function)』、および 10 ページの『外部関数 (external function)』も参照。

**SQL 記述子域 (SQLDA) (SQL descriptor area (SQLDA)).** (1) 特定の SQL ステートメントの処理で使用される変数のセット。SQLDA は動的 SQL プログラムを対象としたもの。(2) 入力変数、出力変数、または結果表の列を記述する構造。

**SQL 許可 ID (SQL ID) (SQL authorization ID (SQL ID)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、特定の状態で動的 SQL ステートメントをチェックするために用いられる許可 ID。

**SQL 処理会話 (SQL processing conversation).** アプリケーションまたは動的照会リクエストのいずれかによって、DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 データのアクセスを必要とする会話。

7 **SQL ステートメント・コプロセッサ (SQL statement coprocessor).** z/OS または OS/390 環境における DB2 Universal Database プリコンパイラに代わり、ユーザーはこれを使用してコンパイル時に SQL ステートメントを処理できる。ユーザーは、SQL ステートメント・コプロセッサをコンパイラ・オプションを指定して呼び出すことができる。

**SQL スtring区切り文字 (SQL string delimiter).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SQL スtring定数を囲むために使用される記号。SQL スtring区切り文字は、アポストロフィ (') であるが、COBOL アプリケーションは例外で、ユーザーが記号 (アポストロフィまたは引用符 (")) を割り当てることができる。

**SQL 接続 (SQL connection).** アプリケーション・プロセスとローカルまたはリモートのアプリケーション・サーバーの間の関連。

7 **SQL データ変更ステートメント (SQL data change statement).** ユーザー表に保管されたデータを変更する SQL ステートメント。INSERT、UPDATE、DELETE、および MERGE ステートメントなどのこと。

| **SQL パス (SQL path).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、ユーザー定義関数、特殊タイプ、およびストアード・プロシージャへの修飾されない参照を解決するために使用される、スキーマ名の順序付きリスト。動的 SQL では、現行パスは CURRENT PATH 特殊レジスターの中に入っている。静的 SQL では、現行パスは PATH BIND オプションの中で定義される。

## 用語集

1 **SQL プロシージャ (SQL procedure).** CREATE PROCEDURE ステートメントを実行することで作成され、SQL  
1 PL で完全にインプリメントされるプロシージャ。 SQL プロシージャは、CALL ステートメントを実行すること  
1 で呼び出される。 76 ページの『プロシージャ (procedure)』および 11 ページの『外部プロシージャ (external  
1 procedure)』も参照。

7 **SQL プロシージャ言語 (SQL PL) (SQL procedural language (SQL PL)).** SQL 言語の拡張で、プロシージャ  
7 論理を SQL ステートメント内にインプリメントするためのステートメントおよび言語エレメントからなる。 SQL PL  
7 のステートメントは、変数および条件ハンドラーを宣言し、変数に値を割り当て、プロシージャ論理をインプリメン  
7 トする。

7 **SQL メソッド (SQL method).** いくつかの SQL ステートメントおよび SQL PL ステートメントのサブセットを使  
7 って完全にインプリメントされるメソッド。 84 ページの『メソッド (method)』および 11 ページの『外部メソッド  
7 (external method)』も参照。

**SQL 戻りコード (SQL return code).** SQLCODE または SQLSTATE のいずれか。

**SQL ルーチン (SQL routine).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、SQL で書かれたコードを基にし  
たユーザー定義関数またはストアード・プロシージャ。

7 **SQL レプリケーション (SQL replication).** ステージング表を使用するタイプのレプリケーション。

**SQL 連絡域 (SQLCA) (SQL communication area (SQLCA)).** アプリケーション・プログラムに SQL ステートメ  
ントの実行またはデータベース・マネージャーからの要求に関する情報を提供する変数のセット。

**SQLCA.** 『SQL 連絡域 (SQL communication area)』を参照。

**SQLDA.** 113 ページの『SQL 記述子域 (SQL descriptor area)』を参照。

1 **SQLJ.** Java プログラムで組み込み SQL をサポートする (パート 0)、Java ストアード・プロシージャおよびユー  
1 ザー定義関数を定義し呼び出す (パート 1)、および Java でデータベース構造型を使用する (パート 2) という 3 パー  
1 トの規格。

**SSCP.** 36 ページの『システム・サービス制御点 (system services control point)』を参照。

7 **SSI.** 33 ページの『サブシステム・インターフェース (subsystem interface)』を参照。

**SSM.** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、サブシステム・メンバー (subsystem member)。

7 **SYS1.LOGREC.** z/OS または OS/390 環境において、プログラムおよびハードウェア・エラーについての情報を格納  
7 する保守援助プログラム。

## T

**TCB.** 49 ページの『タスク制御ブロック (task control block)』を参照。

**TCP/IP.** 58 ページの『伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)』を参照。

1 **TCP/IP ポート (TCP/IP port).** TCP/IP ホスト内で TCP/IP ネットワーク・アプリケーションを識別する 2 バイトの  
1 値。

**TEMPORARY 表スペース (temporary table space).** 一時表のみ保管する表スペース。

**timeron.** リソースのおおまかな相対見積もり、またはコストの測定単位。同じ照会に対して 2 つの計画を実行する  
ためにデータベース・サーバーが要求する。 見積もりで計算されたリソースには、重み付けしたプロセッサおよび  
入出力のコストが含まれる。



7 | **Tivoli Space Manager.** Tivoli Storage Manager 製品の機能の 1 つ。1 次固有ファイル・システムでの実際のファイル・アクセスに基づいて、ファイルを 2 次ストレージ・メディアに移動したり、このメディアから移動したりする。この機能は、DB2 Data Links Manager で使用できる。DATALINK ファイルを実質的には無限と言ってよいファイル・システムに保管することができる。

7 | **Tivoli Storage Manager (TSM).** 異種環境でストレージ管理およびデータ・アクセス・サービスを提供するクライアント/サーバー製品。TSM はさまざまな通信方式をサポートし、ファイルのバックアップや保管を管理する機能を提供する。また、バックアップをスケジュールする機能もある。

7 | **TM データベース (TM Database).** 61 ページの『トランザクション・マネージャー・データベース (Transaction Manager Database)』を参照。

7 | **TP.** 60 ページの『トランザクション・プログラム (transaction program)』を参照。

7 | **TSM.** 『Tivoli Storage Manager』を参照。

7 | **TSO.** 48 ページの『タイム・シェアリング・オプション (Time-Sharing Option)』を参照。

7 | **TSO アタッチ機能 (TSO attachment facility).** DSN コマンド処理プログラムおよび DB2I から構成される DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 機能。CICS または IMS 環境用には書かれていないアプリケーションは、TSO アタッチ機能下で実行することができる。

## U

7 | **UCS-2.** 2 オクテットでコード化された汎用文字セット。1 文字 16 ビットで表される。

7 | **UDDI.** 『Universal Description, Discovery, and Integration』を参照。

7 | **UDF.** 85 ページの『ユーザー定義関数 (user-defined function)』を参照。

7 | **UDT.** 85 ページの『ユーザー定義タイプ (user-defined type)』を参照。

7 | **UFS.** 『UNIX ファイル・システム (UFS) (UNIX File System (UFS))』を参照。

7 | **uniform resource locator (URL).** コンピューターやネットワーク (たとえばインターネット) 上のリソース情報を表す一連の文字。この一連の文字には、情報リソースへのアクセスに使用されるプロトコルの省略名、および情報リソースを見つけるためにプロトコルによって使用される情報が含まれる。

7 | **Universal Description, Discovery, and Integration (UDDI).** クライアントが他の Web サービスを動的に検出するためのメカニズム。

7 | **UNIX ファイル・システム (UFS) (UNIX File System (UFS)).** Solaris オペレーティング・システム固有のファイル・システム。

7 | **update-anywhere レプリケーション (update-anywhere replication).** SQL レプリケーションにおいて、すべての表が、登録済みソースかつ読み取り/書き込みターゲットの両方である構成。任意の 1 つの表は、他のすべての表をフル・リフレッシュするための 1 次ソース表である。48 ページの『対等レプリケーション (peer-to-peer replication)』と対比。73 ページの『複数の層でのレプリケーション (multi-tier replication)』、82 ページの『マスター表 (master table)』、および 92 ページの『レプリカ表 (replica table)』も参照。

7 | **UR.** 69 ページの『非コミット読み取り (UR) (uncommitted read (UR))』を参照。

7 | **URID (リカバリー単位) (URID (unit of recovery ID)).** DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 では、リカバリー単位の先頭ログ・レコードの LOGRBA。URID は、そのリカバリー単位の後続のすべてのログ・レコードにも現れる。

7 | **URL.** 『uniform resource locator』を参照。

## 用語集

**UTC.** 19 ページの『協定世界時 (Universal Time Coordinated)』を参照。

| **UTF-16.** ユニコード変換形式の 16 ビットエンコード方式。何万文字ものコード値を提供するために設計された、  
| UCS-2 のスーパーセットである。UTF-16 形式のデータの CCSID 値は 1200 である。DB2 Universal Database for  
| z/OS and OS/390 は GRAPHIC データ・フィールドで UTF-16 をサポートする。

| **UTF-8.** ユニコード変換形式の 8 ビットエンコード方式。既存の ASCII ベース・システムで使いやすいように設計さ  
| れている。UTF-8 形式のデータの CCSID 値は 1208 である。DB2 Universal Database for z/OS and OS/390 は混合  
| データ・フィールドで UTF-8 をサポートする。

## V

**Visual Explain.** データベース管理者およびアプリケーション・プログラマーにグラフィカル・インターフェースを  
提供し、任意の SQL ステートメントのアクセス・プランの詳細情報を表示および分析するツール。このツールで提  
供されたタスクは、コントロール・センターからアクセスできる。

**VSAM.** 12 ページの『仮想記憶アクセス方式 (Virtual Storage Access Method)』を参照。

**VTAM.** 13 ページの『仮想通信アクセス方式 (Virtual Telecommunications Access Method)』を参照。

## W

7 **Web services description language (WSDL).** サービス、ポート、メッセージ、バインディング、およびポート・  
7 タイプからなる定義の集合。WSDL を使用すれば、サービス・プロバイダーは、さまざまなプロトコルやエンコード  
7 を介した Web サービス要求の基本的形式を記述できる。

7 **Web サービス (Web service).** 特定のタスクを実行する、オープン・プロトコル (HTTP や SOAP など) を介して  
7 アクセス可能なモジュラー・アプリケーション。

7 **WebSphere MQ.** メッセージ・キューイング・サービスを提供する IBM ライセンス・プログラム・ファミリー。

**WLM アプリケーション環境 (WLM application environment).** 1 つまたは複数のストアード・プロシージャーと関  
連付けられる MVS ワークロード管理プログラムの属性。WLM アプリケーション環境によって、指定した DB2  
Universal Database for z/OS and OS/390 ストアード・プロシージャーを実行するアドレス・スペースを判別する。

7 **WSDL.** 『Web services description language』を参照。

**WTO.** 9 ページの『オペレーター向け書き込み (write to operator)』を参照。

**WTOR.** 応答付きオペレーター向け書き込み (write to operator with reply)。

## X

| **XBSA.** バックアップおよびリストア・ユーティリティーの業界標準 API の集合。XBSA は DB2 Data Links  
| Manager 環境のリンク・ファイルのバックアップ・コピーの保守で利用できるアーカイブ・オプションの 1 つであ  
| る。XBSA オプションは、DLFM\_BACKUP\_TARGET レジストリー変数で指定される。

**XCF.** 35 ページの『システム間カップリング・ファシリティ (cross-system coupling facility)』を参照。

**XES.** 35 ページの『システム間拡張サービス (cross-system extended services)』を参照。

**XID.** 端末 ID 交換 (exchange station ID)。

| **XML.** 105 ページの『extensible markup language』を参照。

- 1 **XML エレメント (XML element).** 開始および終了タグで区切られた XML 文書の論理構造。エレメントは、DTD  
1 内でエレメント・タイプ宣言によって指定される。
- 1 **XML コレクション (XML collection).** XML 文書が分解されるリレーショナル表のコレクションか、XML 文書の内  
1 容を分解したものを形成するリレーショナル表のコレクション。
- 1 **XML シュレッダー (XML shredder).** XML 文書を解析し、XML 表からデータ行を抽出する機能。
- 7 **XML 属性 (XML attribute).** タグ付き XML エレメント内の名前と値のペア。エレメントの何らかの特性を変更す  
7 る。
- 7 **XML 発行 (XML publication).** イベント発行におけるオブジェクトの 1 つ。ソース表からユーザー・アプリケーシ  
7 ョンに発行される変更を識別する。Q キャプチャー・プログラムが変更をソース表から発行し、それらを XML 形式  
7 の送信キューに入れる。
- 7 **XML 発行関数 (XML publishing function).** SQL 値から XML 値を戻す関数。
- 1 **XML 列 (XML column).** タイプが XML Extender のユーザー定義タイプであり、内容が XML 文書全体である列。  
**XRF.** 12 ページの『拡張リカバリー機能 (extended recovery facility)』を参照。

## Z

- 7 **z/OS.** 64 ビット実記憶をサポートする、IBM eServer 製品ライン用の IBM オペレーティング・システム。

## [特殊文字]

- 7 **.NET Framework.** Microsoft のアプリケーション開発環境。共通言語ランタイムおよび .NET Framework クラス・ラ  
7 イブラリーからなり、コード断片を開発および統合するための整合性のあるプログラミング環境を提供する。19 ペー  
7 ジの『共通言語ランタイム (common language runtime)』も参照。



---

## DB2 Universal Database の技術情報

---

### DB2 資料とヘルプ

DB2<sup>®</sup> 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2 インフォメーション・センター
  - トピック
  - DB2 ツールのヘルプ
  - サンプル・プログラム
  - チュートリアル
- ダウンロード可能な PDF ファイル、CD 上の PDF ファイル、および印刷された資料
  - ガイド
  - リファレンス・マニュアル
- コマンド行ヘルプ
  - コマンド・ヘルプ
  - メッセージ・ヘルプ
  - SQL 状態ヘルプ
- インストール済みソース・コード
  - サンプル・プログラム

ibm.com<sup>®</sup> にある技術資料、白書、Redbooks<sup>™</sup> その他の DB2 Universal Database<sup>™</sup> 技術情報にオンラインでアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト ([www.ibm.com/software/data/pubs/](http://www.ibm.com/software/data/pubs/)) にアクセスしてください。

### DB2 資料の更新

IBM<sup>®</sup> は、DB2 インフォメーション・センターの資料のフィックスパックやその他の資料更新を定期的に発行しています。DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にアクセスすれば、常に最新の情報が掲載されます。DB2 インフォメーション・センターをローカル・インストールしている場合、更新記事を表示するには、まず手動で更新をインストールしてください。新しい情報が発表されたときに資料を更新することにより、DB2 インフォメーション・センター CD からインストールした情報を更新することができます。

インフォメーション・センターの方が、PDF 資料やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。DB2 の最新の技術情報を入手するには、資料更新が発行されたときにそれをインストールするか、または [www.ibm.com](http://www.ibm.com) サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスしてください。

#### 関連概念:

- 「コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻」の『CLI サンプル・プログラム』

- 「アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行」の『Java サンプル・プログラム』
- 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

**関連タスク:**

- 141 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 142 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 142 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 143 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

**関連資料:**

- 133 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

## DB2 インフォメーション・センター

DB2<sup>®</sup> インフォメーション・センターを使用すると、DB2 Universal Database<sup>™</sup>、DB2 Connect<sup>™</sup>、DB2 Information Integrator および DB2 Query Patroller<sup>™</sup> などの DB2 ファミリー製品を最大限に活用するのに必要なすべての情報にアクセスできます。また、DB2 インフォメーション・センターは、DB2 の主な機能とコンポーネントに関する情報を提供します (レプリケーション、データウェアハウジング、および DB2 の種々の Extender など)。

Mozilla 1.0 以上または Microsoft<sup>®</sup> Internet Explorer 5.5 以上で表示する場合、DB2 インフォメーション・センターには以下の機能があります。以下のいくつかの機能では、JavaScript<sup>™</sup> のサポートを使用可能にする必要があります:

**柔軟なインストール・オプション**

以下の中から、ご使用の環境に最も適したオプションを使って DB2 資料を表示できます。

- 最新の資料を常に自動的に利用できるようにするには、IBM<sup>®</sup> の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターからすべての資料に直接アクセスします。
- 更新処理を最小化し、イントラネット内のネットワーク・トラフィックだけに制限するには、イントラネット上の 1 つのサーバーに DB2 資料をインストールします。
- 柔軟性を改善し、ネットワーク接続への依存を軽減するには、個々のコンピューターに DB2 資料をインストールします。

- 7 **検索** 「検索」テキスト・フィールドに検索語を入力することにより、DB2 インフォメーション・センターのすべてのトピックを検索できます。複数の語句を引用符で囲めば、完全一致を検索できます。また、ワイルドカード演算子 (\*、?) とブール演算子 (AND、NOT、OR) を使用して検索を絞り込むことができます。

**タスク指向の目次**

- 7 単一の目次の中から、DB2 資料のトピックを見付けることができます。目

7 次は、主に実行するタスクの種類に従って編成されていますが、そのほかに  
7 製品概要、特定のゴール (目的) の情報、参照情報、索引、および用語集も  
7 含まれます。

- 7 • 製品概要では、DB2 ファミリーで使用可能な製品間の関係、そうした各  
7 製品で提供される機能、および各製品の最新リリース情報について説明さ  
7 れています。
- 7 • インストール、管理および開発などのゴール・カテゴリには、タスクを  
7 迅速に完了し、そのための背景情報をよく理解できるようにするトピック  
7 が含まれています。
- 7 • 「参照」トピックでは、その対象に関する詳細な情報 (ステートメントと  
7 コマンドの構文、メッセージ・ヘルプ、構成パラメーターなど) が説明さ  
7 れています。

#### 7 現在のトピックを目次に表示する

7 現在のトピックが目次のどの部分に該当するかを表示するには、目次フレー  
7 ム内の「リフレッシュ/現在のトピックの表示 (Refresh/Show Current  
7 Topic)」ボタンをクリックするか、コンテンツ・フレーム内の「目次に表示  
7 (Show in Table of Contents)」ボタンをクリックします。幾つかのファイ  
7 ルで関連トピックへの複数のリンクをたどった場合、または検索結果からト  
7 ピックにアクセスした場合には、この機能が役立ちます。

索引 索引から、すべての資料にアクセスすることができます。索引では、用語が  
50 音順に編成されています。

用語集 用語集を見れば、DB2 資料で使われているさまざまな用語の定義を調べ  
ることができます。用語集では、用語が 50 音順に編成されています。

#### 7 組み込まれているローカライズ情報

7 DB2 インフォメーション・センターは、ブラウザで設定された言語でト  
7 ピックを表示します。設定された言語のトピックが利用できない場合、  
7 DB2 インフォメーション・センターにはそのトピックの英語版が表示され  
7 ます。

iSeries™ 技術情報については、IBM eServer™ iSeries Information Center  
([www.ibm.com/eserver/series/infocenter/](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter/)) を参照してください。

#### 関連概念:

- 122 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

#### 関連タスク:

- 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 イン  
フォメーション・センターの更新インストール』
- 132 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピ  
ックの表示』
- 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 124 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーシ  
ョン・センターのインストール (UNIX)』
- 127 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーシ  
ョン・センターのインストール (Windows)』

## 7 DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ

7 さまざまに異なる業務環境のもとでは、DB2<sup>®</sup> 情報にどのようにアクセスするかの  
7 要件もそれぞれ異なります。DB2 インフォメーション・センターにアクセスする  
7 には、IBM<sup>®</sup> の Web サイト、サーバーまたは組織のネットワーク、あるいはコン  
7 ピューターへのインストールという 3 つの方法が可能です。この 3 つのケースの  
7 いずれも、資料は DB2 インフォメーション・センター内に置かれます。インフォ  
7 メーション・センターは、ブラウザを使って表示できるように設計されたトピック  
7 ・ベースの情報の Web サイトです。デフォルトでは、DB2 製品から、IBM  
7 Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターにアクセスします。これに対  
7 して、イントラネット・サーバーまたはご自分のコンピューターから DB2 イン  
7 フォメーション・センターにアクセスしたい場合、製品メディア・パック内にある  
7 DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 インフォメーション・センター  
7 をインストールする必要があります。以下では、DB2 資料へのアクセス・オプシ  
7 ョンの要約、および 3 つのインストール・シナリオを示します。これを参考にして、  
7 お客様の業務環境で DB2 インフォメーション・センターにアクセスするにはどの  
7 方法が最適か、どのようなインストール上の問題に配慮する必要があるかを判別し  
7 てください。

### 7 DB2 資料にアクセスするオプションの要約:

7 以下の表は、お客様の実際の業務環境で、DB2 インフォメーション・センターの  
7 DB2 製品情報にアクセスする方法としてどんなオプションが推奨されるかを示しま  
7 す。

7 インターネット・ア 7 クセス	7 イントラ 7 ネット・ 7 アクセス	7 推奨されるアクション
7 はい	7 はい	7 IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・セン 7 ターへのアクセス、またはイントラネット・サーバーに 7 インストール済みの DB2 インフォメーション・センタ 7 ーへのアクセス
7 はい	7 いいえ	7 IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・セン 7 ターへのアクセス
7 いいえ	7 はい	7 イントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 7 インフォメーション・センターへのアクセス
7 いいえ	7 いいえ	7 ローカル・コンピューター上の DB2 インフォメーショ 7 ン・センターへのアクセス

### 7 シナリオ: コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

7 Tsu-Chen 氏は小さな町で工場を経営していますが、その町には、インターネット・  
7 アクセスを提供する地元のインターネット・サービス・プロバイダーがありません。  
7 彼は、在庫、製品オーダー、銀行口座情報、および営業経費を管理するために  
7 DB2 Universal Database™ を購入しました。Tsu-Chen 氏は以前に DB2 製品を利用  
7 したことがないので、DB2 の使用方法を習得するために、DB2 製品資料を参照す  
7 る必要があります。



7 Tsu-Chen 氏は 標準インストール・オプションを使って DB2 Universal Database を  
7 自分のコンピューターにインストールした後、 DB2 資料にアクセスしようとしま  
7 す。しかし、開こうとしているページが見つからないというエラー・メッセージが  
7 ブラウザーから通知されました。 Tsu-Chen 氏は DB2 製品のインストール・マニ  
7 ュアルを調べた結果、 DB2 資料を自分のコンピューター上で利用するには、 DB2  
7 インフォメーション・センターをインストールしなければならないことに気がしま  
7 す。そしてメディア・パックの中にあった DB2 インフォメーション・センター CD  
7 を見つけ出して、インストールしました。

7 これで、Tsu-Chen 氏はオペレーティング・システムのアプリケーション・ランチャ  
7 ーから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、より良  
7 い業務成果をあげるために DB2 製品を利用する方法を習得できます。

7 **シナリオ: IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス**  
7 :

7 Colin は、あるセミナー企業に所属する情報技術コンサルタントです。彼の専門はデ  
7 ータベース・テクノロジーおよび SQL で、 DB2 Universal Database を使って北米  
7 一帯の企業を対象にこれらの科目のセミナーを開催しています。 Colin のセミナー  
7 では、教材として DB2 資料も使用されます。たとえば、SQL の講習コースでは、  
7 データベース照会の基本構文と拡張構文を教えるために SQL に関する DB2 資料が  
7 使用されます。

7 Colin が教えている企業の大半はインターネット・アクセスを配備しています。この  
7 ような状況から判断して、Colin は、最新バージョンの DB2 Universal Database を  
7 自分のモバイル・コンピューターにインストールしたとき、 IBM Web サイト上の  
7 DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう構成しました。この構成に  
7 よって、Colin はセミナーで教えるときに最新の DB2 資料にオンライン・アクセス  
7 することができます。

7 しかし、時折、Colin は移動中にインターネット・アクセスを利用できないことがあ  
7 ります。これは問題となります。担任するセミナーの準備のために DB2 資料にア  
7 クセスする必要のある場合には、とくにそうです。このような事態が起きないよう  
7 にするために、 Colin は自分のモバイル・コンピューターに DB2 インフォメーシ  
7 ョン・センターのコピーをインストールしました。

7 こうして、Colin は常に DB2 資料のコピーを自在に活用できるようになりました。  
7 **db2set** コマンドを使って自分のモバイル・コンピューターのレジストリー変数を簡  
7 単に構成し、どこにいるかに応じて、 IBM Web サイトまたは自分のモバイル・コン  
7 ピューターから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできます。

7 **シナリオ: イン트라ネット・サーバー上の DB2 インフォメーション・センターへ**  
7 **のアクセス:**

7 Eva は、生命保険会社のデータベース上級管理者です。彼女は管理業務の一環とし  
7 て、会社の UNIX<sup>®</sup> データベース・サーバーに最新バージョンの DB2 Universal  
7 Database をインストールおよび構成します。彼女の会社は最近、セキュリティ上  
7 の理由から、インターネット・アクセスをほぼ業務で利用できないようにすると  
7 社員に通知しました。同社はネットワーク環境を装備しているため、 Eva は DB2  
7 インフォメーション・センターのコピーをイントラネット・サーバー上にインスト

ールして、社内のデータウェアハウスを定期的に利用するすべての社員 (営業担当者、営業部長、および業務分析担当者) から DB2 資料へのアクセスを可能にすることにしました。

Eva は、応答ファイルを使って全社員のコンピューター上に最新バージョンの DB2 Universal Database をインストールするようデータベース・チームに指示します。その際、イントラネット・サーバーのホスト名とポート番号を使って DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるよう、確実に各コンピューターを構成します。

しかし、Eva のチームの下級データベース管理者である Migual の誤解によって、数人の社員のコンピューター上で、イントラネット・サーバーの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう DB2 Universal Database を構成する代わりに、DB2 インフォメーション・センターのコピーをそれらのコンピューターにインストールしてしまいました。これを訂正するために、Eva は、**db2set** コマンドを使ってこれらのコンピューター上の DB2 インフォメーション・センターのレジストリー変数 (ホスト名は DB2\_DOCHOST、ポート番号は DB2\_DOCPORT) を変更するよう Migual に指示しました。これで、ネットワーク上の適切なすべてのコンピューターが DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、社員は DB2 に関する質問の答えを DB2 資料から見つけることができます。

#### 関連概念:

- 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

#### 関連タスク:

- 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 124 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 127 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

#### 関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『db2set - DB2 プロファイル・レジストリー・コマンド』

---

## DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、DB2 インフォメーション・センター CD から資料をインストールする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設

7 定を定義し、UNIX オペレーティング・システムを使用するコンピューターに  
7 DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

7 **前提条件:**

7 このセクションでは、UNIX コンピューターに DB2 インフォメーション・センタ  
7 ーをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフト  
7 ウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

7 • **ハードウェア要件**

7 以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- 7 - PowerPC (AIX)
- 7 - HP 9000 (HP-UX)
- 7 - Intel 32 ビット (Linux)
- 7 - Solaris UltraSPARC コンピューター (Solaris オペレーティング環境)

7 • **オペレーティング・システム要件**

7 以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- 7 - IBM AIX 5.1 (PowerPC 上)
- 7 - HP-UX 11i (HP 9000 上)
- 7 - Red Hat Linux 8.0 (Intel 32 ビット上)
- 7 - SuSE Linux 8.1 (Intel 32 ビット上)
- 7 - Sun Solaris バージョン 8 (Solaris オペレーティング環境の UltraSPARC コン  
7 ピューター上)

7 **注:** DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする  
7 UNIX オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サ  
7 イトから DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラ  
7 ネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールし  
7 てそれにアクセスすることをお勧めします。

7 • **ソフトウェア要件**

7 - 以下のブラウザがサポートされています。

- 7 - Mozilla バージョン 1.0 以上

7 • DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィック・インストーラーです。ご使用  
7 のマシンで DB2 セットアップ・ウィザードのグラフィカル・ユーザー・インタ  
7 ーフェイスを表示可能にする X Window システム・ソフトウェアをインプリメン  
7 トする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを実行する前に、ディ  
7 スプレイを正しくエクスポートしたことを確認してください。たとえば、コマン  
7 ド・プロンプトで

7 `export DISPLAY=9.26.163.144:0.`

7 というコマンドを入力します。

7 • **通信要件**

- 7 - TCP/IP

7 **手順:**

7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターを  
7 インストールするには、以下のようにします。

- 7 1. システムにログオンします。
- 7 2. DB2 インフォメーション・センター製品 CD を挿入してシステムにマウントし  
7 ます。
- 7 3. 次のコマンドを入力して、CD がマウントされているディレクトリーに移動し  
7 ます。

7 `cd /cd`

7 `/cd` は、CD のマウント・ポイントを表します。

- 7 4. **.db2setup** コマンドを入力して、DB2 セットアップ・ウィザードを開始しま  
7 す。
- 7 5. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーショ  
7 ン・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリ  
7 ックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用  
7 できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックしま  
7 す。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できま  
7 す。
- 7 6. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックし  
7 ます。
- 7 7. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup  
7 wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザ  
7 ードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
- 7 8. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご  
7 使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the  
7 license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
- 7 9. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 イン  
7 フォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information  
7 Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコ  
7 ンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センタ  
7 ーをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」  
7 を選択します。「次へ」をクリックします。
- 7 10. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・セ  
7 ンターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
- 7 11. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2  
7 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリッ  
7 クしてインストールを続けます。
- 7 12. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認しま  
7 す。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をク  
7 リックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピュー  
7 ターにコピーされます。

7 このほか、応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインスト  
7 ールすることもできます。

7 インストール・ログ db2setup.his、 db2setup.log、 および db2setup.err は、デフォル  
7 トでは /tmp ディレクトリーに置かれます。

7 db2setup.log ファイルは、エラーも含めた DB2 製品のインストール情報をすべてキ  
7 ャプチャーします。 db2setup.his ファイルは、コンピューター上の DB2 製品イン  
7 ストール内容をすべて記録します。 DB2 は、db2setup.log ファイルを db2setup.his  
7 に付加します。 db2setup.err ファイルは、 Java から戻されるすべてのエラー出力  
7 (例外やトラップの情報など) をキャプチャーします。

7 インストールが完了したら、ご使用の UNIX オペレーティング・システムに応じて  
7 て、 DB2 は以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- 7 • AIX: /usr/opt/db2\_08\_01
- 7 • HP-UX: /opt/IBM/db2/V8.1
- 7 • Linux: /opt/IBM/db2/V8.1
- 7 • Solaris オペレーティング環境: /opt/IBM/db2/V8.1

#### 7 関連概念:

- 7 • 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 7 • 122 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

#### 7 関連タスク:

- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 のインストール  
7 (UNIX)』
- 7 • 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 イン  
7 フォメーション・センターの更新インストール』
- 7 • 132 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピ  
7 ックの表示』
- 7 • 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 7 • 127 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーシ  
7 ョン・センターのインストール (Windows)』

---

## 7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・セ 7 ンターのインストール (Windows)

7 DB2 製品資料にアクセスする方法として、 IBM Web サイト、イントラネット・サ  
7 ーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。  
7 デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。  
7 イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい  
7 場合には、 DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 資料をインストール  
7 する必要があります。 DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インスト  
7 ール設定を定義し、 Windows オペレーティング・システムを使用するコンピュ  
7 ーターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

#### 7 前提条件:

このセクションでは、Windows に DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

#### • ハードウェア要件

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- 32 ビット・コンピューター: Pentium または Pentium 互換の CPU

#### • オペレーティング・システム要件

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Windows 2000
- Windows XP

**注:** DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする Windows オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

#### • ソフトウェア要件

- 以下のブラウザがサポートされています。

- Mozilla 1.0 以上
- Internet Explorer バージョン 5.5 または 6.0 (Windows XP の場合はバージョン 6.0)

#### • 通信要件

- TCP/IP

#### 制約事項:

• DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、管理権限をもつアカウントが必要です。

#### 手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようになります。

1. DB2 インフォメーション・センターのインストールで定義したアカウントで、システムにログオンします。
2. CD をドライブに挿入します。自動実行機能が使用可能になっていれば、IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが起動します。
3. DB2 セットアップ・ウィザードは、システム言語を判別して、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。英語以外の言語でセットアップ・プログラムを実行したい場合、またはセットアップ・プログラムの自動始動が失敗した場合には、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始できます。

次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始します。

- a. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 「開く」フィールドで、以下のコマンドを入力します。

```
x:%setup.exe /i 2-letter language identifier
```

ここで、x: は CD ドライブ、2-letter language identifier (2 文字の言語識別子) はセットアップ・プログラムを実行する言語を表します。

c. 「OK」をクリックします。

4. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
5. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
6. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
7. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
8. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
9. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリックしてインストールを続けます。
11. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認します。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をクリックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピューターにコピーされます。

応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールすることができます。また、**db2rspgn** コマンドを使って、既存のインストール内容に基づく応答ファイルを生成することもできます。

インストール時に検出されるエラーの詳細については、「マイ ドキュメント」¥DB2LOG¥ ディレクトリー内の db2.log ファイルと db2wi.log ファイルを参照してください。「マイ ドキュメント」ディレクトリーの場所は、ご使用のコンピューターの設定によって異なります。

db2wi.log ファイルは、DB2 の最新のインストール情報をキャプチャーします。db2.log は、DB2 製品のインストールの履歴をキャプチャーします。

#### 関連概念:

- 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

- 7                   • 122 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』
- 7                   **関連タスク:**
- 7                   • 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 製品のインストール (Windows)』
- 7                   • 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 7                   • 132 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 7                   • 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 7                   • 124 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 7                   **関連資料:**
- 7                   • 「コマンド・リファレンス」の『db2rspgn - 応答ファイル生成プログラム・コマンド』

---

## DB2 インフォメーション・センターの呼び出し

7                   DB2 インフォメーション・センターは、Linux、UNIX、および Windows オペレーティング・システム用の DB2 製品 (DB2 Universal Database、 DB2 Connect、DB2 Information Integrator、 DB2 Query Patroller など) を使用するために必要なすべての情報を提供します。

DB2 インフォメーション・センターは、以下の場所から呼び出すことができます。

- DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューター
- DB2 インフォメーション・センターがインストールされているイントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューター
- IBM の Web サイト

### 前提条件:

DB2 インフォメーション・センターを呼び出すための要件は、以下のとおりです。

- 7                   • オプション: 希望する言語でトピックを表示するようブラウザを構成する
- 7                   • オプション: コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを使用するよう DB2 クライアントを構成する

### 手順:

DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューターから DB2 インフォメーション・センターを呼び出すには、以下のようになります。

- (Windows オペレーティング・システムの)「スタート」メニューから: 「スタート」 → 「プログラム」 → 「IBM DB2」 → 「情報」 → 「インフォメーション・センター」をクリックします。
- コマンド行プロンプトから:
  - Linux および UNIX オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs** コマンドを発行します。



- Windows オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs.exe** コマンドを発行します。

イントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューターにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ <http://<host-name>:<port-number>/> を開きます (<host-name> はホスト名、 <port-number> は DB2 インフォメーション・センターを利用可能なポート番号)。

IBM Web サイトにある DB2 インフォメーション・センターを Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ [publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/) を開きます。

#### 関連概念:

- 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 122 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

#### 関連タスク:

- 132 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 141 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 131 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 142 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

#### 関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『HELP コマンド』

---

## コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/> から利用できる DB2 インフォメーション・センターは、資料の新規追加または変更によって定期的に更新されます。さらに、更新された DB2 インフォメーション・センターをコンピューターまたはイントラネット・サーバーにダウンロードしてインストールできる場合もあります。DB2 インフォメーション・センターを更新しても、DB2 クライアント製品またはサーバー製品は更新されません。

#### 前提条件:

インターネットに接続されたコンピューターへのアクセスが必要です。

#### 手順:

DB2 インフォメーション・センターの更新をコンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールするには、以下のようにします。

1. IBM の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターを開きます。
2. 「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」 ページの見出し「サービスおよびサポート」の「ダウンロード」セクションで、「DB2 資料」リンクをクリックします。
3. 最新のドキュメンテーション・イメージのレベルと、インストール済みのドキュメンテーション・レベルを比較して、DB2 インフォメーション・センターを更新する必要があるかどうかを確認します。「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」 ページに、インストール済みのドキュメンテーションのレベルがリストされます。
4. より新しいバージョンの DB2 インフォメーション・センターが存在する場合、ご使用のオペレーティング・システムに対応する最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをダウンロードします。
5. 最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをインストールするには、Web ページの指示に従ってください。

**関連概念:**

- 122 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

**関連タスク:**

- 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 124 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 127 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

---

## 7 DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示

7 DB2 インフォメーション・センターでは、ブラウザの設定で指定した言語でのト  
7 ピックの表示が試みられます。トピックがその指定言語に翻訳されていない場合  
7 は、DB2 インフォメーション・センターでは英語でトピックが表示されます。

7 **手順:**

7 Internet Explorer Web ブラウザーで、指定どおりの言語でトピックを表示するに  
7 は、以下のようにします。

- 7 1. Internet Explorer の「ツール」→「インターネット オプション」→「言  
7 語...」ボタンをクリックします。「言語の優先順位」ウィンドウがオープンしま  
7 す。
- 7 2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。  
7 • リストに新しい言語を追加するには、「追加...」ボタンをクリックします。

7 **注:** 言語を追加しても、特定の言語でトピックを表示するのに必要なフォント  
7 がコンピューターに備えられているとはかぎりません。

- 7 • リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言  
7 語が言語リストに先頭に行くまで「上へ」ボタンをクリックします。

7 3. 使いたい言語で DB2 インフォメーション・センターを表示するには、ページを  
7 リフレッシュします。

7 Mozilla Web ブラウザーの場合に、使いたい言語でトピックを表示するには、以下  
7 のようにします。

- 7 1. Mozilla の「編集」→「設定」→「言語」ボタンをクリックします。「設  
7 定」ウィンドウに「言語」パネルが表示されます。
- 7 2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。  
7 • リストに新しい言語を追加するには、「追加...」ボタンをクリックしてから、  
7 「言語を追加」ウィンドウで言語を選択します。  
7 • リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言  
7 語が言語リストに先頭に行くまで「上に移動」ボタンをクリックします。
- 7 3. 使いたい言語で DB2 インフォメーション・センターを表示するには、ページを  
7 リフレッシュします。

7 **関連概念:**

- 7 • 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

---

## DB2 PDF 資料および印刷された資料

以下の表は、正式な資料名、資料番号、および PDF ファイル名を示しています。ハードコピー版の資料を注文するには、正式な資料名を知っておく必要があります。PDF ファイルを印刷するには、PDF ファイル名を知っておく必要があります。

DB2 資料は、以下のカテゴリーに分類されています。

- DB2 中核情報
- 管理情報
- アプリケーション開発情報
- ビジネス・インテリジェンス情報
- DB2 Connect 情報
- 入門情報
- チュートリアル情報
- オプション・コンポーネント情報
- リリース・ノート

以下の表は、DB2 ライブラリー内の各資料について、その資料のハードコピー版を注文したり、PDF 版を印刷または表示したりするのに必要な情報を示しています。DB2 ライブラリー内の各資料に関する詳細な説明については、[www.ibm.com/shop/publications/order](http://www.ibm.com/shop/publications/order) にある IBM Publications Center にアクセスしてください。

## DB2 の基本情報

7 こうした資料の情報は、すべての DB2 ユーザーに基本的なもので、プログラマー  
7 およびデータベース管理者にとって役立つ情報であるとともに、DB2 Connect、  
7 DB2 Warehouse Manager、または他の DB2 製品を使用するユーザーにとっても役

7 立つ内容です。

7 表 1. DB2 の基本情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database コマンド・リファレンス」	SC88-9140	db2n0j81
「IBM DB2 Universal Database 用語集」	資料番号なし	db2t0j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 1 巻」	GC88-9152 (ハードコピーな し)	db2m1j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 2 巻」	GC88-9153 (ハードコピーな し)	db2m2j81
「IBM DB2 Universal Database 新機能」	SC88-9158	db2q0j81

## 管理情報

これらの資料の情報は、DB2 データベース、データウェアハウス、およびフェデレーテッド・システムを効果的に設計し、インプリメントし、保守するために必要なトピックを扱っています。

表 2. 管理情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: プランニング」	SC88-9135	db2d1j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: インプリメンテー ション」	SC88-9133	db2d2j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: パフォーマンス」	SC88-9134	db2d3j81
「IBM DB2 Universal Database 管理 API リファレンス」	SC88-9136	db2b0j81
「IBM DB2 Universal Database データ移動ユーティリティー ガイドおよびリファレンス」	SC88-9142	db2dmj81
「IBM DB2 Universal Database データ・リカバリーと高可用性 ガイドおよびリファレンス」	SC88-9143	db2haj81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター 管理ガイド」	SC88-9165	db2ddj81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 1 巻」	SC88-9155	db2s1j81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 2 巻」	SC88-9156	db2s2j81

表2. 管理情報 (続き)

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database システム・モニター ガイドおよびリファレンス」	SC88-9157	db2f0j81

## アプリケーション開発情報

これらの資料の情報は、DB2 Universal Database (DB2 UDB) のアプリケーション開発者またはプログラマーが特に興味を持つ内容です。サポートされるさまざまなプログラミング・インターフェース (組み込み SQL、ODBC、JDBC、SQLJ、CLI など) を使用して DB2 UDB にアクセスするのに必要な資料とともに、サポートされる言語およびコンパイラーについても紹介されています。また、DB2 インフォメーション・センターをご使用の場合には、サンプル・プログラムのソース・コードの HTML バージョンにアクセスすることもできます。

表3. アプリケーション開発情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行」	SC88-9137	db2axj81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド クライアント・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9138	db2a1j81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド サーバー・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9139	db2a2j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第1巻」	SC88-9159	db211j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第2巻」	SC88-9160	db212j81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター アプリケーション統合ガイド」	SC88-9166	db2adj81
「IBM DB2 Universal Database XML Extender 管理およびプログラミングのガイド」	SC88-9172	db2sxj81

## ビジネス・インテリジェンス情報

これらの資料の情報は、さまざまなコンポーネントを使用して、DB2 Universal Database のデータウェアハウジング機能および分析機能を拡張する方法を説明しています。

表 4. ビジネス・インテリジェンス情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」	SC88-9167	db2dij81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インストール・ガイド」	GC88-9164	db2idj81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition DB2 Warehouse Manager を使用時の ETI ソリューション・コンバージョン・プログラムの管理」	SC88-9894	iwhe1mstx80

## DB2 Connect 情報

このカテゴリの情報は、DB2 Connect Enterprise Edition または DB2 Connect Personal Edition を使用して、メインフレーム・サーバーおよびミッドレンジ・サーバー上のデータにアクセスする方法を説明しています。

表 5. DB2 Connect 情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM コネクティビティ 補足」	資料番号なし	db2h1j81
「IBM DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」	GC88-9145	db2c6j81
「IBM DB2 Connect Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9146	db2c1j81
「IBM DB2 Connect ユーザーズ・ガイド」	SC88-9147	db2c0j81

## 入門情報

このカテゴリの情報は、サーバー、クライアント、および他の DB2 製品をインストールして構成する場合に役立ちます。

表 6. 入門情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database DB2 クライアント機能 概説およびインストール」	GC88-9144 (ハードコピーなし)	db2itj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 サーバー機能 概説およびインストール」	GC88-9148	db2isj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9150	db2ilj81
「IBM DB2 Universal Database インストールおよび構成 補足」	GC88-9149 (ハードコピーなし)	db2iyj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Data Links Manager 概説およびインストール」	GC88-9141	db2z6j81

## チュートリアル情報

チュートリアル情報は、DB2 機能を紹介し、さまざまなタスクを実行する方法を示します。

表 7. チュートリアル情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介」	資料番号なし	db2tuj81
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド」	資料番号なし	db2taj81
「インフォメーション・カタログ・センター チュートリアル」	資料番号なし	db2aij81
「Video Central for e-business チュートリアル」	資料番号なし	db2twj81
「Visual Explain チュートリアル」	資料番号なし	db2tvj81

## オプション・コンポーネント情報

このカテゴリーの情報は、DB2 のオプション・コンポーネントを使用する方法について説明しています。

表8. オプション・コンポーネント情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Cube Views Guide and Reference」	SC18-7298	db2aax81
「IBM DB2 Query Patroller インストール、管理、使用法のガイド」	GC88-9154	db2dwj81
「IBM DB2 Spatial Extender and Geodetic Extender ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」	SC88-9171	db2sbj81
「IBM DB2 Universal Database Data Links Manager 管理ガイドおよびリファレンス」	SC88-9169	db2z0x82
「DB2 Net Search Extender 管理およびユーザーズ・ガイド」	SH88-8546	N/A

注: この資料の HTML 版は、HTML ドキュメンテーション CD からインストールされません。

## リリース・ノート

リリース・ノートは、ご使用の製品のリリースおよびフィックスパック・レベルに特有の追加情報を紹介します。また、リリース・ノートには、各リリース、アップデート、およびフィックスパックで組み込まれた資料上の更新の要約も含まれています。

表9. リリース・ノート

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「DB2 リリース・ノート」	「注」を参照。	「注」を参照。
「DB2 インストール情報」	製品 CD-ROM でのみ参照可能。	使用できません。

注: リリース・ノートは以下の形式で入手できます。

- XHTML およびテキスト形式 (製品 CD 内)
- PDF 形式 (PDF ドキュメンテーション CD 内)

さらに、リリース・ノートの中で、『既知の問題と予備手段』および『リリース間の非互換性』に関する部分は DB2 インフォメーション・センターにも表示されます。

UNIX ベースのプラットフォームでテキスト形式でリリース・ノートを確認するには、Release.Notes ファイルを参照してください。このファイルは、DB2DIR/Readme/%L ディレクトリーに収録されています。%L はロケール名を表しています。DB2DIR は以下になります。



- AIX オペレーティング・システムの場合: /usr/opt/db2\_08\_01
- その他のすべての UNIX ベースのオペレーティング・システムの場合: /opt/IBM/db2/V8.1

**関連概念:**

- 119 ページの『DB2 資料とヘルプ』

**関連タスク:**

- 139 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』
- 140 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』
- 141 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』

---

## PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法

*DB2 PDF* ドキュメンテーション CD に収録されている DB2 資料を印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷できます。

**前提条件:**

Adobe Acrobat Reader がインストールされていることを確認してください。Adobe Acrobat Reader をインストールする必要がある場合、Adobe Web サイト ([www.adobe.com](http://www.adobe.com)) から入手できます。

**手順:**

PDF ファイルから DB2 資料を印刷するには以下のようにします。

1. *DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をドライブに挿入します。UNIX オペレーティング・システムの場合、*DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をマウントします。UNIX オペレーティング・システムで CD をマウントする方法については、「概説およびインストール」を参照してください。
2. `index.htm` を開きます。ブラウザ・ウィンドウにファイルが開きます。
3. 参照したい PDF のタイトルをクリックします。Acrobat Reader で PDF が開きます。
4. 「ファイル」→「印刷」を選択して、所要の資料の任意の部分を印刷します。

**関連概念:**

- 120 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

**関連タスク:**

- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (AIX)』
- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『HP-UX 上での CD-ROM のマウント』
- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (Linux)』
- 140 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (Solaris)』

**関連資料:**

- 133 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

---

## DB2 の印刷資料の注文方法

ハードコピー版の資料を望む場合には、以下のいずれかの方法で注文できます。

**印刷資料の注文方法:**

7 一部の国または地域では、印刷された資料を注文することもできます。お客様がお  
7 住まいの国または地域でこのサービスが利用可能かどうかを確認するには、お住  
7 まいの国または地域の IBM Publications Web サイトをご覧ください。資料のご注文が  
7 可能な場合、以下のようにすることができます。

- 7 • 正規の IBM 製品販売業者または営業担当員に連絡してください。お客様がお住  
7 まいの地域の IBM 担当員の情報については、お手数ですが IBM の Web サイト  
7 (www.ibm.com/planetwide) の IBM Worldwide Directory of Contacts で確認してく  
7 ださい。
- 7 • IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) にアクセスし  
7 てください。なお、IBM Publications Center から資料を注文できない国もありま  
7 す。

DB2 製品がご利用可能になった時点で、印刷された資料は DB2 PDF ドキュメンテーション CD にある PDF 形式の資料と同じものです。さらに、DB2 インフォメーション・センター CD に収録されている印刷された資料の内容もまた、これらと同じです。ただし、DB2 インフォメーション・センター CD には、PDF 資料にない追加情報も含まれます (たとえば、SQL 管理作業や HTML サンプル)。DB2 PDF ドキュメンテーション CD に収録されている資料の中には、ハードコピーとしてご注文できない資料もあります。

**注:** DB2 インフォメーション・センターは、PDF またはハードコピーの資料よりも頻繁に更新されます。ドキュメンテーションの更新が入手可能になった時点でインストールするか、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) を参照して最新の情報を入手してください。

**関連タスク:**

- 139 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』

**関連資料:**

- 133 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

## DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す

7 コンテキスト・ヘルプは、特定のウィンドウ、ノートブック、ウィザード、または  
7 アドバイザーに関連したタスクまたはコントロールの情報を提供します。コンテキ  
7 スト・ヘルプは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースのある DB2 管理ツ  
7 ールおよび開発ツールから利用できます。コンテキスト・ヘルプには、以下の 2 種  
7 類があります。

- 7 • それぞれのウィンドウまたはノートブックにある「ヘルプ」ボタンからアクセス  
7 可能なヘルプ
- 7 • infopop (ポップアップ情報ウィンドウ)。これは、マウス・カーソルを特定のフィ  
7 ールドまたはコントロール上に置いたとき、またはウィンドウ、ノートブック、  
7 ウィザード、アドバイザー内でフィールドまたはコントロールを選択して F1 を  
7 押すと表示されます。

7 「ヘルプ」ボタンを押すと、概説、前提条件、およびタスク情報が表示されます。  
7 infopop は、それぞれのフィールドおよびコントロールについて説明します。

### 手順:

7 コンテキスト・ヘルプを呼び出すには、以下のようにします。

- 7 • ウィンドウおよびノートブックのヘルプを表示するには、いずれかの DB2 ツー  
7 ルを開始して、任意のウィンドウまたはノートブックを開きます。ウィンドウま  
7 たはノートブックの右下隅にある「ヘルプ」ボタンをクリックして、コンテキス  
7 ト・ヘルプを呼び出します。

7 また、それぞれの DB2 ツール・センターの上部にある「ヘルプ」メニュー項目  
7 からコンテキスト・ヘルプにアクセスすることもできます。

7 ウィザードおよびアドバイザーでは、最初のページの「タスクの概要」リンクを  
7 クリックすると、コンテキスト・ヘルプを表示できます。

- 7 • ウィンドウまたはノートブック上の各コントロールの infopop ヘルプを表示す  
7 るには、コントロールをクリックしてから、**F1** を押します。コントロールの詳細情  
7 報を示すポップアップ情報が、黄色いウィンドウに表示されます。

7 **注:** フィールドまたはコントロールにマウス・カーソルを置いておくだけで  
7 infopops が表示されるようにするには、「ツール設定」ノートブックの「**文  
7 書 (Documentation)**」ページの「**infopops の自動表示**」チェック・ボック  
7 スを選択します。

7 infopop に似た別のコンテキスト・ヘルプに、診断ポップアップ情報があります。  
7 これにはデータ入力規則が示されます。診断ポップアップ情報は、無効または不  
7 十分なデータが入力されたとき、紫色のウィンドウに表示されます。診断ポップ  
7 アップ情報は、以下に関して表示されます。

- 7 – 必須フィールド。
- 7 – 日付フィールドのように、正確なフォーマットを必要とするデータのフィール  
7 ド。

### 関連タスク:

- 7 • 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 7 • 142 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』

- 142 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 143 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセス: Concepts help』
- 『DB2 UDB ヘルプの使用法: Common GUI help』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』
- 『DB2 コンテキスト・ヘルプと資料へのアクセスを設定する: Common GUI help』

---

## 7 コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す

7                   メッセージ・ヘルプは、メッセージが出された原因と、エラーへの応答として実行  
7                   すべきアクションを説明します。

7                   **手順:**

7                   メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のよう  
7                   に入力します。

7                                     ? XXXnnnnn

7                   ここで、XXXnnnnn は有効なメッセージ ID を表します。

7                   たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表  
7                   示します。

7                   **関連概念:**

- 「メッセージ・リファレンス 第 1 巻」の『メッセージの概要』

7                   **関連資料:**

- 「コマンド・リファレンス」の『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマ  
7                   ンド』

---

## 7 コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す

7                   コマンド・ヘルプは、コマンド行プロセッサでのコマンドの構文を説明します。

7                   **手順:**

7                   コマンド・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のよう  
7                   に入力します。

7                                     ? command

7                   ここで *command* はキーワードまたはコマンド全体を表します。

7                   たとえば、? catalog と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプ  
7                   が表示され、? catalog database と入力すると、CATALOG DATABASE コマ  
7                   ンドのヘルプだけが表示されます。

7                   **関連タスク:**

- 7 • 141 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 7 • 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 7 • 142 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 7 • 143 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

7 **関連資料:**

- 7 • 「コマンド・リファレンス」の『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマンド』

---

## 7 コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す

7 DB2 Universal Database は、SQL ステートメントの結果の原因となったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

7 **手順:**

7 SQL 状態ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

7 `? sqlstate` または `? class code`

7 ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

7 たとえば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

7 **関連タスク:**

- 7 • 130 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 7 • 142 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 7 • 142 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』

---

## DB2 チュートリアル

DB2® チュートリアルは、DB2 Universal Database のさまざまな機能について学習するのを支援します。このチュートリアルでは、アプリケーションの開発、SQL 照会のパフォーマンス調整、データウェアハウスの処理、メタデータの管理、および DB2 を使用した Web サービスの開発の各分野で、段階的なレッスンが用意されています。

**はじめに:**

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

チュートリアルの中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、それぞれのチュートリアルを参照してください。

## DB2 Universal Database チュートリアル:

以下に示すチュートリアルのタイトルをクリックすると、そのチュートリアルを表示できます。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介  
データウェアハウス・センターを使用して簡単なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド  
データウェアハウス・センターを使用して高度なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

インフォメーション・カタログ・センター・チュートリアル  
インフォメーション・カタログを作成および管理して、インフォメーション・カタログ・センターを使用してメタデータを配置し使用します。

Visual Explain チュートリアル  
Visual Explain を使用して、パフォーマンスを向上させるために SQL ステートメントを分析し、最適化し、調整します。

---

## DB2 トラブルシューティング情報

DB2<sup>®</sup> 製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

### DB2 ドキュメンテーション

トラブルシューティング情報は、DB2 インフォメーション・センター、および DB2 ライブラリーに含まれる PDF 資料の中にご利用いただけます。DB2 インフォメーション・センターで、(ブラウザ・ウィンドウの左側の) ナビゲーション・ツリーの「サポートおよびトラブルシューティング (Support and troubleshooting)」ブランチを参照すると、DB2 トラブルシューティング・ドキュメンテーションの詳細なリストが見つかります。

### DB2 Technical Support の Web サイト

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを検索したい場合は、DB2 Technical Support の Web サイトを参照してください。Technical Support サイトには、最新の DB2 出版物、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR)、フィックスパック、DB2 内部エラー・コードの最新リスト、その他のリソースが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

DB2 Technical Support の Web サイト

(<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/winos2unix/support>) にアクセスしてください。

### DB2 Problem Determination Tutorial Series

DB2 製品で作業中に直面するかもしれない問題を素早く識別し、解決する方法に関する情報を見つけるには、DB2 Problem Determination Tutorial Series の Web サイトを参照してください。あるチュートリアルでは、使用可能な DB2 問題判別機能およびツールを紹介し、それらをいつ使用すべきかを判断する助けを与えます。別のチュートリアルは、『データベース・エ



キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

## キーボード・フォーカス

UNIX<sup>®</sup> オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

## アクセスしやすい表示

DB2 ツールには、視力の弱いユーザー、その他の視力障害をもつユーザーのためにアクセシビリティを向上させる機能が備わっています。これらのアクセシビリティ拡張機能には、フォント・プロパティのカスタマイズを可能にする機能も含まれています。

### フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help を参照してください。

### 色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

## 支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

## アクセスしやすい資料

DB2 形式は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザーに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン・ドキュメンテーションにアクセスする場合にのみ使用できます。

### 関連概念:

- 147 ページの『ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム』

### 関連タスク:

- 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』
- 『メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help』



## 7 ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム

7 スクリーン・リーダーを使用してインフォメーション・センターを利用するユーザ  
7 ーのために、シンタックス・ダイアグラムがドット 10 進形式で提供されます。

7 ドット 10 進形式では、各シンタックス・エレメントは別々の行に書き込まれま  
7 す。複数のシンタックス・エレメントが常に同時に存在する (または常に同時に不  
7 在の) 場合、単一のコンパウンド・シンタックス・エレメントとみなせるので同一  
7 行に表示できます。

7 各行は、ドット 10 進数で開始します。たとえば、3 または 3.1 ないしは 3.1.1 で  
7 す。こうした数を適切に聞き取るには、スクリーン・リーダーが句読点を読み取る  
7 ように設定されていることを確認してください。同じドット 10 進数を持つすべて  
7 のシンタックス・エレメント (たとえば、3.1 という数値を持つすべてのシンタク  
7 ス・エレメント) は、相互に排他的な代替エレメントです。3.1 USERID および  
7 3.1 SYSTEMID という行を聞き取る場合、シンタックスには両方ではなく USERID  
7 または SYSTEMID のどちらかが含まれることが分かります。

7 ドット 10 進レベルは、ネストのレベルを表示します。たとえば、ドット 10 進数  
7 3 のシンタックス・エレメントの後に、一連のドット 10 進数 3.1 のシンタク  
7 ス・エレメントが続きます。3.1 の番号が付されたシンタックス・エレメントすべ  
7 ては、番号 3 の付されたシンタックス・エレメントに従属します。

7 シンタックス・エレメントに関する情報を追加するため、ドット 10 進数の次に特  
7 定のワードおよびシンボルが使用されます。時折、こうしたワードおよびシンボル  
7 はエレメントの最初に表示される場合もあります。簡単に識別するため、ワードや  
7 シンボルがシンタックス・エレメントの一部である場合には、円記号 (¥) 文字が先  
7 頭に付きます。\* シンボルはドット 10 進数の次に使用でき、シンタックス・エレ  
7 メントが反復することを示します。たとえば、ドット 10 進数 3 のシンタク  
7 ス・エレメント \*FILE は、3 ¥\* FILE という形式になります。3\* FILE という形  
7 式は、シンタックス・エレメント FILE が反復されることを示します。3\* ¥\* FILE  
7 という形式は、シンタックス・エレメント \* FILE が反復されることを示します。

7 シンタックス・エレメントのストリングを分離するのに使用されるコンマなどの文  
7 字は、シンタックス内の分離する項目の直前に表示されます。こうした文字は、そ  
7 れぞれの項目と同一行に表示するか、同じドット 10 進数を持つ関連する項目のあ  
7 る別の行に表示できます。またその行には、シンタックス・エレメントに関する情  
7 報を提供する別のシンボルを表示することも可能です。たとえば、複数の  
7 LASTRUN および DELETE シンタックス・エレメントを使用している場合には、  
7 5.1\*、5.1 LASTRUN、および 5.1 DELETE という行は、エレメントをコンマで区切  
7 る必要があります。区切り文字が指定されないと、各シンタックス・エレメントを  
7 区切るのにブランクが使用されると想定されます。

7 シンタックス・エレメントの前に % シンボルが付く場合、他の箇所で定義されて  
7 いる参照であることを示します。% シンボルの後のストリングは、リテラルでは  
7 なくシンタックス・フラグメントの名前です。たとえば、2.1 %OP1 という行は別  
7 のシンタックス・フラグメント OP1 を参照すべきことを意味します。

7 以下のワードおよびシンボルが、ドット 10 進数の次に使用されます。

- 7           • ? は、オプションのシンタックス・エレメントであることを表します。? シンボルが後に続くドット 10 進数は、対応するドット 10 進数のシンタックス・エレメント、および任意の従属のシンタックス・エレメントがオプションであることを示します。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが 1 つしかない場合、? シンボルはそのシンタックス・エレメントと同じ行に表示されます (たとえば、5? NOTIFY)。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが複数ある場合、? シンボルだけで行に表示され、その後にオプションのシンタックス・エレメントが続きます。たとえば、「5 ?, 5 NOTIFY、および 5 UPDATE」という行を聞き取る場合、シンタックス・エレメント NOTIFY および UPDATE がオプションである、つまりそのいずれかを選択でき、どちらも選択しないこともできることが分かります。? シンボルは、線路型ダイアグラムのバイパス線に相当します。
- 7           • ! は、デフォルトのシンタックス・エレメントであることを表します。! シンボルおよびシンタックス・エレメントが後に続くドット 10 進数は、そのシンタックス・エレメントが、同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントすべてのデフォルト・オプションであることを示します。同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントのうち 1 つだけに、! シンボルを指定できます。たとえば、「2? FILE、2.1! (KEEP)、および 2.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、FILE キーワードのデフォルト・オプションは (KEEP) になります。この例では、FILE キーワードを含めてもオプションを指定しない場合には、デフォルト・オプション KEEP が適用されます。デフォルト・オプションは、次に高位のドット 10 進数にも適用されます。この例の場合、FILE キーワードが省略されると、デフォルトの FILE(KEEP) が使用されます。しかし、「2? FILE、2.1、2.1.1! (KEEP)、および 2.1.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、デフォルト・オプション KEEP は次に高位のドット 10 進数 2.1 (関連キーワードを持っていない) にのみ適用され、2? FILE には適用されません。キーワード FILE が省略されると、どれも使用されません。
- 7           • \* は、0 回以上反復できるシンタックス・エレメントを示します。\* シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントが 0 回以上使用できること、つまりオプションであり、なおかつ反復できることを表します。たとえば、5.1\* データ域という行を聞き取る場合、1 つまたは複数のデータ域を含めるか、またはデータ域を全く含めないことが可能です。「3\*, 3 HOST、および 3 STATE」という行を聞き取る場合、HOST、STATE をどちらか一方または両方同時に含めるか、どちらも含めないことができます。

7           **注:**

- 7           1. ドット 10 進数の後にアスタリスク (\*) が付き、ドット 10 進数の付いた項目が 1 つしかない場合には、同じ項目を複数回反復できます。
  - 7           2. ドット 10 進数の後にアスタリスクが付き、ドット 10 進数の付いた項目が複数ある場合、リストから複数の項目を使用できますが、各項目を複数回使用することはできません。前述の例では、HOST STATE と書くことはできますが、HOST HOST とは書けません。
  - 7           3. \* シンボルは、線路型シンタックス・ダイアグラムのループバック線に相当します。
- 7           • + は、1 回以上含める必要のあるシンタックス・エレメントであることを示します。+ シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントを 1 回以上含める必要があること、つまり少なくとも 1 回は含める必要があり、反

7 復できることを表します。たとえば、「6.1+ データ域」という行を聞き取る場  
7 合、データ域を少なくとも 1 回は含めなければなりません。「2+, 2 HOST、お  
7 よび 2 STATE」という行を聞き取る場合には、HOST、STATE、またはその両  
7 方を含める必要があります。\* シンボルと同様に、+ シンボルは、ドット 10 進  
7 数の付いた項目が 1 つしかない場合に限り、その特定の項目のみを反復できま  
7 す。\* シンボルと同様に、+ シンボルは線路型シンタックス・ダイアグラムのル  
7 ープバック線に相当します。

7 **関連概念:**

7 • 145 ページの『アクセス支援』

7 **関連タスク:**

7 • 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』

7 **関連資料:**

7 • 「SQL リファレンス 第 2 巻」の『構文図の見方』

---

## 7 DB2 Universal Database 製品の共通基準認証

7 DB2 Universal Database は、Common Criteria の評価検定レベル 4 (EAL4) で認証  
7 の評価を受けています。Common Criteria の詳細については、以下の Common  
7 Criteria の Web サイトを参照してください。 <http://niap.nist.gov/cc-scheme/>



---

## 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited  
Office of the Lab Director  
8200 Warden Avenue  
Markham, Ontario  
L6G 1C7  
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	iSeries
AISPO	LAN Distance
AIX	MVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	NetView
BookManager	OS/390
C Set++	OS/400
C/370	PowerPC
CICS	pSeries
Database 2	QBIC
DataHub	QMF
DataJoiner	RACF
DataPropagator	RISC System/6000
DataRefresher	RS/6000
DB2	S/370
DB2 Connect	SP
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	SQL/DS
DB2 Information Integrator	System/370
DB2 Query Patroller	System/390
DB2 Universal Database	SystemView
Distributed Relational Database Architecture	Tivoli
DRDA	VisualAge
eServer	VM/ESA
Extended Services	VSE/ESA
FFST	VTAM
First Failure Support Technology	WebExplorer
IBM	WebSphere
IMS	WIN-OS/2
IMS/ESA	z/OS
	zSeries

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。  
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



---

## IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

---

### 製品情報

DB2 Universal Database 製品に関する情報は、  
<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb> から入手できます。

このサイトには、技術ライブラリー、資料の注文方法、製品のダウンロード、ニュースグループ、フィックスパック、ニュース、および Web リソースへのリンクに関する最新情報が掲載されています。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、IBM Worldwide ページ ([www.ibm.com/planetwide](http://www.ibm.com/planetwide)) にアクセスしてください。







Printed in Japan